



仙台市文化財調査報告書第481集

京ノ中遺跡第2次調査

—医療施設建設工事に伴う発掘調査報告書—

2020年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会

一般財団法人 広南会 広南病院





SI7 全景(西から)



SI7 炭化材出土状況(西から)

織物材出土状況(東から)





序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちの残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら、次の世代に引き継いでいくことは、市民協働による仙台の住みよい街づくりに欠かせない大切なことと考えております。

本報告書は、地下鉄南北線富沢駅の西側で街区整備が進められている、「仙台市富沢駅西土地区画整理事業」地内にある京ノ中遺跡の第2次発掘調査成果をまとめたものです。

京ノ中遺跡は、平成25年に行われた区画整理事業に伴う試掘調査により、その所在が明らかになり登録された遺跡です。翌年の第1次調査では、平安時代の竪穴住居跡3軒や古代～中世の溝跡などが確認されました。

今回の発掘調査では、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡15軒のほか、平安時代から中世頃の、木樋と溝で区画された屋敷跡の一部と考えられる掘立柱建物跡7棟や井戸跡等が確認されました。

また希少な調査例として、火災により焼失した状態で遺棄された竪穴住居跡が確認されました。炭化して焼け落ちた柱や梁等の構造材や壁材の一部が出土したことから、当時の人々が竪穴住居を造るために用いた用材や、上屋や内部構造を考える上で貴重な調査となりました。

ここに報告する調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

また、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、特に事業者である一般財団法人広南会様には、発掘調査の重要性をご理解いただき、ご協力いただきました。

最後になりましたが、発掘調査及び調査報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

令和2年3月

仙台市教育委員会
教育長 佐々木 洋





例　　言

1. 本書は、医療施設建設工事に伴い仙台市教育委員会が実施した、京ノ中遺跡第2次発掘調査の成果を収録したものである。
2. 発掘調査及び本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課、工藤 信一郎、澤目 雄大、三浦 一樹の監理の下、遺物整理から本書の編集に至るまでの作業を株式会社シン技術コンサルが担当した。
4. 本書の執筆は、第1章第1・3節、第7章第4節を工藤 信一郎、第1章第2節・第2章～第5章第1節(1)・(2)・第2節(1)・(4)・第7章第1～3節を吉澤 学(株式会社シン技術コンサル)、第5章第1節(3)～(8)・第2節(2)・(3)を竹越 亜希子(株式会社シン技術コンサル)が担当した。編集は吉澤のほか、大和尚子(株式会社シン技術コンサル)の協力を得た。なお、第6章の自然科学分析については、第1節に株式会社加速器分析研究所、第2節にパリノ・サーヴェイ株式会社の報告書を掲載した。
5. 石器・石製品の石材の鑑定については、吉澤・小川 長導(株式会社シン技術コンサル)が肉眼観察を行った。
6. 発掘調査及び報告書の作成にあたり、一般財団法人 広南会 広南病院にご配慮・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。
7. 調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1. 第1図については、仙台市富沢駅西土地地区画整理組合から提供された計画図面を使用している。また、第4図の地形図については、国土地理院発行「仙台」1:25,000を使用した。
2. 遺構図中の座標値は、世界測地系「平面直角座標第X系」を基準としている。図中及び本文記載の方位北は全て座標北を基準としている。
3. 本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2005年版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
4. 断面図中の数値は、海拔高度(T・P)を示す。
5. 調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。
SA:木柵跡 SB:掘立柱建物跡 SD:溝跡 SI:竪穴遺構・竪穴住居跡 SK:土坑 SM:小溝状遺構
Pit: ピット
6. 竪穴住居跡における主軸方位の算出及び壁面呼称の基準については、『西台遺跡第1・2次調査』(仙台市教育委員会 2010)に準じた。
7. 遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外については、個別に凡例を図中に示した。



柱痕跡



柱穴底面の変色範囲



焼土範囲



炭化物範囲 (平面図)



炭化物範囲 (断面図)



8. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたりKのあとに小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。
- C: 土師器(非ロクロ調整) D: 土師器(ロクロ調整) E: 須恵器 Kc: 磚石器 Kd: 石製品
O: 自然遺物 P: 土製品
9. 遺物実測図の縮尺は1/3を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。
10. 土器類の器種・部位呼称、計測位置については、『西台畠遺跡第1・2次調査』(前掲)に準じた。
11. 石器・石製品の実測図における計測位置は、『西台畠遺跡第1・2次調査』(前掲)に準じた。
12. 土器の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のトーンについては、個別に凡例を図中に付した。



黒色範囲



自然軸附着範囲

13. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



節理面



磨面



被熱範囲



敲打痕(強)



敲打痕(中)



敲打痕(弱)

14. 土器・石器・石製品を除く遺物実測図に使用したスクリーントーンについては、そのつど図中に示した。
15. 遺構・遺物の観察表内における()付きの計測値は、土器類の径については推定値、そのほかについては残存値を示す。
16. 掲載した遺物写真の縮尺は、遺物実測図に準じた。
17. 本書で用いた時期区分は、『殿治屋敷A遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか』(仙台市教育委員会 2018)に準じたが、A期(9世紀前半以前～9世紀前半)については時間幅があるため、本書ではこれを2期に細分した。以下、第2次調査で遺構・遺物が検出された時期を記す。
- A1期：8世紀後半～8世紀末頃
A2期：9世紀前半
B期：9世紀中頃～9世紀後半
C期：10世紀前半～10世紀前半以降
18. 本文中の「灰白色火山灰」(山田・庄子 1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。山田一郎・庄子貞雄 1980「宮城県に分布する灰白色火山灰について」『宮城県多賀城調査研究所 年報1979』早田勉 2000「第5章 自然科学分析 第1節 沼向遺跡、中野高柳遺跡におけるテフラ分析」「沼向遺跡第1～3次調査」仙台市文化財調査報告書第241集
小口雅史 2003「古代東北の広域テフラをめぐる問題—十和田aと白頭山(長白山)を中心に—」『日本律令の展開』吉川弘文館



目 次

卷頭写真	
序 文	
例 言	
凡 例	
第1章 調査に至る経過	1
第1節 調査事由	1
第2節 調査要項	1
第3節 試掘調査	2
第2章 遺跡の位置と環境	5
第1節 京ノ中遺跡の立地と地形	5
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	5
第3章 調査の方法と概要	8
第1節 調査区と区割の設定	8
第2節 調査概要	9
第4章 基本層序	10
第1節 基本層序	10
第5章 検出遺構と出土遺物	13
第1節 平安時代～中世の遺構と遺物	13
(1) 積穴遺構	13
(2) 挖立柱建物跡	24
(3) 木柵跡	39
(4) 小溝状遺構群	41
(5) 溝跡	42
(6) 井戸跡	45
(7) 土坑	46
(8) ピット	46
第2節 奈良～平安時代の遺構と遺物	70
(1) 積穴住居跡	70
(2) 溝跡	122
(3) 土坑	123
(4) 遺構外出土遺物	126
第6章 自然科学分析	127
第1節 京ノ中遺跡第2次発掘調査における放射性炭素年代(AMS測定)	127
第2節 京ノ中遺跡第2次発掘調査出土炭化材樹種同定	129
第7章 総括	133
第1節 平安時代～中世の遺構について	133
(1) 遺構の変遷	133



(2) 堀立柱建物跡について	135
(3) 竪穴遺構について	137
第2節 奈良～平安時代の出土土器について	138
(1) 時期設定	138
(2) 各期の様相	138
第3節 奈良～平安時代の遺構について	143
(1) 遺構の変遷	143
(2) 竪穴住居跡について	146
第4節 まとめ	150
引用・参考文献	
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 京ノ中遺跡位置図	2	第24図 SB7堀立柱建物跡	38
第2図 試掘調査トレンチ配置図	3	第25図 SA1・2木樁跡(1)	39
第3図 第4・5・9・13トレンチ遺構検出状況	4	第26図 SA1・2木樁跡(2)	40
第4図 京ノ中遺跡と周辺の遺跡	7	第27図 SM1・2小溝状遺構群	41
第5図 第2次調査区区割配置図	8	第28図 SD2～5・9～13溝跡(1)	42
第6図 基本層序	11・12	第29図 SD2～5・9～13溝跡(2)	43
第7図 平安時代～中世遺構配置図	14	第30図 SD6～8溝跡(1)	44
第8図 SI3竪穴遺構(1)	15	第31図 SD6～8溝跡(2)	45
第9図 SI3竪穴遺構(2)	16	第32図 SE1井戸跡	46
第10図 SI3竪穴遺構(3)・出土遺物	17	第33図 SK3～13土坑	47
第11図 SI3竪穴遺構付属穴列1・2(1)	19	第34図 SK14～16・18～23土坑	48
第12図 SI3竪穴遺構付属穴列1・2(2)	20	第35図 SK24～31・33・34土坑	49
第13図 SI4竪穴遺構	22	第36図 SK35～41・43～45・49土坑	50
第14図 SI5竪穴遺構	23	第37図 SK50～58・61土坑	51
第15図 SB1堀立柱建物跡	25	第38図 SK59・60・62～64・66～68土坑	52
第16図 SB2堀立柱建物跡	27	第39図 Pit175出土遺物	55
第17図 SB3堀立柱建物跡(1)	29	第40図 ピット配置図(1)	56
第18図 SB3堀立柱建物跡(2)	30	第41図 ピット配置図(2)	57
第19図 SB4堀立柱建物跡(1)	32	第42図 ピット配置図(3)	58
第20図 SB4堀立柱建物跡(2)	33	第43図 奈良～平安時代遺構配置図	71
第21図 SB5堀立柱建物跡	35	第44図 SI6竪穴住居跡(1)	73
第22図 SB6堀立柱建物跡(1)	36	第45図 SI6竪穴住居跡(2)	74
第23図 SB6堀立柱建物跡(2)	37	第46図 SI6竪穴住居跡出土遺物(1)	76



第47図	SI6竪穴住居跡出土遺物(2)	77
第48図	SI6竪穴住居跡出土遺物(3)	78
第49図	SI7竪穴住居跡(1)	80
第50図	SI7竪穴住居跡(2)	82
第51図	SI7竪穴住居跡出土遺物(1)	83
第52図	SI7竪穴住居跡出土遺物(2)	84
第53図	SI7竪穴住居跡出土遺物(3)	85
第54図	SIBA竪穴住居跡(1)	87
第55図	SIBA竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)	88
第56図	SIBA竪穴住居跡出土遺物(2)	89
第57図	SIBB竪穴住居跡(1)	90
第58図	SIBB竪穴住居跡(2)	91
第59図	SIBB竪穴住居跡出土遺物	92
第60図	SI9竪穴住居跡(1)	94
第61図	SI9竪穴住居跡(2)	95
第62図	SI9竪穴住居跡出土遺物	96
第63図	SI10竪穴住居跡	97
第64図	SI10竪穴住居跡出土遺物	99
第65図	SI11竪穴住居跡	100
第66図	SI12竪穴住居跡	101
第67図	SI12竪穴住居跡出土遺物	102
第68図	SI13竪穴住居跡	103
第69図	SI14竪穴住居跡・出土遺物	104
第70図	SI15竪穴住居跡(1)	106
第71図	SI15竪穴住居跡(2)・出土遺物	107
第72図	SI16竪穴住居跡(1)	109
第73図	SI16竪穴住居跡(2)	111
第74図	SI16竪穴住居跡出土遺物(1)	112
第75図	SI16竪穴住居跡出土遺物(2)	113
第76図	SI17竪穴住居跡	115
第77図	SI17竪穴住居跡出土遺物	118
第78図	SI18竪穴住居跡	119
第79図	SI19竪穴住居跡	120
第80図	SI19竪穴住居跡出土遺物	121
第81図	SD14溝跡	122
第82図	SK17・32・42・46～48・69土坑	123
第83図	SK70～78土坑	124
第84図	SK73～75土坑出土遺物	126
第85図	遺構外出土遺物	126
第86図	曆年較正結果	129
第87図	S17炭化材サンプル採取位置	130
第88図	炭化材(1)	131
第89図	炭化材(2)	132
第90図	平安時代～ 中世主要遺構新旧関係模式図	133
第91図	平安時代～中世主要遺構変遷図	134
第92図	掘立柱建物跡集成図	136
第93図	SI3・5及び類似遺構	137
第94図	竪穴住居跡出土土器集成図(A1期)	139
第95図	竪穴住居跡出土土器集成図(A2期)	141
第96図	竪穴住居跡出土土器集成図(B・C期)	142
第97図	奈良～平安時代主要遺構新旧関係模式図	144
第98図	奈良～平安時代主要遺構変遷図	145
第99図	竪穴住居跡集成図	148

挿表目次

表1 放射性炭素年代測定結果($\delta^{14}\text{C}$ 補正値)	128
表2 放射性炭素年代測定結果($\delta^{14}\text{C}$ 未補正値) 曆年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)	128
表3 樹種同定結果	130

写真図版目次

写真図版1 調査区遠景・試掘調査	写真図版4 竪穴遺構(平安時代～中世)(2)
写真図版2 基本層序	写真図版5 掘立柱建物跡(平安時代～中世)(1)
写真図版3 平安時代～中世面全景・竪穴遺構(1)	写真図版6 掘立柱建物跡(2)・木樁跡(平安時代～中世)



写真図版7 小溝状遺構群・
溝跡(平安時代～中世)(1)
写真図版8 溝跡(2)・土坑(平安時代～中世)(1)
写真図版9 土坑(2)・ピット(平安時代～中世)
写真図版10 奈良～平安時代面全景
写真図版11 壊穴住居跡(1)
写真図版12 壊穴住居跡(2)
写真図版13 壊穴住居跡(3)
写真図版14 壊穴住居跡(4)
写真図版15 壊穴住居跡(5)
写真図版16 壊穴住居跡(6)
写真図版17 壊穴住居跡(7)

写真図版18 壊穴住居跡(8)
写真図版19 壊穴住居跡(9)
写真図版20 壊穴住居跡(10)
写真図版21 土坑・溝跡(奈良～平安時代)
写真図版22 壊穴遺構出土遺物・ピット出土遺物・
壊穴住居跡出土遺物(1)
写真図版23 壊穴住居跡出土遺物(2)
写真図版24 壊穴住居跡出土遺物(3)
写真図版25 壊穴住居跡出土遺物(4)
写真図版26 壊穴住居跡出土遺物(5)
写真図版27 壊穴住居跡出土遺物(6)
・土坑出土遺物・遺構外出出土遺物



第1章 調査に至る経過

第1節 調査事由(第1図)

仙台市南部の富沢地区は、昭和62年の地下鉄南北線の開業以降、道路網の整備や宅地化が急速に進む地域となっている。このようななか、富沢地区の西側にある富田地区内において、組合施行による「仙台市富沢駅西土地区画整理事業」が計画され、事業地内に所在する京ノ中遺跡をはじめとする8遺跡(現在は9遺跡)を対象として、平成25年から28年まで継続して発掘調査が行われ、縄文時代から中近世に至る幅広い時代を対象とした調査が行われてきた。区画整理事業の施行に伴い平成26年に行われた京ノ中遺跡第1次調査では、竪穴住居跡2軒や溝跡などが確認されている。区画整理事業による道路や街区整備が終了し、供用が開始された事業地内には、かつての緑豊かな水田地帯に変わり新しい街が姿を現してきている。

今回の京ノ中遺跡第2次調査は、仙台市太白区富田字京ノ中83番地において計画された医療施設建設に伴い、一般財団法人 広南会により平成30年6月15日付で、建設予定地内に隣接する埋蔵文化財の取り扱いについて協議書が提出されたことに始まる。建設予定地は京ノ中遺跡の南西側隣接地にあたることから、試掘調査を実施して遺構の広がりの有無を確認し、本発掘調査の必要性を判断することとなった。

試掘調査の結果、建築予定範囲のうち東側約1/3の範囲から、竪穴住居跡や溝跡、土坑、ピット等が確認されたことから遺跡の登録範囲が拡大され、教育委員会と事業者の協議の結果、本発掘調査を実施することになった。

第2節 調査要項

遺跡名：京ノ中遺跡(宮城県遺跡番号01573)

所在地：宮城県仙台市太白区富田字京ノ中83番地

調査原因：医療施設建設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査

(1) 調査体制

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

工藤 信一郎 澤目 雄大

調査組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 吉澤 学 調査補助員 倉石 広太

調査期間：2018年(平成30年)10月11日～2019年(平成31年)3月27日

調査面積：約2,100m² (調査対象面積約6,600m²)

(2) 調査報告書作成体制

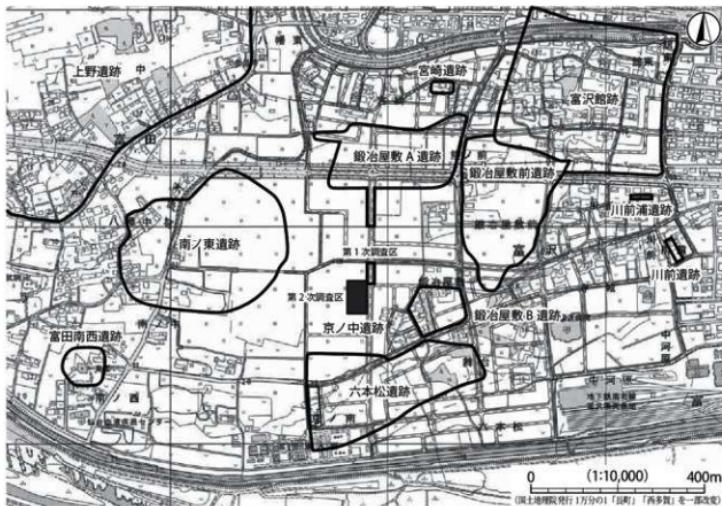
整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

工藤 信一郎 澤目 雄大 三浦 一樹

整理組織：株式会社シン技術コンサル

主任調査員 吉澤 学 調査補助員 竹越 亜希子

整理期間：2019年(令和元年)5月13日～2020年(令和2年)3月24日



第1図 京ノ中遺跡位置図

第3節 試掘調査

今回申請された区画は、京ノ中遺跡の南西側に隣接していたことから、遺構の広がりや分布を確認するための試掘調査を実施し、その結果を受けて本発掘調査の実施や調査計画等について事業者と協議することとした。試掘調査の対象地点は、区画整理事業による街区整備が完了しており更地となっていたが、その一部が事業者側から貸し出され、資材置き場として利用されていた。

試掘調査にあたり、建築予定建物の南西角を仮の原点として10m単位のグリッドを設定し、 $3 \times 10\text{m}$ の調査トレーンチを17本設定する計画を立てた。そのうちの5本(第2・10～12・17トレーンチ)については、多量の敷き鉄板や資材を移動させる必要があることから調査を実施せず、周辺トレーンチの調査成果からこの範囲の本発掘調査の要否について判断することとした。また、第6～8・16トレーンチについては、一部が資材置き場にかかることから当初計画から調査区を移動させて設定した。試掘調査は、7月23日～8月22日にかけて行い、調査面積は約330m²である。重機により遺構検出面まで掘り下げ、その後人力にて遺構検出作業を行った。

調査の結果、建築予定建物範囲内の東側に位置する、第4トレーンチで土坑、第5・9トレーンチで竪穴住居跡及び土坑とピット、第13トレーンチで溝跡とピットを確認した。その他のトレーンチについては遺構が確認されず、重機や人力での下層調査でも遺構・遺物は確認されなかったことから、この範囲については未調査トレーンチを含めて補足調査は不要と判断した。以下、遺構の確認されたトレーンチについて報告する。なお、遺構番号については、本発掘調査時のものに差し替えている。

【第4トレーンチ】 Ⅲ層上面で土坑2基を確認した。SK1は直径0.5mで円形を呈しており、SK2は長軸0.7m、短軸0.6mの楕円形を呈している。共に堆積土は2.5Y5/2暗灰黄色シルトの単層で、少量の炭化粒を含んでいる。土器器

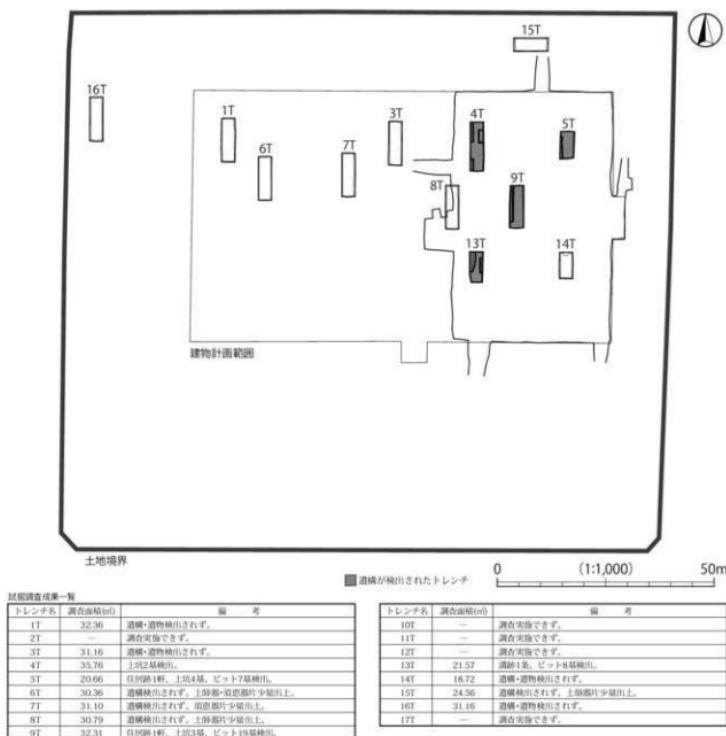


の小片が出土しているが、時期及び性格は不明である。

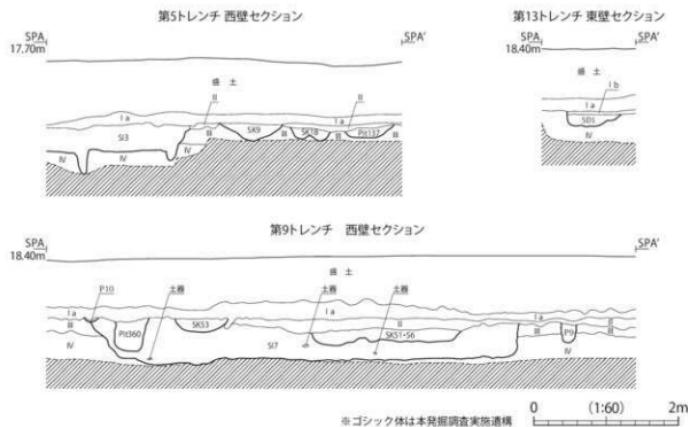
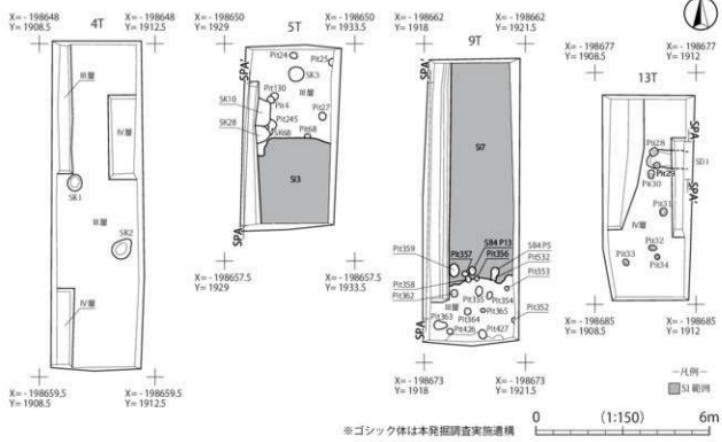
【第5トレーニ】 Ⅲ層上面で竪穴住居跡1軒、土坑4基、ピット7基を確認した。なお、竪穴住居跡は本発掘調査ではSI3竪穴遺構として調査した。SK3は、直径0.5mで円形を呈しており、SK10・28は、共に0.8m以上の規模で深さは0.2m程度である。いずれも、堆積土は10YR3/2黒褐色シルトの単層で、少量の炭化粒物を含んでいる。時期及び性格は不明である。

【第9トレーニ】 Ⅲ層上面で、竪穴住居跡1軒、土坑、ピットを確認した。なお、竪穴住居跡は本発掘調査ではSI7竪穴住居跡として、土坑はSB4掘立柱建物跡を構成する柱穴として調査している。

【第13トレーニ】 IV-a層上面で、溝跡1条、ピットを確認した。SD1溝跡は幅0.6mで、深さは0.2m程度である。堆積土は10YR4/2灰黄褐色シルトの単層で、少量の炭化物粒及びマンガン粒を含んでいる。



第2図 試掘調査トレーニ配置図



層位	土色	土質	特徴
I a	SGY6/1 オリーブ灰色	シルト	酸化鉄付に集塊。
b	7.51W7/1 淡白色	シルト	酸化鉄含む。
II	10TR4/1 淡褐色	砂質シルト～シルト	本発掘調査基本層第Ⅲ層に対応。
III	2.51W4/1-5/1 黄色	砂質シルト～シルト	本発掘調査基本層第Ⅳ層に対応。
IV	2.51W/3 にぶい黄色	シルト	本発掘調査基本層第V層に対応。

第3図 第4・5・9・13トレーナー遺構検出状況



第2章 遺跡の位置と環境

第1節 京ノ中遺跡の立地と地形(第1・4図)

京ノ中遺跡(1)は仙台市南部、太白区富田地内に位置する。JR東北本線長町駅の南西方約3.2km、仙台市地下鉄南北線富沢駅の西方約1.4kmの地点で、仙台市富沢駅西土地区画整理事業地内の一角に相当する。同区画整理事業に伴う平成25・26年度の試掘・確認調査の結果発見され、新規で登録された遺跡である。

京ノ中遺跡は名取川下流域の左岸に立地し、周辺の地形は「郡山低地」と呼称される沖積地帯に属する。郡山低地は名取川を南縁、広瀬川を北縁とし、両河川の合流点と背後の青葉山丘陵との間に形成された扁状地の沖積面である。標高は5～21m前後を測り、東方向へと傾斜する。名取川・広瀬川沿いには自然堤防が良好に発達し、低地内には太白山を源流とする荒川をはじめ、複数の小河川が曲流する。荒川は近年の改修以前は氾濫や変流を繰り返していたことが知られ、その影響により自然堤防と後背湿地、さらに旧河道が入り組む複雑な微地形が形成されている。京ノ中遺跡は郡山低地南端部の自然堤防上に立地し、名取川の現河道から約500mの距離に位置する。遺跡内における現況標高は18.2～18.7m前後だが、周囲は区画整理事業による造成から、旧地形の名残は失われている。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境(第4図)

京ノ中遺跡周囲には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が多数存在する。これらのうち主要な遺跡について抜粋し、時代ごとの概要について記す。

旧石器時代 名取川左岸段丘上の山田上ノ台遺跡(33)では、約3万年前の川崎スコリア層上位と、AT層下位からそれぞれ石器が出土している。荒川左岸の後背湿地内に位置する富沢遺跡(13)では、約2万年前の後期旧石器時代の湿地林が発見され、焚火跡の周囲から石器が出土している。氷河時代の自然環境と人類の生活跡が同時に発見された、世界にも希少な例である。

縄文時代 早期には、名取川沿いの段丘上から郡山低地の西部にかけて遺跡が散在する。荒川左岸の自然堤防上に位置する下ノ内浦遺跡(16)では早期前半の豊穴住居跡が確認され、押型土器が出土している。富沢遺跡では、早期後半の遺物包含層が確認された。名取川左岸段丘上の北前遺跡(34)では、早期末の豊穴住居跡が確認されている。前期から中期にかけては遺跡数が減少し、富沢地区一帯の沼湿地化により人々の生活圏の中心が高台に移動したと考えられる。青葉山丘陵東端部の三神峯遺跡(36)では、前期初頭～中期初頭の豊穴住居跡や土坑群が確認され、長期間にわたり集落が営まれていたと推定されている。北前遺跡では前期末の土坑群のほか、中期後半の豊穴住居跡が確認されている。段丘縁辺の上野遺跡(30)では、中期中頃の豊穴住居跡が確認されている。中期末から後期になると再び生活圏が低地内へと拡大し、遺跡数が増加する。山田上ノ台遺跡では中期末の豊穴住居跡が確認され、自然堤防上の六反田遺跡(18)では中期末～後期初頭の豊穴住居跡が、下ノ内浦遺跡(17)では中期末の複式炉を伴う敷石住居跡が確認されている。下ノ内浦遺跡・大野田遺跡(20)では後期前半の配石遺構などが確認され、富沢遺跡(7)では後期中頃の豊穴住居跡が確認されている。後期後半から晚期にかけては低地内への進出が一段と進み、鍛冶屋敷A遺跡(2)では後期後半の豊穴住居跡や、配石遺構などが確認された。川前遺跡(9)では、後期末～晚期初頭の豊穴住居跡が確認されたほか、遺物包含層からモ貝形石製品、岩削、岩版、石刀などが出土している。弥生時代 前期は調査事例がほとんどなく、詳細は不明だが、船渡前遺跡(29)の遺物包含層から土器が出土している。中期以降については、郡山低地内の後背湿地に水田や、自然堤防上に集落が営まれる。富沢遺跡では中期～後期の水田跡から木製農具が出土しており、泉崎浦遺跡(14)・山口遺跡(15)・元袋遺跡(19)では後期の水田跡が確認されている。下ノ内浦遺跡では後期の土壤墓と土器埋設遺構が確認されている。青葉山丘陵東端部の土手内遺跡



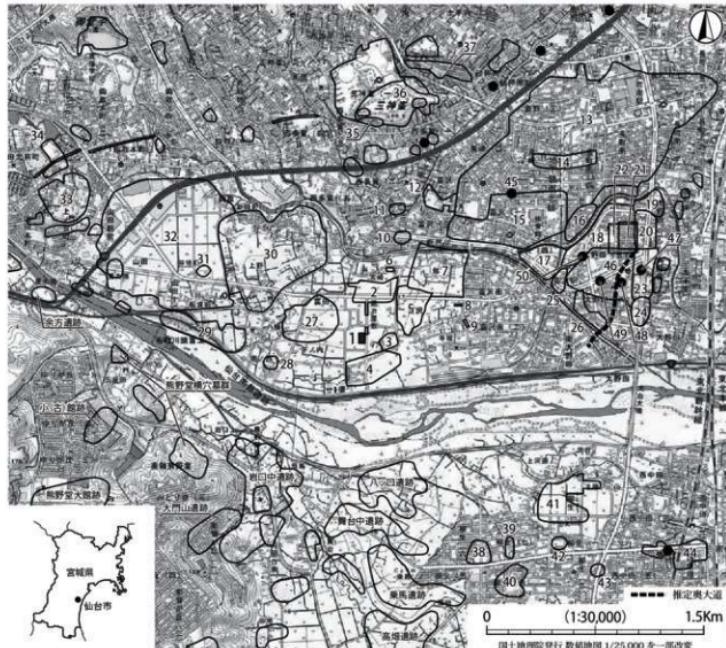
では、後期の堅穴住居跡と土坑が確認されている。

古墳時代 郡山低地では前期古墳は確認されないが、本遺跡の北東約6km、広瀬川左岸の自然堤防上には仙台市内最大の前方後円墳（主軸長約110m）である遠見塚古墳が築造される。集落遺跡では、下ノ内遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡（25）、土手内遺跡などで埴輪式期の堅穴住居跡が確認され、下ノ内浦遺跡では弥生時代後期から続く水田跡が確認されている。中期後半以降になると本遺跡周辺でも古墳の数が増加し、後期前半にかけて一塚古墳、二塚古墳、砂押古墳、裏町古墳など首長墓クラスの古墳が青葉山丘陵麓に築造されるほか、郡山低地内では大野田古墳群（46）といった群集墳が出現する。青葉山丘陵東端の斜面地では、これらの古墳に供給する埴輪を生産したとみられる富沢窯跡（35）が操業される。また、泉崎浦遺跡、下ノ内遺跡、土手内遺跡では南小泉式期ないし引田式期の堅穴住居跡が確認されている。後期後半～終末期には、青葉山丘陵東端部の斜面地で須恵器窯の土手内窯跡（37）が操業される。土手内窯跡は終末期～奈良時代前半の土手内横穴墓群に接されており、窯室の直後に墓域へと転化したと考えられる。下ノ内遺跡、六反田遺跡では栗田式期の堅穴住居跡が確認され、富沢遺跡では後期～終末期の水田跡が確認されている。また、終末期の7世紀中頃には、本遺跡の東約3kmに郡山遺跡の1期官衙が成立する。1期官衙は7世紀末葉まで存続し、古代陸奥国の建国に関わった重要な柵跡と位置付けられている。

古代 7世紀末葉から郡山遺跡のII期官衙が成立し、8世紀前葉まで存続する。II期官衙は、多賀城創以前の陸奥国府跡と考えられている。このII期官衙と密接な関係が指摘される大野田官衙遺跡（22）では、幅3～4mの区画溝や、大型の掘立柱建物跡などが確認されている。当該期には遺跡数も顕著に増加し、第4図に示した遺跡の大半で古代の集落跡が調査されている。特に鍛治屋敷A遺跡、鍛治屋敷前遺跡（5）、富沢館跡では平安時代の堅穴住居跡のほか鍛冶関連の遺構が確認され、鍛治屋敷A遺跡の堅穴住居跡からは古代の上文中と「上野」と刻まれた刻書砥石が出土した。鍛治屋敷前遺跡の堅穴遺構では、羽口がガル跡に設置された状態で出土した。富沢遺跡や山口遺跡では真北方向を基準とした畦畔を伴う水田跡が確認されており、条里制地割との関係が推定される。山田条里遺跡（32）では、条里制地割の痕跡とみられる方眼状の地割が近年まで残存していた。

中世 郡山低地では、交通の要衝とみられる位置に大規模な屋敷や城館が造営される。富沢館跡は東西約400m、南北約300mの広大な網張りをもつ平城で、三ないし四重の堀割や土壁を伴う。主郭部の調査では東門の跡が確認されたほか、堀・土壁の変遷が明らかとなった。具体的な造営時期は不明だが、江戸時代には仙台藩士生田家の在郷屋敷であった記録が残されている。王ノ壇遺跡（23）では、一辺50mと推定される堀割を伴う鎌倉時代の屋敷跡や、阿弥陀堂と推定される仏堂跡、波板状遺構や側溝を伴う路面幅2.8～4.2mの道路跡が確認されている。屋敷跡は武士層の居住とみられ、道路跡は中世の幹線道路である「奥大道（おくのたいどう）」の可能性が指摘されている。富沢遺跡では、13～17世紀初頭の堀割を伴う屋敷跡や水田跡が確認され、上層農民もしくは領主クラスの当主像が推定されている。鍛治屋敷A遺跡、鍛治屋敷前遺跡で確認された掘立柱建物跡や溝跡についても、富沢館跡に關係する集落である可能性も考えられる。

近世 奥州街道沿いに位置する長町は、宿駅として機能していた。本遺跡周辺は屋敷地が点在する水田地帯であつたことがいわゆる『文政村絵図』などから推定され、富沢遺跡、山口遺跡、下ノ内浦遺跡、元袋遺跡、山田条里遺跡などで屋敷跡が確認されている。元袋遺跡の屋敷跡は一辺100mの堀割をもち、池状の遺構を伴うことから格式の高い武士階級の居住であったと推定されている。出土遺物の中には、伊達家の家紋である九曜紋瓦がある。また、富沢遺跡では墓壙群や水田跡、山田条里遺跡では堂宇跡が確認されている。



国土地理院発行 地図(1/25,000)一部改変

No.	遺跡名	種別	立地	時代	No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	京ノ中遺跡	集落跡	自然地帯	古墳～平安	26	伊吉ノ中遺跡	集落跡	自然地帯	古墳～平安
2	羽治山城跡	集落跡	自然地帯	自然転換～中世	27	ノ東遺跡	散布地	後背地帯	平安～近世
3	羽治山城跡	集落跡	自然地帯・後背地帯	自然転換～近世	28	豊田山中遺跡	散布地	自然地帯	平安
4	六本木道跡	集落跡	自然地帯	平安	29	有馬山中遺跡	集落跡	自然地帯	自然転換～平安
5	羽治山城跡	集落跡	自然地帯	自然転換～中世	30	野原遺跡	散布地	丘陵	平安～近世
6	五郎山遺跡	集落跡	自然地帯	自然転換～中世	31	北山中遺跡	散布地	後背地帯	古墳～平安
7	波小瀬遺跡	城郭跡・集落跡	自然地帯	自然転換～近世	32	山田山中遺跡	集落跡・植物地帯	自然転換～自然防護	自然転換～古墳～近世
8	川前田遺跡	散布地	自然地帯	自然転換	33	山田上ノ中遺跡	集落跡・畠・丘陵地	丘陵	羽林城跡・古墳～近世
9	川前田遺跡	散布地	自然地帯	自然転換	34	北前田遺跡	散布地	丘陵	自然転換～近世
10	尾ノ内遺跡	集落跡	自然地帯	古墳～平安	35	猪之谷遺跡	空地	丘陵斜面	古墳～近世
11	宮川上ノ台遺跡	散布地	開拓	自然転換～近世	36	二神山遺跡	集落跡	丘陵	自然転換
12	宮川治水遺跡	集落跡	自然地帯	自然～平安	37	片手の空地	空地	丘陵斜面	古墳～近世
13	宮川治水遺跡	木山跡・河岸地	後背地帯	丘陵～丘陵地	38	松木道跡	集落跡・樹叢地	自然地帯	平安～近世
14	京崎山遺跡	木山跡・墓地	自然地帯・後背地帯	自然転換	39	東遺跡	散布地	自然地帯	平安
15	山ノ中遺跡	集落跡・木山跡	自然地帯・後背地帯	自然転換	40	押坂遺跡	丘陵地	自然地帯	古墳
16	下ノ内遺跡	集落跡	自然地帯	自然転換	41	勝手ノ下遺跡	集落跡・屋敷跡	自然地帯	自然転換
17	下ノ内遺跡	集落跡・城・樹叢地	自然地帯	自然転換～中世	42	赤東遺跡	散布地	自然地帯	平安
18	八反田遺跡	集落跡・城・樹叢地	自然地帯	自然転換	43	呑吐山中遺跡	散布地	自然地帯	古墳～平安
19	元伊藤跡	集落跡・城・樹叢地	自然地帯	自然転換～中世	44	安久良遺跡	集落跡	自然地帯	平安～近世
20	大野山遺跡	集落跡	自然地帯	自然転換	45	敦保ノ堀	凹地	自然地帯	古墳後期～前半
21	笠前田遺跡	集落跡	自然地帯	自然転換～平安	46	大野山古墳群	樹叢地	自然地帯	古墳中期後半～後期
22	大野山古墳跡	古墳跡	自然地帯	古墳～近世	47	王ノ古墳	凹地	自然地帯	古墳後期前半
23	王ノ内遺跡	集落跡・城跡	自然地帯	自然転換	48	鳥居岡古墳	前方後円形	自然地帯	古墳後期前半
24	日御碕遺跡	集落跡・木山跡	自然地帯・後背地帯	自然転換～近世	49	森口古墳	空地	自然地帯	古墳後期前半
25	伊吉遺跡	集落跡	自然地帯	自然転換	50	丘反古墳	凹地	自然地帯	古墳後期前半

第4図 京ノ中遺跡と周辺の遺跡

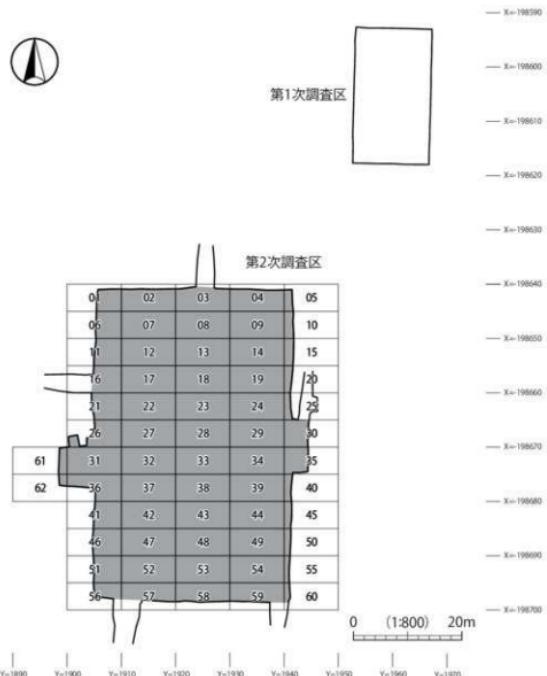


第3章 調査の方法と概要

第1節 調査区と区割の設定(第5図)

今回の調査区は、医療施設建設範囲のうち、試掘調査によって遺構の存在が想定された東西36m、南北58mの範囲で設定した。西壁の中央付近については調査途中で堅穴住跡の分布範囲が広がることが判明したため、7m程度拡張した。調査面積は約2,100m²である。なお、調査前の現況は雑草地及び資材置場であった。

区割は、測量基準点(X=-198640・Y=1900)を原点とする東西10m、南北5mの範囲で設定し、区名については、測量基準とした平面区割図の番号をそのまま用いた。区割は当初東西5列、南北12列の01～60区を設定したが、後日、西側の拡張部分に61・62区を追加した。



第5図 第2次調査区区割配置図



第2節 調査概要

(1) 調査経過

発掘調査は、事業者提供のバックホウ（バケット容量0.7m³）を使用した表土除去から開始した。表土除去は仙台市教育委員会職員の立会により行われ、途中から委託を受けた株式会社シン技術コンサルが作業を引き継いだ。表土除去終了後は人力による遺構検出作業に移行し、各遺構の平面形状や新旧関係を確認した。遺構検出作業は、基本層IV層上面で行った。遺構調査は、検出状況の写真撮影と遺構配置図を作製した後、重複の新しいものから順次着手した。また平面確認が難しい遺構については状況に応じてサブレンチを設定し、断面からの確認も試みた。調査区外にかかる遺構のうち建物建築予定範囲に含まれるものについては、必要最小限の範囲でバックホウ（バケット容量0.25m³）を使用して調査区を拡張し、調査を行った。

(2) 測量基準・図面の作成（第5図）

測量は、「平面直角座標系第X系」を基準に行った。また、5×10 mを単位とする平面区割図の作製に際し、調査区北西端部をO1とし、西側拡張部分の62まで連番を付した。この番号は既述の通りそのまま区名としても用い、本文中ににおける遺構の位置を示している。

平面図・断面図の作製はトータルステーションによる機械実測を基本とし、竪穴住居跡の断面図及び遺物微細図については手実測・写真実測を併用した。

(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺構検出作業時に出土した遺物については、平面区割図番号をグリッド名とし、一括資料として取り上げた。遺構内からの出土遺物については特に詳細図が必要とされる遺物について出土状況図を作製し、位置とレベルを記録して取り上げた。それ以外の出土遺物についてはできるだけ層位で分け、特に竪穴遺構・竪穴住居跡については範囲内を平面的に四分割して一括資料として取り上げた。

整理作業の段階で、各遺構について観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録した。

(4) 遺構番号

遺構番号については、基本的に第1次調査（平成26年度実施）からの通し番号とした。このため、竪穴遺構・竪穴住居跡はSI3から、溝跡はSD2から、土坑はSK3から付番した。今回新規で検出された掘立柱建築跡や木檻跡、小溝状遺構などは、それぞれSB1・SA1・SM1から付番した。ピットについては数多いため、これについてもPit1から付番した。

(5) 調査報告書作成作業

調査報告書作成・刊行に伴う整理作業は、委託業務として株式会社シン技術コンサルが実施した。出土遺物の基礎整理のうち遺物水洗作業については、その一部を野外作業と並行して現場事務所で実施し、残りの基礎整理及び報告書作成に向けた各作業は、株式会社シン技術コンサル東北支店で行った。出土遺物の注記、接合・復元、登録、実測図作製のほか、遺物図版・遺構図版・写真図版、遺構観察表・遺物観察表の作成及び原稿執筆・編集等を行い、その間必要に応じて仙台市教育委員会職員と整理作業内容の確認・協議を行った。これら遺物実測図及びデジタルトレースを含む作成資料については、教育委員会の担当職員が随時点検を行った。



第4章 基本層序

第1節 基本層序(第6図)

基本層序は、調査区の北壁・東壁・西壁で観察した。観察範囲にはそれぞれ幅約50cm、深さ約50cmのサブトレチを掘削し、遺構検出面より下層の状況把握に努めた。その結果、I～XI層の基本層を確認した。ただし第1次調査では、今回遺構検出面としたIV層に相当する層位がIII層として記録されている。第1次調査では今回のIII層に相当する層位が確認されておらず、II層直下が遺構検出面となっている。このため層番にずれが生じてしまっていることを予め記しておく。今回観察された基本層の概要は、下記の通りである。

第I層 近・現代の盛土及び整地層。大小円礫を多量に含み、硬く締まる。

第II層 灰色基調の砂質シルト層。全体的にきめ細かく、硬く締まる。微量の小円礫や炭化物粒を含み、下位には酸化鉄が帯状に集積する。土地改良時の盛土とみられ、a・bの2層に細別される。本層直下からは当時の造成跡とみられる搅乱が多数検出されている。特に調査区南部では遺構検出面が大きく削り取られ、本層が厚く堆積している。

第III層 灰褐色～黒褐色を基調とする砂質シルト及びシルト層。堆積範囲は部分的で、調査区北西部に良好に残存する。色調の明暗や粘性などからa～dの4層に細別される。全体に酸化鉄を斑状に含む。平安時代～中世の耕作土とみられ、この時代の遺構は大半が本層に近似した堆積上で埋没している。

第IV層 黄褐色系統のシルト層。今回の調査では、本層上面を遺構検出面とした。調査区内において土質に違いがあり、砂質シルト、シルト、粘土質シルトと漸移的に変化している。このため、a～eの5層に細別される。全体的に斑状の酸化鉄や灰色シルトを含む。調査区北西部では本層上面に十和田火山灰(推定：西暦915年降下)が部分的に認められ、窪地状の地形であったと考えられる。

第V層 黄褐色系統のシルトと砂質シルトの互層で、層厚は均一ではない。部分的に酸化鉄を斑状に含み、特に～VII層

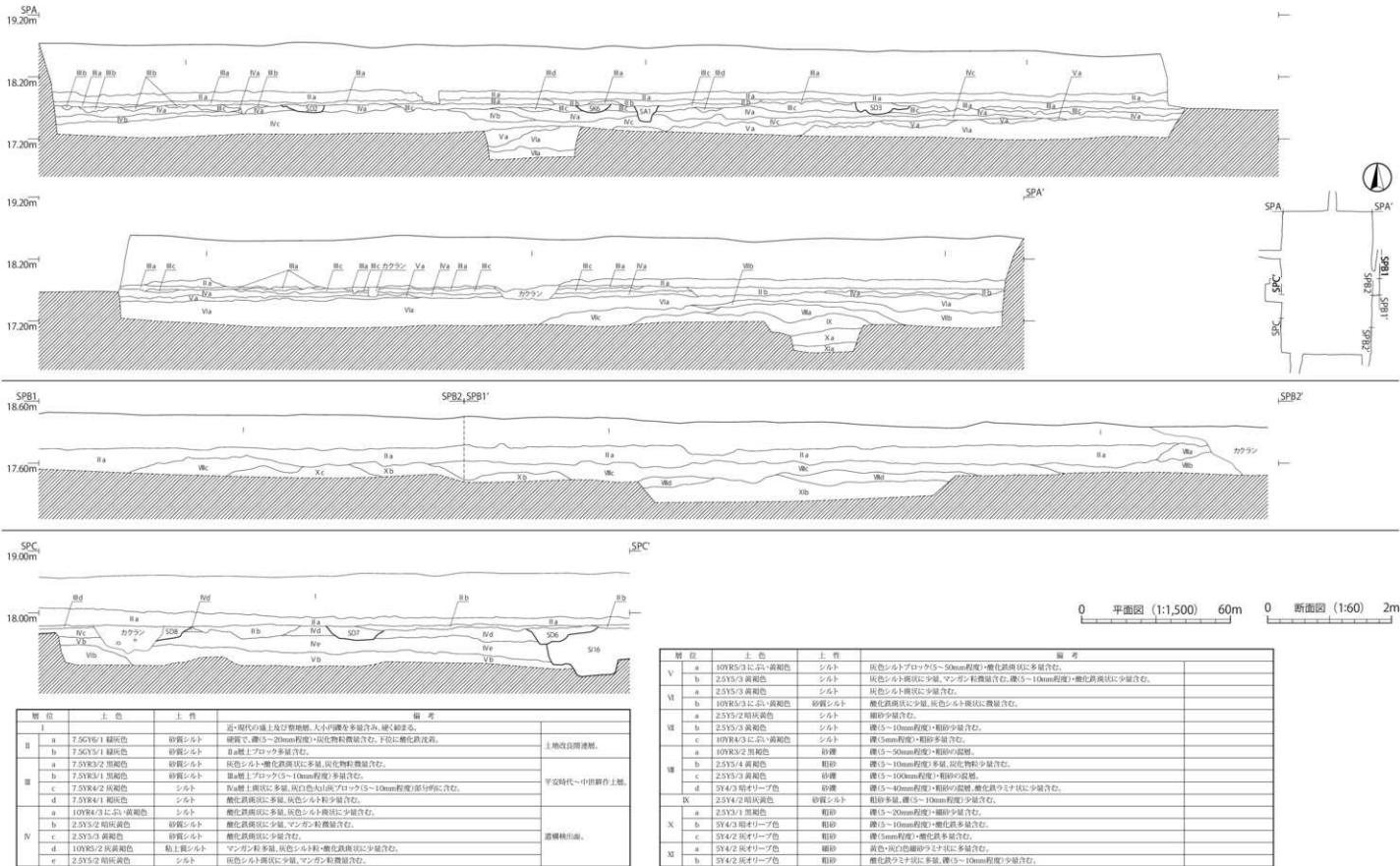
VII層は礫・粗砂・細砂を含む。V層とVI層はa・bの2層に、VII層はa～cの3層にそれぞれ細別される。

第VII層 砂礫層及び砂層。上面の起伏が激しく、調査区東部では遺構検出面と同一レベルで露呈する。堆積状況～XI層

は一定ではなく、砂礫・粗砂・細砂が複雑に折り重なる。細砂層を主体とし、上層には砂礫層が帯状に

堆積する。VII層はa～dの4層に、X層はa～cの3層に、XI層はa・bの2層にそれぞれ細別される。い

ずれの層も、河川堆積により形成された層である。



第6図 基本層序





第5章 検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出された遺構は、概ね平安時代～中世、奈良～平安時代の2時期に分けられる。検出作業を同一面で行ったため層位的な確認はできなかったが、出土遺物以外にも遺構内堆積土が明確に異なるものが多く、時期決定は比較的容易であった。以下、これらの遺構について時期ごとに詳細を記す。

第1節 平安時代～中世の遺構と遺物(第7～43図)

本節では、重複状況及び出土遺物、堆積土などから平安時代～中世と考えられる遺構について扱う。該当する遺構は、竪穴遺構3基(SI3～5)、掘立柱建物跡7棟(SB1～7)、木柵跡2条(SA1・2)、小溝状遺構群2群(SM1・2)、溝跡12条(SD2～13)、井戸跡1基(SE1)、土坑59基(SK3～16・18～31・33～41・43～45・49～64・66～68)、ピット461基(Pit1～532・内71基欠番)である。調査後に掘立柱建物跡などの柱穴に該当したピットは、欠番とした。

当該期の遺構の分布は、南北方向のSA1・2と東西方向のSD6～8を境として密度が顕著に変化する。調査区の中央部付近では密集傾向にあるが、SA1・2及びSD6～8を隔てて希薄になる。これらの遺構が区画施設として機能し、遺構密度に影響を与えていると考えられる。

出土遺物は、陶器器の破片や金属製品、鉄滓などが少量出土したが、いずれも図化できるものはなかった。陶器器は常滑産とみられる鉢・甕や、龍泉窯産とみられる青磁碗が出土している。

以下、平安時代～中世の遺構について、竪穴遺構、掘立柱建物跡、木柵跡、小溝状遺構群、溝跡、井戸跡、土坑、ピットの順で記載する。

(1) 竪穴遺構(第8～14図)

竪穴遺構は、3基(SI3～5)確認された。調査区北東部にSI3が位置し、これより古い。SI4が東側に、SI5が西側にそれぞれ重複する。SI3の外周には、付属施設とみられる柱穴列が二重に巡る。

SI3竪穴遺構(第8～12図)

【位置・確認】 調査区北東部、13・14・18・19区に位置する。北側の一部が搅乱により、西側の一部は試掘調査時のトレンチにより失われている。

【重複】 SD5、Pit56・68・76・77より古く、SI4・5、SB6、SK67、Pit465・471・472・475・510より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸557cm、短軸372cmを測り、平面形状は南北に長い長方形を呈する。西辺は北側で47cm程度内側にずれ、やや歪んだ形状を呈する。南壁側にはテラス状の張り出しがある。

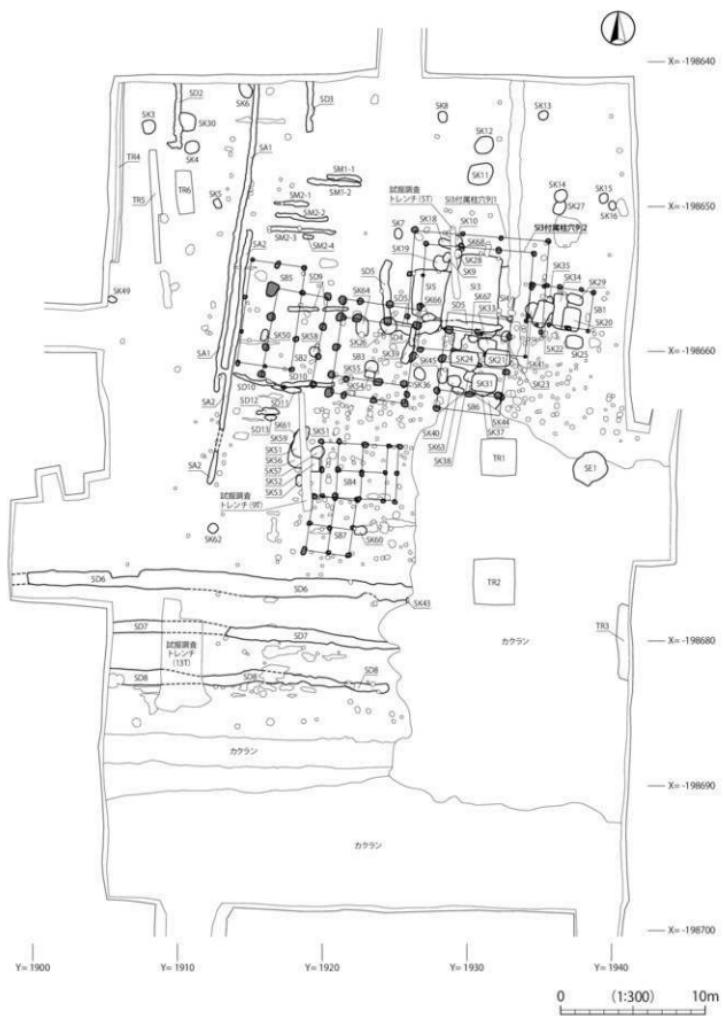
【方向】 東壁を基準としてN-8°-Eを測る。

【堆積土】 大別で15層に分層した。1～8層は灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする人為的な堆積土である。特に9層は床面上を直接覆う炭化物及び灰層である。10層は周溝堆積土、11～15層は南壁外に舌状に張り出したテラス状施設の堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は最大32cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、基本層IV層を床面とする。北側には東西方向に延びる上手状の高まりがあり、長さ132cm、幅20～27cm、高さ4～5cmを測る。南側には炭化物と灰が薄く広がっている。

【柱穴】 床面で24基(P1～24)確認した。主柱穴と考えられるピットは壁際を中心に配置され(P1・2・7～12・18・20)、長軸上にも2基配置される(P3もしくは4・6)。平面規模は大小様々であるが、これらの大半が、



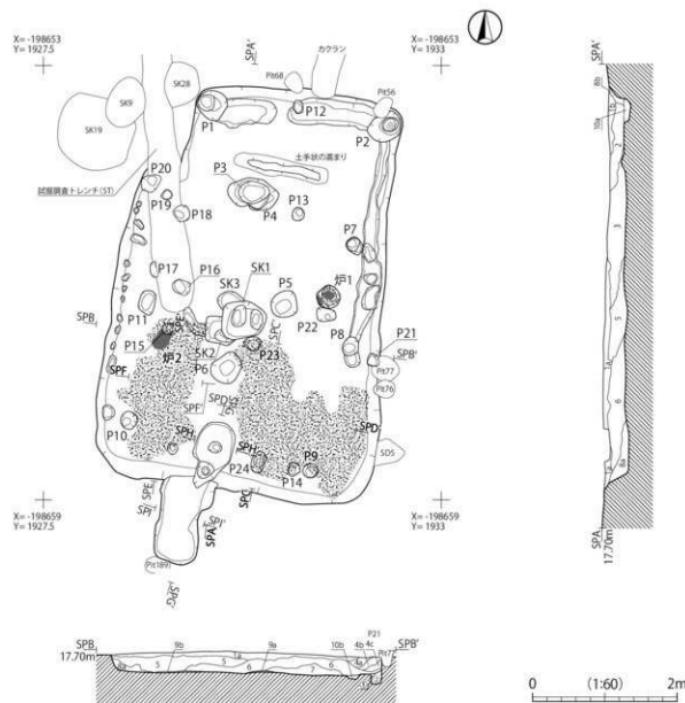
第7図 平安時代～中世遺構配置図



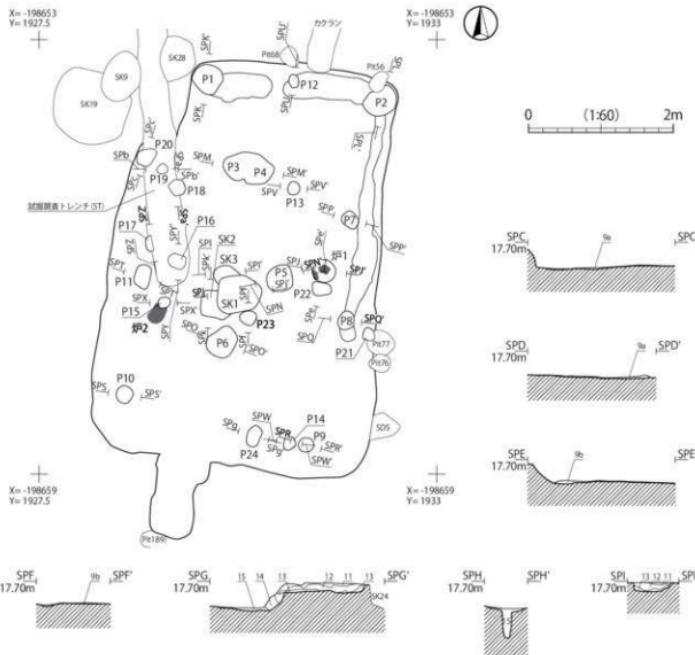
30cm以上の深さをもつ。P3・4は重複するが、土層断面からは新旧関係が確認できなかった。ほかは補助柱穴と思われるが、その配置に一定の規則性はない。いずれの柱穴からも、柱痕跡などは確認されなかった。

【周溝】 北壁から東壁の壁面に沿って「L」字状に延びる。規模は幅11~40cm、深さ3~13cmを測り、北側の周溝は幅が広い。西壁には周溝が確認されなかったが、長軸9~22cm前後的小規模な浅い窪みが壁面に沿って並ぶことから土木工具と考えられ、周溝が存在した可能性がある。

【炉】 2箇所検出された。炉1は東壁寄りに位置し、浅い掘り込みを作り。平面形状は円形を呈し、規模は長軸32cm、短軸31cm、深さ8cmを測る。全体的に被熱は弱く、壁・底面ともに焼土化は進んでいない。内部には5cm程度の厚さで灰・炭化物が堆積する。炉2は西壁寄りに位置し、掘り込みを伴わない被熱範囲である。平面形状は楕円形を呈し、長軸32cm、短軸20cmを測る。



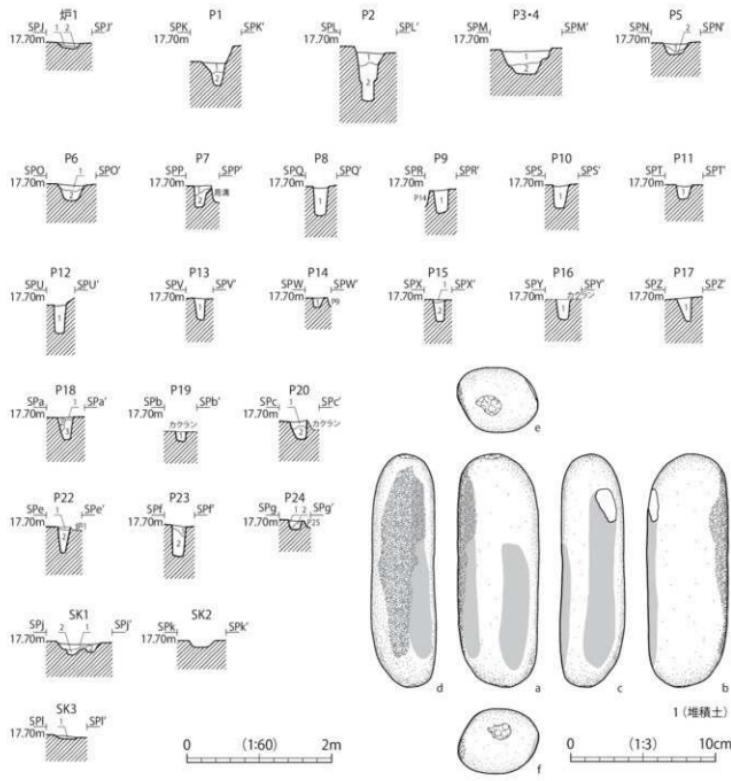
第8図 SI3竪穴遺構(1)



53 地籍土符記號

品種	部位	土 種	土 壤	圖 畜
紫花繩維組	1a	10YR4/1 黄褐色	シルト	灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少脈、灰褐色シルトブロック(5cm程度)灰化物和微量含む。
	1b	10YR4/2 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5cm程度)灰化物和微量含む。
	2	10YR4/3 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~30mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)灰化物和微量含む。
	3	10YR4/3 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5cm程度)灰化物和微量含む。
	4a	10YR5/1 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)灰褐色シルトブロック(5mm程度)多脈、灰化物和微量含む。
	4b	10YR4/2 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少脈、灰化物和微量含む。
	4c	10YR4/3 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5cm程度)少脈、灰化物和微量含む。
	5	10YR4/2 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5~60mm程度)少脈、Nv(5cm程度)灰化物和微量含む。
	6	10YR4/1 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~20mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少脈、Nv(5~10mm程度)灰化物和微量含む。
	7	10YR3/2 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~20mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少脈、Nv(5~10mm程度)灰化物和微量含む。
黄褐色組	8a	10YR3/2 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少脈、灰化物和微量含む。
	8b	10YR3/3 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~30mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少脈含む。
	9a	10YR2/1 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少脈含む、灰化物和微量含む。
	9b	2.5YR3/3 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5mm程度)灰化物和シロコ(5~10mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少脈含む、灰褐色。
	10a	10YR4/1 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5mm程度)少脈、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少脈含む。
	10b	10YR5/1 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5mm程度)少脈、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少脈含む。
	11	10YR4/2 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)少脈、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少脈含む。
	12	10YR3/2 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)少脈、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少脈含む。
チラス抗酸組	13	10YR6/3 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~20mm程度)少脈、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少脈含む。
	14	10YR4/1 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少脈、Nv(10~30mm程度)少脈、灰化物和微量含む。
	15	10YR4/2 黄褐色	シルト	NV層シルトブロック(5~10mm程度)多脈、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少脈、Nv(10~30mm程度)少脈、灰化物和微量含む。

第9図 513号穴遺構(2)



第10図 SI3 竪穴遺構(3)・出土遺物

【付属柱穴列】竪穴の外周に、「コ」字状と「ロ」字状を呈して二重に並ぶ。ともに位置関係から本竪穴遺構に伴う柱穴列と考えられる。外側の柱穴列1は東西3間×南北2間で、南側が開口する。規模は、東西総長930cm、南北総長600～630cmを測る。柱間寸法は、東辺で315cm等間隔、西辺で300cm等間隔、北辺で東から330・270・330cmを測る。一部の柱穴で、柱痕跡や底面の変色範囲を確認した。内側の柱穴列2は東西3間×南北3間で、規模は東西総長730～750cm、南北総長720cmを測る。柱間寸法は、東辺で北から240・200・280cm、西辺で北から220・210・290cm、南辺で東から280・220・230cm、北辺で250cm等間隔を測る。柱痕跡などは確認され



なかった。この2つの柱穴列は時期差をもつと考えられ、本竪穴遺構は平面形状が歪むことや土手状の高まりの存在から、北側に拡張されたと推定される。拡張前の範囲との位置関係や、柱穴列2南辺のPit189が後述するテラス状施設と重複することなどから、柱穴1が拡張後、柱穴2が拡張前の施設とみられる。なお、柱穴列2西辺の柱穴のうち2基はS15の床面で検出したためS15に伴う遺構番号が付されているが、配置的に整合性があり、柱穴列2の一部として捉えた。これらの柱穴列はいずれも竪穴上を覆う上屋の支柱であった可能性が考えられる。

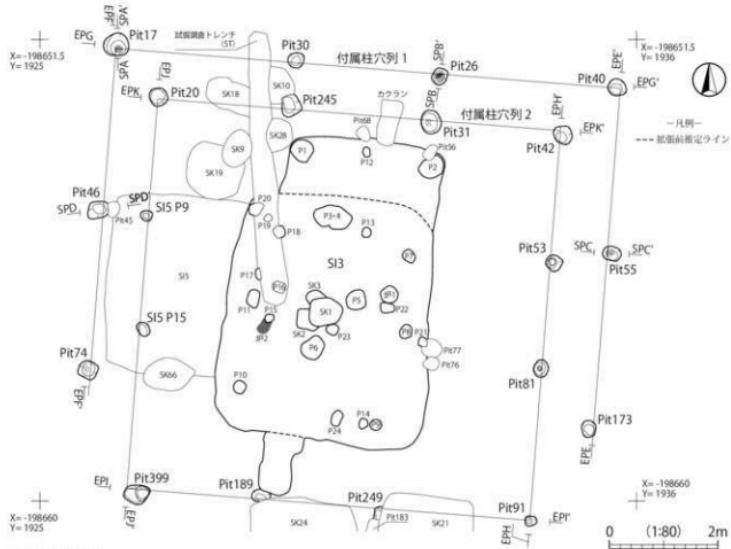
S3 遺構構造土記表

遺構名	層番	土色	土性	備考	
				面積	縦横比
P1	1	10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰色シルト・炭化物少量、埴土粒微量含む。	
	2	N6/D 黄褐色	シルト	埴土ブロック(5～20mm程度)・炭化物少量含む、半砂層	
P2	1	10YR4/1 剥離色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物微量含む。	
	2	10YR3/2 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
P2	1	10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
	2	10YR3/1 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
P3+4	1	10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、埴土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
	2	10YR4/1 剥離色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P5	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P6	1	10YR4/1 剥離色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
P7	2	10YR4/1 剥離色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物微量含む、少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P8	1	10YR3/2 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、埴土・炭化物微量含む。	
P9	1	10YR3/2 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、埴土・炭化物微量含む。	
P10	1	10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P11	1	10YR4/1 剥離色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P12	1	2.5Y4/1 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、埴土・炭化物微量含む。	
P13	1	10YR4/1 剥離色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P14	1	10YR3/2 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P15	1	10YR4/1 剥離色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・埴土・炭化物微量含む。	
P16	2	10YR3/2 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・埴土・炭化物微量含む。	
P17	1	10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P18	1	10YR3/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土・砂層、炭化物微量含む。	
P19	3	10YR4/2 从黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P19	1	2.5Y4/2 从黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・埴土・炭化物微量含む。	
P20	1	10YR5/1 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、埴土(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P21	2	10YR2/2 从黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・埴土(10mm程度)・炭化物微量含む。	
(①)	1	10YR3/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
	2	10YR3/2 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P22	1	7.5Y4/3 明褐色	シルト	IV層土・砂層、埴土・砂層、炭化物微量含む。	
P22	2	10YR3/2 明褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
P23	1	10YR3/3 にべー黄褐色	シルト	IV層土・砂層、埴土・砂層、炭化物微量含む。	
P24	2	10YR4/1 剥離色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・埴土・炭化物微量含む。	
SK1	1	2.5Y4/2 从黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。	
SK2	(付記なし)				
SK3	1	10YR4/1 剥離色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、埴土・炭化物微量含む。	

S3 遺構断面表

遺構名	平面形	断面(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ	幅	
P1	円形	40 × 39	96	土柱穴	
P2	円形	47 × 37	66	土柱穴	底面変色。
P3	(40mm)正方形	60 × 60	4	土柱穴	P4～P5の新旧関係不明
P4	(19mm)正方形	(32) × (32)	(15)	土柱穴	P4～P5の新旧関係不明
P5	円形	36 × 35	17	埴跡穴	
P6	円形	45 × 39	22	土柱穴	
P7	円形	25 × 20	29	土柱穴	
P8	円形	26 × 22	39	土柱穴	
P9	円形	21 × 21	32	土柱穴	
P10	円形	24 × 22	32	土柱穴	
P11	楕円形	31 × 22	20	土柱穴	
P12	楕円形	19 × 13	40	土柱穴	
P13	円形	19 × 16	27	埴跡穴	
P14	円形	20 × 16	14	埴跡穴	

遺構名	平面形	断面(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ	幅	
P15	円形	17 × 16	32	埴跡穴	
P16	(円形)	(22) × (19)	(31)	埴跡穴	
P17	円形	17 × 16	32	埴跡穴	
P18	(円形)	(22) × (21)	26	埴跡穴	
P19	(円形)	(16) × (14)	(12)	埴跡穴	
P20	(円形)	(30) × (24)	25	埴跡穴	
P21	(円形)	18 × (16)	11	埴跡穴	
P22	楕円形	26 × 19	37	埴跡穴	
P23	円形	22 × 20	42	埴跡穴	
P24	楕円形	30 × 18	12	埴跡穴	
SK1	楕円形	61 × 51	15		
SK2	(方形容)	(41) × 37	9		
SK3	(円形)	(32) × 29	9		



SIS付属柱穴列1 調査表

道筋名	区別	平面形	断面形 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	重視
Pit17	13	円形	46×42	43	1	10YR2/1 黒褐色	シルト ・A耐土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱根跡		
			32×27	21	2	10YR2/2 黒褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～20mm程度)多量含む。		
Pit30	13	円形	32×29	48	1	10YR2/2 黒褐色	シルト ・A耐土ブロック(5mm程度)少量、硬土粒・炭化物粒微量含む。		
Pit40	14	円形	35×32	15	1	10YR2/2 黄褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	PB22より新しい。	
			(30)×31	42	2	10YR2/2 黄褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～10mm程度)少量、硬土粒・微量含む。	PB45より古い。	
Pit46	13	方形	34×32	38	1	10YR2/2 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。		
Pit55	19	円形	34×25	38	1	10YR1/1 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5mm程度)少量含む。※柱根跡	SBIより新しい。	
Pit74	18	方型	35×32	32	1	10YR2/1 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。		
Pit173	19	円形	31×27	32	1	10YR2/1 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	SK41より新しい。	

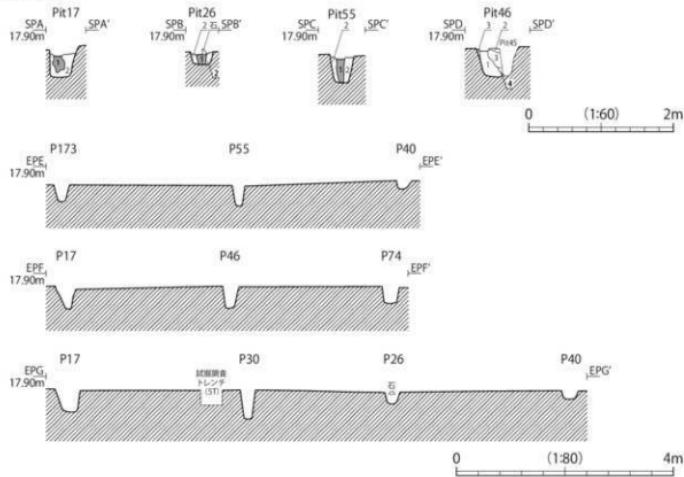
SIS付属柱穴列2 調査表

道筋名	区別	平面形	断面形 長軸×短軸	深さ	層位	土色	土性	備考	重視
Pit20	13	円形	34×33	24	1	10YR2/2 黑褐色	シルト ・ブロック(5mm程度)微量含む。		
Pit31	14	円形	43×37	29	1	10YR2/2 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。		
Pit42	14	円形	37×34	38	1	10YR2/2 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5mm程度)多量、炭化シルトブロック(5～10mm程度)微量含む。		
Pit53	19	円形	29×27	38	1	10YR2/2 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5mm程度)・炭化シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	SBIより新しい。	
Pit81	19	円形	(33)×27	38	1	10YR2/1 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5mm程度)少量含む。	SK41より新しい。	
Pit91	24	円形	22×19	19	1	10YR1/1 黄褐色	シルト ・A耐土ブロック・炭化物ブロック(ともに5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。		
Pit189	18-23	正方形	35×22	32	1	10YR2/2 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトブロック(5mm程度)・繩(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SK24より古い。	
Pit245	13	方形	(38)×36	23	1	10YR1/1 黄褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、SK68 ・炭化物粒微量含む。	SK10より古く、SK68 より新しい。	
Pit249	24	半円	(25)×(13)	22	1	10YR1/1 黄褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、繩(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。	SK21, Pe183より古い。	
SIS P9	13	円形	22×21	9	1	7.5YR3/2 黑褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルト微量但少量、硬土粒・炭化物粒微量含む。		
SIS P15	18	(椭円形)	22×(16)	6	1	NA/0/灰褐色	シルト ・A耐土ブロック(5～20mm程度)・炭量少、他土粒子少量、炭化物粒微量含む。		

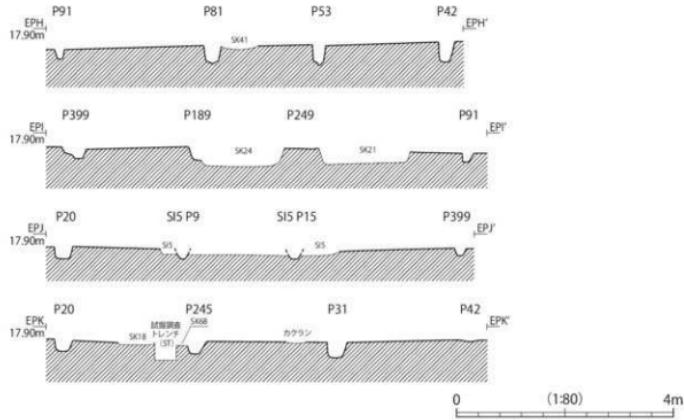
第11図 SIS豎穴構造付柱穴列1・2 (1)



SI3 付属柱穴列 1



SI3 付属柱穴列 2



第12図 SI3 竪穴遺構付属柱穴列1・2(2)



【その他の施設】 床面で土坑を3基(SK1～3)確認した。中央部のやや南寄りにSK1が位置し、これより古いSK2・3が重複する。SK1は平面橢円形を呈し、長軸61cm、短軸51cm、深さ15cmを測る。SK2・3の正確な平面形状は不明だが、規模はSK2が長軸41cm以上、短軸37cm、深さ9cm、SK3が長軸32cm以上、短軸29cm、深さ9cmである。いずれの土坑も性格は不明である。また、南壁のやや西寄りからは壁外に延びるテラス状施設を確認した。壁面の下端から20cm程度上方に付設され、奥行124cm、幅53～75cm、深さ13cmを測る。その下となる床面には長軸98cm、短軸52cm、深さ3cmを測る浅い掘り込みが付属し、その底面には小ピットが2箇所並ぶ。カマドの痕跡とも考えたが、性格は不明である。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土から少量出土した。土師器・須恵器の破片が主体であるが、無釉陶器鉢の破片が1点、鐵滓2点、礫石器1点が出土し、このうち礫石器1点を掲載した(第10図-1)。磨礫石で、a～d面に磨面、e・f面に弱い敲打痕が観察される。一部は被熱により黒変する。石材は凝灰岩である。また、床面上の炭化物を含む土を水洗したところ、炭化米が少量出土した。これらから分析試料3点を採取し、年代測定を実施した。

【時期】 出土遺物や後述するSB6より新しいことから中世と考えられ、床面から出土した炭化米について行った自然科学分析による年代測定では、12～13世紀代との結果が得られた。

S14 積穴遺構(第13図)

【位置・確認】 調査区北東部、14・19区に位置する。残存は不良で、大半がS13との重複により、北東部は擾乱により失われている。

【重複】 S13、Pit76～78より古く、SB6より新しい。Pit44との新旧関係は不明である。

【規模・形態】 検出した規模は長軸357cm、短軸112cm以上を測り、平面形状は方形もしくは長方形と推定される。

【方向】 東壁を基準としてN-8°-Eを測る。

【堆積土】 大別で5層に分層した。1～3層は褐色シルトを主体とする人為的な堆積土である。4・5層は周溝堆積土である。

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は最大9cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、基本層IV層を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)確認した。主柱穴は比較的大型で深いP1・2が該当すると考えられ、東壁沿いの南寄りに配置される。P1では径16cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 東壁と北壁の残存部の壁面に沿って延びる。規模は幅14～28cm、深さ6～12cmを測り、東側の周溝は幅がやや広い。底面の一部には小ピット状の雀眼があり、土木工具と考えられる。

【出土遺物】 出土しなかった。

【時期】 S13より古く、SB6より新しいことから、中世と考えられる。

S15 積穴遺構(第14図)

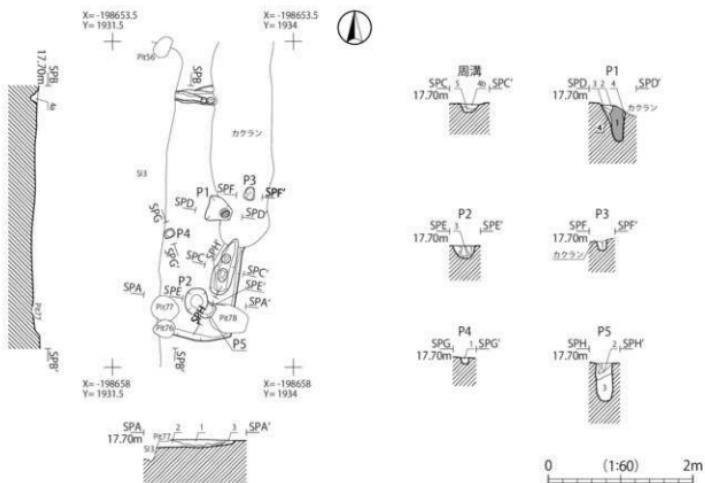
【位置・確認】 調査区北東部、13・18区に位置する。東側1/2程度はS13との重複により、南壁際の一部は擾乱により失われている。

【重複】 S13、SK19・66、Pit45より古く、SB3、Pit527より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸333cm、短軸261cm以上を測り、平面形状は方形もしくは長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN-6°-Eを測る。

【堆積土】 5層に分層した。これらは黒褐色シルトを主体とする人為的な堆積土である。がの周囲には東西106cm、南北84cmの不整形な範囲で炭化物が薄く堆積している。



S14 墓堆積土記錄表	
部位	層位
壁穴堆積土	1
	2
	3
周溝	4a
	4b
	5

S14 旗設堆積土記錄表	
面積名	層位

Sample	Wt%
P1	1
	2
	3
	4
P2	1
	2
	3
P3	1
P4	1
P5	1
	2
	3

54 股股觀察

直梯名	平面形
P1	(円形)
P2	円形
P3	(橢円形)

第13図 SI4竪穴遺構

【壁面】 直線的に外傾して立ち上がり、壁高は最大14cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、基本層IV層を床面とする。

【柱穴】床面で13基(P1～8・10～14)確認した。主柱穴と考えられるビットは、壁際を中心に配置されている(P3～8・11)。西壁のP4にはP12～14が重複することから、建て替えの可能性がある。比較的小型で浅いP1・

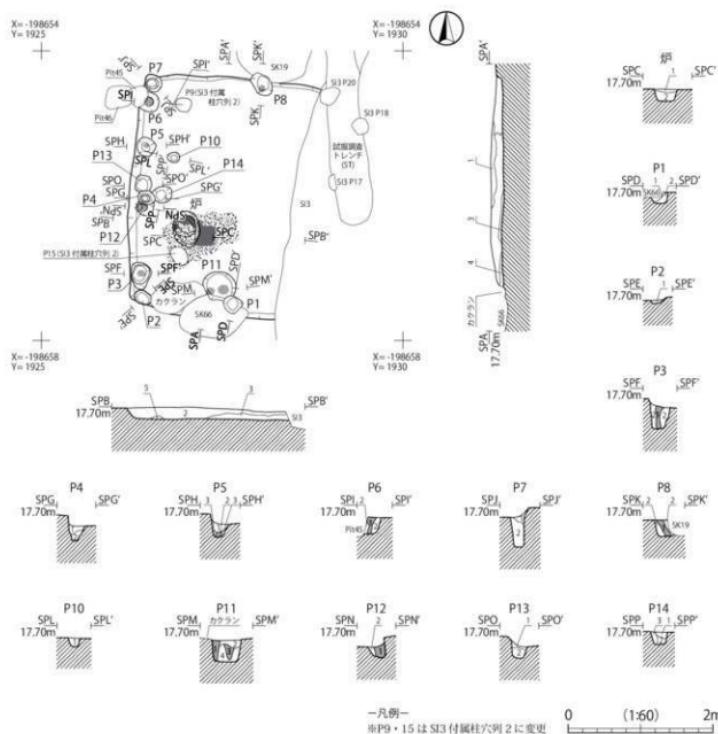


2・10は補助柱穴と考えられる。P3・5・6・8・11・12で径10～15cm程度の柱痕跡を確認し、特にP11では2箇所確認した。

【炉】南西部に位置し、二段に掘り込まれたが³である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸51cm、短軸36cm、深さ16cmを測る。全体的に被熱は弱く、壁・底面ともに焼土化は進んでおらず、東側は23cm程度外側へ被熱範囲が広がる。内部には12cm程度の厚さで灰・炭化物が堆積する。

【出土遺物】堆積土から土器の破片が少量出土したが、固化できるものはなかった。ただしがの周囲の炭化物層を水洗したところ、炭化米が少量出土した。

【時期】詳細な時期は不明だが、SI3よりは古く、後述するSB3より新しいことから、中世と考えられる。



第14図 SI5竪穴遺構



S5 墓様土註記表

測位	層位	土色	性状	備考
堅穴堆積土	1	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土ブロック(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)・礫(5mm程度)・炭化物粒混在含む。
	2	I0YR4/2 黑褐色	シルト	IV/堅土ブロック(5mm程度) 少量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)・炭化物粒混在含む。
	3	I0YR4/2 灰褐色	シルト	IV/堅土ブロック(5mm程度) 多量、炭化物粒少額、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒少量、砂土粒混在含む。
	4	I0YR4/2 黑褐色	シルト	IV/堅土ブロック(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒少量、砂土粒混在含む。
	5	I0YR4/2 黄褐色	シルト	IV/堅土ブロック(5~10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 混在含む。

S5 旗股堆積土註記表

測位名	層位	土色	性状	備考
P#	1	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土ブロック(5~10mm程度)・灰褐色シルト粒・砂土粒少額・炭化物粒混在含む。
	2	I0YR4/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒に少額、砂土粒・炭化物粒少額、IV/堅土ブロック(5mm程度) 混在含む。
	3	I0YR4/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
P1	1	I0YR4/2 黄褐色	シルト	IV/堅土粒多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
	2	I0YR3/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
	3	I0YR3/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
P2	1	I0YR3/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 炭化物粒混在含む。
	2	I0YR3/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
	3	I0YR3/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
P3	1	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
	2	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
	3	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
P4	1	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
	2	I0YR3/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
	3	I0YR3/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒混在含む。
P5	1	I0YR3/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5~10mm程度) 多量、灰褐色シルト粒・礫(10mm程度)・炭化物粒混在含む。
	2	I0YR3/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルト新鮮度高、未耕翻。
	3	I0YR4/2 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 炭化物粒混在含む。
P6	1	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・未耕翻。
	2	I0YR4/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度) 多量、灰褐色シルト・未耕翻。
	3	I0YR4/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度) 多量、灰褐色シルト・未耕翻。
P7	1	I0YR3/1 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 炭化物粒混在含む。
	2	I0YR3/1 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 炭化物粒混在含む。
	3	I0YR4/1 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルト・未耕翻。
P8	1	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルト・未耕翻。
	2	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒多量、灰褐色シルト・未耕翻。
	3	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒多量、灰褐色シルト・未耕翻。
P9	参考	S3付傾斜穴六列2の柱穴へ変更		
P10	1	I0YR3/1 黑褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルト粒・炭化物粒混在含む。
	2	I0YR3/1 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・未耕翻。
	3	I0YR4/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・未耕翻。
	4	I0YR4/1 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・未耕翻。
	5	I0YR4/1 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5~10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 炭化物粒混在含む。
P11	1	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒少額、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・未耕翻。
	2	I0YR4/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・未耕翻。
	3	I0YR3/2 黑褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・未耕翻。
P12	1	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 炭化物粒混在含む。
	2	I0YR4/3 に近い 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5~10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 炭化物粒混在含む。
	3	I0YR4/3 に近い 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5~10mm程度) 多量含む。
P13	1	I0YR5/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルト・未耕翻。
	2	I0YR4/3 に近い 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5~10mm程度) 多量含む。
	3	I0YR5/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、炭化物粒混在含む。
P14	1	I0YR4/1 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・未耕翻。
	2	I0YR4/2 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5~10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量、炭化物粒混在含む。
	3	I0YR4/2 黄褐色	シルト	IV/堅土粒(5~10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量、炭化物粒混在含む。
P15	参考	S3付傾斜穴六列2の柱穴へ変更		

S5 斧股觀察表

測位名	平面形	縦横(cm)	備考	測位名	平面形	縦横(cm)	備考
P1	(円形)	(24)×(22)	18	P10	円形	16×15	13
P2	楕円形	25×18	6	P11	(円形)	47×(42)	33
P3	楕円形	38×28	30	P12	(円形)	25×(22)	28
P4	楕円形	25×19	30	P13	(円形)	23×23	17
P5	円形	25×20	20	P14	(円形)	(27)×23	19
P6	円形	(26)×26	25	P15	(S3付傾斜穴六列2)の柱穴へ変更		
P7	円形	25×23	45				
P8	(楕円形)	25×(24)	30				

(2) 据立柱建物跡(第15~24図)

据立柱建物跡は、7棟(SB1～7)確認された。調査区北東部から中央部付近にかけて分布する。構造的には側柱(SB1～3・5)、総柱(SB4・6・7)の両形態があり、庇が付く建物も3棟存在する(SB3・4・6)。棟方向は東西棟が3棟(SB1・3・6)、南北棟が4棟(SB2・4・5・7)である。規模はSB5の桁行総長713cmが最大で、SB4の桁行総長370cm(身舎部分のみ)が最小である。柱穴規模では、長軸20～30cm前後の柱穴を主体に構成されるSB1・4・5・7、長軸50～60cmの柱穴を主体に構成されるSB2・3・6がある。これら建物群には棟範囲が重複するSB2・5や、柱穴同士が重複するSB4・7があり、ある程度の時間差が存在すると考えられる。このうち東西に並ぶSB3・6は、身舎及び庇の延長線が一致することから同時に存在していた建物の可能性がある。この2棟はともにS13～5といった堅穴遺構より古い建物跡である。今回検出された据立柱建物跡はいずれも詳細な時期は不明であるが、SB3の柱穴からは無釉陶器表が、SB6の柱穴からは青磁碗の破片がそれぞれ出土しており、中世の据立柱建物跡も存在すると考えられる。

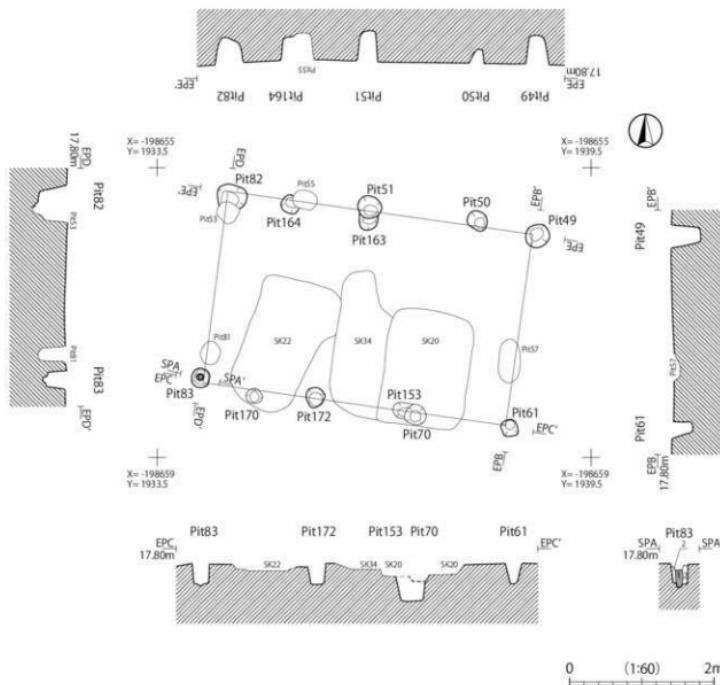


SB1 挖立柱建物跡（第15図）

調査区北東部の19・20区に位置し、13基の柱穴を確認した。SI3付属柱穴列1・2（Pit53・55）、SK20・22より古い。調査中に図上で確認した建物跡であり、このため柱穴名称は調査当初のピット名称をそのまま使用した。

南北1間、東西4間の東西棟側柱建物跡で、北側桁行を基準とした主軸方向はN-82°-Wを測る。規模は、桁行総長423cm、梁行総長266cm、床面積は約11.3m²である。柱間寸法は、南側桁部で東から125・140・85・73cm、北側桁部で東から75・153・108・87cmと、桁行は南北で柱間寸法に違いがある。柱穴の平面形状は円形が主体で、一部梢円形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸24～41cm以上、短軸21～41cm、深さ21～45cmを測る。Pit83で径13cm程度の柱痕跡を確認し、その底面には窪みがある。Pit51とPit163、Pit70とPit153のように重複する柱穴もあり、建て替えが考えられる。

遺物は出土しておらず、本建物跡の詳細な時期は不明である。



第15図 SB1 挖立柱建物跡



S81 据立柱建物跡 縦断表

通路名	区割	平面形	幅標 (cm)	規格	土 色	土性	備 考	垂 視
Pt49	19	[内周]	34 × 32	42	1	10VR3/2 黒褐色	シルト N塑土ブロック (5~20mm程度)・灰色シルトブロック (5~10mm程度) 少量含む。	
Pt50	19	[内周]	31 × 25	21	1	10VR3/1 黒褐色	シルト N塑土ブロック (5mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5~10mm程度) 少量含む。	
Pt51	19	[内周]	34 × 31	45	1	10VR3/2 黒褐色	シルト N塑土ブロック (5~20mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5~10mm程度) 少量、	Pt163より新しい。
Pt61	19	[内周]	24 × 22	29	1	10VR3/2 黒褐色	シルト N塑土ブロック (5~10mm程度) 少量、灰白色シルトブロック (10mm程度) 少量、	
Pt70	19	[内周]	(29) × (27)	[23]	1	10VR3/2 黒褐色	N塑土ブロック (5~10mm程度) 少量、灰色シルトブロック (5mm程度)・炭化物 N塑土ブロック (5~10mm程度) 少量。	SK20より古く、Pt153 より新しい。
Pt82	19	[内周]	(35) × 41	41	1	10VR4/1 黒褐色	シルト N塑土ブロック (5~10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5~20mm程度) 多量	SK3付属柱穴列2より 古い。
Pt83	19	[内周]	26 × 25	33	1	10VR4/2 黒褐色	シルト N塑土ブロック (5~10mm程度) 少量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	
Pt84	19	[内周]	(41) × (21)	—	1	10VR4/3 に古い黒褐色	シルト N塑土ブロック (5~10mm程度) 多量含む。	SK20、Pt70より古く、 Pt153より新しい。
Pt163	19	[内周]	(23) × 26	—	1	10VR3/1 黒褐色	シルト N塑土ブロック (5~20mm程度)・被 (10~40mm程度) 少量、炭化物を微量含む。	Pt51より古く、Pt211 より新しい。
Pt164	19	[内周]	26 × (23)	34	1	10VR3/2 黒褐色	シルト N塑土ブロック (5~20mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5~10mm程度) 少量、炭化物を微量含む。	SK3付属柱穴列1より 古い。
Pt170	19	[内周]	(23) × (21)	[11]	1	10VR4/1 黒褐色	シルト N塑土ブロック・灰色シルトブロック (ともに5mm程度) 少量含む。	SK22より古く、
Pt172	19	[内周]	28 × 25	29	1	10VR3/2 黒褐色	シルト N塑土ブロック (5~10mm程度) 多量、炭化物を微量含む。	

S82 据立柱建物跡 (第16図)

調査区中央部北西寄りの17・18・22・23区に位置し、10基の柱穴を確認した。SD10・11より古く、SK58、Pit237・456より新しい。範囲的にはSB5とも重複するが、新旧関係は不明である。

南北3間、東西2間の南北棟側柱建物跡で、東側桁行を基準とした主軸方向はN-11°-Eを測る。規模は、桁行総長615cm、梁行総長351cm、床面積は約21.6m²である。南側梁部のP5は48cm程度外側に位置し、棟持柱と考えられる。柱間寸法は、東側桁部で南から206・209・200cm、北側梁部で東から182・169cmを測る。柱穴の平面形状は円形が主体で、P1が隅丸長方形、P9が不整形を呈する。柱穴の規模は長軸34~98cm以上、短軸34~85cm、深さ18~54cmを測る。梁に相当するP5・10は比較的小型で浅い。P2・3・6で径13~16cm程度の柱痕跡を確認し、P1・3・6の底面には窪みがある。

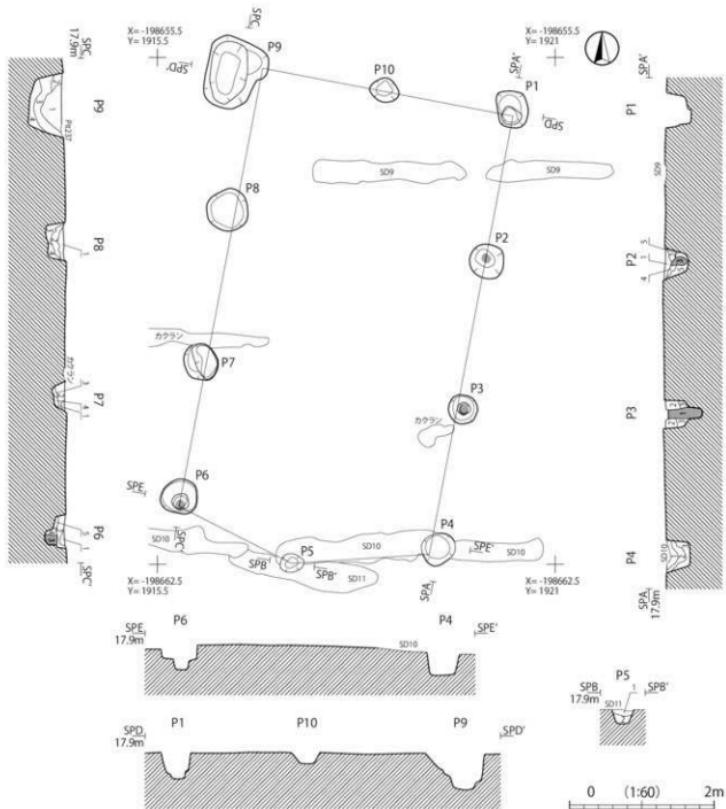
遺物はP4・5~7から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本建物跡の詳細な時期は不明であるが、建物構造や配置などから、後述するSB3と近い時期が考えられる。

S83 据立柱建物跡 (第17・18図)

調査区中央部の18・23区に位置し、19基の柱穴を確認した。SI5、SD4・5、SK26・39、Pit239・267・277より古く、SK64、Pit394・438・441・444・458~460・466より新しい。一部の柱穴については調査中に図上で本建物跡に含まれることを確認したため、これらの名称は調査当初のピット名称をそのまま使用した。

南北2間、東西3間の東西棟側柱建物跡で、南北両桁に庇が付く。北側桁行を基準とした主軸方向はN-81°-Wを測る。規模は、桁行総長525cm、梁行総長409cm、床面積は約21.4m²である。柱間寸法は、南側桁部で東から198・223・104cm、北側桁部で東から193・212・120cmと、桁行は南北で柱間寸法に違いがある。梁行の柱間寸法は、東側梁部で南から198・211cmを測る。庇の幅は南側で130cm、北側で132cmを測る。南東側では身舎と庇との間にP3が位置するが、性格は不明である。柱穴の平面形状は円形が主体で、一部楕円形、隅丸長方形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸42~80cm以上、短軸33~57cm、深さ27~60cmを測る。P1・3・4・6・8、Pit280・282で径12~18cm程度の柱痕跡を確認し、P10・Pit283の底面には径12~16cm程度の変色範囲を確認した。P1・2・7・9・11・12、Pit72・283の底面には窪みがあり、P4・10からは礎盤石の可能性がある扁平な礎が出土した。P1・7・9・11・Pit283には底面の変色範囲や窪みが2箇所あり、建て替えが考えられる。



582 置立柱建物跡観察表(1)

造標名	汎用	平面形	面積(cm ²)	壁厚	土 色	土性	備 考	備 視
		長方形 長軸×短軸(深さ)						
P1	18	隅丸長方形	51×42	36	1	10YR5/1 黑褐色	シルト IV崩土ブロック(5~20mm程度)少額、灰色シルトブロック(3~10mm程度)費 含む。	
P2	17~18	円形	50×49	36	1	10YR5/1 黑褐色	シルト IV崩土ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルト・粘土混じる少含む。	
					2	10YR5/2 加瀬色	シルト IV崩土ブロック(5mm程度)少含む。	
					3	10YR5/1 黑褐色	シルト IV崩土少量、礫(30mm程度)費含む。柱軸跡	Pt456より新しい。
					4	10YR8/2 深赤褐色	シルト IV崩土ブロック(5mm程度)少額、灰色シルトブロック(3mm程度)費含む。	
					5	10YR8/2 深赤褐色	シルト IV崩土ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)費含む。	
P3	17~22	円形	40×39	54	1	10YR5/2 黑褐色	シルト IV崩土ブロック(5mm程度)・灰褐色シルトブロック少量、粘化物 含む。柱軸跡	SK58より新しい。
					2	10YR6/1 黄褐色	シルト IV崩土ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少額、粘化物 含む。柱軸跡	
					3	10YR5/1 黑褐色	シルト IV崩土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少額、粘化物 含む。	

第16図 SB2掘立柱建物跡



SB2 振立柱建物跡 納解表(2)

遺構名	区割	平面形	幅標(cm)	積 高幅×延幅(段さ)	土色	土性	備考	直 视
P4	22	[P]H6	47×[42]	34	1 10YR3/2 黒褐色	シルト	IV 剥離土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5~10mm程度)微量含む。	
					2 10YR3/1 黒褐色	シルト	灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、IV 剥離土ブロック(5~30mm程度)微量含む。	SD10より古い。
					3 10YR3/3 黒褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~40mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~40mm程度)微量含む。	SD10より古い。
P5	22	[P]H6	[34]×[26]	[22]	1 10YR6/0 に灰褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)・ 剥離土ブロック(5~10mm程度)微量含む。	SD10+11より古い。
					2 10YR2/3 黒褐色	シルト	灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、IV 剥離土ブロック(5mm程度)・ 灰褐色含む。	SD10+11より古い。
P6	22	円形	51×47	32	1 10YR4/2 黄褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒 微量含む。	
					2 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV 剥離土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3 10YR3/1 黑褐色	シルト	IV 剥離土・炭化物粒シルトブロック(5mm程度)微量含む。※柱軸跡	
					4 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
					5 10YR4/1 黑褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
P7	17	[P]H6	53×45	24	1 10YR4/2 黄褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
					2 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5mm程度)少量、灰褐色シルトブロック・灰白色A1a層ブロック(5~ 10mm程度)微量含む。	
					3 10YR3/1 黄褐色	シルト	IV 剥離土微量含む。	
					4 10YR3/2 黄褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
P8	17	[P]H6	59×59	34	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少 量含む。	
					2 10YR3/1 黑褐色	シルト	IV 剥離土・灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
					3 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少 量含む。	
					4 10YR4/1 黄褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)・ 炭化物粒微量含む。	
P9	17	[不整型]	[98]×85	50	1 10YR3/2 黄褐色	シルト	灰褐色シルトブロック(5~30mm程度)多量、IV 剥離土ブロック(5~20mm程度)少 量含む。	
					2 10YR4/2 黄褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、 炭化物粒微量含む。	PB237より新しい。
					3 10YR4/1 黑褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~20mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)多 量含む。	
					4 10YR3/1 黑褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)微 量含む。	
P10	17	[P]H6	41×34	18	1 10YR3/1 黑褐色	シルト	IV 剥離土ブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色微量含む。	

遺物はP9・10から土師器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。また、Pit282から無釉陶器甕の破片が1点出土したが、これも図化できなかった。

本建物跡の詳細な時期は不明だが、出土遺物から中世と考えられる。

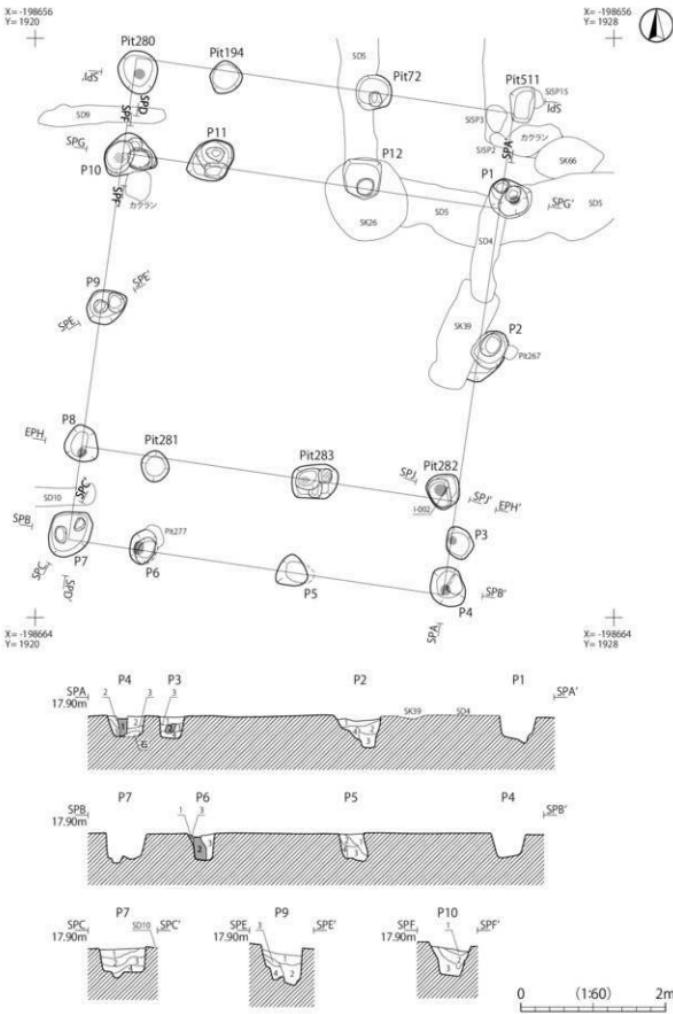
S84 振立柱建物跡(第19・20図)

調査区中央部の27・28・32・33区に位置し、15基の柱穴を確認した。SB7、Pit477・498より新しい。南側の一部は攪乱により失われている。

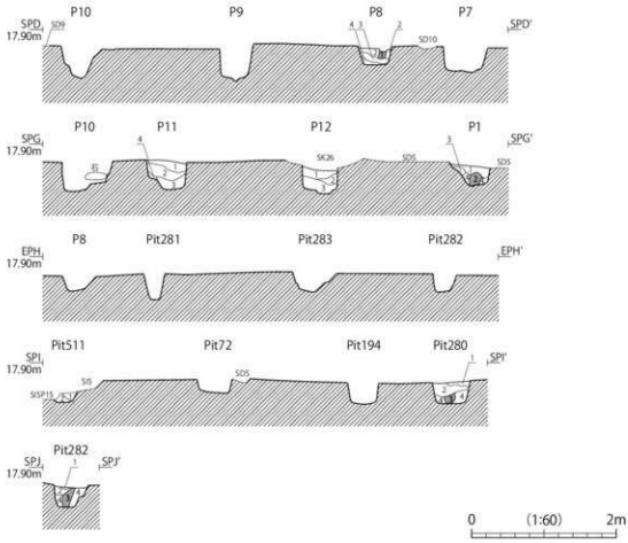
南北2間、東西2間の総柱建物跡で南北に若干長く、桁方向を示すと考えられる。東西両桁に庇が付く。東側桁行を基準とした主軸方向はN=3°-Eを測る。規模は、桁行総長370cm、梁行総長339cm、床面積は約12.5m²である。柱間寸法は、東側桁部で南から194・188cm、西側桁部で南から171・193cmと、桁行は東西で柱間寸法に違いがある。梁行の柱間寸法は、北側桁部で東から159・180cmを測る。庇の幅は東側で68cm、西側で105cmを測る。柱穴の平面形状は円形が主体で、一部楕円形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸26~46cm、短軸26~37cm、深さ19~42cmを測る。P2・6・8~10・13で径11~20cm程度の柱痕跡を確認した。

遺物はP5~6・7・9・14・15から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本建物跡の詳細な時期は不明だが、本建物跡よりも古いPit477からは無釉陶器甕の破片が出土しており、中世と考えられる。



第17図 SB3掘立柱建物跡(1)



SB3 挖立柱建物跡 線形表(1)

遺構名	区分	平面形	幅員(cm) 右幅×左幅(深さ)	層 数	土 色	土 性	備 考	意 察
P1	18	[円形]	[60] × [50]	33	1	IV 黄土/黒褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)・炭化物微細含む。
					2	IV 黄土/2 黒褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、薄(5~10mm程度)微量含む。※柱頭
					3	IV 黄土/1 黒褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
					4	IV 黄土/1 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、薄(5~10mm程度)微量含む。
P2	23	[椭円形]	[80] × [45]	45	1	IV 黄土/1 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、灰(10mm程度)微量含む。
					2	IV 黄土/2 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)・灰色シルトブロック(5mm程度)多量、薄(5~10mm程度)微量含む。
					3	IV 黄土/2 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)・薄(10mm程度)微量含む。
					4	IV 黄土/2 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量、薄(10mm程度)微量含む。
P3	23	[円形]	47 × 36	27	1	IV 黄土/1 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5mm程度)多量、灰(10mm程度)微量含む。
					2	IV 黄土/1 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む、※柱頭
					3	IV 黄土/3 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。
					4	IV 黄土/3 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
P4	23	[椭円形]	55 × 48	30	1	IV 黄土/1 黑褐色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)多量、IV 黄土ブロック(5mm程度)・灰(10mm程度)少量含む。
					2	IV 黄土/2 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
					3	IV 黄土/2 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。
					4	IV 黄土/4 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
P5	23	[円形]	44 × 44	40	1	IV 黄土/2 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。
					2	IV 黄土/2 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。
					3	IV 黄土/2 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5mm程度)多量、薄(20mm程度)微量含む。
					4	IV 黄土/3 黑褐色	シルト	IV 黄土ブロック(5~10mm程度)多量含む。

第18図 SB3 挖立柱建物跡(2)



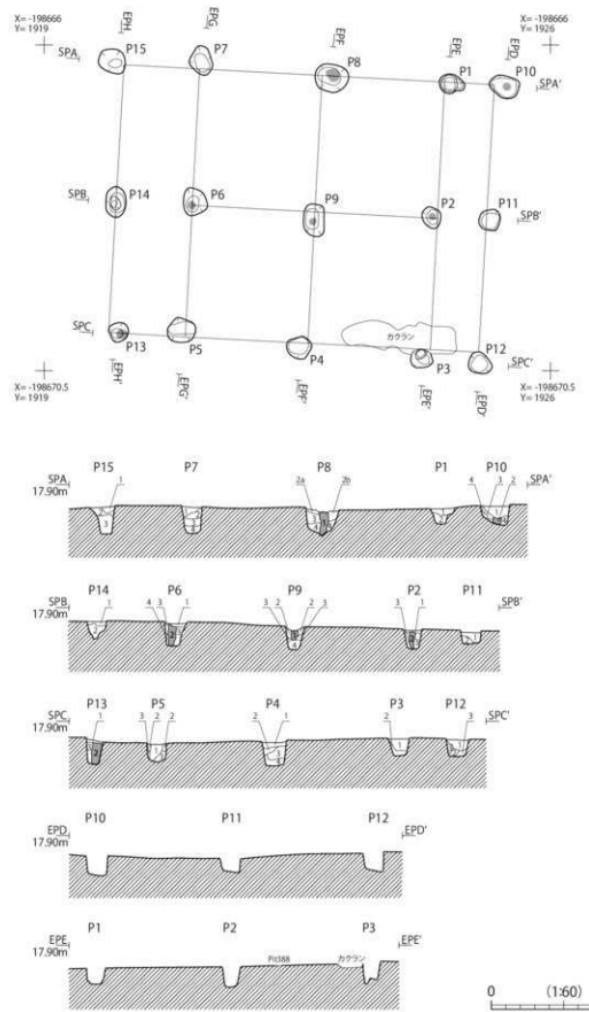
SB3 堀立柱建物跡 納観表(2)

遺構名	区分	平面形	幅締(cm) 玄輪×支柱	標高 位置	土色	土性	備考	重複
P6	23	[梅円形]	[49] × 35	37	1 IOYR3/1 黄褐色	シルト	N層土+粗粒状・灰色シルト互層状に少量含む。	
					2 IOYR3/1 黒褐色	シルト	N層土+ブロック・灰褐色シルトブロック(ともに5~10mm程度)少量含む。※柱脚部	Pn277より古い。
					3 IOYR3/2 黒褐色	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。	
P7	23	円形	62 × 56	44	1 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)無量含む。	
					2 IOYR3/1 黒褐色	シルト	N層土+ブロック・灰褐色シルトブロック(ともに5~10mm程度)少量含む。	
					3 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)多量含む。	
					4 IOYR3/1 黄・灰褐色	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)少量含む。	※柱脚部
P8	23	円形	51 × 45	27	1 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。※柱脚部	
					2 IOYR4/1 黄褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	Pn389~460より新しい。
					3 IOYR4/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~30mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
					4 IOYR4/3 黄・灰褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量含む。	
P9	18	円形	58 × 48	60	1 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。	
					2 IOYR3/1 黑褐色	シルト	灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、N層土+ブロック(5~10mm程度)無量含む。	
					3 IOYR4/1 黄褐色	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)多量含む。	
					4 IOYR4/2 灰褐色地	シルト	N層土+ブロック(5~40mm程度)多量含む。	
P10	18	円形	71 × 57	42	1 IOYR3/1 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。	
					2 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色物微量含む。	Pn239より古い。
					3 IOYR3/1 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~50mm程度)少量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)無量含む。	
					4 IOYR4/2 灰褐色地	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。	
P11	18	円形	60 × 53	44	1 IOYR3/1 黄褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。	
					2 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、N層土+ブロック(5~10mm程度)微量含む。	SK64、Pn458~459より新しい。
					3 IOYR3/1 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、N層土+ブロック(40mm程度)微量含む。	
					4 IOYR4/2 灰褐色地	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量含む。	
P12	18	[円形]	55 × 52	49	1 IOYR3/2 黄褐色地	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。	
					2 IOYR4/1 黄褐色地	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK26より古い。
					3 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~20mm程度)少量含む。	
					4 IOYR3/2 黄褐色地	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量、N層土+ブロック(5~10mm程度)微量含む。	
Pn72	18	円形	[49] × [47]	27	1 IOYR3/2 黄褐色	シルト	N層土+ブロック(5~50mm程度)多量、灰褐色物微量含む。	SDSより古く、Pn460より新しい。
Pn194	18	円形	46 × 45	30	1 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~100mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、灰褐色物微量含む。	
Pn280	18	円形	61 × 54	31	1 IOYR4/1 黄褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
					2 IOYR4/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
					3 IOYR4/1 黄褐色地	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
					4 IOYR4/2 黄褐色地	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pn281	23	円形	42 × 39	41	1 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~30mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、N層土+ブロック(5~10mm程度)微量含む。	Pn394より新しい。
Pn282	23	円形	50 × 46	32	1 IOYR3/2 黄褐色地	シルト	灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
					2 IOYR3/3 に黄・黒褐色	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)多量、礫(20mm程度)微量含む。	
					3 IOYR4/1 黄褐色地	シルト	N層土+シルトブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
					4 IOYR3/3 に黄・黒褐色	シルト	N層土+ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。	
Pn283	23	南北棟長方形	64 × 47	44	1 IOYR4/1 黄褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少量、礫(5~10mm程度)微量含む。	
Pn511	18	漢丸丘方形	[40] × [33]	16	1 IOYR3/2 黑褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・他土等	
					2 IOYR4/1 黄褐色	シルト	N層土+ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・他土等	SDSより古い。

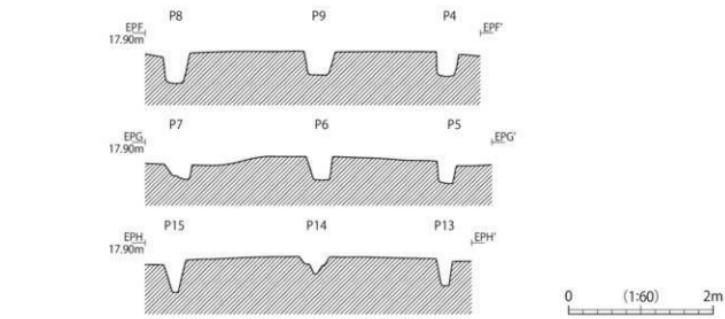
S5B 堀立柱建物跡(第21図)

調査区中央部北西寄りの12・17・22区に位置し、10基の柱穴を確認した。SA1・2より古く、範囲的にはSB2とも重複するが、新旧関係は不明である。調査後に図上で確認した建物跡であるため、柱穴名称は調査時のビット名称をそのまま使用した。

南北3間、東西2間の南北棟側柱建物跡で、東側桁行を基準とした主軸方向はN-8°-Eを測る。規模は、桁行長713cm、梁行長375cm、床面積は約26.7m²である。柱間寸法は、東側桁部で南から210・240・263cm、北



第19図 SB4掘立柱建物跡(1)



第20図 SB4掘立柱建物跡(2)



SB4 挖立柱建物跡 納解表 (2)

遺構名	区分	平面形	規模 (cm)	層位	土 色	土性	備 考	重視
P10	28	円形	41×30	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	N埋土ブロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度)・桃土料 微量含む。	
				2	10YR4/2 黑褐色	シルト	N埋土ブロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5～10mm程度) 少量 微量含む。柱軸跡。	
				3	10YR4/2 黄褐色	シルト	N埋土ブロック (5～10mm程度) 多量、桃 (5mm程度)・炭化物類微量含む。	
				4	10YR5/3 にら(黄褐色)	シルト	N埋土ブロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 微量含む。	
P11	28	円形	31×31	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	N埋土ブロック (5mm程度) 少量、灰褐色シルトブロック (5mm程度) 微量含む。	
P12	33	円形	35×28	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	N埋土ブロック (5mm程度) 少量、灰褐色シルトブロック (5mm程度) 微量含む。	
				2	10YR3/1 黄褐色	シルト	N埋土ブロック (5～20mm程度)・灰褐色シルトブロック (5mm程度) 微量含む。	
				3	10YR5/3 にら(黄褐色)	シルト	N埋土ブロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 微量含む。	
P13	27・28 32・33	円形	26×26	1	10YR4/1 黄褐色	シルト	N埋土ブロック (5mm程度) 少量、桃土料・炭化物類微量含む。	
				2	10YR3/2 黑褐色	シルト	N埋土シルト反屈筋に多量含む。柱軸跡	
				3	10YR3/1 黄褐色	シルト	N埋土ブロック (5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック (5mm程度) 多量、炭化物類微量含む。	
P14	27・28	楕円形	43×27	1	10YR3/2 黄褐色	シルト	N埋土ブロック (5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	
				2	10YR3/1 黑褐色	シルト	N埋土シルトブロック (5mm程度) 少量、灰褐色シルトブロック (5mm程度) 微量含む。	
P15	27・28	円形	41×33	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	N埋土ブロック (5mm程度) 少量、灰褐色シルトブロック (5mm程度) 微量含む。	
				2	10YR4/2 黄褐色	シルト	N埋土ブロック (5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度) 微量含む。	
				3	10YR3/1 黑褐色	シルト	灰褐色シルトブロック (5～10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度) 微量含む。	

側梁部で東から 190・185cm を測る。柱穴の平面形状は円形が主体で、梢円形、長方形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸 24～55cm、短軸 22～34cm、深さ 23～43cm を測る。Pit225・256・271 で径 16～19cm 程度の柱痕跡を確認し、Pit223・233・260 の底面には径 10～16cm 程度の変色範囲を確認した。

遺物は Pit223・258・259・260・263 から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。また、Pit258 から鉄製刀子の破片が 1 点出土したが、これも図化できなかった。

本建物跡の詳細な時期は不明である。

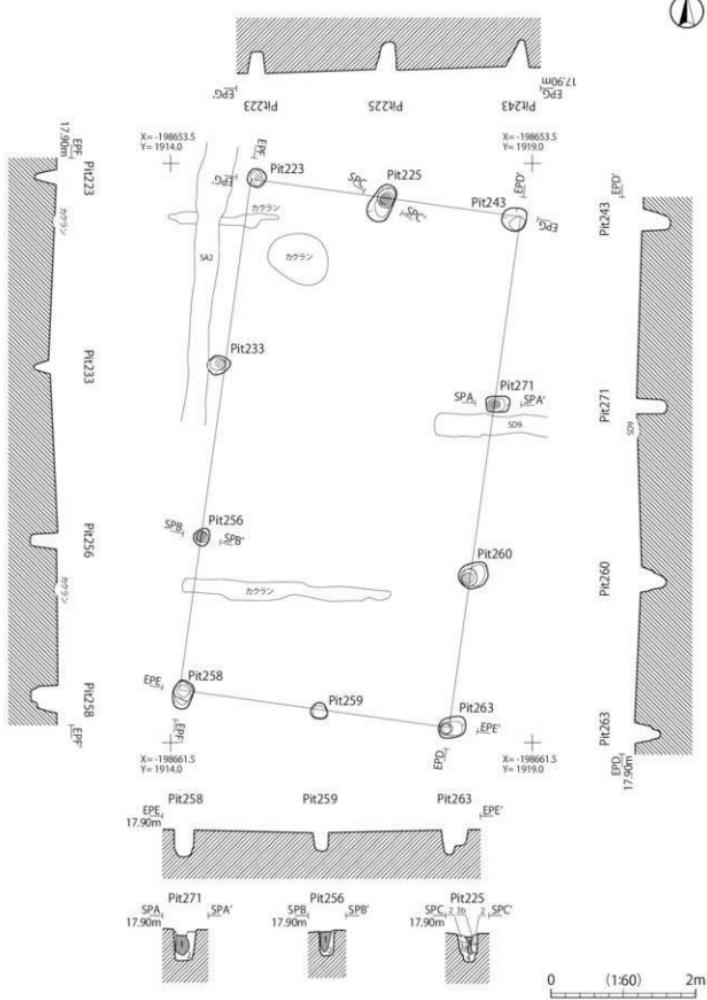
SB6 挖立柱建物跡 (第 22・23 図)

調査区中央部東寄りの 18・19・23・24 区に位置し、11 基の柱穴を確認した。SI3・4、SK23・24・44、Pit86・121 より古く、Pit264・464・520 より新しい。南側は擾乱により、北側は SI3 との重複により一部の柱穴が失われている。調査後に図上で確認した建物跡であるため、柱穴名称は調査当初のビット名称をそのまま使用した。

南北 2 間、東西 2 間の総柱建物跡で、東西に若干長く、桁方向を示すと考えられる。南北両桁に庇が付く。北側桁行を基準とした主軸方向は N-83°-W を測る。規模は、桁行總長 442cm、梁行總長 421cm、床面積は約 18.6 m² である。柱間寸法は、南側桁部で東から 221・221cm、東側梁部で南から 178・243cm を測る。庇の幅は南側で 125cm、北側で 118cm を測る。柱穴の平面形状は梢円形が主体で、Pit79 が円形、Pit529 が不整形である。柱穴の規模は長軸 25～63cm、短軸 20～56cm 以上、深さ 14～42cm を測る。Pit219 で底面に径 19cm 程度の変色範囲を確認し、Pit529 の底面には崖みがある。

遺物は Pit79・221・326・から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。また、Pit79 から龍泉窯産とみられる青磁碗の高台部破片が 1 点出土したが、これも図化できなかった。

本建物跡の詳細な時期は不明だが、出土遺物から中世と考えられる。

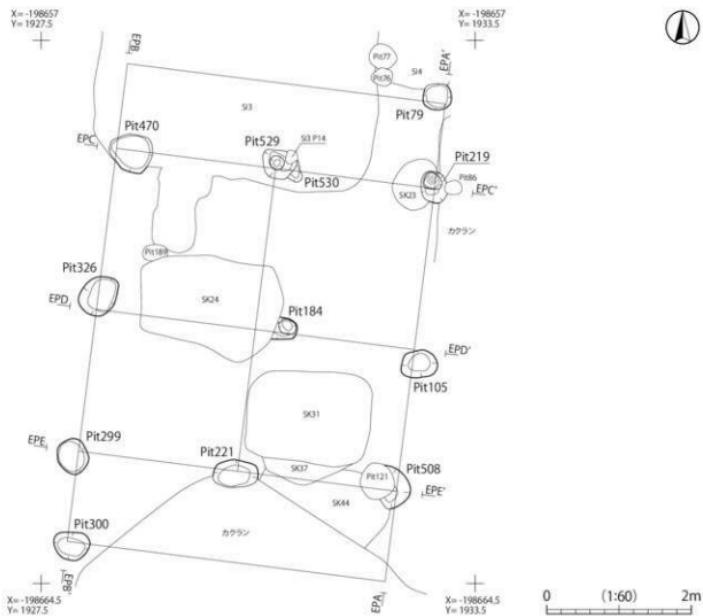


第21図 SB5掘立柱建物跡

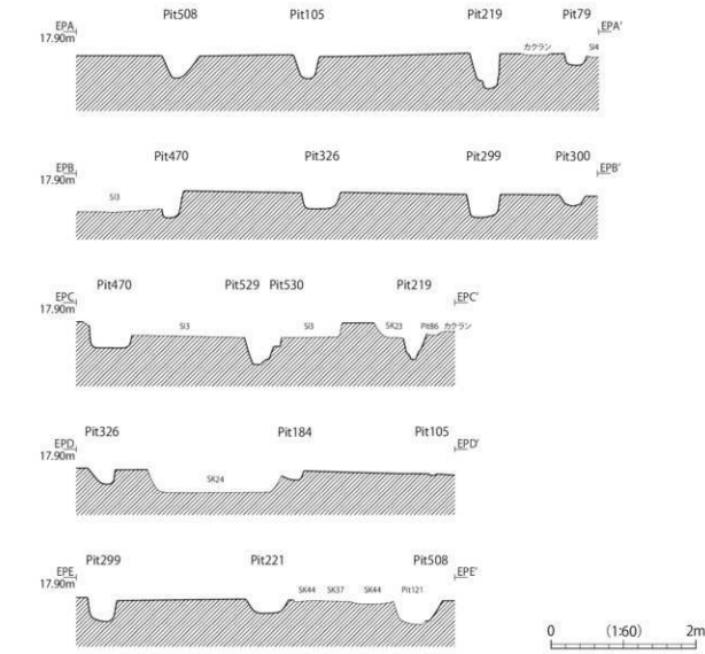


SBS 機立柱建物跡 鏡界表

遺傳名	区別	面形	周囲(cm)	長軸×短軸/深さ	屈位	土色	土性	備 考		重複
								上	下	
Pn223	12	円形	25×25 31	1.0 HYBR3/ 黒褐色	シルト	N 勝士ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微細含む。				
					シルト	N 勝士ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。				
					シルト	N 勝士ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度) 多量含む。※柱状鉛直				
					シルト	N 勝士ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。				
Pn225	12	長幅円形	55×32 39	3a 1.0 HYBR1/ 黒褐色 3b 1.0 HYBR4/ 黒褐色 4 1.0 HYBR3/ 黑褐色	シルト	N 勝士ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～20mm程度)少量含む。				
					シルト	N 勝士ブロック(5～20mm程度)少量含む。				
					シルト	N 勝士ブロック(5～10mm程度)少量含む。				
					シルト	赤色シルトブロック(5～20mm程度)多量、N 勝士ブロック(5～10mm程度)少量含む。				
Pn233	17	円形	30×26 23	1.0 HYBR1/ 黑褐色	シルト	N 勝士ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。				Sa2より古い。
Pn243	12	円形	37×34 37	1.0 HYBR2/ 黑褐色	シルト	N 勝士ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。				
Pn256	17	円形	26×22 36	1.0 HYBR3/ 黑褐色 2 2.5YR 1 黄褐色	シルト	N 勝士ブロック・灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。※柱状鉛直				
Pn258	22	楕円形	39×28 37	1.0 HYBR3/ 黑褐色	シルト	N 勝士ブロック(5～20mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(10mm程度)微量含む。				
Pn259	22	円形	24×23 26	1.0 HYBR3/ 黑褐色	シルト	N 勝士ブロック・灰色丸状灰(5mm)微量含む。※柱状鉛直				
Pn260	17	楕円形	41×34 36	1.0 HYBR3/ 黑褐色	シルト	N 勝士ブロック(5～30mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微細含む。				
Pn263	22	長方形	38×29 25	1.0 HYBR1/ 黑褐色	シルト	N 勝士ブロック(5～10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微細含む。				
Pn267	17	長方形	33×22 43	1 1.0 HYBR3/ 黑褐色 2 1.0 HYBR3/ 黑褐色	シルト	N 勝士ブロック(5～20mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度)・微量含む。※柱状鉛直				
					シルト	N 勝士ブロック(5～30mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量、 鐵(5mm程度)微量含む。				



第22図 SB6掘立柱建物跡(1)



SB6 置立柱建物跡観察表

透視名	汎別	平面形	範囲(cm) 長×幅×高さ	土色	土性	備考		直推
						SHより古く、P264より古い。	SHより古く、P264より古い。	
Pg779	19	円形	39×36	17	I	10YR4/1 関褐色	シルト	IV 塗土ブロック(5～10mm程度)・多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)・少量、 炭化物・鉄物質微量。
Pg105	24	楕円形	51×37	29	I	10YR2/2 黒褐色	シルト	IV 塗土ブロック(5～20mm程度)・多量、炭化物微量。
Pg184	24	楕円形	35×31	14	I	10YR4/1 関褐色	シルト	IV 塗土ブロック(5～20mm程度)・多量、炭化物微量。
Pg219	19	楕円形	42×38	42	I	10YR1/1 関褐色	シルト	IV 塗土ブロック(5～20mm程度)・灰褐色山土・山土ブロック(5～10mm程度)・多量、 塗土・鉄物質微量。
Pg221	23-24	楕円形	63×38	23	I	2.5Y5/1 黄褐色	シルト	IV 塗土ブロック(5～10mm程度)・多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)・ 塗土(10mm程度)・炭化物微量・少量。
Pg299	23	楕円形	48×43	32	I	10YR4/2 黑灰褐色	シルト	IV 塗土ブロック(5～50mm程度)・多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物 微量・鉄物質微量。
Pg300	23	楕円形	49×40	17	I	10YR4/2 黑灰褐色	シルト	IV 塗土ブロック(5～10mm程度)・多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・塗土・ 鉄物質微量含む。
Pg326	23	長方形	58×48	22	I	10YR4/1 関褐色	シルト	IV 塗土ブロック(5～10mm程度)・多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・塗土(5mm程度)・ 鉄物質微量含む。
Pg470	19	楕円形	(62)×(56) 41	I	10YR2/2 黑褐色	シルト	IV 塗土ブロック(5～10mm程度)・多量、炭化物微量・鉄物質微量含む。	SHより古い。
Pg508	24	楕円形	(60)×47 32	I	10YR5/1 関褐色	シルト	9.9t 塗土ブロック(5～10mm程度)・多量、黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)・ 炭化物微量・鉄物質微量含む。	SK44より古く、P263より古い。
Pg529	19	整方形	48×30	28	II	注記なし		
Pg530	19	楕円形	25×17	18	II	注記なし		Pg529より古い。

第23図 SB6掘立柱建物跡(2)

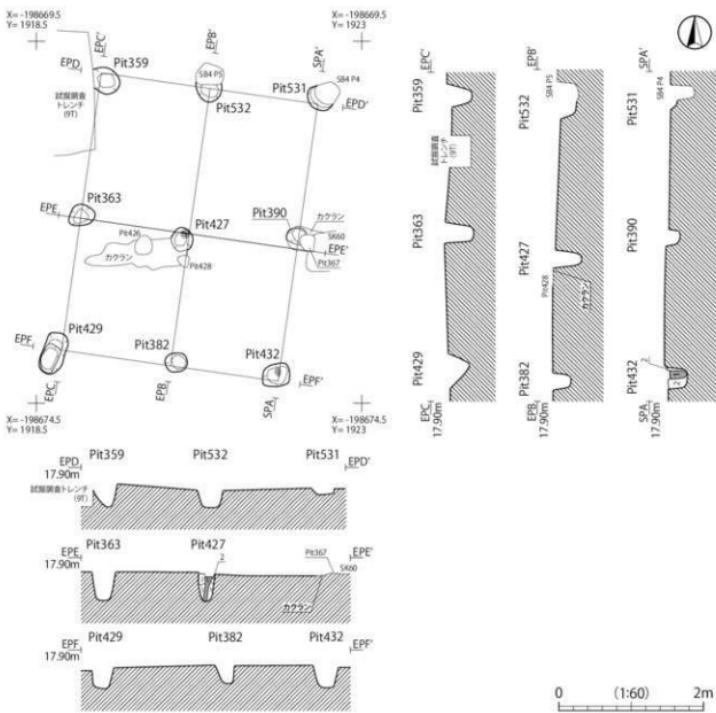


SB7 捩立柱建物跡 (第24図)

調査区中央部南寄りの27・28・32・33区に位置し、9基の柱穴を確認した。SB4、Pit367より古い。調査後に図上で確認した建物跡であるため、柱穴名称は調査当初のピット名称をそのまま使用した。

南北2間、東西2間の縦柱建物跡で、南北に若干長く、桁方向を示すと考えられる。東側桁行を基準とした主軸方向はN-8°-Eを測る。規模は、桁行総長387cm、梁行総長302cm、床面積は約11.7m²である。柱間寸法は、東側桁部で南から200・187cm、西側桁部で南から184・203cmと、桁行は東西で柱間寸法に違いがある。梁行の柱間寸法は、南側梁部で東から150・152cmを測る。柱穴の平面形状は楕円形が主体で、一部円形、長方形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸25～59cm、短軸23～35cm、深さ9～40cmを測る。Pit427・432で径12～13cm程度の柱痕跡を確認した。

遺物は出土しておらず、本建物跡の詳細な時期は不明である。





SB7 墓立古墳物跡 納取表

遺構名	区分	平面形	周囲(cm)	幅(上端幅)	幅(下端幅)	深さ	土色	土性	備考		直視
									幅	層位	
Pt359	17・32	楕円形	[43] × 35	34	1	10VR3/1 黒褐色	シルト	N褐色土ブロック(5~10mm程度)・灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰土粒・灰化物微量含む。			
Pt363	32	楕円形	[43] × 30	40	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	N褐色土ブロック(5~30mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、透水性良好。			
Pt382	33	楕円形	[31] × 26	25	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	N褐色土ブロック(5~10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。			
Pt390	33	楕円形	[25] × 23	19	1	10YR4/1 黑褐色	シルト	N褐色土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、透水性良好。			Pt367より古い。
					1	10YR4/1 黑褐色	シルト	N褐色土ブロック・灰褐色シルトブロック(ともに5mm程度)少量含む、中柱軸跡			
Pt427	33	円形	[30] × 30	40	2	10YR2/2 黑褐色	シルト	N褐色土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。			
					3	10YR5/3 に近い 黑褐色	シルト	N褐色土ブロック(5~10mm程度)多量、中柱軸跡			
Pt429	32	長方形	59 × 32	32	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	N褐色土ブロック・灰褐色シルトブロック(ともに5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。			
Pt432	33	長方形	38 × 31	34	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	N褐色土ブロック・灰褐色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、灰化物微量含む。			
Pt531	33	円形?	38 × 24	9	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	N褐色土ブロック(5~10mm程度)微量含む。			SB4より古い。
Pt532	33	円形?	35 × 27	25		※記述なし。					SB4より古い。

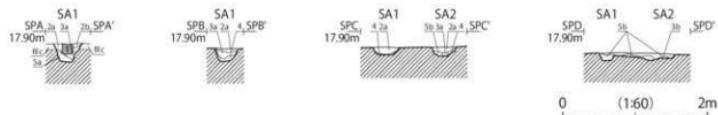
(3) 木柵跡(第25・26図)

木柵跡は、2条(SA1・2)確認された。ともに調査区北西部～西部の02・07・12・17・22・27区に位置し、SA1の東側にSA2が平行する。SA1の南端部付近とSA2の中央部付近は東西方向の溝により連結し、別番号としたが同一の遺構である。SA1の北端部は調査区外へと延びる。他遺構との重複関係はPt270より古く、SB5、Pt63～65より新しい。

主軸方位はSA1がN-7°-E、SA2はN-9°-Eで、ともに南北方向へと直線的に延びる。検出した規模は、SA1が長さ21.45m、SA2が17.76mで、上端幅は23～47cm、下端幅は9～37cm、深さは3～15cmを測る。断面形状は逆台形を呈し、一部箱形を呈する。底面には柱痕跡が並ぶが、間隔は不等で、一部には抜き取り痕とみられる大きめのビットもある。これらのビットの直径は10～25cm前後、深さ5～15cm前後を測る。堆積土は大別で5層に分層され、褐灰色・黒褐色の砂質シルトを主体とする人為的な堆積土である。

遺物は上師器・須恵器が少量出土したが、図化できるものではなかった。

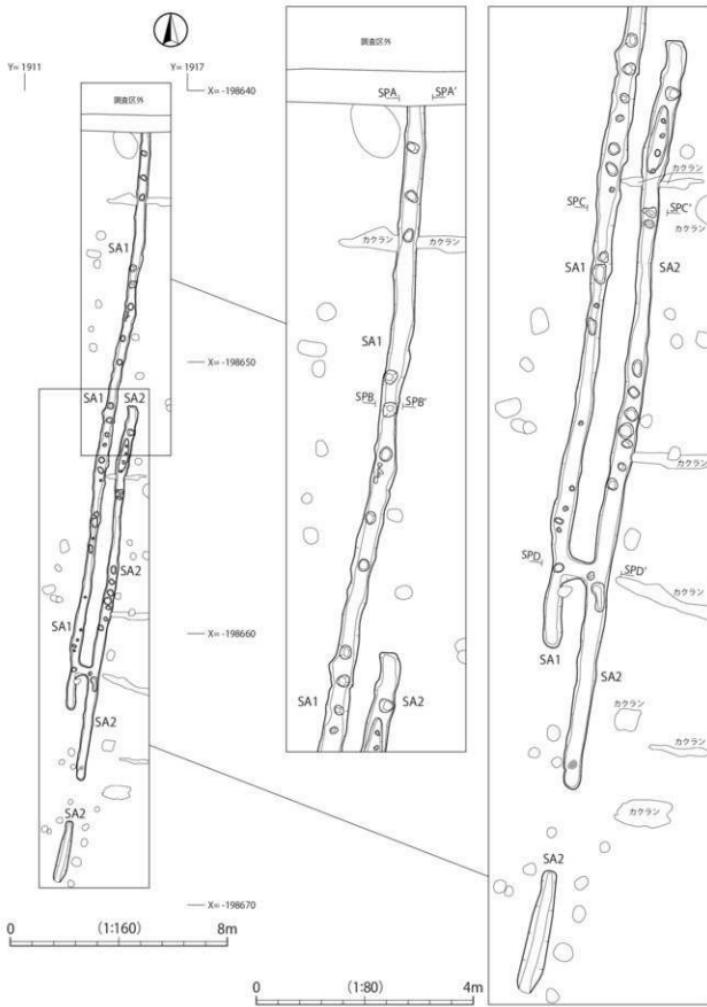
本木柵跡の詳細な時期は不明だが、後述するSD6～8と方位的に直交すること、本木柵跡を境に平安時代～中世の遺構密度が著しく変化することから、SD6～8とともに区画施設の性格が考えられる。



SA1-2木柵跡 納取表

遺構名	区分	方 向	周囲(cm)	幅(cm)		層位	土 色	土 性	備 考		直 視
				全長	上端幅				幅	層位	
SA1-2	02・07 12・17 22・27	SA1:N-7°-E SA2:N-9°-E	SA1:2145 SA2:1776	23 ~ 47	9 ~ 37	3 ~ 15	N褐色土	シルト	N褐色土ブロック(5mm程度)多量、灰土粒・灰化物微量含む。	Pt270より古く、SB5、Pt63～65より新しい。	
									1	10YR3/1 黑褐色	
									2a	10YR2/2 黑褐色	
									2b	10YR2/2 黑褐色	
									3a	10YR4/1 黑褐色	
									3b	10YR4/1 黑褐色	
									4	10YR4/1 に近い 黑褐色	
									5a	10YR5/3 に近い 黑褐色	
									5b	10YR4/2 黑褐色	

第25図 SA1・2木柵跡(1)



第26図 SA1・2木柵跡(2)



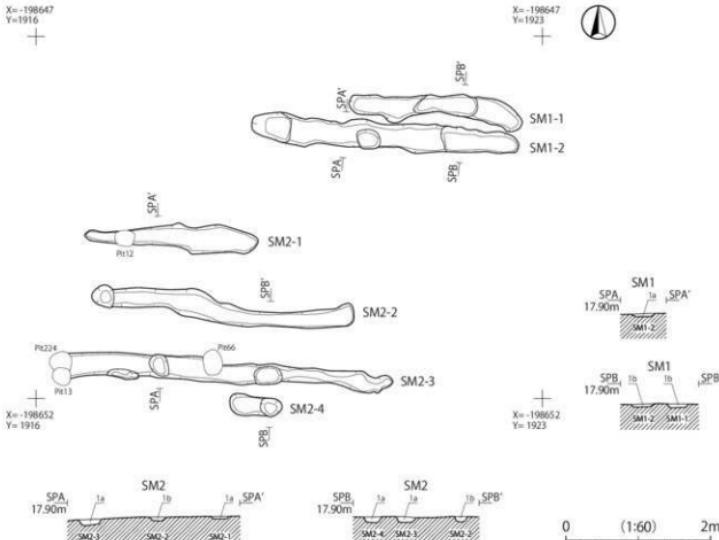
(4) 小溝状遺構群(第27図)

小溝状遺構群は、2群(SM1・2)確認された。調査区北部の07・08・12・13区に位置し、ともに東西方向に延びる。SM1は2条(SM1-1・2)、SM2は4条(SM2-1～4)で構成され、SM1の南側にSM2が平行する。SM2はPit12・13・66・224より古い。

主軸方位はともにN-86°～88°-Wである。検出した規模はSM1が長さ2.32～3.69m、幅21～41cm、深さ1～9cm、SM2が長さ0.72～4.47m、幅14～40cm、深さ1～21cmを測る。全体的に幅は均一性がなく、平面形状もいびつである。断面形状はともに逆台形を呈し、底面は起伏が顕著で一部ピット状に掘り込まれる。堆積土はともに黄灰色・暗灰黄色の粘土質シルトもしくは砂質シルトを主体とする。

遺物はSM1から須恵器が、SM2から土師器がそれぞれ少量出土したが、図化できるものはなかった。

本小溝状遺構群の詳細な時期は不明である。



SM1・2小溝状遺構群 総観表

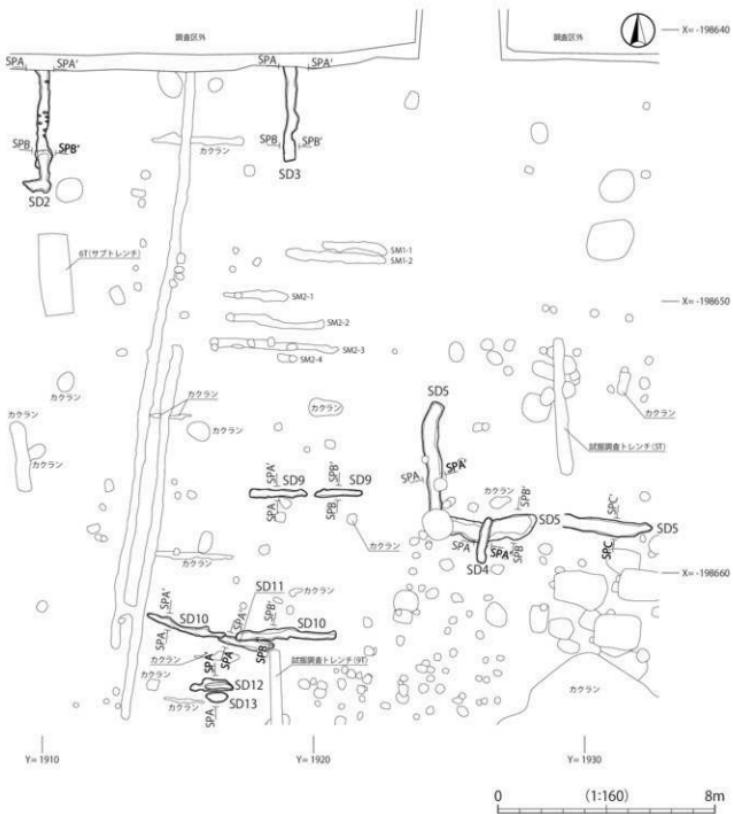
遺構名	区分	方 向	断面 長さ×幅 (cm)	層位	土 色	土性	基 考	重 観
SM1-1	8	N-87°-W	2.32×21～36	2～3	1a 2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト IV級土ブロック(5mm粒度)少量含む。		
SM1-2	7・8	N-86°-W	3.69×26×41	1～9	1b 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘質シルト IV級土ブロック(5mm粒度)・マンガン粉少量含む。		
SM2-1	7	N-88°-W	2.40×14～39	1～3	1a 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト IV級土ブロック(5～20mm粒度)多量、炭化物和葉 層含む。	Pit12より古い。	
SM2-2	12・13	N-86°-W	3.64×19～49	1～21	1b 2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト IV級土ブロック(5mm粒度)少量含む。		
SM2-3	12・13	N-88°-W	[447]×17～36	1～5	1a 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト IV級土ブロック(5～20mm粒度)多量、炭化物和葉 層含む。	Pit13・66・224より古い。	
SM2-4	12	N-86°-W	7.25×25～30	2～7	1a 2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト IV級土ブロック(5～20mm粒度)多量、炭化物和葉 層含む。		

第27図 SM1・2小溝状遺構群



(5) 溝跡 (第28～31図)

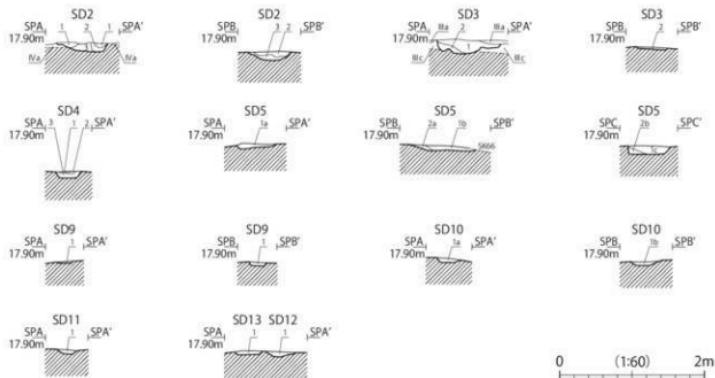
溝跡は、12条 (SD2～13) 確認された。方位は概ね SD2～4 が南北方向、SD6～13 が東西方向で、SD5 は「L」字状に屈曲する。直線的な溝跡が多いが、SD10 はやや南に膨らんで湾曲する。規模は SD6～8 で上幅の最大値が 103～122cm を測り、SD2・5 が 63～92cm とこれに次ぐ。SD3・4・9～13 は 33～47cm で、SD6～8 の 1/2 程度の幅である。断面形状は逆台形を基本とし、一部で SD2 のように「U」字形、SD3・4 のように箱形に近い形態も存在する。底面は概ね平坦であるが、SD6～10 では部分的に弱く起伏し、SD11 では全体が不規則に起伏する。堆



第28図 SD2～5・9～13溝跡(1)



積土はシルトまたは砂質シルトで、色調は褐色～黒褐色を主体とする溝跡が多い。遺物はSD2・3・5～8・10・12から土器部・須恵器の破片が少量出土し、SD5・7からは鉄滓が、SD6からは無釉陶器窓の破片が出土しているが、図化できるものはなかった。また、いずれの溝跡も詳細な時期は不明であるが、一部の溝跡は中世と考えられる。



SD2～5・9～13 溝跡 縦断面

追跡名	区割	方 向	断面図(cm)			層位	土 色	土性	備 考	重 観	
			全段	上端幅	下端幅						
SD2	01・02	N.1°～88° W	495	32～63	17～44	7～14	1 7.5YR4/3 褐色 2 10YR3/1 黒褐色 3 10YR6/1 褐灰色	砂質シルト IV 刷毛ブロック(5mm程度) 多量含む。 IV 刷毛ブロック(5～20mm程度) 多量、炭化物粒 微量含む。			
	06・07									SK30より新しい。	
SD3	02	N.2° E	353	29～44	22～40	1～6	1 7.5YR5/1 褐灰色 2 7.5YR5/1 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト IV 硫素土粒多量、マグネタイト少量、炭化物粒微量含む。 IV 硫素土粒多量含む。			
SD4	18	N.7° E	171	31～36	11～20	5～7	1 10YR4/3 黒褐色 2 10YR3/1 黑褐色 3 10YR3/1 黑褐色	シルト IV 硫素土ブロック(5mm程度) 多量含む。 IV 硫素土ブロック(5mm程度) 多量、灰褐色シルト粒少 量、礫(10mm程度)・性土粒微量含む。		SD3・SD5・SK39, Pit265- 524・525・528より新しい。	
SD5	13・18	N.3°～89° W	1263	41～92	30～66	4～13	1a 10YR4/1 黑褐色 1b 2.5YI/1 黄灰色 1c 10YR4/1 黑褐色 2a 2.5YI/3 オリーブ褐色 2b 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト シルト シルト	IV 硫素土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰黑色シ ルトブロック(5～10mm程度) 少量、炭化物粒微量 含む。 灰褐色・黒褐色土粒に多量、灰褐色シルトマニナ トに少量、炭化物粒微量含む。 IV 硫素土ブロック(5mm程度)・灰褐色シルトブロ ック(5～10mm程度) 多量、炭化物粒微量含 む。 IV 硫素土ブロック(5mm程度)・灰褐色シルトブロ ック(5～10mm程度) 多量、炭化物粒微量含 む。	SD4, SK26, Pit69より古く、 S3, SR3, SK66, Pit397・ 400より新しく、472・522～ 524より新しい。	
SD9	17・18	N.89° E	416	21～33	15～28	2～5	1 2.5YI/1 黄褐色	シルト	IV 硫素土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰黑色シ ルトブロック(5～10mm程度) 少量、炭化物粒微量 含む。	SD2～SD5より重複するが、新 SD2～SD5より重複するが、新	
SD10	22・23	N.71°～90° W	709	17～43	6～33	4～9	1a 10YR4/2 黑褐色 1b 10YR4/1 黑褐色	シルト シルト	IV 硫素土トマニナに少量、灰褐色シルトマニナに少 量、炭化物粒微量含む。	SD2, SD11より新しい。SR3 との測定結果は不明。	
SD11	22	N.81° W	207	26～42	11～27	1～9	1 10YR4/1 黑褐色	シルト	IV 硫素土ブロック(5mm程度) 少量、灰褐色シルトブ ロック(5mm程度)・礫(10mm程度) 微量含む。	SD10より古く、SD2より新 しい。	
SD12	22	N.90° W	159	20～47	12～41	4～9	1 2.5YI/3 オリーブ褐色	シルト	IV 硫素土ブロック(5～10mm程度) 少量、灰褐色シ ルトブロック(5mm程度)・礫(20mm程度) 微量含 む。		
SD13	22	N.90° W	159	32～38	17～31	1～3	1 2.5YI/1 黄褐色	シルト	IV 硫素土・灰褐色シルトマニナに少量、炭化物粒微量 含む。		

第29図 SD2～5・9～13 溝跡 (2)



これらの溝跡のうちSD6～8は最大の規模を有し、3条がほぼ同等の距離を保って平行する。それぞれに何らかの関連性が窺えるほか、木柵跡(SA1・2)と方位的に接続直交すること、また土坑・ピットをはじめとする平安時代～中世の遺構が希薄になる境界に位置することから、いずれも区画施設の性格をもつと考えられる。以降、SD6～8については個別に報告を行う。その他の溝跡の詳細については、それぞれの観察表を参照されたい。

SD6溝跡(第30・31図)

調査区中央部、36～38・62区に位置する。東端部は擾乱で壊され、西端部は調査区外へと延びる。SK43、Pit231・232・484より古く、Pit276より新しい。

方位はN-88°-Wで、東西方向へと直線的に延びる。検出した規模は長さ20.67m、上端幅64～122cm、下端幅46～117cm、深さ4～17cmを測る。断面形状は逆台形を呈するが、調査区壁の断面では北壁にテラス状の段差を作っている。底面は部分的に弱く起伏し、東から西に向かって僅かに傾斜する。堆積土は大別で3層に分層され、黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

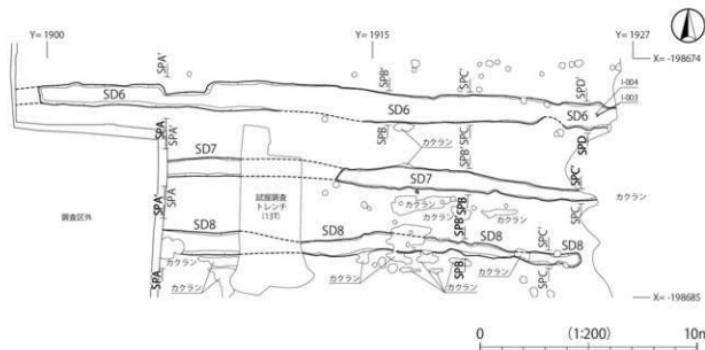
遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土し、既述の通り無軸陶器甕の破片も出土しているが、いずれも図化できなかった。本溝跡の詳細な時期は不明であるが、出土遺物から中世以降と考えられる。

SD7溝跡(第30・31図)

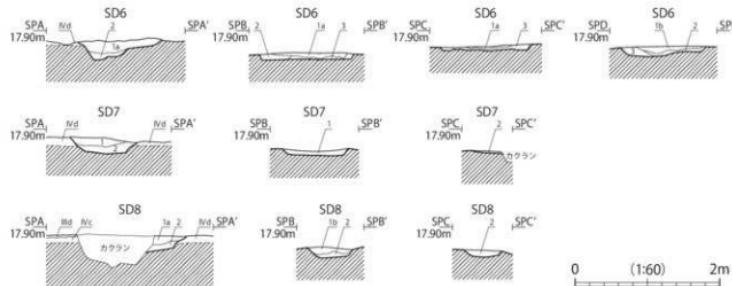
調査区中央部南寄り、36～38・42・43区に位置する。東端部は擾乱で壊され、西端部は調査区外へと延びる。Pit499より新しい。

方位はN-86°-Wで、東西方向へと直線的に延びる。検出した規模は長さ19.84m、上端幅49～103cm、下端幅41～97cm、3～12cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。底面は部分的に弱く起伏し、中央部付近が若干低くなるが、概ね水平である。堆積土は2層に分層され、褐灰色砂質シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土し、鉄滓も1点出土しているが、図化できるものはなかった。本溝跡の詳細な時期は不明だが、位置関係や形状からSD6・8と近い時期が推測される。



第30図 SD6～8溝跡(1)



SD6 ~ 8溝跡 調査表

調査名	区別	方向	断面 (cm)			層位	土色	土性	備考	重複
			長	上端幅	下端幅					
SD6 36 ~ 38 62	N-88°-W 1987	2067	64 ~ 122	46 ~ 117	8 ~ 17	1a	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV 黄土ブロック (5 ~ 20mm程度)・灰色シルトブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。	SK43, Pt(231~232, 484より古く、Pt276より新しい)。
						1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV 黄土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量、灰色シルトミナリ少量、灰化物微細混含。	
						2	10YR4/1 灰褐色	シルト	IV 黄土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、灰色シルトミナリ少量、灰化物微細混含。	
						3	10YR4/2 灰黃褐色	砂質シルト	IV 黄土ミナリ多量、灰色シルトミナリ少量、灰化物微細混含。	
SD7 36 ~ 38 42~43	N-86°-W 1984	1984	49 ~ 103	41 ~ 97	3 ~ 12	1	7.5YR4/1 灰褐色	砂質シルト	IV 黄土ブロック (5 ~ 20mm程度)・灰褐色シルト状状に少量、灰化物微細混含。	Pt499より新しい。
						2	10YR5/2 灰褐色	砂質シルト	IV 黄土ブロック (5mm程度) 少量、灰色シルトブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。	
						1a	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	II 黄土ミナリ少量、灰色シルトミナリ少量、灰化物微細混含。	
SD8 41 ~ 43	N-88°-W 1982	1982	23 ~ 108	13 ~ 83	2 ~ 16	1b	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	IV 黄土ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量、灰化物微細混含。	Pt273 ~ 275 より古く、Pt512 ~ 514より新しい。Pt505~506との新旧関係は不明。
						2	2.5Y4/2 灰灰褐色	シルト	IV 黄土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	

第31図 SD6 ~ 8溝跡 (2)

SD8溝跡 (第30・31図)

調査区中央部南寄り、41 ~ 43区に位置する。西端部は調査区外へと延びる。Pt273 ~ 275より古く、Pt512 ~ 514より新しい。Pt505 ~ 506との新旧関係は不明である。

方位はN-88°-Wで、東西方向へと直線的に延びる。検出した規模は長さ19.42m、上端幅23 ~ 108cm、下端幅13 ~ 83cm、深さ2 ~ 16cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。底面は部分的に弱く起伏し、中央部付近が若干低くなるが、概ね水平である。堆積土は大別で2層に分層され、黄褐色・灰褐色粘土質シルトを主体とする自然堆積である。

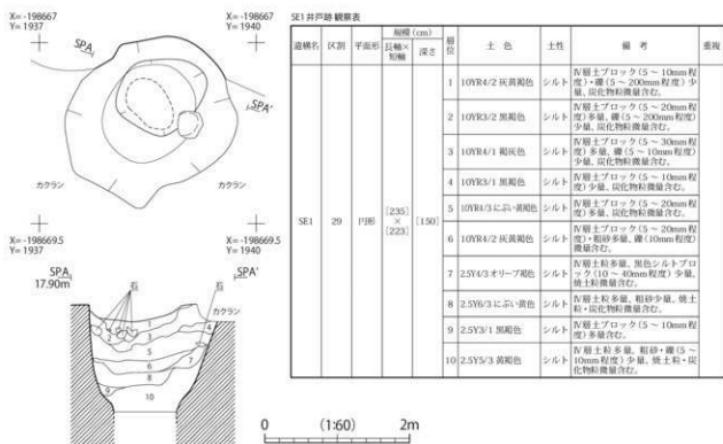
遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。本溝跡の詳細な時期は不明だが、位置関係や形状からSD6・7と近い時期が推測される。

(6) 井戸跡 (第32図)

井戸跡は、1基(SE1)確認された。調査時は土坑(SK65)として扱った。調査区西側の29区に位置し、搅乱のため南側の上部は失われている。井戸枠等を伴わない素掘りの井戸で、平面形状は円形を呈し、断面形状は底面まで検出できなかったものの漏斗状と推定される。規模は長軸235cm、短軸223cmを測り、深さは150cmまで確認した。堆積土は10層に分層され、黄褐色または灰黃褐色シルトを主体とする。全体的に基本層IV/層由来のブロックが



多く含まれ、人為的な堆積土である。遺物は上層から無軸陶器鉢の破片が出土したが、図化できなかった。本井戸跡の詳細な時期は不明であるが、出土遺物から中世以降と考えられる。



第32図 SE1井戸跡

(7) 土坑(第33～38図)

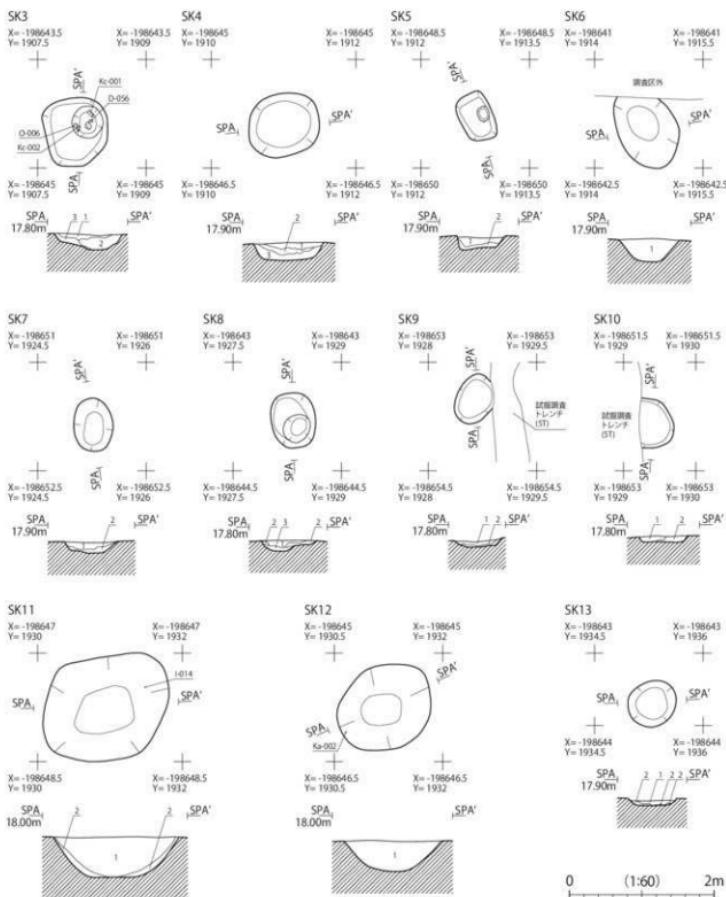
土坑は、59基(SK3～16・18～31・33～41・43～45・49～64・66～68)確認された。調査区中央部から北部にかけて分布し、特に北東部に集中する。平面形状や規模に規格性はありませんが、調査区の北部には平面形状が円形基準で断面形状が逆台形の形態がみられ、北東部のSI3～5・SB3・6周辺には平面形状が方形基準で断面形状が箱形に近い形態が多く確認される。堆積土はシルトもしくは砂質シルトを主体とし、褐色を基調とする土坑が多い。遺物はSK3～5・11・12・20～24・26・30・31・33・36～39・41・45・49～52・54・59・62・63から出土しているが、土師器・須恵器の破片が主体で、いずれも図化できなかった。SK11から火鉢とみられる瓦質土器の破片も出土していることから、一部が中世～近世の土坑の可能性がある。各土坑の詳細については、それぞれの観察表を参照されたい。

(8) ピット(第39～42図)

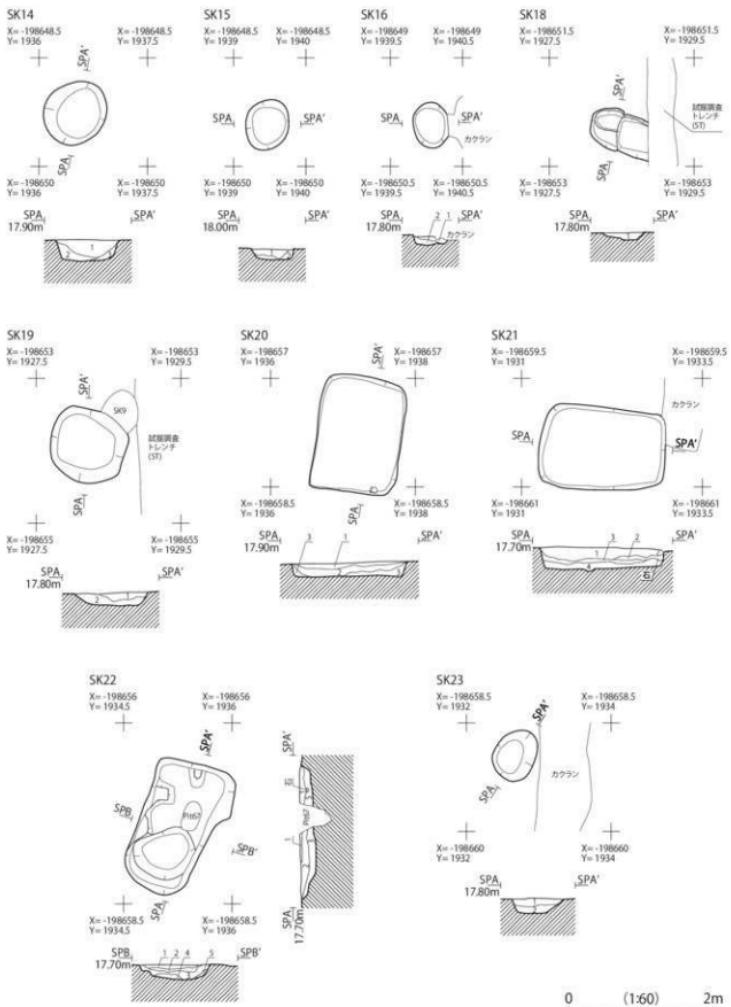
ピットは532基確認されたが、調査中や整理作業の段階で掘立柱建物などの柱穴に変更したピットが71基あり、最終的に461基を数える。分布は調査区のほぼ全域に及ぶが、特に中央部の18・19・23・24・28・33区に集中する傾向があり、全体の約半数がこの範囲に位置する。柱痕跡を確認したピットが32基、底面の変色範囲を確認したピットが16基あり、柵や建物の存在が推測されるが配置は明らかにできなかった。遺物は68基から出土しているが、土師器・須恵器の破片が主体である。Pit158・177・477からは無軸陶器鉢・甕の破片が出土した。これらはいずれも図化できなかったが、Pit175から出土した石製品1点を掲載した(第39図-1)。板状の砥石で、a



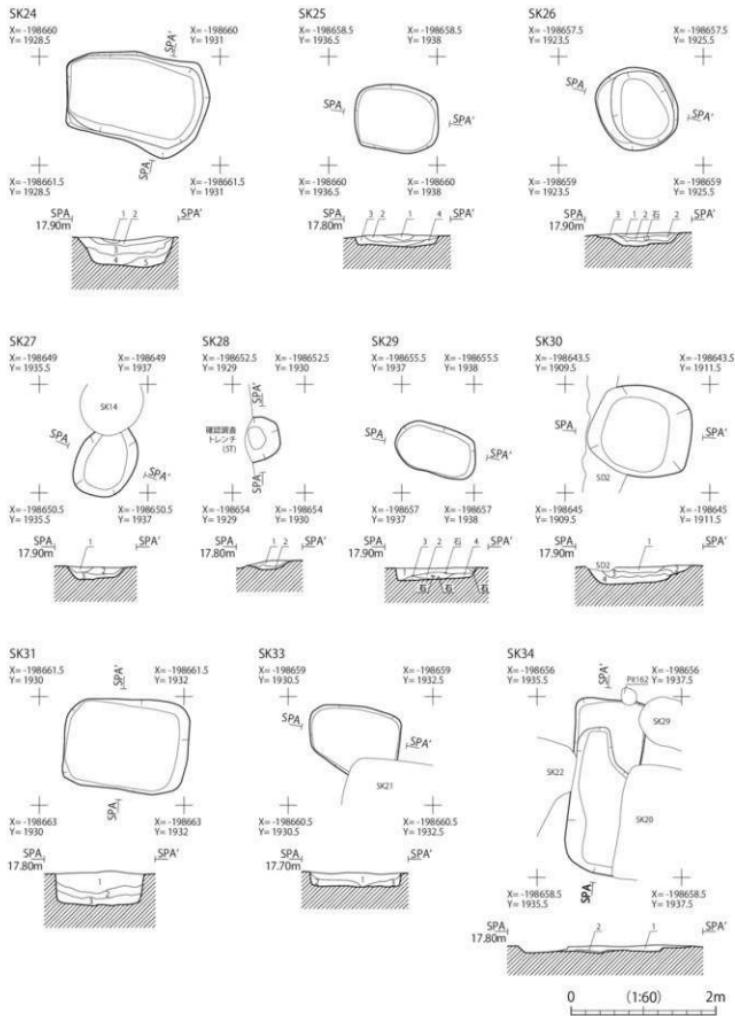
~d面には多数の線状痕が、b面には深い溝状痕が観察される。また、被熱によりほぼ全体が黒変する。石材は凝灰岩である。なお、ピットについては配置図のみを第39~41図に示し、個々の図面は掲載していない。各ピットの詳細については、それぞれの観察表を参照されたい。



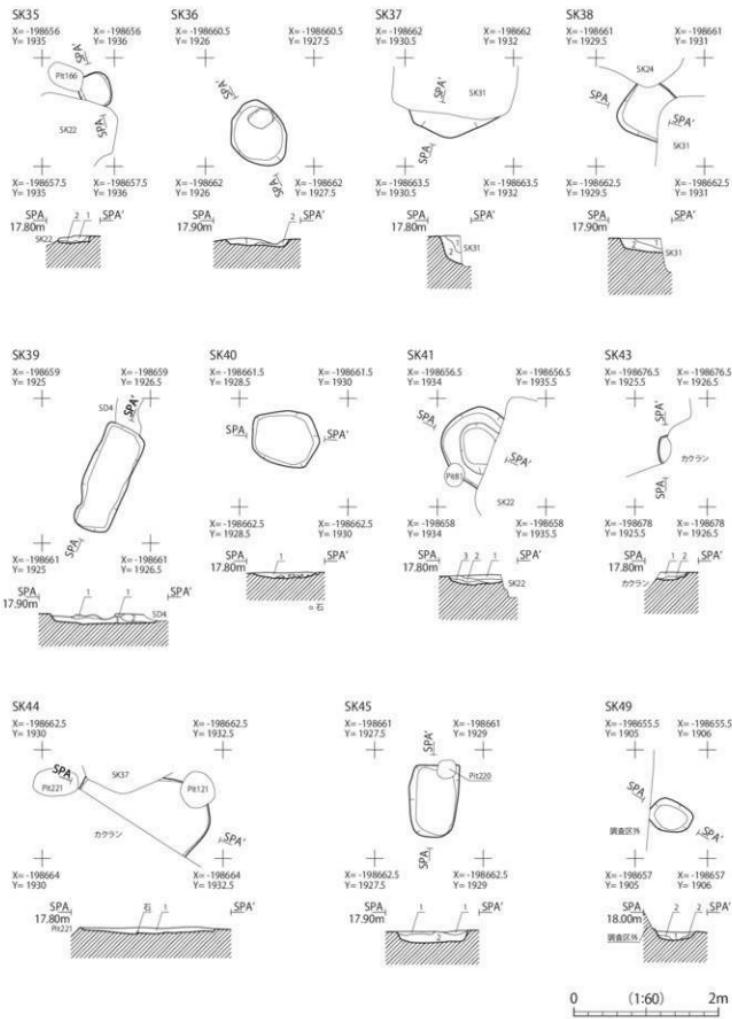
第33図 SK3 ~ 13土壤



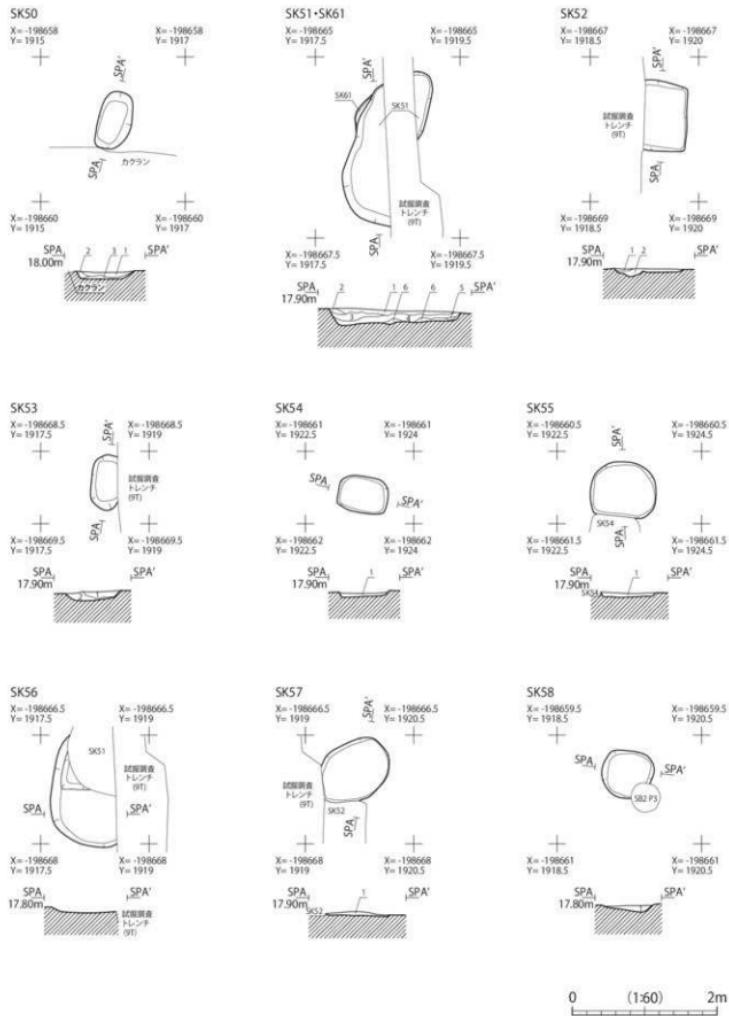
第34図 SK14～16・18～23土坑



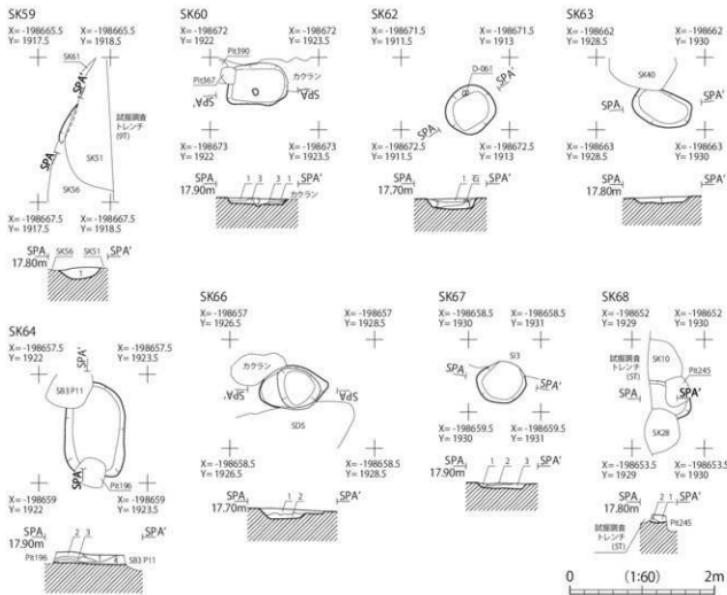
第35図 SK24～31・33・34土坑



第36図 SK35～41・43～45・49土坑



第37図 SK50～58・61土坑



第38図 SK59・60・62～64・66～68土坑

土坑(平安時代～中世)断面表(1)

通番名	区分	平面形	断面(cm) 長軸×短軸 深さ	層位	土色	土性	備考		重複
							Ⅰ	Ⅱ	
SK3	01	圓丸方形	95×88 22	1	10YR4/2 噴黄褐色	砂質シルト	IV. 硫土ブロック(5～20mm程度)・礁土と少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。		
				2	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	IV. 硫土ブロック・底色シルトブロック(ともに5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量、礁土と微量含む。		
				3	2.5Y5/2 噴黄褐色	砂質シルト	IV. 硫土ブロック(5～10mm程度)に多量、硫化色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物微量含む。		
SK4	07	楕円形	104×80 20	1	10YR5/3 にごり 黄褐色	砂質シルト	灰褐色シルトブロック(5～20mm程度)・褐色シルトブロック(5～10mm程度)多量含む。		
				2	10YR6/4 黑褐色	砂質シルト	灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量含む。		
				3	2.5Y5/6 棕褐色	砂質シルト	灰褐色シルトブロック(5～20mm程度) 多量含む。		
SK5	07・12	長方形	66×46 23	1	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV. 硫土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。		
				2	10YR5/2 噴黄褐色	砂質シルト	灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。		
SK6	02	楕円形	(110)×82 34	1	10YR6/1 黒灰色	砂質シルト	褐色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。		
				2	10YR6/2 噴黄褐色	シルト	IV. 硫土ブロック(5mm程度) 少量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量含む。		
SK7	13	楕円形	73×55 28	1	10YR5/1 黑褐色	粘土質シルト	IV. 硫土ブロック(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。		
				2	10YR5/1 黑褐色	シルト	IV. 硫土ブロック(5～20mm程度) 多量含む。		
SK8	03	楕円形	76×61 15	1	10YR5/2 黄褐色	粘土質シルト	IV. 硫土ブロック(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。		
				2	2.5Y5/7 黄褐色	粘土質シルト	IV. 硫土ブロック(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。		
				3	2.5Y5/3 黑褐色	粘土質シルト	IV. 硫土ブロック(5mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。		
SK9	13	楕円形	67×53 12	1	10YR4/1 黑褐色	シルト	IV. 硫土ブロック(5mm程度) 少量、礁土・炭化物微量含む。		SK10より新しい。
				2	10YR4/2 噴黄褐色	シルト	IV. 硫土ブロック(5～20mm程度) 多量含む。		



土坑(平安時代～中世) 納骨墓(2)

遺構名	区分	平面形	幅幅(㎝)	解説	土 色	土 性	備 考	重 観
SK10	13	楕円形	[54] × 69	12	1 10VR4/2 黒頭褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、炭化物微細含む。	SB1付属柱穴列2、 SK68より新しい。
					2 10VR4/1 黒頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK11	09	楕円形	192×147	59	1 10VR0/1 黒頭色	砂質シルト	砂質土黒頭色に多量、炭化物微細含む。	SK2付属柱穴列2、 SK68より新しい。
					2 10VR0/4 にせい黄褐色	砂質シルト	砂質土黒頭色に多量、炭化物微細含む。	
SK12	09	楕円形	136×116	41	1 10VR0/1 黒頭色	砂質シルト	砂質土黒頭色に多量、炭化物微細含む。	SK1付属柱穴列2、 SK68より新しい。
					2 10VR4/2 黑頭褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、炭化シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物微細含む。	
SK14	09	楕円形	90×85	32	1 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物微細含む。	SK27より新しい。
					2 10VR4/2 黑頭褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)、炭化シルトブロック(5～20mm程度)少量、炭化物微細含む。	
					3 10VR4/3 にせい黄褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	
SK15	09	楕円形	67×59	17	1 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物微細含む。	SK1付属柱穴列2、 SK68より新しい。
					2 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
SK16	08+10 14+15	楕円形	63×52	19	1 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物微細含む。	SK1付属柱穴列2、 SK68より新しい。
					2 10VR6/4 にせい黄褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物微細含む。	
SK18	13	長方形	[94] × 57	13	1 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	SK1付属柱穴列2、 SK68より新しい。
					2 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	
SK19	13	楕円形	105×101	19	1 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	SK1付属柱穴列2、 SK68より新しい。
					2 10VR4/2 黑頭褐色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					3 10VR5/3 にせい黄褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。	
SK20	19	長方形	161×118	18	1 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)少量、黒土シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	SK1付属柱穴列2、 SK68より新しい。
					2 10VR5/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、砂質土シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	
					3 10VR5/3 にせい黄褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。	
SK21	19+24	長方形	175×115	30	1 10VR2/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)少量、黒土シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	SD1付属柱穴列2、 SK33、PH150+153、PH247+248より新しい。
					2 10VR1/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、炭化物微細含む。	
					3 10VR3/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)少量、礫(10mm程度)少量、炭化物微細含む。	
					4 10VR2/1 黑色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)少量、黒土シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	
SK22	19	長方形	188×115	22	1 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	PH67より古く、 SK37、SK38+39、 PH150+153、 PH247+248より新しい。
					2 10VR2/2 黑頭褐色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	
					3 10VR3/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～20mm程度)少量、礫(5mm程度)少量含む。	
					4 10VR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、礫(5mm程度)少量含む。	
					5 10VR5/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～100mm程度)多量、礫(5～50mm程度)少量含む。	
SK23	19	楕円形	72×57	21	1 10VR1/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物微細含む。	SB6、PH90より新しい。
					2 10VR4/2 黑頭褐色	シルト	砂質土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物微細含む。	
SK24	18+19 23+24	長方形	195×134	42	1 5G7/1 にせいオーリーブ色	砂質シルト	砂質土・炭化物微細含む。	PH67より古く、 SK37、SK38+39、 PH150+153、 PH247+248より新しい。
					2 7.5YR3/2 黑褐色	シルト	砂質土・黒土・灰土・少量、礫(5mm程度)・炭化物微細含む。	
					3 10VR3/3 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)少量、礫(5～10mm程度)少量含む。	
					4 10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物微細含む。	
					5 10VR3/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～20mm程度)少量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					6 7.5YR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～30mm程度)少量、炭化物微細含む。	
SK25	19	長方形	115×92	12	1 7.5YR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～30mm程度)少量、炭化物微細含む。	PH154+155+178より新しい。
					2 7.5YR4/2 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
					3 10VR4/2 黑頭褐色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物微細含む。	
					4 N4/1 灰色	シルト	砂質土・灰灰土。	
SK26	18	楕円形	114×104	14	1 10VR5/3 にせい黄褐色	シルト	砂質土ブロック(5～10mm程度)多量、灰土シルトブロック(5～10mm程度)少量、植生土・炭化物微細含む。	SB3、SD5、PH198より新しい。
					2 10VR5/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、灰土シルトブロック(5～20mm程度)少量、礫(5mm程度)少量含む。	
					3 10VR4/2 黑頭褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、炭化物微細含む。	
SK27	9+14	楕円形	107×80	18	1 7.5YR4/1 黑頭色	シルト	砂質土ブロック(5～30mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	SK14より古い。
					2 10VR4/1 黑頭色	砂質シルト	砂質土ブロック(5～20mm程度)多量、灰土シルトブロック(5～30mm程度)少量含む。	
					3 10VR4/3 にせい黄褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5～30mm程度)多量、灰土シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	



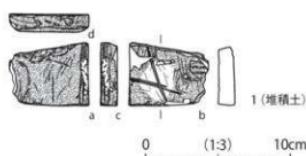
土坑(平安時代～中世) 細部表(3)

遺構名	区別	平面形	細部(cm)	層位	土色	土性	備考		直観
							長軸×短軸	深さ	
SK28	13	楕円形	[48] × 61	19	1 10YR4/1 黒灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・粘土物微量含む。		SK68より新しい。
					2 10YR5/1 黒灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～30mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 微量含む。		
SK29	19	長楕円形	114 × 66	16	1 10YR4/1 黒灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、礫(5～10mm程度)・灰褐色シルト微量含む。		SK34より新しい。
					2 10YR4/1 黒灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～20mm程度) 多量、礫(10～20mm程度)・灰褐色シルト微量含む。		
SK30	1・2	方形	[141] × 125	27	1 2.5Y4/1 黑灰色	砂質シルト	赤褐色土質状・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、灰化物微量含む。		SD2より古い。
					2 2.5Y4/4 オリーブ褐色	砂質シルト	赤褐色土質状・多量、灰化物微量含む。		
SK31	24	長方形	171 × 124	46	1 2.5Y5/1 黑灰色	砂質シルト	赤褐色土質状・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、灰化物微量含む。		SK37+38, PR186, 187より新しい。
					2 2.5Y5/1 黑灰色	砂質シルト	赤褐色土質状・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、灰化物微量含む。		
SK32	19・24	長方形	125 × 90	3	1 10YR4/1 黒灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 微量含む。		SK21より古く、PR246-247・248-471より新しい。
					2 10YR3/3 黒褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～20mm程度) 多量、灰褐色シルト微量含む。		
SK33	19	長方形	240 × 96	10	1 2.5Y4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		SK20+22・29, PR162より古く、PR212より新しい。
					2 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	赤褐色シルト状に多少、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量含む。		
SK34	19	楕円形	49 × 44	11	1 2.5Y4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、灰化物微量含む。		SK22より古く、PR166より新しい。
					2 2.5Y3/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量含む。		
SK35	23	楕円形	92 × 75	12	1 2.5Y4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状・灰褐色シルトブロック(5～20mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		SK31より古く、SK44より新しい。
					2 2.5Y3/3 オリーブ褐色	シルト	赤褐色シルト状に多少、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量含む。		
SK36	23	楕円形	80 × [64]	18	1 2.5Y4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、灰化物微量含む。		SK24+31より古く、SK42より新しい。
					2 2.5Y3/4 黑灰色	砂質シルト	赤褐色シルトブロック(5～20mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量含む。		
SK37	23-24	方形?	80 × [64]	18	1 2.5Y4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		SK24+31より古く、SK44より新しい。
					2 2.5Y4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		
SK38	24	円形?	[124] × [34]	[46]	1 2.5Y5/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度)・灰褐色シルト微量含む。		SK24+31より古く、SK42より新しい。
					2 2.5Y4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量含む。		
SK39	18-23	長方形	151 × 59	19	1 10YR4/1 黒灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(10～30mm程度)・少量、灰化物微量含む。		SD4より古く、SR265・266より新しい。
					2 10YR5/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(10～30mm程度)・少量、灰化物微量含む。		
SK40	23	不整形	95 × 77	9	1 2.5Y4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		SK63より新しい。
					1 10YR4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状・灰褐色シルトブロック(ともに5mm程度) 多量、灰化物微量含む。		
SK41	19	楕円形	[89] × 99	17	1 10YR5/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量、灰化物微量含む。		SK3+付属穴六列2, SK22より古く、PR169より新しい。
					2 10YR5/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量、灰化物微量含む。		
SK42	38	方形?	[39] × [18]	9	1 2.5Y4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5mm程度) 多量、灰(5mm程度) 少量含む。		SD6より新しい。
					2 2.5Y5/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量、灰(5mm程度) 少量含む。		
SK43	24	不明	180 × [95]	7	1 10YR4/1 黒灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		SK37, PR121より古く、SR66より新しい。
					1 10YR4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		
SK44	23	長方形	99 × 69	19	1 10YR4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		PR220より古く。
					2 10YR4/3 黑褐色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		
SK45	16	楕円形	56 × 45	32	1 10YR4/1 黑灰色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		PR220より古く。
					2 10YR4/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰(5～10mm程度)・灰化物微量含む。		
SK46	17	長楕円形	81 × 47	38	1 10YR5/3 に赤い黒褐色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量、灰化物微量含む。		SK47, PR121より古く。
					2 10YR4/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量、灰化物微量含む。		
SK47	17	長楕円形	81 × 47	38	3 10YR5/3 に赤い黒褐色	シルト	赤褐色シルト状(5～10mm程度)・灰褐色シルトブロック(5mm程度) 少量、灰化物微量含む。		SK47, PR121より古く。



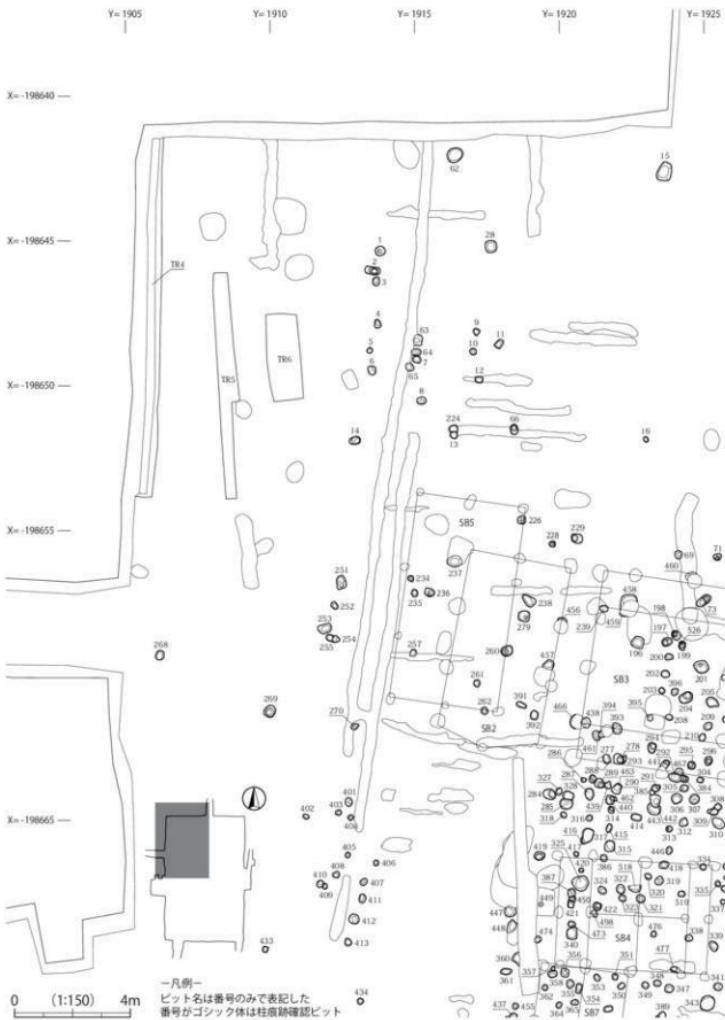
土坑(平安時代～中世) 細部表(4)

遺構名	区別	平面形	幅積(cm)		層位	土色	土性	備考	重 量
			長軸×短軸	深さ					
SK51	27	長楕円形	218×86	20	1	10VR3/1 黒褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)、埴土・微量含む。	
					2	10VR2/3 黒褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5mm程度)少量含む。	
					3	10VR2/1 黒褐色	シルト	瓦礫土・灰色シルトブロック(5～30mm程度)微量含む。	
					4	10VR3/2 黒褐色	シルト	瓦礫土・灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK56・59・61より新しい。
					5	10VR3/1 黒褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5mm程度)少量含む。	
					6	10VR1/1 黒褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5mm程度)多量、埴土・ブロック(10mm程度)微量含む。	
SK52	27	方形	97×[63]	11	1	10VR3/3 黒褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5～10mm程度)多量、灰化物微量含む。	SK57・P449より新しい。
					2	10VR3/2 黒褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK53	27	楕円形	75×[38]	10	1	10VR4/1 黒灰土	シルト	瓦礫土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	P448より新しい。
					2	10VR3/2 黑褐色	シルト	瓦礫土・ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
SK54	23	圓三方形	69×50	9	1	10VR4/1 黒褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK55・P489より新しい。
SK55	23	圓丸三方形	91×77	8	1	10VR4/1 黒灰土	シルト	瓦礫土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK54より古く、P420より新しい。
SK56	27	楕円形	[143]×[93]	17	※注記なし。				SK51より古く、SK52・P447より新しい。
SK57	27+28	楕円形	[107]×80	5	1	10VR4/1 黒褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、埴土・灰化物微量含む。	SK52より古い。
SK58	17+22	円形	70×66	11	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	瓦礫土・ブロック(5～10mm程度)少量含む。	SK52より古く、P457より新しい。
SK59	27	不明	[55]×[20]	15	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	SK51・56より古い。
					1	2.5SY/3 黑褐色	シルト	瓦礫土・ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK60	33	長楕円形	82×56	15	2	2.5Y4/1 黑褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	P4367より古い。
					3	2.5Y4/2 相似黄色	シルト	瓦礫土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
					4	10VR3/2 黑褐色	シルト	瓦礫土・ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK61	27	不明	[58]×1	15	※注記なし。				SK51より古い。
SK62	32	楕円形	69×62	16	1	7.5YR3/2 黑褐色	砂質シルト	木質ブロック(5mm程度)少量、灰色シルト・粘土・灰化物微量含む。	
					2	10VR3/3 黑褐色	砂質シルト	瓦礫土・ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK52より古く、P457より新しい。
					3	2.5Y4/2 相似黄色	砂質シルト	瓦礫土・ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK63	23+24	長方形	83×49	23	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5～10mm程度)少量、瓦質土ブロック(5～10mm程度)少量、灰化物微量含む。	SK40より古い。
SK64	18	長楕円形	129×82	19	1	10VR5/1 黑褐色	シルト	瓦質土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
					2	10VR4/3 にじく 黑褐色	シルト	瓦質土ブロック(5～20mm程度)少量、暗褐色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK3・P4196より古い。
					3	10VR3/1 黑褐色	シルト	瓦質土ブロック(5～10mm程度)少量、灰化物微量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
					4	10VR5/3 にじく 黑褐色	シルト	瓦質土ブロック(5～30mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
SK65	18	長楕円形	97×[62]	23	1	10VR4/1 黑灰土	シルト	瓦質土ブロック(5～20mm程度)少量、灰化物シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK30より古く、SK31・P4509より新しい。
					2	10VR5/1 黑褐色	シルト	瓦質土ブロック(5～10mm程度)少量、灰化物微量含む。	
SK66	19	楕円形	69×[57]	9	1	10VR4/1 黑灰土	シルト	瓦質土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK31・P4509より新しい。
					2	10VR4/1 黑褐色	シルト	瓦質土ブロック(5mm程度)少量含む。	
					3	10VR4/2 黑褐色	シルト	瓦質土ブロック(5～10mm程度)多量、灰化物微量含む。	SK31より古い。
SK67	19	楕円形	[55]×[52]	13	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	瓦質土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK31・P4509より新しい。
					2	10VR4/1 黑灰土	シルト	瓦質土ブロック(5～10mm程度)少量、灰化物微量含む。	
SK68	13	楕円形	[55]×[52]	13	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	瓦質土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SK31・P4509より新しい。
					2	10VR4/1 黑灰土	シルト	瓦質土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	SK1028より古い。

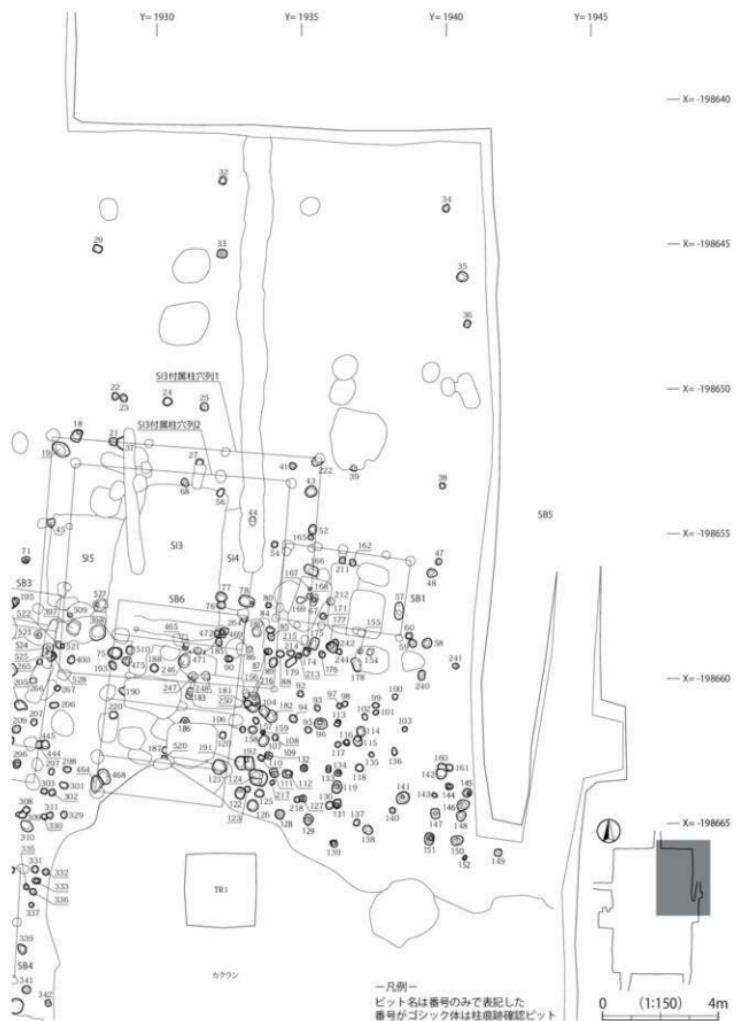


回数	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法線(cm)	幅	厚さ
1	Ed.001	PW175	堆積土	石製品	砾石	(4.3)	(5.6)	1.2
重量(g)	石材						写真回数	
34.6	砾石	砾面	1 (13)					

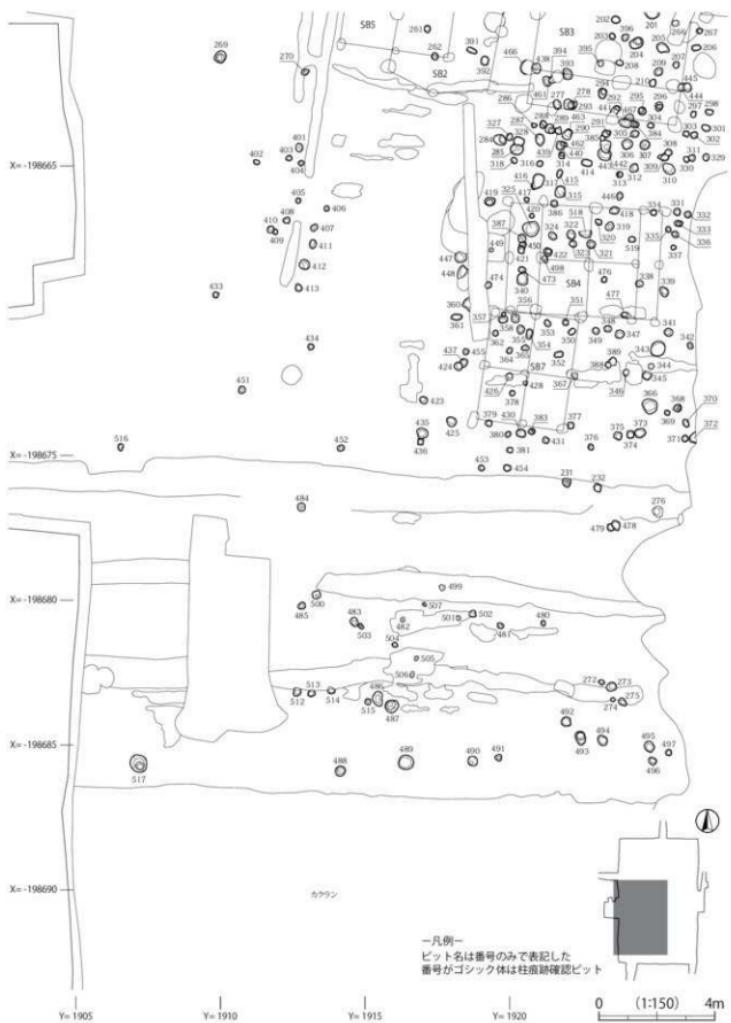
第39図 Pit175出土遺物



第40図 ピット配置図(1)



第41図 ピット配置図(2)



第42図 ピット配置図(3)



ピット 調整表(1)

道標名	区分	平面形	幅幅×高幅	深さ	解位	土色	土性	参考		直視
								高幅×短幅	低幅	
Pit1	07	円形	36×33	28	1	10VR4/1 黒褐色	砂質シルト	砂質物質混含有。柱状構造。		
Pit2	07	長円形	33×26	68	1	10VR4/3 にじく淡褐色	砂質シルト	砂質土解位に多量含む。		
Pit3	07	楕円形	31×24	19	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土解位に、量、炭化物微量含む。		
Pit4	07	楕円形	29×23	19	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(10mm程度)少量含む。炭色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit5	07	楕円形	20×20	19	1	10VR4/2 淡褐色	シルト	砂質土少量、灰白色シルト微量含む。		
Pit6	07	方形	31×27	1	1	10VR4/1 黑褐色	粘土シルト	粘土シルト・黑色シルト微量含む。		
Pit7	07	楕円形	29×23	24	1	10VR3/2 黑褐色	粘土シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルト微量含む。		
Pit8	07	楕円形	32×25	36	1	10VR4/1 黑褐色	粘土シルト	粘土シルト・砂質土ブロック(5~20mm程度)・灰白色シルト微量含む。		
Pit9	07	楕円形	25×23	8	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit10	07	円形	23×22	21	1	10VR4/1 黑褐色	粘土シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit11	07	長方形	33×23	2	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit12	07	楕円形	27×22	21	1	10VR3/2 黑褐色	粘土シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit13	12	楕円形	(31)×29	12	1	10VR4/2 淡褐色	シルト	砂質土ブロック(5~20mm程度)多量含む。	SM2より新しい。	
Pit14	12	長円形	30×26	49	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)・砂質土・柱状。	SM2, P224より詳しい。	
Pit15	03	楕円形	66×47	29	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質シルトブロック(5~20mm程度)少量、柱状・シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit16	13	長方形	19×15	6	1	2.5Y4/1 黑褐色	シルト	砂質土微量含む。人手判別グレード。		
Pit17	—	—	—	—	—	—	—	少々欠損(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit18	13	方形	44×34	25	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit19	13	長円形	65×46	17	1	2.5Y4/1 黑褐色	砂質シルト	砂質土少量化(5mm程度)・微量含む。周囲にグライナ。		
Pit20	—	—	—	—	—	—	—	少々欠損(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit21	13	楕円形	29×28	39	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~20mm程度)多量、黒色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit22	13	円形	27×25	16	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土少量化。柱状上ブロック(5~20mm程度)微量含む。		
Pit23	13	円形	28×24	17	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)少量含む。		
Pit24	14	円形	32×31	16	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit25	14	円形	28×27	44	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)多量、固化物化微量含む。		
Pit26	—	—	—	—	—	—	—	少々欠損(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit27	14	楕円形	(23)×25	13	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量、植土・固化物微量含む。		
Pit28	07	方形	42×39	16	1	10VR4/2 淡褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量、固化物微量含む。		
Pit29	08	方形	31×25	27	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~20mm程度)多量、固化物微量含む。		
Pit30	—	—	—	—	—	—	—	少々欠損(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit31	—	—	—	—	—	—	—	少々欠損(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit32	04	楕円形	27×24	27	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量、固化物微量含む。		
Pit33	09	楕円形	34×29	33	2	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。柱状。		
Pit34	04-05	楕円形	28×24	22	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)少量含む。		
Pit35	10	円形	30×35	23	1	10VR3/3 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量含む。		
Pit36	10	方形	26×21	27	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、植土・固化物微量含む。		
Pit37	13	楕円形	48×(26)	11	1	10VR4/2 淡褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit38	4	円形	21×20	3	1	10VR4/2 黑褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5mm程度)少量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit39	14	楕円形	(23)×(20)	14	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土・灰(5mm程度)少量、地・柱状微量含む。		
Pit40	—	—	—	—	—	—	—	少々欠损(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit41	14	楕円形	23×22	16	1	10VR4/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit42	—	—	—	—	—	—	—	少々欠损(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit43	14	方形	40×37	14	1	10VR6/1 黑褐色	砂質シルト	砂質シルト・柱状微量含む。全体にグライナ。		
Pit44	14	楕円形	(33)×(24)	(14)	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit45	13	楕円形	28×26	36	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量、植土・固化物微量含む。	S3付材料穴六孔。S3より新しい。	
Pit46	—	—	—	—	—	—	—	少々欠损(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit47	19	楕円形	22×20	23	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量、植土・固化物(5mm程度)微量含む。		
Pit48	19	楕円形	34×29	12	1	10VR4/3 にじく淡褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、植土・固化物(5~10mm程度)微量含む。		
Pit49	—	—	—	—	—	—	—	少々欠损(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit50	—	—	—	—	—	—	—	少々欠损(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit51	—	—	—	—	—	—	—	少々欠损(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit52	14-19	楕円形	34×27	33	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量、全体にグライナ。		
Pit53	—	—	—	—	—	—	—	少々欠损(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit54	19	円形	24×22	23	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック・灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit55	—	—	—	—	—	—	—	少々欠损(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit56	14	楕円形	31×21	24	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、固化物微量含む。	S3より新しい。	
Pit57	19	楕円形	60×30	40	1	10VR4/3 にじく淡褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量、固化物ブロック(5~10mm程度)・植土。		
Pit58	19	楕円形	35×32	17	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、固化物微量含む。		
Pit59	19	楕円形	29×25	32	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)多量、植土・灌(5mm程度)微量含む。		
Pit60	19	円形	24×23	11	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)多量、灌(10~20mm程度)微量含む。		
Pit61	—	—	—	—	—	—	—	少々欠损(S3付材料穴六孔の付穴へ変更)		
Pit62	02	楕円形	36×48	12	1	10VR4/1 黑褐色	砂質シルト	砂質土ブロック(5mm程度)多量、固化物微量含む。		
Pit63	07	長円形	35×30	9	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	S4より古い。	
Pit64	07	長円形	35×22	23	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	S4より古い。	
Pit65	07	円形	32×30	18	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)少量含む。	S4より古い。	
Pit66	12	楕円形	35×26	9	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	砂質土ブロック(5~10mm程度)多量、固化物微量含む。	S4より新しい。	



ピット調査表(2)

過橋名	区別	平面形	幅締(cm)	幅位	土色	土性	備考		直観
							左側×右側	深さ	
Pt07	19	長橋内形	(42) × (29) (29)	I	10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~30mm程度)多量、纏(5mm程度)・灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		SK2より新しい。
Pt08	14	方形	29 × 23	26	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物類微量含む。		SK3より新しい。
Pt09	18	柳内形	28 × 25	30	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~15mm程度)・纏(5mm程度)微量含む。		SDSより新しい。
Pt10	—	—	—	—	—	—	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。		—
Pt11	18	柳内形	28 × 23	35	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~15mm程度)・纏(5mm程度)微量含む。		SDSより新しい。
Pt12	—	—	—	—	—	—	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。		—
Pt13	18	柳内形	33 × 27	32	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		Pt105より新しい。
Pt14	—	—	—	—	—	—	※大差(SDS付近)例の柱穴へ変更)		—
Pt15	18	柳内形	50 × 40	45	I 10YR4/2 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt16	19	柳内形	30 × 25	29	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~15mm程度)少量、纏(5mm程度)微量含む。		SK3、Pt17より新しい。
Pt17	19	柳内形	38 × 32	17	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。		SDSより古い。
Pt18	19	柳内形	54 × 39	22	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)・灰色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。		SD4より古い。
Pt19	—	—	—	—	—	—	※大差(SDS付近)例の柱穴へ変更)		—
Pt20	19	円形	20 × 19	16	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5mm程度)微量含む。		—
Pt21	—	—	—	—	—	—	※大差(SDS付近)例の柱穴へ変更)		—
Pt22	—	—	—	—	—	—	※大差(SB1付近)例の柱穴へ変更)		—
Pt23	—	—	—	—	—	—	※大差(SB1付近)例の柱穴へ変更)		—
Pt24	19	柳内形	29 × 22	12	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、纏(10mm程度)・炭化物類微量含む。		SD7より古く、SK3より新しい。
Pt25	19	柳内形	28 × 21	40	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、纏(10mm程度)・炭化物類微量含む。		SD7より古く、SK3より新しい。
Pt26	19	柳内形	23 × 19	28	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		SD6より新しい。
Pt27	19	柳内形	27 × 23	37	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。		—
Pt28	19	円形	28 × 25	39	I 10YR4/2 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、炭化物類微量含む。		—
Pt29	19	柳内形	34 × 29	39	I 10YR4/3 に赤 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、炭化物類微量含む。		—
Pt30	19	柳内形	28 × (24)	45	I 10YR4/2 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。		—
Pt31	—	—	—	—	—	—	※大差(SD2付近)例の柱穴へ変更)		—
Pt32	24	方形	21 × 20	15	I 10YR5/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物類微量含む。		—
Pt33	24	方形	21 × 20	15	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、纏(10mm程度)微量含む。		—
Pt34	24	柳内形	30 × 27	23	I 7.5YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、炭化物類微量含む。		—
Pt35	24	柳内形	23 × 22	12	I 10YR4/3 に赤 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt36	24	柳内形	45 × 37	41	I 10YR4/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt37	24	円形	19 × 18	25	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物類微量含む。		—
Pt38	24	円形	21 × 19	2	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、炭化物類微量含む。		—
Pt39	24	柳内形	25 × 19	16	I 2.5Y5/3 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt40	24	円形	20 × 19	26	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt41	24	柳内形	21 × 17	6	I 10YR4/2 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt42	24	柳内形	23 × 18	5	I 10YR4/3 に赤 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt43	24	円形	18 × 17	7	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt44	24	方形	37 × 33	26	I 10YR5/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物類少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。		Pt102より新しい。
Pt45	24	—	—	—	—	—	※大差(SB1付近)例の柱穴へ変更)		—
Pt46	24	円形	21 × 19	28	I 10YR5/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、炭化物類微量含む。		—
Pt47	24	長方形	42 × 30	17	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt48	24	円形	22 × 21	18	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物類微量含む。		—
Pt49	24	方形	27 × 24	19	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、炭化物類微量含む。		—
Pt50	24	方形	24 × 21	19	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量含む。		—
Pt51	24	方形	32 × 26	22	I 10YR5/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt52	24	方形	34 × 28	35	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物類少量含む。		—
Pt53	24	方形	24 × 20	10	I 10YR2/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、纏(5mm程度)微量含む。		—
Pt54	24	方形	34 × 29	17	I 10YR4/3 に赤 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物類微量含む。		—
Pt55	24	方形	36 × 31	12	I 10YR5/1 黄褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		—
Pt56	24	方形	23 × 22	44	I 10YR5/2 黑褐色	シルト	赤褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物類微量含む。		—



ピット 調査表(3)

道査名	区別	平面形	幅幅×矩幅	深さ	解位	土色	土性	参考	直視
Pt117	24	方形	21×20	22	1	10VR3/2 黒褐色	シルト	B解土プロック・灰色シルトプロック(ともに5mm程度)少量、 炭化物を微量含む。	
Pt118	24	方形	28×26	37	1	10VR3/2 黒褐色	シルト	B解土プロック(5mm～10mm程度)少量、灰色シルトプロック(5mm程度)少量、解土(10～30mm程度)炭化物プロック(5mm程度)少量、解土(10～30mm程度)炭化物プロック(5mm程度)少量。	
Pt119	24	長円形	43×34	38	1	10VR4/1 黒灰色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトプロック(5～10mm程度)少量、炭化物プロック(5～10mm程度)微量含む。	
Pt120	24	方形	24×23	13	1	10VR3/2 黒褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、解土(炭化物プロック(5～10mm程度)少量)微量含む。	
Pt121	24	方形	49×47	32	1	10VR3/1 黒灰色	シルト	B解土プロック(5～20mm程度)多量、解土(炭化物プロック(5～10mm程度)少量)微量含む。	SB6, SK4より新しい。
Pt122	24	梢円形	40×34	30	1	10VR3/2 黒褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。※付註 B解土プロック(5～10mm程度)多量含む。	
Pt123	24	方形	20×19	15	1	10VR3/1 黒褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、炭化物微量含む。	
Pt124	24	方形	63×53	30	1	10VR3/2 黒褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、解土(炭化物プロック(5～10mm程度)少量)微量含む。	
Pt125	24	梢円形	31×27	13	1	10VR3/1 黒褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、炭化物微量含む。	
Pt126	24	円形	39×38	14	1	10VR3/1 黒褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、解土(5～10mm程度)微量含む。	
Pt127	24	円形	25×25	24	1	10VR4/1 黒灰色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)微量含む。	PR218より新しい。
Pt128	24	円形	34×33	18	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量、炭化物微量含む。	
Pt129	24-29	方形	34×33	22	1	10VR4/3 にじく黄褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、炭化物シルトプロック(5mm程度)少量、解土(炭化物微量含む)。	
Pt130	24	方形	27×26	38	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。	
Pt131	24	方形	31×26	19	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	※ 10VR3/3 にじく黄褐色	
Pt132	24	方形	26×25	40	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量、炭化物微量含む。	
Pt133	24	長方形	25×18	31	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、解土(1付註)炭化物微量含む。	
Pt134	24	方形	25×22	21	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	※ 10VR3/3 にじく黄褐色	
Pt135	24	方形	18×16	13	1	10VR3/3 にじく黄褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。	
Pt136	24	長梢円形	28×18	26	1	10VR5/1 黑褐色	シルト	B解土プロック・灰色シルトプロック(ともに5～10mm程度)少量含む。	
Pt137	24-29	方形	24×20	21	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量、炭化物微量含む。	
Pt138	24	梢円形	35×30	21	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、炭化物微量含む。	
Pt139	24	方形	25×24	35	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。	
Pt140	24	方形	20×20	18	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量、炭化物微量含む。	
Pt141	24	梢円形	48×41	41	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)少量、解土(5mm程度)・炭化物微量含む。	
Pt142	24	方形	35×34	9	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)多量、炭化シルトプロック(5mm程度)少量含む。	PR160より新しい。
Pt143	24	長方形	19×15	9	1	10VR4/2 黄褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量含む。	
Pt144	25	梢円形	25×21	14	2	10VR3/3 にじく黄褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量、炭化シルトプロック(5mm程度)少量含む。	
Pt145	25	梢円形	32×29	31	1	10VR3/3 にじく黄褐色	シルト	B解土シルト(5mm程度)少量、炭化物微量含む。	
Pt146	25	梢円形	47×36	20	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)多量、炭化シルトプロック(5mm程度)少量含む。	
Pt147	24	方形	35×30	20	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)多量、炭化シルトプロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。	
Pt148	25	梢円形	33×33	32	1	10VR4/3 にじく黄褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量、炭化シルトプロック(5mm程度)少量含む。	
Pt149	30	方形	26×25	27	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量、炭化シルトプロック(5mm程度)少量含む。	
Pt150	30	長方形	41×31	46	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)少量、炭化シルトプロック(5mm程度)少量含む。	
Pt151	29	長方形	42×31	24	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	※ 10VR3/3 にじく黄褐色	
Pt152	30	梢円形	17×15	9	1	10VR4/1 黑褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量、炭化シルトプロック(5mm程度)少量含む。	
Pt153	-	-	-	-	-	-	-	※欠番(S3)の行へ変更。	
Pt154	19	梢円形	(30)×(22)	(19)	1	10VR3/3 姫褐色	シルト	※ 5mm程度)少量、IV解土プロック(5～10mm程度)・炭化物微量含む。	SK25より古い。
Pt155	19	梢円形	(19)×(15)	(15)	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(灰色シルトプロック(ともに5mm程度)・解土(5mm程度)微量含む。	SK25より古い。
Pt156	24	方形	29×24	29	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	B解土プロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトプロック(5mm程度)少量含む。	SK24より古い。
Pt157	24	長方形	24×19	23	1	10VR3/1 黑褐色	シルト	B解土プロック(5mm程度)少量、灰色シルトプロック(5mm程度)微量含む。	PR216より新しい。



ピット調査表(4)

調査名	区別	平面形	面積(cm)	層位	土色	土性	備考		面積
							長軸×短軸	深さ	
Pt158	24	円形	29 × 28	17	I 10YR5/1 閑灰色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度) 少量、N粘土ブロック(5mm程度) 褐混合含む。		
Pt159	24	方形	16 × 16	17	I 10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度) 少量、N粘土ブロック(5mm程度) 褐混合含む。		
Pt160	24-25	楕円形	(33) × (23)	10	I 2.5Y4/1 黄灰色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック(5mm程度) 褐混合含む。	Pt142-161より古い。	
Pt161	24-25	楕円形	27 × 22	18	I 2.5Y3/3 オリーブ褐色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック(5mm程度) 褐混合含む。	Pt160より新しい。	
Pt162	19	楕円形	24 × 21	23	I 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	N粘土ブロック(5～20mm程度) 多量、灰色シルトブロック(5mm程度) 褐混合含む。	Pt142-161より古い。	
Pt163	-	-	-	-	-	-	※大谷(SB)の穴(△)へ変更。		
Pt164	-	-	-	-	-	-	※大谷(SB)の穴(△)へ変更。		
Pt165	19	楕円形	20 × 18	25	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	N粘土ブロック(5～30mm程度) 多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度) 褐混合含む。	Pt142-161より古い。	
Pt166	19	長楕円形	(52) × 31	47	I 10YR4/1 閑灰色	シルト	N粘土ブロック(5～30mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、灰白色物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt167	19	長楕円形	(16) × (10)	19	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 多量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt168	19	方形	(19) × (22)	28	I 10YR3/1 黒褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 少量、灰白色物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt169	19	楕円形	(35) × (26)	13	I 10YR4/1 閑灰色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック(5mm程度) 褐混合含む。	Pt142-161より古い。	
Pt170	-	-	-	-	-	-	※大谷(SB)の穴(△)へ変更。		
Pt171	19	円形	23 × 22	35	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色シルトブロック(5～30mm程度) 多量、N粘土ブロック(5mm程度) 少量、化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt172	-	-	-	-	-	-	※大谷(SB)の穴(△)へ変更。		
Pt173	-	-	-	-	-	-	※大谷(SB)の穴(△)へ変更。		
Pt174	19	長方形	25 × 21	25	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 褐混合含む。	Pt142-161より古い。	
Pt175	19	長方形	42 × 29	38	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt176	19	楕円形	26 × 22	18	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 多量、N粘土ブロック(5mm程度) 少量、化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt177	19	楕円形	40 × 35	62	1 10YR5/1 閑灰色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt178	19	長方形	47 × (36)	41	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt179	19	長方形	42 × 23	10	I 10YR4/1 閑灰色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt180	19	長方形	37 × 30	21	I 2.5Y4/1 黄灰色	シルト	N粘土ブロック(5～30mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5～40mm程度) 少量、化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt181	24	円形	26 × 23	17	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt182	24	楕円形	(43) × 41	36	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	N粘土ブロック(5～20mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt183	24	方形	37 × (24)	42	1 10YR3/1 閑灰色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt184	-	-	-	-	3 10YR4/1 閑灰色	シルト	N粘土ブロック(5～20mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt185	19	楕円形	29 × 21	36	I 10YR4/1 閑灰色	シルト	N粘土ブロック(5～20mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt186	24	長楕円形	(19) × (33)	43	1 10YR4/1 閑灰色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt187	24	円形	23 × (16)	27	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色シルトブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt188	18・19	円形	29 × 28	11	I 2.5Y4/1 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt189	-	-	-	-	-	-	※大谷(SB)の穴(△)へ変更。		
Pt190	23	不明	(19) × (32)	27	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、灰白色物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt191	24	楕円形	48 × 37	16	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt192	24	方形	47 × (32)	21	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt193	18	長楕円形	32 × 24	21	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt194	-	-	-	-	-	-	※大谷(SB)の穴(△)へ変更。		
Pt195	18	長楕円形	(38) × 29	22	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5～10mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt196	18	方形	42 × (39)	41	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt197	18	長楕円形	36 × 28	25	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	
Pt198	18	長楕円形	34 × 29	20	2 10YR3/2 黑褐色	シルト	N粘土ブロック(5～20mm程度) 多量、灰白色シルトブロック(5mm程度) 少量、他土粒・化物質混含有。	Pt142-161より古い。	



ピット 調査表 (S)

道標名	区別	平面形	幅締 (cm)	解説	土色	土性	参考	直視
			長軸×短軸	深さ				
Pt199	18	楕円形	25×23	16	I 10VR3/2 黒褐色	シルト	IV 細土プロック (～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	Pt526より新しい。
Pt200	18	楕円形	28×22	15	I 10VR3/3 にごく 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化物鉱物混在。	
Pt201	18	方形	45×44	29	I 10VR3/1 黒褐色	シルト	IV 細土プロック (5～30mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
					Z 10VR3/1 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5～30mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
					3 10VR4/1 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
					4 10VR3/2 黒褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
					5 10VR3/3 にごく 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
Pt202	18-23	楕円形	29×23	21	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック・灰色シルトブロック (ともに5～10mm程度) 多量、炭化物鉱物混在。	
Pt203	23	楕円形	22×19	21	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック・灰色シルトブロック (ともに5～10mm程度) 多量、炭化物鉱物混在。	
Pt204	23	長方形	50×34	24	I 2SY3/2 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
Pt205	23	楕円形	47×34	6	I 2SY3/2 黑褐色	シルト	灰色シルトブロック (5～10mm程度) 多量、IV 細土プロック (5mm程度) 多量。	
Pt206	23	長方形	33×20	11	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5mm程度) 少量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
Pt207	23	楕円形	23×22	16	I 10VR3/2 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、性土質・炭化物鉱物混在。	
Pt208	23	楕円形	(26)×19	17	I 10VR3/1 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化物鉱物混在。	SK53より古い。
Pt209	23	楕円形	32×26	30	I 10VR3/1 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5～20mm程度) 多量、炭化物鉱物混在。	
Pt210	23	楕円形	28×21	6	I 10VR3/1 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化物鉱物混在。	
Pt211	19	方形	(24)×20	24	I 10VR1/1 黄褐色	シルト	IV 細土プロック・灰色シルトブロック (ともに5～10mm程度) 多量、薄い (5mm程度) 少量。	Sb1より古い。
Pt212	19	円形	(27)×(26)	48	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、IV 細土・薄い (5mm程度) 少量、薄い (5mm程度) 少量。	SK22-34より古い。
Pt213	19	円形	20×19	18	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、薄い (5mm程度) 少量。	
Pt214	19	楕円形	26×20	26	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、薄い (5mm程度) 少量。	
Pt215	19	不明	23×(17)	23	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック・白色シルトブロック (ともに5～10mm程度) 多量、炭化物鉱物混在。	Pt174より古い。
Pt216	24	楕円形	52×44	34	I 10VR1/1 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5mm程度) 少量、性土質・炭化物鉱物混在。半柱状。	Pt156-181より古い。
Pt217	24	楕円形	18×15	14	I 10VR3/3 にごく 黄褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、薄い (5mm程度) 少量。	Pt250より新しい。
Pt218	24	楕円形	24×20	23	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、薄い (5mm程度) 少量。	Pt127より古い。
Pt219	—	—	—	—	—	—	—	—
Pt220	23	方形	(27)×(26)	11	I 10VR3/1 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 少量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	Sd45より新しい。
Pt221	—	—	—	—	—	—	久希 (Sb5) の柱穴へ変更。	
Pt222	14	楕円形	(36)×31	20	I 7YSR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 少量、薄い (5～10mm程度) 少量。	Sd1付柱穴六列1より古い。
Pt223	—	—	—	—	—	—	久希 (Sb5) の柱穴へ変更。	
Pt224	12	長方形	26×25	13	I 10VR3/2 黑褐色	粘土質シルト	IV 細土・粘土質シルト混在。	Pt13より古い、SM2より新しい。
Pt225	—	—	—	—	—	—	久希 (Sb5) の柱穴へ変更。	
Pt226	12	方形	29×28	39	I 10VR3/1 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～20mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。半柱状。	
Pt227	—	—	—	—	2 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
Pt228	17	楕円形	21×20	11	2 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、薄い (5mm程度) 少量。	
Pt229	18	楕円形	38×32	22	1 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化物鉱物混在。	
Pt230	—	—	—	—	—	—	久希 (Sb5) の柱穴へ変更。	
Pt231	38	円形	31×30	14	1 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土・粘土・半柱状・半柱斜柱・炭化物鉱物混在。半柱斜柱。	Sd6より新しい。
Pt232	38	楕円形	31×27	13	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土・粘土・炭化シルトブロック (ともに5mm程度)・無機物質混在。	Sd6より新しい。
Pt233	—	—	—	—	—	—	久希 (Sb5) の柱穴へ変更。	
Pt234	17	楕円形	23×20	15	I 10VR3/1 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
Pt235	17	楕円形	27×20	11	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 少量、炭化シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
Pt236	17	楕円形	34×28	17	I 10VR3/1 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	
Pt237	17	長方形	(53)×(39)	26	I 10VR3/1 黑褐色	シルト	IV 細土・粘土・炭化シルトブロック (ともに5mm程度)・無機物質混在。	Sb2より古い。
Pt238	17	長方形	31×34	12	I 10VR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 多量、炭化物鉱物混在。	
Pt239	18	楕円形	(28)×(21)	15	I 10VR3/1 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5～10mm程度) 少量、炭化物鉱物混在。	Pt33より新しい。
Pt240	19-24	楕円形	38×24	28	I 7YSR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5mm程度)・無機物質混在。	
Pt241	20	楕円形	23×19	44	I 7YSR3/2 黑褐色	シルト	IV 細土プロック (5mm程度)・無機物質混在。	



ピット網類表(6)

過橋名	区別	平面形	幅締(cm)	幅位	土色	土性	備考		面積	
							シルト	シルト		
Pw242	19	柳門形	(17) × 26	36	1	I 10YR3/2 黒褐色	西壁+プロック+砂色+シルトプロック(ともに5~30mm程度)多量、炭化物鉱物微細含む。	Pt177より古い。		
Pw243	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw244	19	方形	19 × 19	15	1	I 10YR4/1 灰褐色	西壁+プロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトプロック(5mm程度)少量。			
Pw245	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw246	19	柳門形	(47) × (40)	48	1	I 2.5Y4/1 黄褐色	西壁+プロック+灰褐色シルトプロック(ともに5~10mm程度)多量、黒褐色シルトプロック(5~10mm程度)少量、土色+シルト鉱物微細含む。	SK33より古い。		
Pw247	19~24	柳門形	(37) × (30)	35	1	I 10YR4/1 灰褐色	IV 壁+シルト(5~30mm程度)多量、灰褐色シルトプロック(5mm程度)少量。	SK21~33より古い。		
Pw248	19~24	柳門形	(33) × (26)	(18)	1	I 2.5Y4/1 黄褐色	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、土色+シルト鉱物微細含む。	SK21~33より古い。		
Pw249	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw250	24	柳門形	51 × (34)	25	1	I 2.5Y5/1 黄褐色	シルト	西壁+シルト(5~20mm程度)少量、灰褐色シルトプロック(5mm程度)少量、土色+シルト鉱物微細含む。	Pt181~216より古い。	
Pw251	17	柳門形	45 × 34	20	1	I 2.5Y4/1 黄褐色	シルト	西壁+シルト(5~20mm程度)少量、灰褐色シルトプロック(5mm程度)少量、土色+シルト鉱物微細含む。		
Pw252	17	柳門形	28 × 19	9	1	I 7.5YR4/1 灰褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトプロック(5mm程度)少量、土色+シルト鉱物微細含む。		
Pw253	17	島門形	48 × 30	24	1	I 2.5Y4/1 黄褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトプロック(5mm程度)少量、土色+シルト鉱物微細含む。		
Pw254	17	柳門形	22 × 22	44	1	I 7.5YR4/1 灰褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトプロック(5mm程度)少量、土色+シルト鉱物微細含む。	Pt255より新しい。	
Pw255	17	柳門形	(35) × 23	19	1	I 2.5Y4/1 黄褐色	シルト	灰褐色シルトプロック(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	SK254より古い。	
Pw256	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw257	17	柳門形	(26) × 22	16	1	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~20mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。		
Pw258	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw259	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw260	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw261	22	方型	26 × 22	20	1	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトプロック(5mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。		
Pw262	22	柳門形	26 × 24	17	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	IV 壁+シルト(5~40mm程度)多量、土色ブロック(5mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。		
Pw263	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw264	19	不明	(15) × (26)	21	1	I 2.5Y5/1 黄褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sb6より古い。	
Pw265	18	柳門形	(21) × (19)	23	1	I 10YR5/1 黑褐色	シルト	IV 壁+シルト(5mm程度)多量、灰色シルトプロック(5mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sd4, Sk39より古い。	
Pw266	18~23	柳門形	26 × 22	15	1	I 10YR4/1 黄褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、灰褐色シルトプロック(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sk39より古い。	
Pw267	23	円形	20 × 19	11	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sb3より新しい。	
Pw268	16	円形	33 × 29	17	1	I 2.5Y4/2 灰褐色	砂質+シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。		
Pw269	21~22	柳門形	43 × 37	26	1	I 2.5Y4/1 黄褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sd8より新しい。	
Pw270	22	柳門形	28 × 22	18	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sa1より新しい。	
Pw271	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw272	43	柳門形	29 × 16	21	1	I 7.5Y3/3 黑褐色	シルト	西壁+炭化物+少量、礫(5mm程度)・炭化物鉱物微細含む。		
Pw273	43	柳門形	35 × 30	22	1	I 7.5Y4/1 黑褐色	シルト	西壁+炭化物+少量、礫(5mm程度)・炭化物鉱物微細含む。	Sd8より新しい。	
Pw274	43	円形	14 × 14	7	1	I 7.5Y3/3 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sd8より新しい。	
Pw275	43	長楕円形	31 × 21	16	1	I 7.5Y4/1 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sd8より新しい。	
Pw276	38	円形	40 × 37	12	1	I 10YR2/2 灰褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sd6より古い。	
Pw277	23	柳門形	33 × 25	24	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Sb3より新しい。	
Pw278	23	方形	36 × 35	39	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物鉱物微細含む。	Pt293より新しい。	
Pw279	17	方型	39 × 37	7	2	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量含む、半柱面跡		
Pw280	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw281	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw282	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw283	—	—	—	—	—	—	—	—		
Pw284	22	長楕円形	46 × 36	39	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)多量、灰色シルトプロック(5~10mm程度)少量、土色+炭化物鉱物微細含む。		
Pw285	23	長楕円形	45 × 37	29	1	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物シルトプロック(5mm程度)少量、土色ブロック(5mm程度)微細含む。	Pt282より新しい。	
Pw286	23	柳門形	19 × 16	7	1	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物シルトプロック(5mm程度)少量含む。		
Pw287	23	長楕円形	42 × 30	11	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物シルトプロック(5~10mm程度)少量、土色+炭化物鉱物微細含む。		
Pw288	23	柳門形	28 × 24	38	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)多量、灰色シルトプロック(5~30mm程度)少量含む。		
Pw289	23	柳門形	26 × 23	47	1	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~30mm程度)多量、炭化物シルトプロック(5~10mm程度)少量、土色+炭化物鉱物微細含む。		
Pw290	23	不明	(19) × (32)	27	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、炭化物シルトプロック(5mm程度)少量、土色+炭化物鉱物(5mm程度)微細含む。		
Pw291	23	円形	27 × 26	28	1	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	西壁+シルト(5~10mm程度)少量、土色+炭化物鉱物(5~10mm程度)微細含む。		



ピット 調査表 (7)

追跡名	区分	平面形	幅幅×矩幅 （深さ）	解位	土色	土性	参考		直視
							幅幅（cm）	解位	
Pt292	23	長円形	43×28	22	I	10VR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ 脳土ブロック (5~10mm程度)・灰褐色シルトブロック (5mm 程度)・少量、礫 (5mm以下) 腹部含む。	Pt284+467より新しく。
Pt293	23	長円形	31×12	23	I	10VR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~20mm程度)・灰褐色シルトブロック (5~10mm)・少量、炭化物鉱物少量含む。	Pt278より古い。
Pt294	23	梢円形	35×28	29	I	10VR4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5~10mm)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt295	23	円形	27×27	27	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・灰褐色シルトブロック (5~30mm程度)・少量、粘土和・炭化物鉱物少量含む。	
Pt296	23	梢円形	34×26	29	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・灰褐色シルトブロック (5~30mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt297	23	梢円形	22×18	15	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・多量、IV 脑土ブロック (5mm 程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt298	23	梢円形	27×21	10	I	10VR4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5mm程度)・少量、灰褐色シルトブロック (5mm 程度)・微量含む。	
Pt299	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ 欠乏 (SBSの柱へへ変更)。	
Pt300	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ 欠乏 (SBSの柱へへ変更)。	
Pt301	23	長円形	31×22	23	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・多量、IV 脑土ブロック (5~20mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt302	23	円形	24×22	25	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・少量、Ⅳ 脑土ブロック (5~15mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt303	23	円形	22×20	29	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土・灰褐色シルトブロック (ともに5mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt304	23	梢円形	23×19	22	I	10VR4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm 程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt305	23	梢円形	30×24	25	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt306	23	円形	37×33	28	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~20mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量、Ⅳ 脑土・炭化物鉱物少量含む。	
Pt307	23	円形	34×33	34	1	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土シルトブロック (5mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm 程度)・少量含む、非粘土鉱物。	
					2	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm 程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
					3	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土シルトブロック (5~10mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	
Pt308	23	円形	25×24	3	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	Pt309より新しい。
Pt309	23	長円形	39×(29)	26	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5mm程度)・少量、灰褐色シルトブロック (5mm 程度)・微量含む。	Pt308より古い。
Pt310	23-28	梢円形	47×34	26	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~20mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm 程度)・少量含む。	
Pt311	23	円形	23×22	27	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土シルトブロック (5mm程度)・少量、Ⅳ 脑土ブロック (5mm 程度)・少量含む。	Pt330より新しい。
Pt312	23-28	円形	29×28	34	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~20mm程度)・多量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt313	28	円形	22×21	9	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土・灰褐色シルトブロック (ともに5~10mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt314	23	梢円形	25×21	26	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~20mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	
Pt315	28	方形	39×34	40	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土・灰褐色シルトブロック (ともに5~10mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt316	23-28	円形	21×21	27	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・少量、Ⅳ 脑土シルトブロック (5mm 程度)・少量含む。	
Pt317	28	梢円形	32×38	11	I	10VR4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ 脑土シルトブロック (5~10mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	Pt416より新しい。
Pt318	23	梢円形	22×19	10	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土・灰褐色シルトブロック (5~10mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt319	28	梢円形	32×26	33	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・少量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	
Pt320	28	梢円形	25×21	22	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	
Pt321	28	円形	30×28	19	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・少量、灰褐色シルトブロック (5mm 程度)・少量含む。	
Pt322	28	円形	32×29	33	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~20mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	
Pt323	28	円形	26×22	22	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・少量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む。	
Pt324	28	梢円形	31×23	25	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・少量、灰褐色シルトブロック (5~20mm程度)・炭化物鉱物少量含む。	
Pt325	28	円形	57×54	18	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5mm程度)・少量、灰褐色シルトブロック (5~30mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt326	—	—	—	—	—	—	—	Ⅳ 欠乏 (SBSの柱へへ変更)。	
Pt327	22-23	梢円形	27×22	43	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土・灰褐色シルトブロック (ともに5~10mm程度)・少量、炭化物鉱物少量含む。	
Pt328	23	梢円形	39×(34)	21	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~40mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5~10mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	Pt285より古い。
Pt329	23	円形	25×23	23	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土・灰褐色シルトブロック (5~40mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む。	Pt311より古い。
Pt330	23	円形	22×20	6	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・少量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	Pt311より古い。
Pt331	28	円形	25×24	15	I	10VR3/1 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・少量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	
Pt332	28	円形	24×23	21	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土ブロック (5~10mm程度)・多量、灰褐色シルトブロック (5mm程度)・少量含む、炭化物鉱物少量含む。	
Pt333	28	長円形	29×20	17	I	10VR3/2 黑褐色	シルト	Ⅳ 脑土・灰褐色シルトブロック (ともに5~10mm程度)・微量含む。	



ピット調査表(8)

調査名	区別	平面形	面積(cm)	樹位	土色	土性	備考		面積
							丘側×丘脚	深さ	
Pit334	28	円形	22×22	21	I 10YR3/1 黒褐色	シルト	赤褐色・プロトク・灰色・ルートブロック(ともにさ~10mm程度) 少量、灰土・粘化物質混含。		
Pit335	28	円形	21×19	16	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	N褐色・土色(5~10mm程度)多量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit336	28	楕円形	25×22	12	I 10YR3/2 黒褐色	シルト	赤褐色・土色・炭化物質・粘土物質混含。		
Pit337	28	円形	18×17	9	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	赤褐色・土色・炭化物質・粘土物質混含。		
Pit338	28	円形	26×23	20	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・土色・炭化物質混含。		
Pit339	28	楕円形	35×28	8	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	N褐色・土色(5mm程度)多量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) 少量含む。		
Pit340	28	方形	43×35	32	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	灰褐色・ルートブロック(5mm程度)少量、灰土・粘化物質混含。		
Pit341	33	円形	28×27	23	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	赤褐色・土色・炭化物質・粘土物質混含。		
Pit342	33	長方形	24×17	20	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・土色(5mm程度)多量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit343	33	楕円形	52×47	17	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	灰褐色・ルートブロック(5~10mm程度)少量、N褐色・土色(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit344	33	円形	(24)×(22)	17	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	赤褐色・土色(5~10mm程度)多量、灰褐色・ルートブロック(5mm程度) 少量含む。		
Pit345	33	円形	(31)×30	28	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・土色(5~10mm程度)多量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) 少量、礫(10mm程度)・炭化物質混含。		
Pit346	33	楕円形	(27)×(20)	28	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・土色(5~10mm程度)少量含む。		
Pit347	33	楕円形	31×28	30	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・土色(5~10mm程度)少量含む。		
Pit348	33	楕円形	26×21	33	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・土色(5~10mm程度)少量、N褐色・土色(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit349	33	円形	24×23	27	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・土色(5~10mm程度)少量、N褐色・土色(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit350	33	楕円形	26×21	14	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	灰褐色・ルートブロック(5mm程度)少量、N褐色・土色(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit351	33	円形	22×21	12	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	N褐色・土色(5mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit352	33	長楕円形	33×21	23	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	N褐色・土色(5~20mm程度)多量、灰褐色・シルトブロック(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit353	33	楕円形	26×20	18	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	N褐色・土色(5mm程度)少量、N褐色・土色(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit354	33	長楕円形	35×21	18	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	赤褐色・土色(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) 少量含む。		
Pit355	33	楕円形	30×27	25	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。		
Pit356	33	円形	29×28	29	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit357	32	円形	16×15	5	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、N褐色・土色(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit358	32	長楕円形	32×21	2	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit359	—	—	—	—	—	—	—	久谷(5BT)の穴(空洞)	
Pit360	17-32	不明	(49)×(30)	29	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit361	32	長楕円形	39×22	8	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~20mm程度)多量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度)少量含む。		
Pit362	32	円形	21×20	7	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit363	—	—	—	—	—	—	—	久谷(5BT)の穴(空洞)	
Pit364	32-33	楕円形	23×19	12	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5mm程度)少量、N褐色・土色(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit365	33	長楕円形	28×20	27	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit366	33	円形	53×49	11	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度)・炭化物質混含。		
Pit367	33	楕円形	(24)×(20)	21	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		SBR_3600より新しい。
Pit368	33	円形	30×25	27	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit369	33	円形	20×18	13	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit370	33	長楕円形	29×21	9	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	N褐色・土色(5~20mm程度)多量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・灰土・炭化物質混含。		
Pit371	33	円形	22×22	18	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit372	33	長楕円形	(27)×38	11	I 10YR4/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit373	33	楕円形	37×32	29	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit374	33	方形	26×25	23	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~20mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5~10mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit375	33	方形	28×27	20	I 10YR3/2 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit376	33	円形	23×19	25	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit377	33	方形	23×22	22	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit378	32-33	円形	19×8	9	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		
Pit379	32	円形	24×24	10	I 10YR3/1 黑褐色	シルト	赤褐色・シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰褐色・シルトブロック(5mm程度) ・炭化物質混含。		



ピット 調査表 (9)

道標名	区分	平面形	幅締 (cm)	解説	土色	土性	参考	直視
Pt380	32・33	楕円形	22×18	28	I	10VR3/1 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰色シルトブロック (とともに5mm程度) 少量含む。	Pt292より古く、Pt467より新しい。
Pt381	32・33	円形	21×19	13	I	10VR3/1 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt292より古く、Pt467より新しい。
Pt382	—	—	—	—	—	—	—	—
Pt383	33	円形	24×22	13	I	10VR3/2 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度)・礫 (10mm程度) 少量含む。	Pt292より古く、Pt467より新しい。
Pt384	23	長楕円形	(32)×23	30	I	10VR3/2 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (ともに5mm程度)・礫 (10mm程度) 少量含む。	Pt292より古く、Pt467より新しい。
Pt385	23	楕円形	19×16	21	I	10VR3/1 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt442より新しい。
Pt386	28	円形	24×23	19	I	10VR3/2 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5～10mm程度) 少量、N.層土ブロック (5～10mm程度)・礫 (5mm程度) 少量含む。	Pt450より新しい。
Pt387	28	円形	28×27	37	I	10VR3/2 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より新しい。
Pt388	33	楕円形	(22)×19	26	I	10VR3/2 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (ともに5～10mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt389	33	楕円形	(28)×(29)	15	I	10VR4/1 黒灰色	シルト D.層土層状 (5mm程度) 多量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt388より古い。
Pt390	—	—	—	—	—	—	—	—
Pt391	22	長楕円形	36×18	6	I	10VR4/1 黒灰色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (ともに5mm程度) 少量含む。	Pt389より新しい。
Pt392	22	楕円形	32×26	31	I	10VR3/1 黒褐色	シルト D.層土・礫状 (5mm程度) 多量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt393	23	楕円形	40×34	16	I	10VR4/1 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5～10mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt394	23	楕円形	(19)×24	26	I	10VR3/2 黒褐色	シルト D.層土ブロック (5～30mm程度) 多量、灰土シルトブロック (5～20mm程度) 少量含む。	SRSより古く、Pt464より新しい。
Pt395	23	円形	(24)×(21)	15	I	10VR4/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	SKS455より古い。
Pt396	23	円形	25×22	17	I	10VR4/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt397	18	楕円形	(51)×(46)	(20)	I	10VR4/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5～30mm程度) 多量、灰土シルトブロック (5～20mm程度) 少量含む。	SDSより古い。
Pt398	18	楕円形	(61)×(51)	20	I	10VR3/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	SDSより古い。
Pt399	—	—	—	—	—	—	—	—
Pt400	18	楕円形	31×24	14	I	10VR3/2 黒褐色	シルト D.層土付斜傾斜 (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt401	22	楕円形	30×24	40	III	赤茶色	シルト D.層土付斜傾斜 (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt402	22	長楕円形	22×16	10	I	10VR5/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰色シルトブロック (5mm程度)・灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt403	22	円形	21×19	19	I	10VR5/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt404	27	方形	19×17	23	I	10VR4/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、IV.層土ブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt405	27	楕円形	19×17	14	I	2.5YR4/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt406	27	楕円形	21×19	20	I	10VR3/3 喀褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt407	27	方形	27×21	39	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt408	27	方形	24×22	17	I	10VR4/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt409	27	楕円形	19×17	13	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt410	27	楕円形	26×24	31	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt411	27	楕円形	31×23	18	I	10VR4/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 多量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt412	27	円形	36×35	29	I	10VR4/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 多量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt413	27	楕円形	27×24	24	I	10VR4/2 黄黒褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt414	23・28	長楕円形	36×24	19	I	10VR4/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt415	28	長楕円形	32×18	14	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5～20mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度)・礫 (20mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt416	28	楕円形	(26)×(23)	41	I	10VR3/1 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt417	28	円形	19×17	11	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5～10mm程度) 多量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt418	28	楕円形	34×27	28	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt419	27	楕円形	37×30	20	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5～40mm程度) 少量、IV.層土ブロック (5mm程度)・灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt420	28	円形	16×15	17	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt421	28	方形	26×22	23	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 多量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。
Pt422	28	円形	30×28	36	I	10VR2/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 多量含む。	Pt469より新しい。
Pt423	32	円形	27×24	14	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 多量含む。	Pt469より新しい。
Pt424	32	円形	28×27	15	I	7.5YR3/2 黑褐色	シルト D.層土シルトブロック (5～20mm程度) 多量含む。	Pt437より新しい。
Pt425	32	円形	36×32	20	I	10VR3/3 喀褐色	シルト D.層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。	Pt437より新しい。
Pt426	32・33	円形	26×24	19	I	10VR2/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt437より新しい。
Pt427	—	—	—	—	—	—	—	—
Pt428	33	楕円形	(16)×16	16	I	10VR3/2 黑褐色	シルト D.層土ブロック (5mm程度) 少量、灰土シルトブロック (5mm程度) 少量含む。	Pt389より古い。



ビット 調査表(10)

過橋名	区別	平面形	幅締(cm)	幅位	土色	土性	備考		直観
							長軸×短軸	深さ	
Pt429	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Pt430	33	楕円形	34×27	29	I	10YR3/1 黒褐色	シルト (5mm程度) 少量、硬土+ゴムブロック(5mm程度)・炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt431	33	方形	22×22	32	I	10YR3/2 黒褐色	シルト 炭化物付。	—	—
Pt432	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Pt433	26	方形	19×19	14	I	2.5Y4/1 黄灰色	シルト 石粉+ゴムブロック(ともに5mm程度)・炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt434	32	円形	21×21	11	I	7.5YR3/3 黒褐色	シルト 炭化物付。	—	—
Pt435	32	円形	36×36	12	I	10YR3/1 黒褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt436	32	方形	20×19	7	I	10YR3/2 黒褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt437	32	楕円形	(32)×26	27	I	10YR3/2 黒褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt424より古い。	—
Pt438	23	円形	35×(32)	38	I	10YR3/2 黒褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S03より古い。	—
Pt439	23	楕円形	28×21	16	I	10YR4/1 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt440	23	円形	31×29	28	I	10YR4/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt442より新しい。	—
Pt441	23	長楕円形	(37)×23	32	I	10YR3/1 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S03より古い。	—
Pt442	23	楕円形	(44)×35	23	I	10YR4/1 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt438より古く、Pt443より新しい。	—
Pt443	23	円形	46×19	10	I	10YR3/2 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt442より新しい。	—
Pt444	23	楕円形	(47)×27	32	I	10YR3/2 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt443より古く、Pt444より新しい。	—
Pt445	23	円形	32×28	27	I	10YR3/2 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt444より新しい。	—
Pt446	28	楕円形	27×22	11	I	10YR4/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt447	27	円形	(39)×19	15	I	10YR3/2 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	S05より古い。
Pt448	27	長楕円形	(48)×(33)	9	I	10YR3/1 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S05より古い。	—
Pt449	27	円形	17×15	24	I	10YR3/1 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S05より古い。	—
Pt450	28	長楕円形	25×(19)	39	I	7.5YR3/3 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt387-821より古い。	—
Pt451	32	円形	(26)×(23)	28	I	2.5Y4/1 黄灰色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt452	32	楕円形	25×21	17	I	10YR3/1 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt453	37	円形	20×19	15	I	10YR3/1 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt454	37-38	方形	26×23	20	I	10YR3/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt455	32	円形	22×21	21	I	10YR3/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt456	17+18	不明	(33)×(11)	(22)	I	10YR4/1 黄褐色	シルト (5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S02より古い。	—
Pt457	17	楕円形	(35)×35	18	I	10YR3/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S05より古い。	—
Pt458	18	楕円形	(52)×38	32	I	10YR3/1 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S03より古い。	—
Pt459	18	楕円形	(25)×30	46	I	10YR4/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S03より古い。	—
Pt460	18	楕円形	(22)×38	27	I	10YR3/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S03, S05より古い。	—
Pt461	23	楕円形	36×(29)	18	I	10YR3/1 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt394より古い。	—
Pt462	23	長方形	(25)×(16)	28	I	10YR3/1 黑褐色	シルト (5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt440より古い。	—
Pt463	23	不明	(20)×(6)	28	I	10YR3/1 黑褐色	シルト (5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt290より古い。	—
Pt464	23	楕円形	38×43	21	I	10YR3/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt300より古い。	—
Pt465	19	楕円形	19×(11)	7	I	10YR3/1 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S03より古い。	—
Pt466	23	楕円形	49×(20)	26	中立なし	—	—	—	—
Pt467	23	楕円形	(25)×29	19	I	10YR3/1 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt292-384より古い。	—
Pt468	23	長楕円形	53×37	35	I	10YR3/2 黑褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	Pt464より古い。	—
Pt469	19	楕円形	(25)×(22)	42	I	10YR3/2 黑褐色	シルト (5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S05より古く、Pt469より新しい。	—
Pt470	—	—	—	—	—	—	※欠損(SBTの穴の大きさ)	—	—
Pt471	19	楕円形	(23)×52	48	I	10YR3/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S03, S05より古い。	—
Pt472	19	楕円形	(26)×(23)	46	I	10YR4/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	S05, Pt469より古い。	—
Pt473	28	楕円形	29×20	24	I	10YR3/1 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—
Pt474	27	楕円形	(26)×21	20	I	10YR3/2 黄褐色	シルト 石粉+ゴムブロック(5mm程度) 多量、炭化物付 薄層含む。	—	—



ピット 調整表 (11)

道線名	区別	平面形	幅員×奥行き 深さ	解体	土色	土性	参考		直視
							幅員1プロック、灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度) 少量、固化物含む)、堆土量含む。	SIIより古い。	
Pt475	18	方形	(30) × 29	33	I	10YR3/2 黒褐色	シルト		
Pt476	28	梢円形	22 × 19	26	I	10YR3/2 黒褐色	シルト	P/樹土プロック、灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度) 少量、固化物含む)、堆土量含む。	
Pt477	33	長円形(37) × (20)	22	I	10YR3/2 黒褐色	シルト			
Pt478	38	長円形(36)	28 × 27	11	I	10YR3/2 黑褐色	シルト	P/樹土プロック、灰色シルトブロック(ともに5mm程度)・堆 土量含む)、堆土量含む。	SIIより古い。
Pt479	38	梢円形	(29) × 24	13	I	10YR3/2 黑褐色	シルト	P/樹土プロック(5mm程度) 多量、灰色シルトブロック(5mm 程度)少量化。	Pt479より新しい。
Pt480	43	梢円形	20 × 15	14	I	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	P/樹土プロック(5mm程度) 少量、灰シルトブロック(5mm 程度)無量化。	Pt478より古い。
Pt481	42	梢円形	23 × 19	11	I	10YR4/2 黄灰褐色	シルト	P/樹土プロック(5mm程度) 多量、固化物含む。	
Pt482	42	円形	18 × 17	18	I	10YR4/1 黄褐色	シルト	P/樹土プロック(5mm程度) 多量、固化物含む。	
Pt483	42	梢円形	22 × 20	40	I	10YR3/3 ないし褐色	シルト	P/樹土中に少量、灰色シルト少量化、固化物含む。	Pt478より古い。
Pt484	37	円形	28 × 28	37	I	10YR4/1 黄灰褐色	シルト	P/樹土プロック(5～10mm程度) 多量、灰色シルト・粒・固化物 量含む。	
Pt485	42	梢円形	27 × 23	33	I	10YR4/1 黄褐色	シルト	P/樹土プロック(5mm程度) 少量、灰シルトブロック(5mm 程度)無量化。	
Pt486	42	長楕円形	31 × 34	31	I	10YR4/2 黄灰褐色	シルト	P/樹土プロック、灰色シルトブロック(ともに5mm程度)・堆 土量、固化物含む。	
Pt487	42	円形	47 × 43	31	I	10YR4/3 ないし褐色	シルト	P/樹土プロック(5～10mm程度) 少量、灰シルト・プロック(5～ 10mm程度)・堆土量、固化物含む。	
Pt488	47	円形	37 × 34	32	I	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	P/樹土プロック(5～10mm程度) 少量、灰色シルトプロック (5mm程度)・固化物含む。	
Pt489	47	円形	52 × 50	25	I	10YR4/2 黄灰褐色	シルト	P/樹土中に少量、灰色シルトプロック(5mm程度)・固化物 量含む。	
Pt490	47	円形	36 × 33	28	I	10YR4/2 黄灰褐色	シルト	P/樹土プロック(5～10mm程度) 多量、灰色シルト・粒・固化物 量含む。	
Pt491	47	円形	23 × 23	15	I	7.5Y4/2 黄褐色	シルト	P/樹土少量化、灰シルトプロック(5～10mm程度)・堆土量 含む。	
Pt492	43	円形	33 × 33	20	I	7.5Y4/1 黄褐色	シルト	P/樹土プロック(5mm程度) 多量、灰色シルトブロック(5mm 程度)・固化物含む。	
Pt493	43-48	長楕円形	47 × 34	16	I	7.5Y4/1 黄褐色	シルト	P/樹土プロック(5mm程度) 多量、灰シルト・少量化、固化物含む。	
Pt494	43-48	梢円形	38 × 32	15	I	7.5Y4/1 黄褐色	シルト	P/樹土プロック(5～10mm程度) 多量、灰色シルト・少量化。	
Pt495	43-48	梢円形	37 × 32	18	I	7.5YR3/3 灰褐色	シルト	P/樹土プロック(5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック(5～ 10mm程度)・固化物含む。	
Pt496	48	梢円形	29 × 24	13	I	7.5YR4/1 黄褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土プロック(5mm程度)・固化物含む。	
Pt497	48	円形	21 × 21	8	I	7.5YR3/3 黄褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土プロック(5mm程度)・固化物含む。	
Pt498	28	梢円形	(27) × (23)	38	I	10YR1/1 黑褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土量少量化。	SII、Pt442より古い。
Pt499	37	円形	22 × 20	16	I	10YR3/2 黑褐色	シルト	P/樹土少量化、N/樹土プロック・灘(とともに5mm程度)・堆 土量含む。	SIIより古い。
Pt500	37	円形	29 × 27	41	I	7.5YR4/4 黄褐色	シルト	P/樹土プロック(5～20mm程度) 少量、灰白灰化け土ブロック (5～20mm程度)・固化物含む。	
Pt501	42	円形	17 × 16	11	I	7.5YR3/3 灰褐色	シルト	P/樹土プロック(5mm程度) 少量、灰白灰化け土・少量化、固化物含む。	
Pt502	42	円形	23 × 23	20	I	7.5YR3/3 灰褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土量少量化。	
Pt503	42	長楕円形	22 × 14	14	I	2.5Y4/2 黄褐色	シルト	P/樹土を源流に多量、灰シルト少量化、固化物含む。	
Pt504	42	円形	18 × 16	11	I	7.5YR4/1 黄褐色	シルト	P/樹土プロック(5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック(5～ 10mm程度)・固化物含む。	
Pt505	42	梢円形	19 × 15	10	I	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	P/樹土少量化、灰色シルトと少量、固化物含む。	SIIと重複(新旧開 拓年)。
Pt506	42	長楕円形	23 × 16	20	I	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	P/樹土多量化、灰シルト・粒・少量、固化物含む。	SIIと重複(新旧開 拓年)。
Pt507	42	梢円形	(12) × 13	13	I	7.5YR3/3 灰褐色	シルト	P/樹土少量化、灰化け土プロック(5～10mm程度) 少量、堆 土量、堆土量含む。	
Pt508	—	—	—	—	I	—	—	—	
Pt509	18	梢円形	(19) × 16	13	I	10YR1/1 黄褐色	シルト	P/樹土多量化、固化物含む、灰シルト少量化。	SIIより古い。
Pt510	18	方形	29 × (29)	37	I	10YR3/2 黑褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土量少量化。	SIIより古い。
Pt511	—	—	—	—	—	—	—	—	
Pt512	42	梢円形	(30) × 26	15	I	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	P/樹土プロック(5～10mm程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm程度) 少量、固化物含む。	SIIより古い。
Pt513	42	梢円形	25 × 22	14	I	10YR3/3 灰褐色	シルト	P/樹土・灰化け土源流に堆積、磧(20mm程度)・固化物含む。	SIIより古い。
Pt514	42	梢円形	27 × (25)	14	I	2.5Y4/2 黄褐色	シルト	P/樹土・灰化け土源流に堆積、磧(30mm程度)含む。	SIIより古い。
Pt515	42	円形	21 × 21	28	I	2.5Y3/1 黄褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土量少量化。	
Pt516	31	梢円形	26 × 19	15	I	2.5Y3/1 黄褐色	シルト	P/樹土少量化。	
Pt517	46	円形	64 × 58	35	I	10YR4/2 黄褐色	シルト	P/樹土表面に多量、灰色シルト・灰化け土・堆土・固化物含む。	
Pt518	28	長楕円形(41) × (17)	29	I	SYR4/1 黑褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土量少量化。		
Pt519	28	梢円形	25 × 20	14	I	10YR3/2 黑褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土量少量化、穢(5mm程度)・固化物含む。	
Pt520	24	円形	22 × (12)	15	I	10YR3/2 黑褐色	シルト	P/樹土・堆土量少量化。	SIIより古い。
Pt521	18	梢円形	16 × 12	13	I	10YR1/1 黄褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土量少量化。	Pt522より古い。
Pt522	18	梢円形	(25) × (19)	18	I	10YR3/2 黑褐色	シルト	P/樹土少量化、灰シルト少量化。	Pt522より古い。
Pt523	18	円形	(29) × (26)	20	I	10YR1/1 黑褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土量少量化。	Pt522より古い。
Pt524	18	梢円形	(34) × (30)	42	I	10YR3/1 黑褐色	シルト	P/樹土少量化、堆土量少量化。	SIIより古く、Pt524より新しい。
Pt525	18	梢円形	(35) × (22)	32	I	10YR3/2 黄褐色	シルト	P/樹土少量化、灰シルト少量化。	SII、Pt524より古く、 Pt528より新しい。



ピット調査表(12)

調査名	区別	平面形	面積(cm)	層位			土色	土性	備考	面積
				長軸	短軸	深さ				
Pw526	18	円形	(25) × (24) (21)	1	10YR4/2	灰褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5~20mm程度)多量、灰色シルトブロック、灰褐色セメントブロック(ともに5mm程度)少量、植土粉・灰化物等含む。	Pw190より古い。	
Pw527	18	桜円形	(46) × 42 24	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5mm程度)・褐色シルト粉・灰化物等混在含む。		
				2	10YR4/1	褐褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5mm程度)多量、瓦灰シルト粉少量含む。		
				3a	10YR4/2	灰褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量、灰化物等混在含む。	SK17より古い。	
Pw528	18	長方形	(34) × (21) 13	1	10YR4/2	灰褐色	シルト	瓦礫土ブロック(5~10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	Pw4, Pw525より古い。	
				—	—	—	—	※欠番(SB6の柱穴へ差便)		
Pw529	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB6の柱穴へ差便)		
Pw530	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB7の柱穴へ差便)		
Pw531	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB7の柱穴へ差便)		
Pw532	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB7の柱穴へ差便)		

第2節 奈良～平安時代の遺構と遺物(第43～85図)

奈良～平安時代の遺構は、竪穴住居跡15軒(SI6～19)、溝跡1条(SD14)、土坑16基(SK17・32・42・46～48・69～78)を確認した。

当該期の竪穴住居跡と土坑は、調査区の中央部から南側及び西側にかけて分布し、その北縁にSD14が東西に延びる。竪穴住居跡はSI7・14・15、SI8A・8B、SI10・13、SI16～19がそれぞれ重複関係にあるが、全体の遺構分布は散在的である。

遺物は、土師器・須恵器や石製品、金属製品、鉄滓などが出土した。土師器はロクロ成形のものが主体である。SI6・7から出土した一部の土器類と石製品は、遺構間で接合したものもある。SI6からは桃と思われる種が、SI7からは炭化米などの自然遺物も出土した。

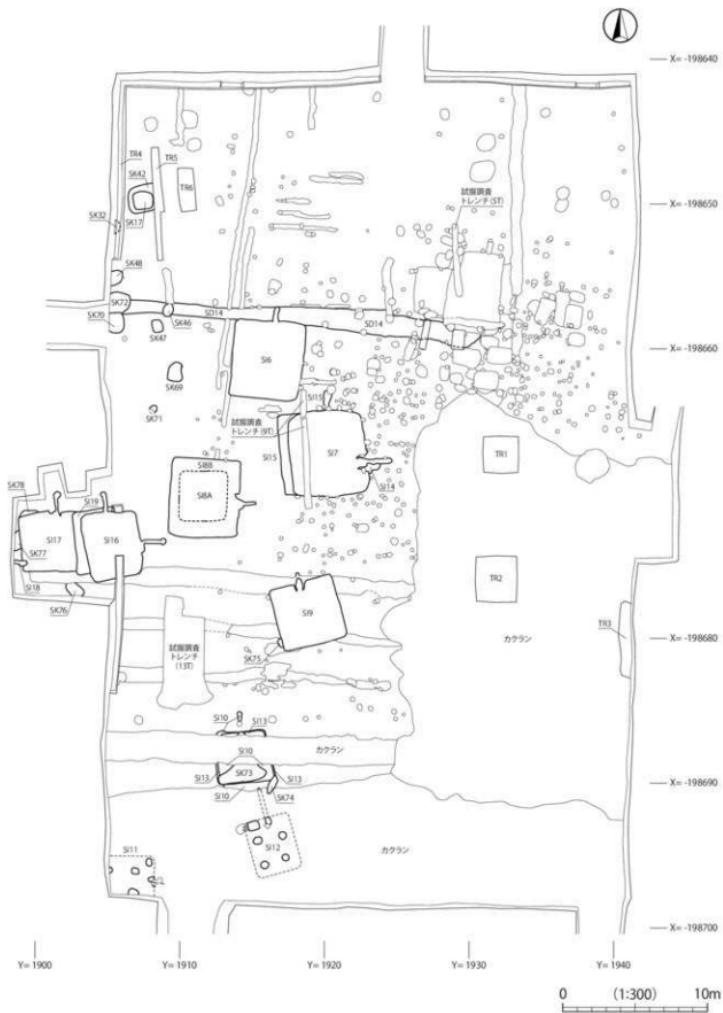
以下、奈良～平安時代の遺構について、竪穴住居跡、溝跡、土坑の順で記載する。

(1) 竪穴住居跡(第44～80図)

竪穴住居跡は、15軒(SI6～19)確認された。その分布は調査区中央部から南側と西側に広がるようにして点在するが、南部の住居跡は削平や擾乱のため残存が不良である。住居跡同士の重複関係をみると、西部ではSI16～19が東西に並んで重複し、SI7・14・15、SI8A・8B、SI10・13は入れ子状もしくはこれに近いたちで重複する。平面形状の確認できたものは全て方形基調で、方位は四辺がほぼ東西南北に向く一群(SI6～8B・10・11?・13・15・17・19)と若干西側に傾く一群(SI9・12?・16)が存在する(SI14・18はカマド煙道部のみの確認に留まるため不明)。規模はSI7の長軸605cmが最大、SI8Aの長軸340cmが最小で、主体は長軸450cm前後の住居跡である。SI13・19以外はカマドを伴い、SI6・9・10・12・15・17が北壁、SI7・8A・8B・11が東壁に付設される。SI16は北壁と東壁の2箇所に付設される。カマドは壁内に設置されるのが基本形態であるが、SI8Bのカマドは1/2程度が壁外に張り出す。カマドの袖は基本土層IV層土に似たシルトを突き固めて構築されるのが共通の特徴である。特殊な例としてSI16のカマド2は、焚口部分を自然礫と直方体に加工した粘土焼成ブロックを組み合わせて構築されている。SI9・17はカマドとは別に炉も伴っており、SI17では2箇所確認した。このうちSI9の炉とSI17の炉は掘り込みを伴わない被熱範囲であり、SI17の炉2は小規模な掘り込みを伴う。

SI7は焼失住居で、堆積土や床面上から多量の燒土や炭化材が出土し、床面も広範囲にわたって被熱している。炭化材はほぼ原形を保つものが多く、壁材や柱材などが良好に残存する。西壁際の一部では、壁材に使用されたとみられる網代状の編物の痕跡も確認した。そこでこれらの炭化材から分析試料20点を採取し、樹種同定を実施した。

これらの竪穴住居跡の時期は、出土遺物や重複関係から8世紀後半～10世紀前半と推定され、奈良時代から平安時代前半にかけての集落と考えられる。



第43図 奈良～平安時代遺構配置図



SI6 穫穴住居跡 (第44～48図)

【位置・確認】 調査区北西部、17・22区に位置する。西壁の上端は、平安時代～中世のSA2との重複により失われている。

【重複】 SD14より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸534cm、短軸495cmを測り、平面形状は若干南北に長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-6°-Eを測る。

【堆積土】 大別で37層に分層した。1～10層は暗灰黄色・灰黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。11層は周溝堆積土、12～22層はカマド堆積土である。23～25層はカマド燃焼部の掘り方埋土、26～30層はカマド奥壁～煙道部前端の構築土である。31～37層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で51cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、基本層IV層土を多量に混入した灰黄褐色・黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)確認した。規模や位置関係からP1～4は主柱穴と考えられ、規模は長軸45～64cm、短軸38～57cm、深さ33～35cmを測る。P3で径12cm程度の柱痕跡を確認し、その底面からは礎盤石とみられる扁平な自然礎が出土した。P5・6は補助柱穴と思われる。

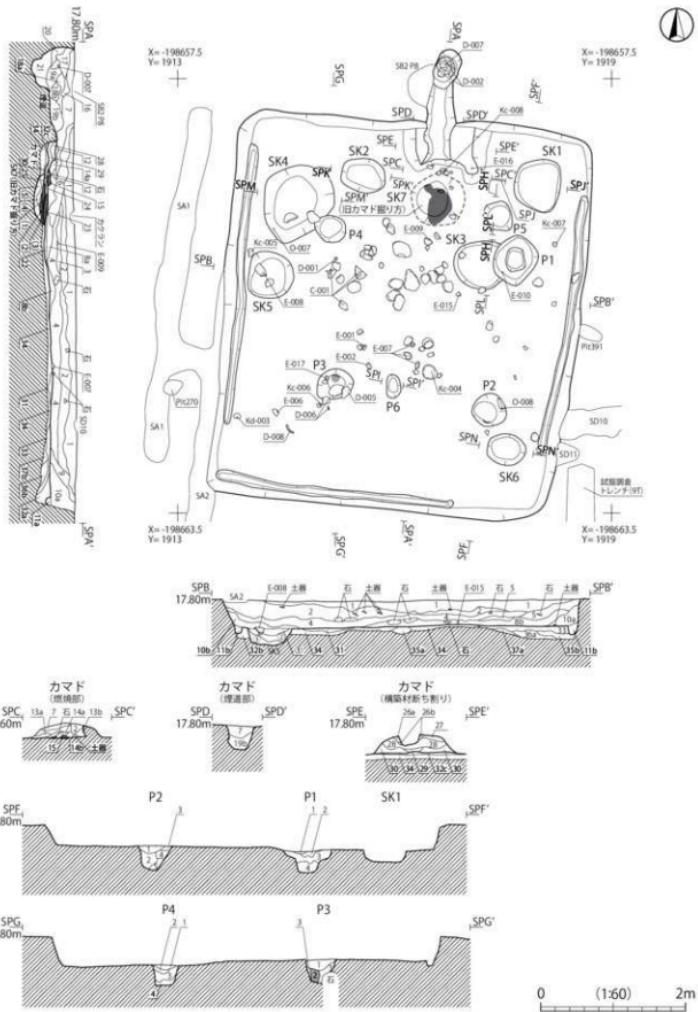
【周溝】 北壁を除き、壁面に沿って「コ」字状に延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅10～15cm、深さ6～11cmを測る。

【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は両袖とも失われている。燃焼部は壁面から50cm程度内側に離れて位置し、規模は奥行き42cm以上、幅66cm以上を測る。底面は平坦で、長径40cm程度の焼面が形成される。奥壁は外傾して13cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部の前端部は壁内に位置し、燃焼部奥壁とともに基本層IV層に近似したシルトを突き固めて構築される。煙道部は底面が煙出しに向かって緩やかに傾斜し、規模は長さ153cm、幅30～42cm、深さ31～59cmを測る。煙出しはカマドの主袖から19°東に振れ、長軸53cm、短軸33cm程度のピット状を呈する。中層付近からは、ロクロ土師器の甕(第47図-5)1/5個体が潰れた状態で出土した。本カマドの直下からは古いカマドの掘り方とみられるSK7が検出されており、カマドの造り替えが行われたと考えられる。

【その他の施設】 床面で7基(SK1～7)の土坑を確認した。SK1・2はカマドの左右に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。SK1の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸73cm、短軸64cm、深さ19cmを測る。SK2の平面形状は楕円形を呈し、長軸63cm、短軸47cm、深さ20cmを測る。ほかの土坑は性格不明だが、SK6が南東コーナー付近に位置するほかは北半部に位置し、いずれも人為的に埋め戻されている。SK3の平面形状は楕円形と推定され、規模は残存値で長軸67cm、短軸67cm、深さ23cmを測る。SK4の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸113cm、短軸98cm、深さ37cmを測る。SK5の平面形状は円形を呈し、規模は長軸64cm、短軸62cm、深さ25cmを測る。SK6の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸53cm、短軸44cm、深さ29cmを測る。SK7の平面形状は円形を呈し、規模は長軸75cm、短軸74cm、深さ17cmを測る。SK7はカマド燃焼部の直下に位置し、古いカマドの掘り方と考えられる。

【掘り方】 深さ3～22cmを測り、底面は中央部が高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、自然遺物(種)が出土した。このうち、土師器1点、ロクロ土師器4点、須恵器10点のほか、種2点を掲載した(第46～48図・種は写真図版23にのみ掲載)。大半の遺物が多量の礎とともに床面から浮いた状態で出土していることから、住居廃絶後の投棄によるものと考えられる。床面遺物は比較的少ない。第46図-1は土師器の鉢で、口径30.8cmの大型品である。器形はやや歪み、口縁部と体部の境に弱い稜をもつ。外面はハケメ、内面はヘラナデ調整される。2～4・第47図

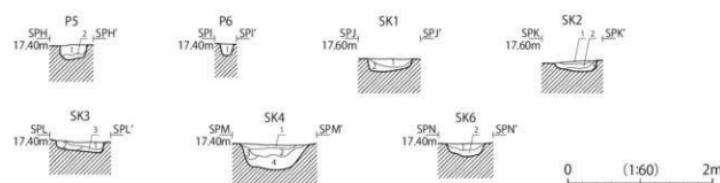


第44図 SI6竪穴住居跡(1)



Si6 地盤土質記表

地盤	細目	主色	土性	備考	圖号
住居地盤土	1	2.5Y4/2 暗赤色	砂質シルト	砂質土中に少量、暗赤色シートブロック(5mm程度)・他土粒・炭化物粘膜含む。	
	2	2.5Y3/3 棕オーラー褐色	砂質シルト	砂質土中に多量、灰白色シートブロック(5mm程度)・他土粒・炭化物粘膜含む。	
	3	2.5Y3/2 黑褐色	砂質シルト	砂質土中に少量、灰白色シートブロック(5mm程度)・他土粒・炭化物粘膜含む。	
	4	10YR4/2 黑黃褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜・一部に礫(10 ~ 200mm程度)・炭化物粘膜含む。	
	5	10YR4/1 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、シートブロック(5mm程度)・他土粒・炭化物粘膜含む。	
	6	10YR4/3 棕・黃褐色	シルト	砂質土中に少量、灰白色シルト粉・礫(5mm程度)・炭化物粘膜含む。	
	7	7.5YR4/1 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜・一部に礫(5 ~ 10mm程度)・炭化物粘膜含む。	
	8a	7.5YR4/2 黃褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	8b	2.5Y4/2 暗赤色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	10a	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	砂質土中に多量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	10b	2.5Y4/2 暗灰褐色	シルト	砂質土中に多量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
周溝	11a	2.5Y3/3 黃褐色	シルト	砂質土中に多量、炭化物粘膜含む。	
	11b	10YR4/3 にじ・黃褐色	シルト	砂質土中に多量、礫(5mm程度)・他土粒・炭化物粘膜含む。	
カマド埋地部	12	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、礫(5mm程度)・他土粒・炭化物粘膜含む。	
	13a	7.5YR4/3 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、炭化物粘膜・他土粒含む。	
	13b	10YR4/2 黑黃褐色	シルト	砂質土中に多量、他土粒・礫・炭化物粘膜含む。	
	14a	7.5YR3/3 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、IV級粘土質砂岩・全体的に薄く透かす。	
	14b	2.5Y4/2 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	15	5YR4/2 黄褐色	シルト	砂土・ゴミ(5 ~ 10mm程度)・灰白色土中に多量含む。	
	16	10YR3/3 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、灰白色シートブロック(5 ~ 10mm程度)・炭化物粘膜含む。	
	17	10YR3/2 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、灰白色シート・炭化物ブロック(5 ~ 10mm程度)・少量含む。	
	18a	10YR4/4 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、シートブロック(5mm程度)・炭化物粘膜含む。	
	18b	10YR4/2 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、シートブロック(5 ~ 10mm程度)・炭化物粘膜含む。	
カマド燃焼部 覆り方	19a	10YR3/3 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	19b	7.5YR5/1 黄褐色	シルト	砂質土中に多量、砂質土中に少量、炭化物粘膜含む。	
カマド埋地部 煙道部側壁土	20	10YR2/3 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、炭化物ブロック(5mm程度)・他色シート粘膜含む。	
	21	10YR4/3 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	22	2.5Y3/2 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・灰白色土中に多量、他土粒・砂質土含む。	
	23	5YR4/3 にじ・赤褐色	シルト	砂土・ゴミ(5 ~ 10mm程度)・多量・炭化物粘膜含む。	
	24	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	砂質土中に少量、炭化物粘膜・他土粒含む。	
	25	2.5Y5/2 暗灰褐色	シルト	砂質土中に多量、炭化物粘膜含む。	
	26a	10YR4/2 黑黃褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	26b	7.5YR4/3 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	27	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	28	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	砂質土中に多量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
住居裏方	29	10YR4/2 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	30	10YR4/3 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	31	10YR4/2 黑黃褐色	シルト	砂質土中に少量、シートブロック(5mm程度)・少量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	32a	10YR4/3 にじ・黃褐色	シルト	砂質土中に多量、炭化物粘膜含む。	
	32b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	砂質土中に多量、炭化物粘膜含む。	
	33	2.5Y4/2 オリーブ褐色	シルト	砂質土中に多量、他土粒・炭化物粘膜含む。	
	34	2.5Y5/2 暗灰褐色	シルト	砂質土中に少量、礫(10mm程度)・他土粒・炭化物粘膜含む。	
	35a	10YR4/2 黑黃褐色	シルト	砂質土中に少量、礫(10mm程度)・他土粒・炭化物粘膜含む。	
	35b	10YR4/3 にじ・黃褐色	シルト	砂質土中に多量、礫(10mm程度)・炭化物粘膜含む。	
	36a	2.5Y4/3 黃褐色	シルト	砂質土中に少量、礫(10mm程度)・炭化物粘膜含む。	
	36b	2.5Y3/4 黃褐色	シルト	砂質土中に少量、礫(10mm程度)・炭化物粘膜含む。	
	37a	2.5Y3/5 黄褐色	シルト	砂質土中に少量、灰白色シート・炭化物粘膜含む。	
	37b	2.5Y3/4 黄褐色	シルト	砂質土中に多量、炭化物粘膜含む。	



Si6 施設觀察表

遺構名	平面形	掘幅(cm)	備考
P1	円形	64 × 57	33 主柱穴
P2	円形	48 × 47	33
P3	楕円形	52 × 41	33 主柱穴・壁脚右
P4	楕円形	45 × 38	35 主柱穴
P5	円形	39 × 38	22 補柱穴
P6	楕円形	33 × 19	16 主柱穴
SK1	楕円形	73 × 64	19 主柱穴

第45図 Si6 穴式住居跡(2)





S16 施設堆積土器記表

遺構名	部位	土 色	土性	備 考
P1	1	7.5YR4/1 黄褐色	シルト	粘土粒少額、砂粒・石粉物を微量含む。
	2	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒少額、粗粒ブロック(5mm程度)・炭化物を微量含む。
	3	7.5YR4/1 黑褐色	シルト	粗粒エコロック(5~20mm程度)多量、砂粒ブロック(5mm程度)・炭化物少額、礫(10mm程度)微量含む。
	4	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	粗粒ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物微量含む。
P2	1	7.5YR4/3 黄褐色	シルト	粘土粒少額、砂粒・石粉物を微量含む。
	2	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	粗粒・粘土・炭化物微量含む。並村塙跡。
	3	7.5YR4/3に±1 黄褐色	シルト	粘土粒少額、砂粒・石粉物微量含む。並村塙跡。
P3	1	10YR4/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、炭化物微量含む。
	2	7.5YR4/1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、炭化物微量含む。
	3	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、炭化物微量含む。
P4	1	10YR4/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、礫(5mm程度)・炭化物微量含む。
	2	10YR5/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、炭化物微量含む。
P5	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、礫(5~40mm程度)少額、粘土・炭化物微量含む。
	2	2.5Y4/3 黄褐色	シルト	粗粒エコロック(5~10mm程度)・灰白シルトブロック(5mm程度)・多量、砂粒・粘土微量含む。
	3	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、炭化物微量含む。
SK1	1	10YR4/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、礫(5~10mm程度)・炭化物微量含む。
	2	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	粘土粒少額に細粒、炭化物微量含む。
	3	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・少額、砂粒・石粉物微量含む。
SK2	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、砂粒・石粉物微量含む。
	2	10YR4/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、砂粒・石粉物微量含む。
	3	10YR4/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、砂粒・石粉物微量含む。
SK3	1	10YR4/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、砂粒・石粉物微量含む。
	2	10YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・少額、炭化物微量含む。
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、礫(5~10mm程度)・炭化物微量含む。
SK4	1	2.5Y4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、砂粒・石粉物微量含む。
	2	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	粘土粒少額に細粒、炭化物微量含む。
	3	10YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・少額、炭化物微量含む。
SK5	1	10YR4/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、炭化物微量含む。
	2	10YR4/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、炭化物微量含む。
	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・少額、炭化物微量含む。
SK6	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・少額、炭化物微量含む。
	2	10YR4/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・多量、礫(5~20mm程度)・炭化物微量含む。
	3	SYR5/3 明赤褐色	シルト	崩く傾く傾斜部。
SK7	(1)	SYR5/3 明赤褐色	シルト	砂粒・礫少額に多量、砂粒・石粉ブロック(5~10mm程度)少額、炭化物微量含む。
	(2)	2.5Y4/3 黄褐色	シルト	砂粒・礫少額に多量、砂粒・石粉含む。
	(3)	SYR5/3に±1 黄褐色	シルト	砂粒・礫少額に多量、砂粒・石粉含む。
	(4)	2.5Y4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・砂粒・多量、砂粒・石粉・粘土・炭化物微量含む。
	(5)	2.5Y4/2 黄褐色	シルト	砂粒・粘土・砂粒・多量、砂粒・石粉・粘土・炭化物微量含む。

—5はクロコ土師器で、2は鉢、ほか3点は甕である。鉢は口径25.0cmの大型鉢で、内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。3・4の甕の口縁部は受口状を呈する。5の外表面は平行タタキ後、中位～下位がヘラケグリ調整される。第47図—6～第48図—15は須恵器で、6～11は壺、12・13は鉢、14は盃、15は甕である。壺の底部切り離し技法は6が回転ヘラ切り、10が回転式切り、ほかは回転式もしくは手持ちヘラケグリで調整され不明である。6は切り離し後、手持ちヘラケグリ調整される。12の鉢は小型鉢で、口縁部と体部との境に強い稜をもつ。13は大型鉢で、口縁部は受口状を呈する。外表面は平行タタキ後、下半部がヘラケグリ調整される。14の甕は肩部が大きく張り、横版の可能性もある。外表面には、自然釉の付着がみられる。15の甕は底部付近の破片で、底部は中央がやや凹む。外表面はヘラケグリ、内面はヘラナダ調整される。写真のみ掲載した種はとともに桃の核である可能性があり、床面から出土した。また、石製紡錘車の破片が1点出土している。SI7の床面施設から出土した石製紡錘車と接合したため、帰属性が高いSI7の遺物として掲載した(第53図—15)。

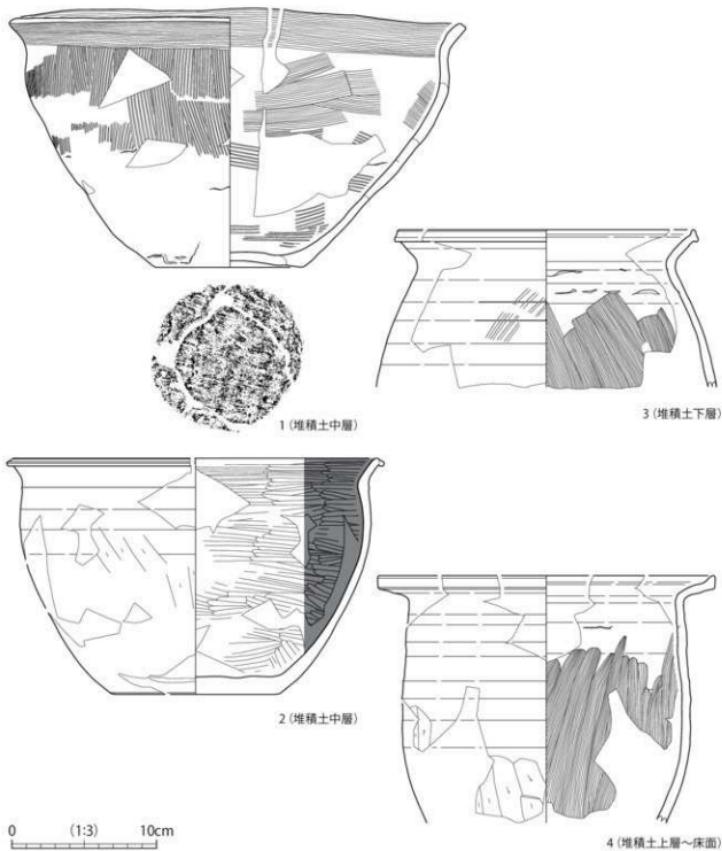
【時期】 床面から出土した須恵器壺や鉢(第47図—6・7・12・第48図—15)の特徴から、A1期(8世紀後半～8世紀末頃)と考えられる。

S17 積穴住居跡(第49～53図)

【位置・確認】 調査区中央部、22・23・27・28・32・33区に位置する。壁及び床面は平安時代～中世の土坑やビットとの重複により部分的に失われている。今回の調査で唯一検出された焼失住居である。

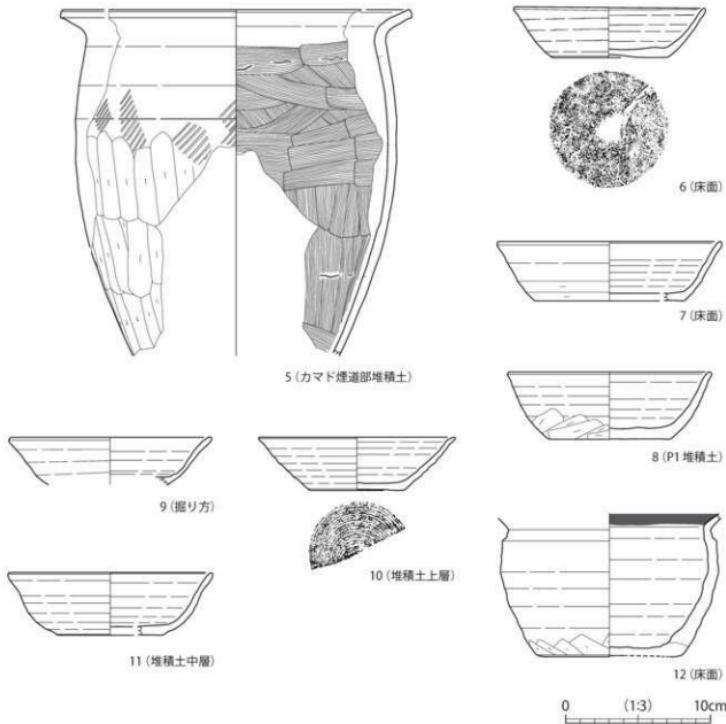
【重複】 SI14・15より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長幅605cm、短幅530cmを測り、平面形状は若干南北に長い方形を呈する。



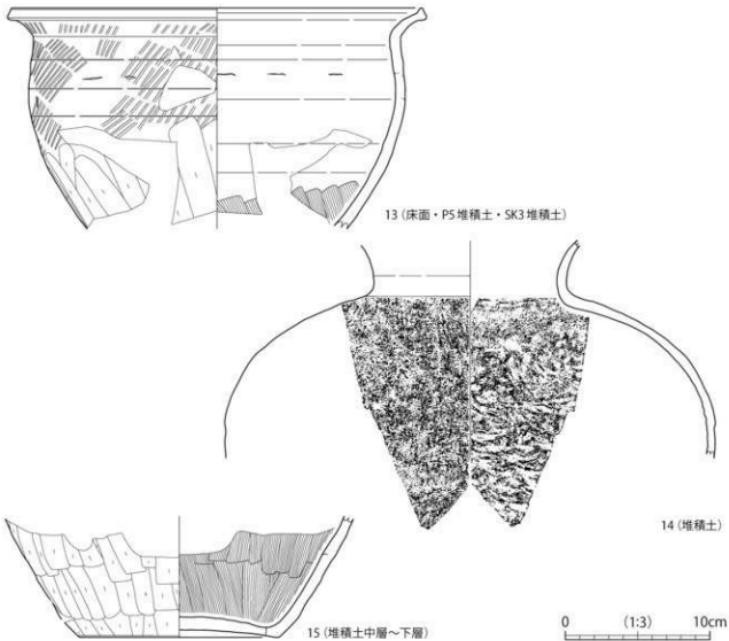
回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外側調整	内側調整	備考	写真 回数
						口径	底径	高さ				
1 C-001	S16	堆積土中層		土師器	鉢	30.8	10.1	17.9	口縁部-口付 底部-底部へ約2°傾 底部-底部の直面	口縁部-口付 底部-底部へ約2°傾 底部-底部へ約2°傾	外側表面減。内面土上位摩 減。	22
2 D-001	S16	堆積土中層	ロクロ 土師器	鉢	(25.0)	11.0	16.4	口縁部 底中位-底部へ約2°傾	口縁部 底上位-下位へ約2°傾	外側表面減。内面黑色處理。	22	
3 D-006	S16	堆積土下層	ロクロ 土師器	甕	(20.4)	—	(10.9)	口縁部 底上位-平行	口縁部 底中位-平行	22		
4 D-003	S16	堆積土上層 ～床面	ロクロ 土師器	甕	(23.2)	—	(17.1)	口縁部 底中位へ約2°傾	口縁部-底部へ約2°傾	外側保付着。	22	

第46図 S16 穴竪住居跡出土遺物(1)



地質番号	標號番号	出土地点	部位	種別	器種	重量 (kg)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	外面調整	内部調整	備考	写真番号
5	D-002	SI6 817 煙道部		堆積土	口クロ 土器底	重	(24.0)	—	(23.0)	外側調整 脚下平、平行3斜 脚下平、平行3斜→平行2	内側調整 脚底→内側		22
6	E-001	SI6	床面	調査器	环	13.1	8.0	3.5	3.5	外側調整 底歪、内側V切り→手持ちV切り	外側調整		23
7	E-002	SI6	床面	調査器	环	(15.4)	(10.4)	4.1	4.1	外側調整 底歪、内側V切り→手持ちV切り	内側調整 底歪、内側V切り→手持ちV切り		23
8	E-003	SI6 P1	堆積土	調査器	环	(13.0)	(8.1)	4.7	4.7	外側調整 底下平、内側V切り	外側調整		23
9	E-004	SI6	掘り方	調査器	环	13.8	—	3.3	3.3	外側調整	内側調整		23
10	E-005	SI6	堆積土上層	調査器	环	(13.5)	(6.4)	(3.7)	(3.7)	外側調整 底歪、内側V切り	外側調整	重ね焼き板。	23
11	E-006	SI6	堆積土中層	調査器	环	(14.0)	(7.2)	4.3	4.3	外側調整 底歪、内側V切り	外側調整	外側V溝底に重ね焼き板、内 外側大溝底、内側V溝底少量合 む。	23
12	E-007	SI6	床面	調査器	路	15.4	10.0	10.0	10.0	外側調整 底下端→底部、手持ちV切り	内側調整	内側V溝底付着、外側底部 V切り無明瞭。	23

第47図 SI6竪穴住居出土遺物 (2)



第48図 Si6 穫穴住跡出土遺物(3)

【方向】カマドを基準としてN-87°-Eを測る。

【堆積土】大別で34層に分層した。1~11層は暗灰黄色・オリーブ褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。床面上や壁際には焼土層、炭化物層、さらに基本層IV層土ブロックを多量に含む崩落土層が複雑に堆積し、これらの層には多量の炭化材が含まれる。12層は周溝堆積土である。A~Cセクション以外の場所では杭材痕が観察される。13~24層はカマド堆積土である。大半の層が焼土ブロックを多量含む。25~28層はカマド袖・奥壁構築土、29~31層はカマド掘り方埋土である。このうち30層は被熱層で北袖直下まで広がり、カマドの造り替えを示すと考えられる。32~34層は住居掘り方埋土である。

【壁面】直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で38cmを測る。壁際からは杭材と板材が内側に倒壊した状態で出土し、西壁には編物状の壁材も一部残存する。



【床面】 中央部が若干高まり、四壁側へ向かって低くなる。基本層IV層土を多量に混入した黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。床面上は被熱し、焼面が広範囲に形成される。

【柱穴】 床面で8基(P1～8)、掘り方で1基(P9)、総数9基確認した。規模や位置関係からP1～4は主柱穴と考えられ、規模は長軸56～93cm、短軸50～73cm以上、深さ26～40cmを測る。いずれの柱穴からも径17～22cm程度の柱痕跡を確認した。これらの上部は炭化・灰化し、P4では床面上に露出した柱材が倒れた状態で残存する。P5・7・8は壁柱穴及び補助柱穴と考えられる。P6はP2と重複し、P2により一部失われている。建て替えも考えられる。P9はカマド南袖の直下に位置し、径12cm程度の柱痕跡を確認したが、位置や検出層位が不自然であり、SI14など古い住跡に伴う可能性も考えられる。

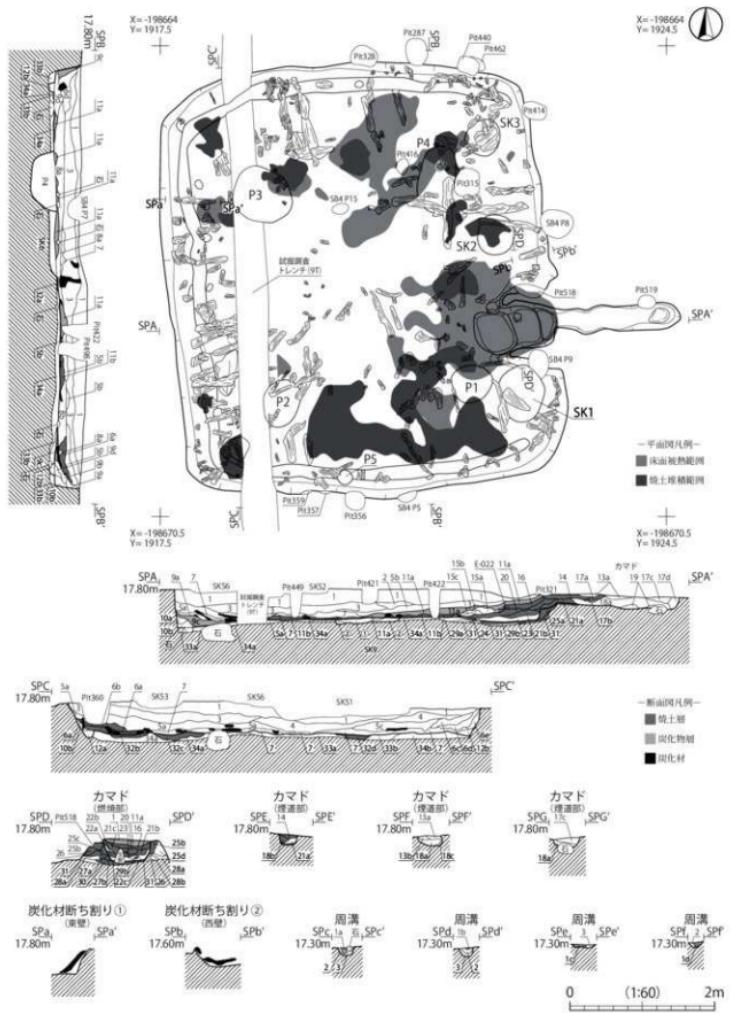
【周溝】 東壁を除き、壁面に沿って「コ」字状に延びる。断面形状は逆台形を呈し、規模は幅10～25cm、深さ5～15cmを測る。西壁のやや南寄りには長径50cm程度の扁平な自然礫が存在し、踏石など入口施設に關係すると考えられる。

【カマド】 東壁中央部のやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は壁面に対し馬蹄形に延び、規模は南袖が長さ93cm、幅32～50cm、北袖が長さ95cm、幅35～41cmを測る。基本層IV層に近似したシルトを突き固めて構築され、北袖の先端部には自然礫が芯材として埋設される。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き97cm、幅64cmを測る。底面は浅く掘り込まれ、北寄りには自然礫による支脚が1箇所底面上に設置される。底面から袖を含む内部全体に焼面が形成される。奥壁は階段状に19cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は底面が煙出しに向かって緩やかに傾斜し、規模は長さ170cm、幅26～35cm、深さ10～17cmを測る。煙出しには長径24cm程度の扁平な自然礫が埋設される。本カマドの袖外壁は焼失時に被熱し、ほぼ全体が赤色化している。

【その他の施設】 床面で9基(SK1～9)の土坑を確認した。SK1～3はカマドの左右からコーナー付近に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。SK1と重複するSK4も同様の性格が考えられる。SK1の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸76cm、短軸64cm、深さ13cmを測る。SK2の平面形状は円形を呈し、規模は長軸55cm、短軸51cm、深さ10cmを測る。SK3の平面形状は円形を呈し、規模は長軸51cm、短軸47cm、深さ17cmを測る。SK4の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸55cm、短軸39cm、深さ15cmを測る。SK1～4の内外からは遺物がまとまって出土し、SK3の上層からは炭化した木材が出土している。建築部材とは異なるクワ届が用いられていることから、蓋に使用されたものと考えられる。SK5・8は南東部、SK6は中央部やや北東寄り、SK7は北部、SK9は中央部に位置する。SK5の平面形状は円形を呈し、規模は長軸77cm、短軸73cm、深さ10cmを測る。SK6の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸115cm、短軸97cm、深さ18cmを測る。SK7の平面形状は不整形形を呈し、規模は長軸74cm、短軸64cm、深さ10cmを測る。SK8の平面形状は円形を呈し、規模は長軸47cm、短軸47cm、深さ14cmを測る。SK9の平面形状は不整形形を呈し、規模は長軸91cm、短軸79cm、深さ7cmを測る。SK5～8は堆積土に多量の焼土を含み、カマド関連の土坑と思われる。SK2・4の堆積土中にも多量の焼土が含まれる。

【掘り方】 深さ2～17cmを測り、底面はカマド前方から中央部にかけて高まり、東壁を除く三壁側が「コ」字状に低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品が出土した。このうち、ロクロ土師器4点、須恵器9点、石製品2点を掲載した(第51～53図)。第51図-1～3・第52図-4はロクロ土師器で、1～3は壺、4は甕である。壺はいずれも底部が手持ちヘラケズリ調整され、2の底部切り離しは回転糸切りである。全て内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。4の甕は、胴部外面に平行タタキが部分的に観察される。第52図-5～第53図-13は須恵器で、5～12は壺、13は甕である。壺の底部切り離し技法は6・8・10・11が回転ヘラ切り、5・7・9・12が回転糸切りである。8は切り離し後、周縁を回転ヘラケズリ調整される。13の甕は胴部がやや長く、胴部上位に最大径をもつ。外面は平行タタキ後、下位を回転ヘラケズリ調整される。平行タ

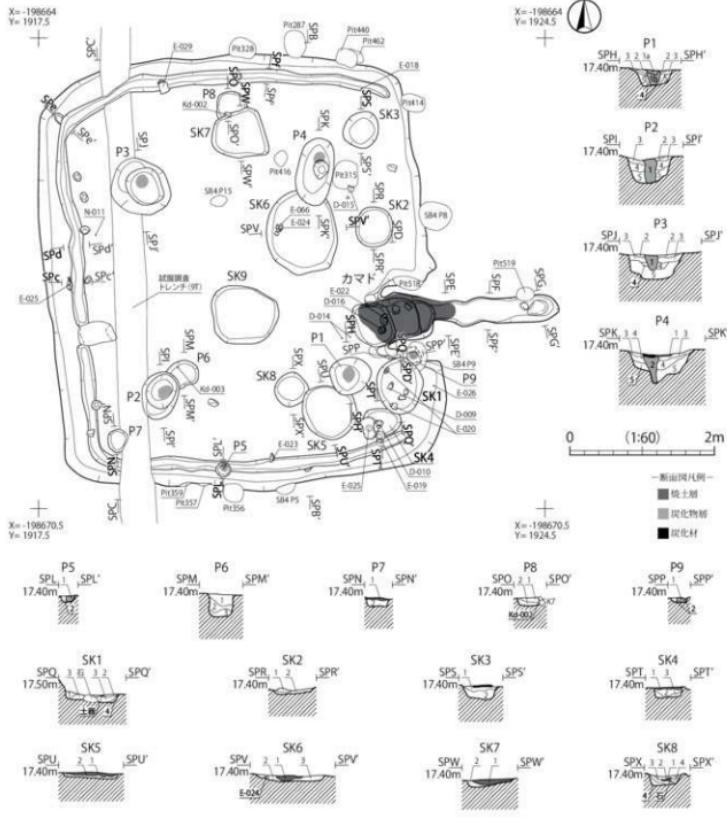


第49図 SI7竪穴住居跡(1)



S17 塗装土記表

面 位	土 色	性 本	備 考
	1. 2.5Y4/3 黄灰褐色	シルト	表面に斑状・斑状、灰白色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物少量、塵(5～30mm程度)・地上土微細含む。
	2. 2.5Y3/3 暗オリーブ色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、塵(10mm程度)・地下土粒・底材付・微量含む。
	3. 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	表面土塊・炭化物少量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度)・塵・粘土微細含む。
	4. 10YR4/2 灰褐褐色	シルト	表面土塊・多量、炭化物少量、塵(10mm程度)・シルト微細含む。
	5a. 10YR4/1 黄褐色	シルト	表面土塊・シルトブロック(5mm程度)・炭化物少量、灰白色・ルート状に微量含む。
	5b. 2.5Y4/2 灰灰黄色	シルト	表面土塊・シルトブロック(5mm程度)・炭化物少量、灰白色・ルート状に微量含む。
	5c. 10YR4/3 にじみ黄褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、塵(10mm程度)・炭化物少量・微量含む。
	6a. 7.5Y3/3 暗褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、塵(10mm程度)・シルト土塊・シルトブロック(5mm程度)・炭化物少量含む。
	6b. 7.5Y4/2 灰褐色	シルト	表面土塊・シルトブロック(5～10mm程度)・シルト・地下土粒・底材付・微量含む。
	6c. 2.5Y4/2 灰灰褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量、塵(5mm程度)・微量含む。
	6d. 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量、塵・底材付・微量含む。
住居堆積土	6e. 2.5Y3/3 黑褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量、塵(5～10mm程度)・微量含む。
	7. 10YR4/3 にじみ黄褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、塵(10mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)・少量含む。下位に炭化物(厚5～10mm程度)・堆积。
	8a. 2.5Y4/2 灰褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量、塵(5mm程度)・微量含む。
	8b. 2.5Y3/2 灰褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量、塵(5mm程度)・微量含む。
	8c. 2.5Y4/3 黑褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量、塵(5mm程度)・微量含む。
	9. 10YR4/2 灰褐褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂少量、塵(10mm程度)・炭化物少量含む。
	10. 2.5Y4/2 灰灰褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量、塵(5mm程度)・微量含む。
	10b. 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量、塵(5mm程度)・微量含む。
	11a. 2.5Y3/2 黑褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量、塵(5mm程度)・微量含む。
	11b. 7.5Y4/1 黄褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂少量、塵(10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)・微量含む。
周囲	12a. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂少量、塵(10mm程度)・炭化物少量含む。
	12b. 10YR4/3 にじみ黄褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂多量、炭化物少量含む。
	13. 2.5Y4/2 黄褐色	シルト	表面・砂多量、炭化物シルトブロック・底材ブロック(ともに5mm程度)・炭化物と微量含む。
	13b. 2.5Y3/2 オリーブ褐色	シルト	表面土塊・灰褐色・シルト・砂少量含む。
	14. 7.5Y3/2 灰褐色	シルト	表面ブロック(5mm程度)・多量、炭化物と微量含む。
	15a. 10YR4/2 灰褐褐色	シルト	表面土塊・多量、シルトブロック(5mm程度)・少量、シルトブロック(5mm程度)・炭化物と微量含む。
	15b. 10YR4/4 黄褐色	シルト	表面土塊・多量、シルトブロック(5～10mm程度)・少量、灰褐色シルト・炭化物付微量含む。
	15c. 7.5Y3/2 灰褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)・少量、底材付微量含む。
	16. 2SYR3/2 黑褐色	シルト	表面・炭化物シルト・底材付・多量、表面土層・少量、底材付微量含む。
	17a. 2.5Y3/3 にじみ黄褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂少量、塵(10mm程度)・炭化物微量含む。
	17b. 2.5Y4/2 黄褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂少量、塵(10mm程度)・炭化物微量含む。
	17c. 10YR4/2 黄灰褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂少量、塵(10mm程度)・炭化物微量含む。
	17d. 2.5Y3/1 黑褐色	シルト	表面土塊・シルト・砂少量、塵(10mm程度)・炭化物微量含む。
カマド堆積土	18a. 2.5Y3/1 黄褐色	シルト	表面土塊・多量、底材付・シルトブロック(5～10mm程度)・少量、底材付微量含む。
	18b. 2.5Y4/2 黄褐色	シルト	表面土塊・多量、底材付・シルトブロック(5mm程度)・少量、底材付微量含む。
	18c. 10YR4/2 黄褐色	シルト	表面土塊・多量、底材付・シルトブロック(5～10mm程度)・少量、底材付微量含む。
	18d. 2.5Y3/2 黑褐色	シルト	表面土塊・多量、底材付・シルトブロック(5～10mm程度)・少量、底材付微量含む。
	19. SYR5/3 にじみ黄褐色	シルト	表面・底材付・炭化物少量含む。
	20. 2SYR3/2 黄褐色	シルト	表面・シルトブロック(5～20mm程度)・多量、表面土層・シルト・底材付微量含む。
	21a. 2.5Y3/2 黄褐色	シルト	表面・シルトブロック(5～20mm程度)・多量、表面土層・シルト・底材付微量含む。
	21b. 2SYR3/2 黄褐色	シルト	表面・シルトブロック(5～20mm程度)・多量含む。
	21c. 2SYR3/5 明赤褐色	シルト	表面・シルトブロック(5～20mm程度)・多量、底材付微量含む。
	21d. 2.5Y3/1 黄褐色	シルト	表面・シルトブロック(5～20mm程度)・多量、炭化物ブロック(5mm程度)・微量含む。
	22. 2.5Y3/1 黄褐色	シルト	表面・シルトブロック(5～20mm程度)・多量、表面土層・シルトブロック(5mm程度)・炭化物シルト・底材付微量含む。
	22b. 7.5Y3/3 黄褐色	シルト	表面・シルトブロック(5mm程度)・多量含む。
	22c. 2.5Y4/2 黄褐色	シルト	表面・シルト多量、底材付・シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物付微量含む。
	22d. 2.5Y3/2 黄褐色	シルト	表面・シルト多量、底材付・シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物付微量含む。
	23. N2/1 黑褐色	シルト	表面・底材付。
	25a. SYR3/1 黄褐色	シルト	表面・シルト・シルトブロック(ともに5mm程度)・多量、炭化物和微量含む。
	25b. SYR3/5 明赤褐色	シルト	表面・底材付・底材付。
	25c. 7.5Y3/3 にじみ黄褐色	シルト	表面・シルトブロック(5～10mm程度)・多量、炭化物付微量含む。
	25d. 7.5Y3/1 黄褐色	シルト	表面・シルトブロック(5～10mm程度)・多量、炭化物付微量含む。
	25e. 2.5Y3/2 黄褐色	シルト	表面・シルトブロック(5～10mm程度)・多量、炭化物付微量含む。
カマド焰・廻 燃燒土	27. 7.5Y3/2 黄褐色	シルト	表面・シルト・底材付・シルトブロック(5～10mm程度)・少量、炭化物付・底材付微量含む。
	27b. 7.5Y3/1 黄褐色	シルト	表面・シルト・底材付・シルトブロック(5～10mm程度)・少量、炭化物付・底材付微量含む。
	28. 2.5Y3/2 黄褐色	シルト	表面・シルト・底材付・シルト・底材付・シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物付微量含む。
	28b. 2.5Y3/3 黄褐色	シルト	表面・シルト・底材付・シルト・底材付・シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物付微量含む。
	29. SYR3/2 黄褐色	シルト	表面・シルト・底材付・シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物付微量含む。
	29b. SYR3/3 黄赤褐色	シルト	表面・シルト・底材付・シルトブロック(5mm程度)・少量、炭化物付微量含む。
	30. 2.5Y3/2 黄褐色	シルト	表面・底材付。
	31. 2.5Y3/2 黄褐色	シルト	表面・底材付・多量含む、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・底材付微量含む。一部表面熱。
	32a. SYR4/1 黄褐色	シルト	表面・底材付・多量含む。
	32b. 2.5Y3/2 黄褐色	シルト	表面・底材付・多量含む、底材付シルトブロック(5～20mm程度)・多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)・少量含む。
	32c. SYR5/3 にじみ黄褐色	シルト	表面・底材付・底材付シルトブロック(5～20mm程度)・多量、底材付シルトブロック(5mm程度)・底材付微量含む。
	32d. 7.5Y3/3 にじみ 黄褐色	シルト	表面・底材付・多量、炭化物付微量含む。
	33. 2.5Y4/2 黄褐色	シルト	表面・底材付・少量、底材付・炭化物付微量含む。
	34. 2.5Y3/2 黄褐色	シルト	表面・底材付・少量、底材付・炭化物付微量含む。
	34b. 2.5Y3/5 黄褐色	シルト	表面・底材付・少量、底材付・炭化物付微量含む。
住居側の方	1a. 10YR3/2 黄褐色	シルト	表面・シルト・底材付微量含む。
	1b. 10YR4/2 黄褐色	シルト	表面・底材付微量含む、底材付。
	1c. 2.5Y3/1 黄褐色	シルト	表面・底材付微量含む、底材付。
	1d. 10YR4/2 黄褐色	シルト	表面・底材付微量含む、底材付。
	2. 2.5Y4/2 黄褐色	シルト	表面・底材付微量含む、底材付。
周囲(木材部分)	3. 住居側木・第12回に對応。		



SI7 施設觀察表

通構名	平面形	断面 (cm)			備考
		丘側	谷側	深さ	
P1	円形	56 × 51	26	11	E柱穴
P2 (楕円形)	87 × (50)	40	11	6	E柱穴
P3 (楕円形)	(85) × (73)	37	11	6	E柱穴
P4	楕円形	93 × 50	32	11	E柱穴
P5	円形	21 × 20	14	壁柱穴	
P6 (楕円形)	(38) × 36	35	11	6	
P7 (楕円形)	32 × (27)	20	補助柱穴		
P8 (楕円形)	(42) × (39)	14	補助柱穴		
P9	円形	28 × 25	7	弧曲変色	

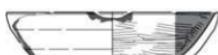
通構名	平面形	断面 (cm)			備考
		丘側	谷側	深さ	
SK1	楕円形	76 × 47	13	11	砂礫穴
SK2	円形	55 × 51	10	10	砂礫穴
SK3	円形	51 × 47	17	17	砂礫穴
SK4	楕円形	55 × 39	15	15	砂礫穴
SK5	円形	77 × 73	10	カマド間連土坑	
SK6	楕円形	115 × 97	18	カマド間連土坑	
SK7	不整方形	74 × 64	10	カマド間連土坑	
SK8	円形	47 × 47	14	カマド間連土坑	
SK9	不整方形	91 × 79	7		

第50図 SI7 穴式住居跡 (2)



S17 施設堆積土目記表

遺構名	層位	土色	土性	備考			
				透視	横断	縦断	柱
P1	1a	SYR86/2 黄褐色	シルト	灰多量、地土ブロック・炭化物ブロックとともに5mm程度) 薄暗含む。※柱跡跡。			
	1b	HOTYR1/2 黄褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度) 多量、地土ブロック(5～10mm程度) 少量、地土微細含む。※柱跡跡。			
	2	HOTYR3/2 黄褐色	シルト	炭化物多量、灰少、地土微細含む。			
	3	HOTYR3/3 にへく黄褐色	シルト	古削土多量、灰少、礫(5mm程度) 多量、地土微細含む。			
P2	4	HOTYR4/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、灰少、炭化物微量含む。			
	5	2.5SY/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、灰少、炭化物微量含む。			
P3	1	7.5SY/2 黑褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、上部に灰少有し。※柱跡跡。			
	2	2.5SY/3 オリーブ褐色	シルト	古削土多量、炭化物微量、地土少々含む。			
P4	3	2.5SY/3 黑褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、上部に灰少有し。※柱跡跡。			
	4	HOTYR4/1 从灰褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、地土ブロック(5～10mm程度) 多量、炭化物微量含む。			
P5	5	HOTYR4/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、炭化物微量含む。			
	6	7.5SY/3 黑褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量含む。			
P6	7	2.5SY/3 黑褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			
	8	HOTYR4/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量含む。			
P7	9	7.5SY/2 黑褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量含む。			
	10	HOTYR4/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量含む。			
SK1	1	2.5SY/2 黄褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			
	2	HOTYR4/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量含む。			
SK2	3	2.5SY/3 黑褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量含む。			
	4	2.5SY/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量含む。			
SK3	5	2.5SY/3 黑褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			
	6	HOTYR4/2 黄褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			
SK4	7	7.5SY/2 从灰褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			
	8	2.5SY/3 黑褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			
SK5	9	2.5SY/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量、地土ブロック(5mm程度) 薄暗含む。			
	10	7.5SY/3 黑褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量、地土ブロック(5mm程度) 薄暗含む。			
SK6	11	2.5SY/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、炭化物微量、地土ブロック(5mm程度) 薄暗含む。			
	12	7.5SY/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			
SK7	13	7.5SY/4 黄褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			
	14	SYR5/3 にへく黄褐色	シルト	古削土ブロック(5～10mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			
SK8	15	2.5SY/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、地土ブロック(5mm程度) 薄暗含む。			
	16	HOTYR4/2 从灰褐色	シルト	古削土多量、地土少々含み、地土ブロック(5mm程度) 薄暗含む。			
SK9	17	2.5SY/3 黑褐色	シルト	古削土少々、礫(10mm程度) 多量、地土少々含み、地土ブロック(5mm程度) 薄暗含む。			
	18	2.5SY/2 从灰褐色	シルト	古削土ブロック(5mm程度) 多量、地土少々含み、地土微細含む。			



1 (底面・SK1堆積土)

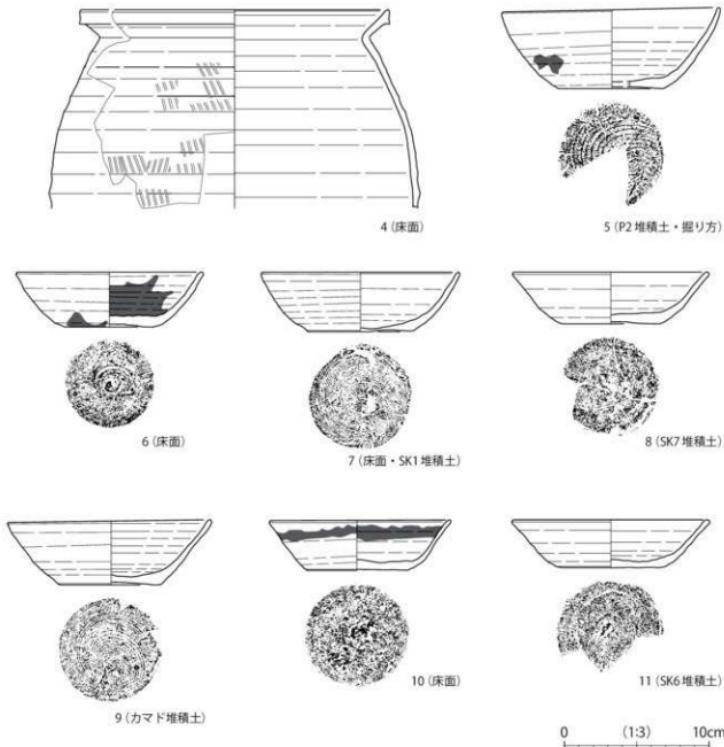
2 (SK2堆積土)

3 (底面)

0 (1:3) 10cm

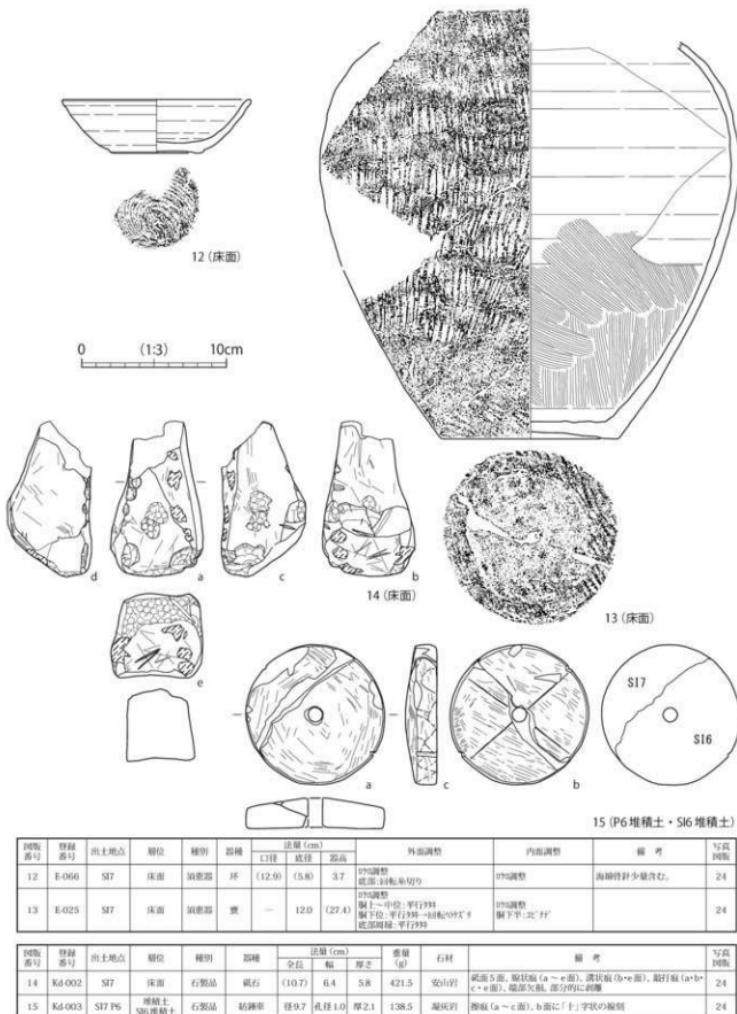
回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	樹種	器種	透視(cm)			外面部調整	内部調整	備考	写真 用意
						口径	横径	高さ				
1	D-009	S17	SK1堆積土	ロクロ	坪	(12.4)	(6.4)	3.5	切妻調整 体:頂～底部、手打ちハサワ	④23+	内面黒色処理。	23
2	D-010	S17 SK4	堆積土	ロクロ	坪	(12.4)	(5.5)	3.9	体:底～中段、手打ちハサワ	④23+	外面部磨減、内面黒色処理、内面底面削除(手引付)	23
3	D-012	S17	床面	ロクロ 土顎	坪	(14.6)	(9.2)	3.9	切妻調整 体:底～底部、手打ちハサワ	④23+	外面部削除(手引付)、内面黒色処理。	23

第51図 S17 穴六住居出土遺物 (1)



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	断面	法量 (cm)	外側調整		内側調整		写真 回数	
							口径	底径	盛高	切削		
4	D-013	S17	床面	ロク口 土器部	横	(21.2)	—	(13.8)	0mm調整 底部:回転刃切り	0mm調整		23
5	E-018	S17	P2堆積土 掘り方	須磨層	坪	(15.0)	7.2	5.6	0mm調整 底部:回転刃切り	0mm調整	外面付付着、内面自然転付 着、重ね焼き組。	23
6	E-019	S17	床面	須磨層	坪	12.8	6.2	3.8	0mm調整 底部:回転刃切り	0mm調整	内外面付着。	23
7	E-020	S17	SK1堆積土	須磨層	坪	13.6	7.4	4.1	0mm調整 底部:回転刃切り	0mm調整	海綿骨針微量含む。	23
8	E-021	S17 SK7	堆積土	須磨層	坪	(13.4)	(6.6)	3.6	0mm調整 底部:回転刃切り+螺旋刃切り	0mm調整	内部大丸頭・火葬場、内外面 摩滅、海綿骨針少量含む。	23
9	E-022	S17 #97	堆積土	須磨層	坪	14.0	6.9	4.5	0mm調整 底部:回転刃切り	0mm調整		23
10	E-023	S17	床面	須磨層	坪	12.5	7.0	3.5	0mm調整 底部:回転刃切り	0mm調整	内外面付着。	23
11	E-024	S17 SK6	堆積土	須磨層	坪	(13.4)	(6.6)	3.3	0mm調整 底部:回転刃切り	0mm調整	外側摩滅。	23

第52図 S17 穴式住居跡出土遺物(2)



第53図 S17 積穴住居出土遺物 (3)



タキは、底部外面の周縁にも施される。第53図-14・15は石製品である。14は砥石で、a～e各面を砥面とする。多数の線状痕や溝状痕のほか、敲打痕や剥離が各所に観察される。石材は安山岩である。15は紡錘車で、径9.7cmの大型品である。a～c面には整形時の擦痕が全体に観察されるほか、b面には「十」字状の線刻が認められる。石材は凝灰岩である。SI6の堆積土中層から出土した破片と接合した。

【時期】 床面やカマドから出土したロクロ土師器環・甕や須恵器環・甕(第51図-3・第52図-4・6・7・9・10・第53図-12・13)の特徴から、A2期(9世紀前半)と考えられる。

SI8A 穫穴住居跡(第54～56図)

【位置・確認】 調査区西部、26・27・31・32区に位置する。当初は1軒の住居として調査に入ったが、住居プランの内側で支脚の残るカマド(火床面)を確認したことから、入れ子状に重複する2軒の住居跡と判断した。断面及び内側で新たに確認したカマドや床面等の状況を再検討し、内側の新しい住居跡をSI8A、外側の古い住居跡をSI8Bとした。検出時の状況は搅乱により床面付近まで削平され、SI8Bとの同時調査のためカマド及びセクションベルトの周囲が残存する。全体範囲は周溝の位置から確認した。

【重複】 SI8Bより新しく、同住居跡とは入れ子状に重複する。

【規模・形態】 検出した規模は長軸345cm、短軸340cmを測り、平面形状は方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-89°-Eを測る。

【堆積土】 大別で17層に分層した。1～4層は暗灰黄色砂質シルト・褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。5層は周溝堆積土である。6～8層はカマド堆積土、9～12層はカマド掘り方埋土、13～17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 SI8Bとの同時調査のため残存しないが、土層断面の記録では直線的にやや外傾して立ち上がるを考えられ、壁高は最大で8 cmを測る。

【床面】 残存部分から概ね平坦であると考えられ、基本層IV層土を多量に混入した灰黄褐色・オリーブ褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。カマド前方には炭化物範囲が広がる。

【周溝】 カマド部分を除き、ほぼ全体の壁面に沿って延びると推定される。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅11～22cm、深さ4～11cmを測る。

【カマド】 東壁中央部のやや南寄りに位置する。袖は残存せず、壁面に対するカマドの付設状況は不明である。燃焼部は壁内に位置し、奥行き78cm、幅51cmの焼面が残存する。焼面の奥壁寄りには自然縛による支脚が1箇所、8cm程度の深さで埋設される。焼面前端の左右には一对の小ピットがあり、袖の芯材を埋設した痕跡と考えられる。煙道部は残存しない。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を確認した。西壁寄りに位置し、平面形状は梢円形と推定される。規模は長軸(推定)98cm、短軸70cm、深さ12cmを測る。底面には2基のピットが南北に並び、南側のピットは平面円形を呈し、長軸30cm、短軸28cm、土坑底面からの深さ27cmを測る。北側のピットは平面円形を呈し、長軸46cm、短軸44cm、土坑底面からの深さ24cmを測る。底面が非常に小さい、漏斗状のピットである。これらのピットを含めSK1は全体が人為的に埋め戻され、上層部には白色粘土ブロックが多量混入する。

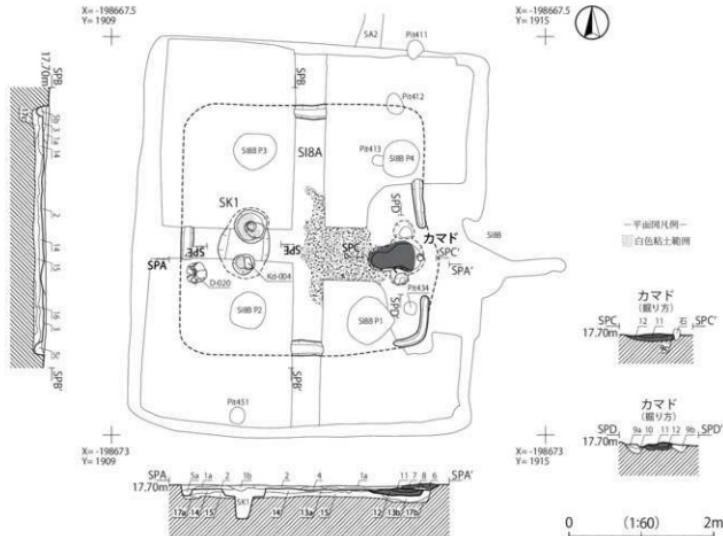
【掘り方】 深さ9～21cmを測り、底面は中央部が高まり、西壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器、須恵器、石製品が出土した。このうち、ロクロ土師器4点、石製品1点を掲載した(第55・56図)。第55図-1～4はロクロ土師器で、1～3は壺、4は鉢である。壺のうち1は底部回転糸切り後、周縁を回転ヘラケズリ調整される。2・3の底部調整は2が手持ちヘラケズリ、3が回転ヘラケズリである。いずれも内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。4の鉢は口径26.0cmの大型鉢で、



口縁部は受口状を呈する。内面は全体がヘラミガキ調整される。第56図-5の石製品は砥石である。a～d各面を砥面とするが、敲打や被熱による火ハネにより砥面は部分的に剥落する。c・d面には深い溝状痕が観察される。石材は安山岩で、大型の粗緻とみられる。

【時期】床面から出土したロクロ土器壺・鉢(第56図-1~4)の特徴や、SI8Bとの新旧関係から、B期(9世紀中頃~9世紀後半)と考えられる。



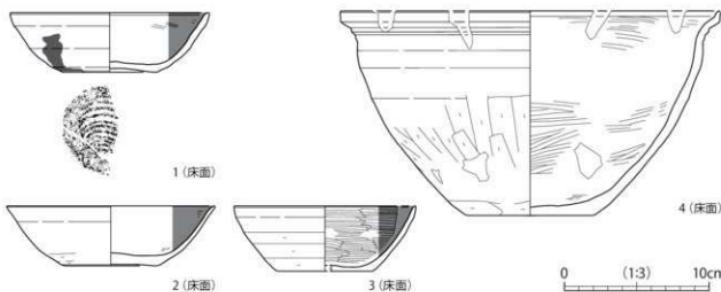
S16A 增積土註記表

部 位	種 類	土 色	性 質	備 考
住居堆積土	1a	2.5YR4/2 塗膜灰土	砂質ルート	N層土被中に少量、埴土・炭化物と微量含む。
	1b	10YR4/2 塗膜黃土	砂質ルート	N層土被中に少量、白粘土・ブロック(5 ~ 20mm程度)・埴土粒・炭化物を混在。
	2	7.5YR1/2 塗膜黃土	シルト	N層土被・ブロック(5mm程度)・埴土・炭化物と微量含む。
	3	7.5YR1/1 塗膜黃土	シルト	N層土被・白色土・土塊(5 ~ 20mm程度)の多量、炭化物と微量含む。
調溝	4	10YR2/3 塗膜黃土	シルト	N層土被・ブロック(5mm程度)の多量、白粘土・土塊・炭化物と微量含む。
	5a	10YR4/1 塗膜黃土	シルト	N層土被に多く、灰色・ルートに少量、埴土・砂粘土微量含む。
	5b	7.5YR2/3 塗膜黃土	シルト	N層土被・埴土・炭化物と微量含む。
	6	5.5YR4/2 塗膜黃土	シルト	N層土被に多く、白色土・土塊・白粘土・ブロック(5mm程度)の少量、炭化物を混在。
カドマ堆積土	6	5.5YR4/2 塗膜黃土	シルト	N層土被に多く、白色土・土塊・白粘土・ブロック(5mm程度)の少量、炭化物を混在。
	7	7.5YR4/2 黄褐色	砂土	埴土・ブロック(5mm程度)の少量、灰少・埴土・土塊・炭化物微量含む。
	8	7.5YR4/3 塗膜黃土	シルト	N層土被・ブロッ(5mm程度)の少量、埴土・砂粘土微量含む。
	9	7.5YR4/1 黄褐色	シルト	灰化土・少量・埴土・炭化物と微量含む。
カドマ掘り方	9a	2.5YR4/2 灰褐色	シルト	N層土被と少量、灰色・ルート・焼土・ブロック(10mm程度)・炭化物を混在。
	9b	7.5YR1/1 塗膜黃土	シルト	埴土と多量、灰少・埴土・炭化物微量含む。
	10	2.5YR4/3 オリーブ褐色	シルト	N層土被と多量、埴土・炭化物と微量含む。
	11	2.5YR4/1(2) 塗膜黃土	シルト	硬く剥離する、非燃燒土
住居掘り方	12	2.5YR4/2 灰褐色	シルト	全体灰化・無機・半燃燒土
	13a	7.5YR4/2 黑褐色	シルト	N層土被・ブロック(5 ~ 10mm程度)・炭化物・灰多量、埴土と少量含む。
	13b	7.5YR4/2 黑褐色	シルト	N層土被・ブロック(5 ~ 10mm程度)・炭化物・灰多量、埴土と少量含む。
	14	10YR4/2 塗膜黃土	シルト	N層土被に多量、埴土・土塊・白粘土・炭化物と微量含む。
	15	2.5YR4/3 オリーブ褐色	シルト	N層土被・灰多量、灰少・土塊灰土に少量、埴土・炭化物と微量含む。
	16	10YR5/3(2) 黃褐色	シルト	N層土被・灰多量、炭化物微量含む。
	17a	2.5YR4/2 塗膜黃土	シルト	N層土被・灰多量、埴土・土塊・炭化物と微量含む。
	17b	7.5YR3/3 黄褐色	シルト	N層土被・灰多量、埴土・土塊・少量含む。
	17c	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	N層土被・灰多量、埴土・砂粘土微量含む。

第54図 SI8A竪穴住居跡(1)



道耕名	層位	土色		土性	備考
		1	2		
SK1		7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR4/3 黄褐色	シルト	白色粘土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
				N層上層土中に多量、白色粘土ブロック(5mm程度)少量、炭化物を微量含む。	
		10YR4/3 にぶい黄褐色		シルト	古層土中に多量、炭化物を微量含む。



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法線(cm)			外沿調整	内沿調整	備考	有真 跡地
						口径	底径	高さ				
1	D-017	SI8A	床面	ロクロ 土器部	环	13.7	6.6	4.1	口沿 体下端 底部-内側-舟切り-底部 舟下端-底部-手括り(アーチ)	内沿 舟下端-底部-舟括り(アーチ)	外沿 舟付着、内面磨滅、内面 黑色處理	24
2	D-018	SI8A	床面	ロクロ 土器部	环	(14.2)	(6.4)	4.2	口沿調整 体下端-底部-手括り(アーチ)	内沿 舟下端-底部-舟括り(アーチ)	内外面磨滅、内面黑色處理	24
3	D-019	SI8A	床面	ロクロ 土器部	环	(12.5)	(6.6)	4.5	口沿調整 体下端-底部-舟括り(アーチ)	内沿 舟下端-底部-舟括り(アーチ)	内面黑色磨滅、内面底面凹削 状(アーチ)	24
4	D-020	SI8A	床面	ロクロ 土器部	环	(26.0)	(8.0)	14.2	口沿調整 体下端-底部-舟括り(アーチ)	内沿 舟下端-底部-舟括り(アーチ)	外表面下平磨滅、内面磨滅	24

第55図 SI8A竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)

SI8B竪穴住居跡(第57~59図)

【位置・確認】 調査区西部、26・27・31・32区に位置する。掲乱により床面付近まで削平され、床面はカマド周辺と四壁際のみが残存する。

【重複】 SI8Aより古く、同住居跡とは入れ子状に重複する。

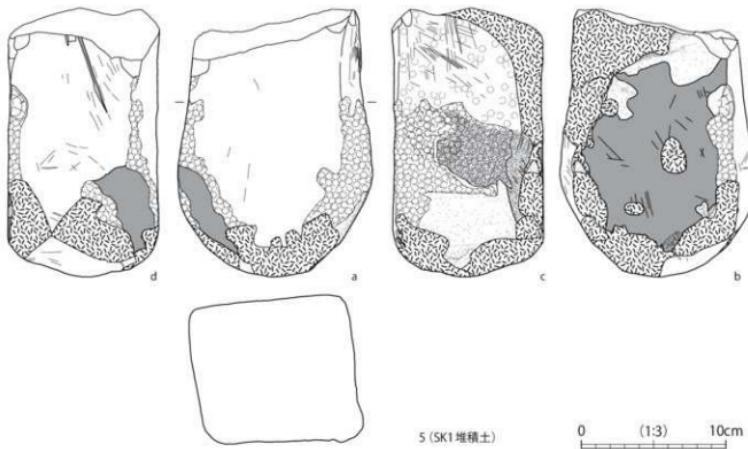
【規模・形態】 検出した規模は長軸545cm、短軸481cmを測り、平面形状は若干南北に長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-92°-Eを測る。

【堆積土】 大別で16層に分層した。1~3層にはにぶい黄褐色砂質シルト・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。4層は肩溝堆積土である。5~7層はカマド堆積土、8~13層はカマド掘り方理土、14~16層は住居掘り方理土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がる。壁高は最大で9cmを測る。

【床面】 残存部分から概ね平坦であると推定され、基本層IV層土を多量に混入した灰黄褐色・にぶい黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。



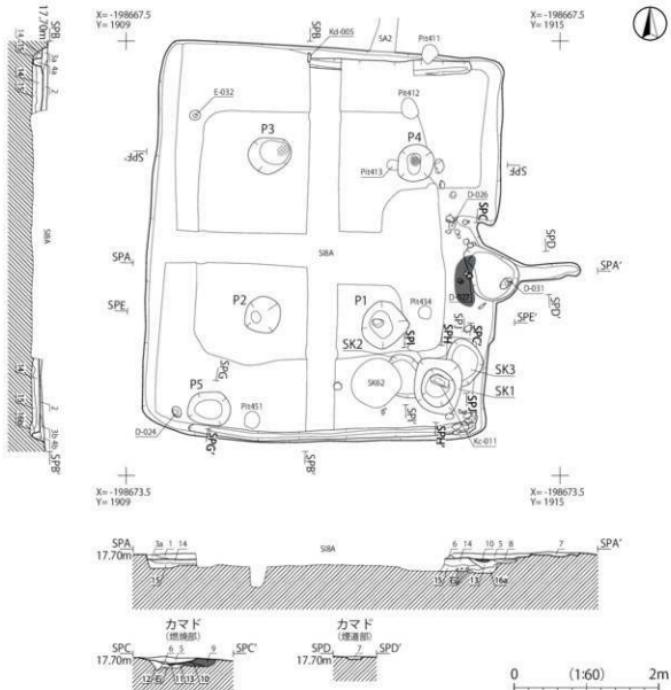
第56図 SI8A 穴住居跡出土遺物(2)

【柱穴】 床面で5基(P1～5)確認した。規模や位置関係から、P1～4は主柱穴と考えられる。P2～3は上部が失われているが、規模は残存値で長軸51～62cm、短軸49～58cm、深さ35～52cmを測る。P4で径14cm程度の柱痕跡を確認し、P3・4の底面には径12～15cm程度の変色範囲を確認した。P1の底面からは礎盤石とみられる扁平な自然礫が出土した。P5は補助柱穴と思われる。

【周溝】 南壁と北壁の壁面に沿って延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅11～19cm、深さ5～9cmを測る。

【カマド】 東壁中央部のやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は北袖のみが残存し、壁面に対し「ハ」字状に延びる。規模は長さ59cm、幅15～39cmを測り、先端部は失われている。袖は基本層IV層に近似したシルトを突き固めて構築される。燃焼部は壁内と壁外にまたがり、奥壁側1/2程度が壁外に位置する。規模は奥行き89cm、幅101cm程度が残存する。底面は浅く掘り込まれ、長径44cm程度の焼面が形成される。奥壁は外傾して3cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は壁面から10°北に振れて付設され、底面は概ね平坦である。規模は長さ85cm、幅18～22cm、深さ3～4cmを測る。

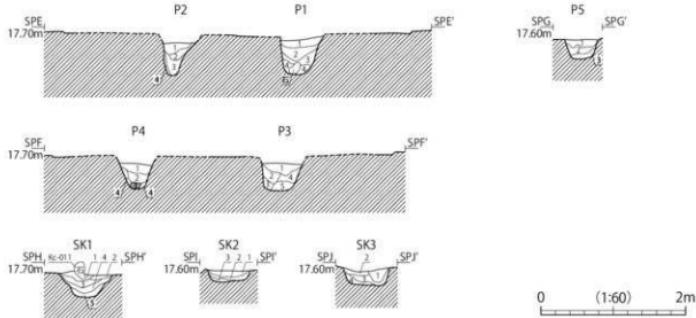
【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を確認した。SK1は南東コーナー付近に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。SK1と重複するSK2・3も同様の性格が考えられる。いずれも上部が失われているが、残存でSK1の平面形状は梢円形を呈し、規模は長軸76cm、短軸65cm、深さ36cmを測る。人為的に埋め戻され、上部が



S18B 堆積土註記表

位 置	層位	土 色	土 性	備 考
住戸堆積土	1	10YR4/2 朱黃褐色	砂質シルト	N層土質に少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 朱黃褐色	シルト	N層土プロック(5~10mm程度)、灰褐色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	N層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3b	2.5Y4/3 類灰褐色	シルト	N層土粒多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
周溝	4a	2.5Y3/3 黄褐色	シルト	N層土粒多量、礫(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4b	2.5Y3/3 オリーブ褐色	シルト	N層土粒多量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	5	5YR4/1 地蔵色	シルト	礫土プロック(5~10mm程度)多量、N層土粒・白色粘土プロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	6	7.5YR4/1 地蔵色	シルト	シルト・白色粘土プロック(5mm程度)多量、N層土粒微量含む。
カマド解り方	7	2.5Y3/2 類灰褐色	シルト	N層土質に少量、砂・粘土颗粒多量含む、分体的・崩・被熟。
	8	2.5Y3/3 オリーブ褐色	シルト	N層土プロック(5~20mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)・被熟・炭化物粒微量含む。
	9	5YR3/2 類灰褐色	シルト	N層土質に少量、砂・粘土颗粒多量含む、分体的・崩・被熟。
	10	2.5YR4/4 朱・赤褐色	シルト	灰褐色シルトプロック(5mm程度)微量含む、分体的・崩・被熟。
住戸解り方	11	2.5YR4/2 朱褐色	シルト	被土プロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む、表面被熟。
	12	2.5YR4/2 朱赤褐色	シルト	被土プロック(5mm程度)・灰褐色シルト・地上土少量、炭化物粒微量含む。
	13	7.5YR4/2 朱褐色	シルト	N層土・被土頂面に多量、礫(20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	14	10YR5/2 朱褐色	シルト	N層土頂面に多量、白色粘土・被土・炭化物粒微量含む。
16a	15	10YR5/2 朱・朱褐色	シルト	N層土頂面に多量、被土・炭化物粒微量含む。
	16b	2.5Y3/3 オリーブ褐色	シルト	N層土頂面に多量含む。

第57図 S18B 穴式住跡(1)



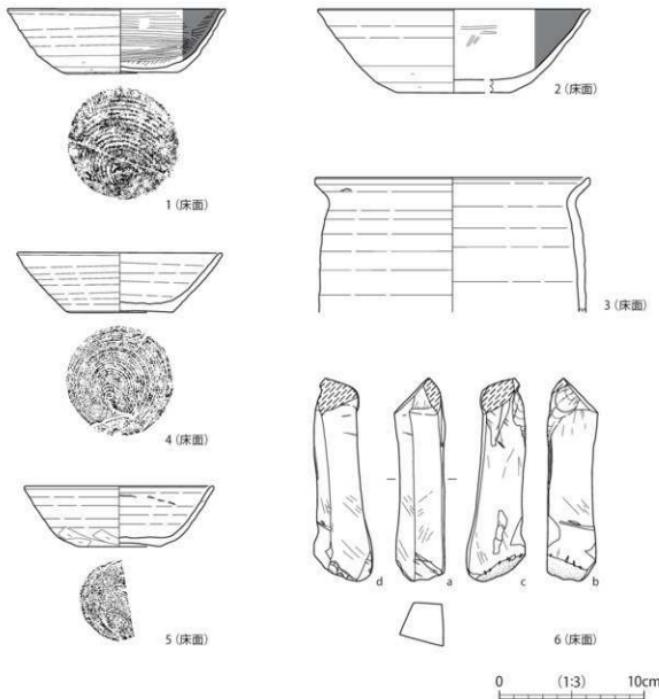
SI8B 旅宿跡土試記表

道標名	場所	土色	土性	備考	
				1	2
P1	1 IOTYR6/4 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒微量含む。		
	2 IOTYR5/4 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒微量含む。		
	3 IOTYR4/3 に近い 黄褐色	シルト	古耕土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、微細な砂・炭化物粒微量含む。		
	4 IOTYR4/2 灰褐色	シルト	粗砂多量、礫 (5 ~ 40mm程度) 少量含む。		
P2	1 IOTYR6/4 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒微量含む。		
	2 IOTYR5/4 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒微量含む。		
	3 IOTYR4/3 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に少量、微細な砂・炭化物粒微量含む。		
	4 IOTYR5/3 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、含む。		
P3	1 IOTYR5/4 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。		
	2 IOTYR5/3 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。		
	3 IOTYR4/1 黄褐色	シルト	古耕土層中に少量含む。		
	4 IOTYR4/3 に近い 黄褐色	シルト	古耕土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量、炭化物粒少量含む。		
P4	1 IOTYR4/2 灰褐色	シルト	古耕土層中に多量、灰白色シルトブロック (5mm程度)・微細な砂含む。		
	2 IOTYR3/2 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、灰白色シルトブロック (5mm程度)・微細な砂含む。		
	3 IOTYR3/3 黄褐色	シルト	古耕土層中に少量含む。		
	4 IOTYR4/3 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、灰白色シルト層状に少量含む。		
P5	1 IOTYR4/3 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。		
	2 IOTYR5/3 に近い 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。		
	3 7.5YR4/3 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、灰白色シルトブロック (5mm程度)・炭化物粒微量含む。		
	4 7.5YR4/2 灰褐色	シルト	灰色シルトブロック (5 ~ 30mm程度) 少量、N耕土・微細な砂含む。		
SK1	2 IOTYR3/3 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、微細な砂含む。		
	3 IOTYR4/1 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、微細な砂含む。		
	4 9Y5/2 灰色リバーブ	シルト	古耕土層中に多量含む。		
	5 7.5YR3/3 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、微細な砂含む。		
SK2	1 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量、微細な砂・炭化物粒微量含む。		
	2 2.5Y4/2 灰褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量、微細な砂・炭化物粒微量含む。		
	3 2.5Y5/1 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒ブロック (5mm程度) 少量、微細な砂・炭化物粒微量含む。		
	4 2.5Y4/2 灰褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒少量、礫 (5mm程度)・微細な砂・炭化物粒微量含む。部分的にグライ化。		
SK3	1 2.5Y4/1 黄褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒少量、微細な砂・炭化物粒微量含む。		
	2 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	古耕土層中に多量、炭化物粒少量、礫 (5mm程度)・微細な砂・炭化物粒微量含む。		
	3 2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	古耕土層中に少量、灰色シルト粒少量、礫 (5mm程度)・微細な砂・炭化物粒微量含む。		
	4 2.5Y4/2 灰褐色	シルト	古耕土層中に少量、灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。		

SI8B 旅宿跡解説表

道標名	平面形	断面 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(62) × (58)	(52)	主耕穴・磯砾石
P2	(円形)	(54) × (50)	(45)	主耕穴
P3	(円形)	(59) × (51)	(36)	主耕穴・藍面変色
P4	(円形)	(51) × (49)	(35)	主耕穴・藍面変色
道標名	平面形	長軸×短軸	深さ	備考
P5	(椭円形)	(59) × (47)	30	磯砾石穴
SK1	(椭円形)	(70) × (65)	36	若礫穴
SK2	(椭円形)	(60) × (40)	(17)	若礫穴
SK3	(椭円形)	(55) × (45)	28	若礫穴

第58図 SI8B 穴式住居跡 (2)



0 (1:3) 10cm

图号 番号	登记 番号	出土地点	层位	种类	器种	法量(cm)			外剖调整	内剖调整	備考	写真 回数
						口径	底径	高				
1	D-024	S18B	床面	口徑12 土崩器	环	14.9	7.6	4.5	刃切調整 体下部-底部-回転六切X 9 底部-刃切系切り-規範回転六切X 9	刃切X	内面黑色處理。	25
2	D-025	S18B	床面	口徑10 土崩器	环	(18.7)	(8.1)	5.8	刃切調整 体下半-底部-回転六切X 9	刃切X	内面黑色處理。内面厚壁。	25
3	D-026	S18B	床面	口徑12 土崩器	小型盤	(18.8)	—	(9.3)	刃切調整	刃切調整		25
4	E-032	S18B	床面	直唇器	环	14.1	7.1	4.2	刃切調整 底部-刃切系切り	刃切調整	内面斜削無含む。	25
5	E-033	S18B	床面	直唇器	环	(13.0)	(5.6)	4.2	刃切調整 底部-刃切系切り	刃切調整	外周口縁部・内面体側に自然 軸付着。	25

图号 番号	登记 番号	出土地点	层位	种类	器种	法量(cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 回数
						全长	幅	厚度				
6	E-005	S18B	床面	石製品	砾石	(14.1)	3.5	4.1	203.4	褐色	直面4面、横斜面(a~d面)、横平面(a~c+d面)、端面5面	25

第59図 S18B 穫穴住居跡出土遺物



らは長径25cm程度の台石が出土した。SK2の平面形状は楕円形を呈し、長軸60cm、短軸40cm、深さ17cmを測る。SK3の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸55cm、短軸45cm、深さ28cmを測る。これらも人為的に埋め戻されている。

【掘り方】 深さ7～25cmを測り、底面は中央部が高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、石製品が出土した。このうち、ロクロ土師器3点、須恵器2点、石製品1点を掲載した(第59図)。1～3はロクロ土師器で、1・2は壺、3は甕である。壺の底部調整は1が回転糸切り後、周縁を回転ヘラケグリ調整される。2は体部下半まで回転ヘラケグリ調整される。1・2ともに内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。3の甕は小型甕で胴部の張りが弱く、残存部では円筒状を呈する。4・5はともに須恵器の壺で、底部はともに回転糸切り無調整である。6の石製品は砥石である。a～d各面を砥面とし、石材は凝灰岩である。

【時期】 床面から出土したロクロ土師器壺・甕や須恵器壺(第59図-1～5)の特徴や、SI8Aとの新旧関係から、A2期(9世紀前半)と考えられる。

SI9竪穴住居跡(第60～62図)

【位置・確認】 調査区中央部、22・23・27・28・32・33区に位置する。壁の上部は平安時代～中世のSD6・7との重複により失われている。

【重視】 SK75より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸454cm、短軸447cmを測り、平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-16°-Wを測る。

【堆積土】 大別で21層に分層した。1～7層は暗灰黄色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。8層は周溝堆積土である。9～12層はカマド堆積土、13～17層はカマド構築土で、このうち13層は燃焼部底面、14～17層は袖の構築土である。16a層は東袖内部の被熱層で、カマドの造り替えもしくは補修を示すと考えられる。18層はカマド掘り方理土、19～21層は住居掘り方理土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で25cmを測る。

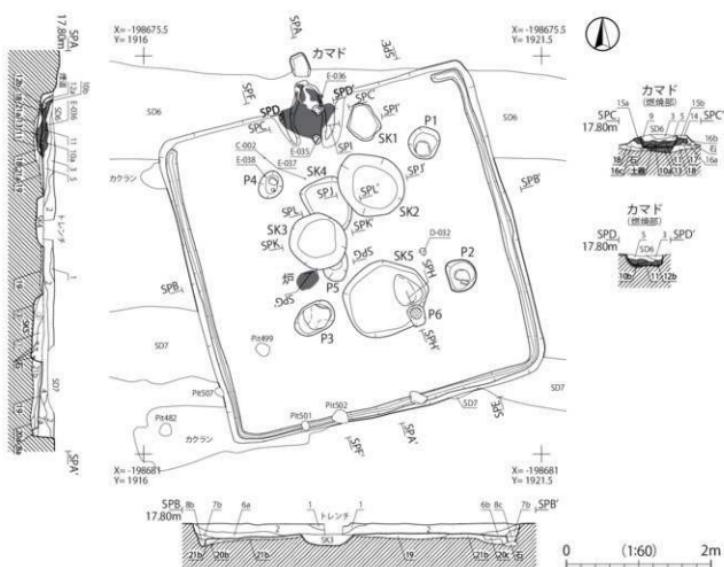
【床面】 中央部が若干高まり、四壁方向へと低くなる。基本層IV層土を多量に混入したオリーブ褐色シルト主体の埋上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)確認した。規模や位置関係からP1～4は主柱穴と考えられ、規模は長軸38～59cm、短軸32～41cm、深さ25～40cmを測る。いずれの底面からも礎盤石とみられる扁平な自然礎が出土した。P5・6は補助柱穴と考えられ、P6の底面には径20cm程度の変色範囲を確認した。

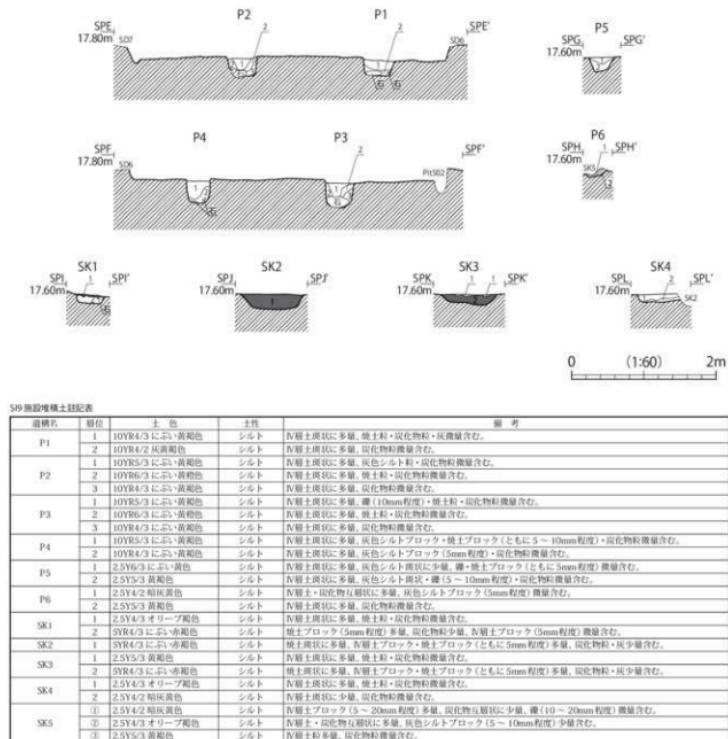
【周溝】 北壁の大半部分を除き、壁面に沿って「コ」字状に延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅7～16cm、深さ4～10cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設される。袖は壁面に対し馬蹄形に延び、規模は東袖が長さ62cm、幅8～26cm、西袖が長さ47cm、幅8～10cmを測る。袖は基本層IV層に近似したシルトを突き固めて構築される。東袖の構築材内部には一部焼面を確認した。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き95cm、幅49cmを測る。底面は平坦で、袖を含む内部全体に焼面が形成される。底面を覆う天井の崩落土直上からは、第62図-2・3の須恵器壺が正位で出土した。奥壁は外傾して14cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は前端部のみが残存し、規模は長さ38cm、幅24cm、深さ1～4cmを測る。

【炉】 中央部の西寄りに位置し、掘り込みを作わない被熱範囲である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸32cm、短軸24cmを測る。



第60図 SI9 穴住居跡 (1)



第61図 SI9竪穴住居跡(2)

【その他の施設】床面で5基(SK1～5)の土坑を確認した。SK1はカマドの東脇に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸54cm、短軸45cm、深さ25cmを測る。人為的に埋め戻され、多量の焼土が混入する。SK2～5は中央部付近に位置し、このうちSK4を中心としてSK2・3が重複する。SK2の平面形状は円形を呈し、規模は長軸97cm、短軸85cm、深さ22cmを測る。SK3の平面形状は円形を呈し、規模は長軸



81cm、短軸74cm、深さ17cmを測る。SK4の平面形状は梢円形を呈し、規模は長軸77cm、短軸52cm、深さ12cmを測る。SK5の平面形状は円形を呈し、規模は長軸115cm、短軸102cm、深さ15cmを測る。これらはいずれも人為的に埋め戻され、SK2・3では多量の焼土のほか、炭化物・灰が混入する。これらの埋土を水洗したところ、被熱した粘土塊が多量、骨片が少量出土した。カマド関連の土坑と考えられる。

【掘り方】 深さ2~17cmを測り、底面は中央部の北寄りが高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器が出土した。このうち、ロクロ土師器1点、須恵器2点を掲載した(第62図)。1はロクロ土師器の壺で、外縁の体へ底部はヘラケズリ調整される。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。2・3は須恵器の壺で、ともに完形に近く、底部は回転ヘラ切り未調整である。

【時期】 床面やカマドから出土したロクロ土師器壺や須恵器壺(第62図-1~3)の特徴から、A2期(9世紀前半)と考えられる。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	外縁調整		内面調整	備 考	写真 回数	
							口径	底径				
1	D-032	SI9	床面	ロクロ 土師器	壺	(10.1)	6.1	4.2	口縁部:3.3(?) 体部~底部:手付ちみ付(?)	A1A'1	内面黒色處理。	25
2	E-035	SI9 89'	堆積土	須恵器	壺	13.9	7.3	4.0	口縁部:調整 底部:回転ヘラ切り	B7B'7	海綿骨針微量含む。	25
3	E-036	SI9 89'	堆積土	須恵器	壺	13.9	6.8	3.9	口縁部:調整 底部:回転ヘラ切り	B7B'7	外縁:3脚ねじねじき底。海綿 骨針微量含む。	25

第62図 SI9 穫穴住居跡出土遺物

SI10 穫穴住居跡 (第63・64図)

【位置・確認】 調査区南西部、47・52区に位置する。中央部は擾乱により失われ、南北に分断される。南壁も擾乱を受けている。

【重複】 SK73・74より古く、SI13より新しい。

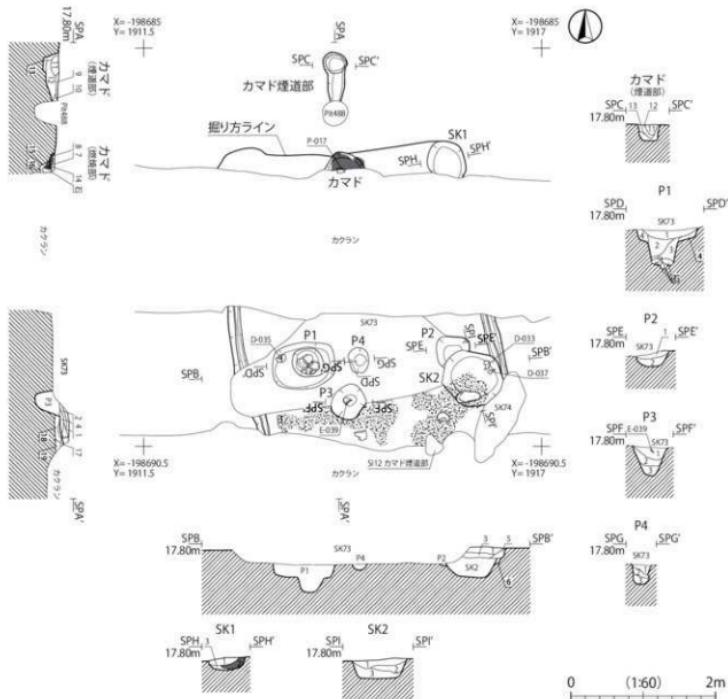
【規模・形態】 検出した規模は長軸420cm以上、短軸368cmを測り、平面形状は南北に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-6°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1~5層は暗灰黄色砂質シルト・オリーブ褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。6層は原溝堆積土である。7~13層はカマド堆積土、14~16層はカマド掘り方理土、17~19層は住居掘り方理土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で14cmを測る。

【床面】 概ね平坦と思われるが、残存部分が少なく不明である。基本層IV層土を多量に混入したオリーブ褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。南側には炭化物が広がっている。



SI10 墓地標記表

面積	部位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	2.5Y4/2 黄灰褐色	砂質シルト	IV崩土中に少量、焼土粒・炭化物和微量含む。
	2	SY4/2 灰オリーブ褐色	シルト	IV崩土粒・炭化物和多量、灰シルト和微量含む。
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	IV崩土粒多量、炭化物和少量、燒土粒和微量含む。
	4	2.5Y6/3 オリーブ褐色	シルト	IV崩土粒中に多量、燒土粒・炭化物和微量含む。
	5	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV崩土粒中多量、炭化物和微量含む。
園溝	6	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV崩土粒中多量、炭化物和微量含む。
	7	SY4/2 黄褐色	シルト	IV崩土粒中・土壤プロック(ともに5mm程度)多量、炭化物粒・灰微量含む。
	8	7.5Y4/2 黄褐色	シルト	IV崩土粒中・土壤プロック(ともに5mm程度)多量、炭化物粒・灰微量含む。
	9	7.5Y3/1 黄褐色	シルト	IV崩土粒中・土壤プロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒・灰微量含む。
	10	2.5Y4/2 黄灰褐色	シルト	IV崩土粒中・土壤プロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒・灰微量含む。
	11	2.5Y4/2 黄灰褐色	シルト	IV崩土粒中・土壤プロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒・灰微量含む。
カマド堆積土	12	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV崩土粒中・土壤プロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒・灰微量含む。
	13	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV崩土粒中・土壤プロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒・灰微量含む。
	14	SYR5/2 黄褐色	シルト	崩土プロック(5mm程度)・燒土粒中多量、IV崩土粒中・土壤プロック(5mm程度)少量、炭化物粒・灰微量含む。
	15	SYR4/2 黄褐色	シルト	崩土粒中・土壤プロック(5mm程度)少量、IV崩土粒中・土壤プロック(5mm程度)少量、炭化物粒・灰微量含む。
	16	10YRS/3 にふい 黄褐色	シルト	IV崩土粒中多量、灰シルト・燒土粒中・炭化物粒・灰微量含む。
カマド割り力	17	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV崩土・灰シルト・土壤プロック(5mm程度)少量、燒土粒・炭化物粒・灰微量含む。
	18	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV崩土粒中多量、灰シルト・燒土粒中・炭化物粒・灰微量含む。
	19	2.5Y4/2 黄灰褐色	シルト	IV崩土・灰シルト・土壤粒・少量、炭化物粒・灰微量含む。

第63図 SI10 穴式住居跡



S110 试验堆土柱記表

概 要			
造構名	目次	主 色	主 性
P1	1	10YR4/4 基礎色	シルト 瓦礫土質に少強、灰色シルト質状・炭化物和微量含む。
	2	10YR4/3に5に7 基礎色	シルト 瓦礫土質に多強、灰色シルト質状・炭化物和微量含む。
	3	10YR4/2 基礎色	シルト 瓦礫土質に多強、炭化物和微量含む。
	4	10YR5/3に5に7 基礎色	シルト 瓦礫土質に多強含む。
P2	1	10YR4/3に5に7 基礎色	シルト 瓦礫土質に少強、薄 (5mm程度)・炭化物和微量含む。
	2	10YR5/3に5に7 基礎色	シルト 瓦礫土質に多強、灰色シルト質状・炭化物和微量含む。
P3	1	10YR4/2 基礎色	シルト 瓦礫土・灰色シルト質状に少量、炭化物和微量含む。
	2	10YR5/4 基礎色	シルト 瓦礫土・灰色シルト質状に少量、炭化物和微量含む。
	3	10YR5/3 基礎色	シルト 瓦礫土質に少強含む。
P4	1	10YR4/3に5に7 基礎色	シルト 瓦礫土質に少強、灰色シルト質状・機十種・炭化物和微量含む。
	2	10YR4/2 基礎色	シルト 瓦礫土質に少強、灰色シルト質状・炭化物和微量含む。
SK1	1	10YR5/3に5に7 基礎色	シルト 瓦礫土質に少強、機十種・炭化物和微量含む。
	2	10YR4/2 基礎色	シルト 瓦礫土質に多強、機十種・炭化物和微量含む。
	3	10YR5/3に5に7 基礎色	シルト 瓦礫土質に多強、炭化物和微量含む。
SK2	1	10YR4/2 基礎色	シルト 瓦礫土・灰色シルト質状・炭化物和少強、機十種和微量含む。
	2	10YR4/2 基礎色	シルト 瓦礫土・灰色シルト質状に少強、機十種・炭化物和微量含む。
	3	10YR4/3に5に7 基礎色	シルト 瓦礫土質に多強、機十種・炭化物和微量含む。

S110 试验堆土表

概 要			
造構名	平面形	周長(cm)	備 考
P1	(楕丸方形)	(87) × (65) (41)	主柱穴
P2	(楕丸方形)	(46) × (42) 23	主柱穴
P3	(楕丸方形)	(49) × (42) 37	補助柱穴
P4	(椭円形)	(36) × (27) (28)	補助柱穴
SK1	(円形)	(56) × 51 (19)	の礎穴
SK2	(円形)	(82) × 77 27	

【柱穴】 床面で4基(P1~4)確認した。規模や位置関係からP1・2は主柱穴と考えられ、規模は長軸46~87cm以上、短軸42~65cm以上、深さ23~41cm以上を測り、P1はP2の二倍近い規模をもつ。ともに柱跡は確認されなかつたが、P1の下部からは多量の自然礫が出土した。P3・4は補助柱穴と思われる。

【周溝】 残存部では北壁を除き、東西の両壁面に沿って延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅6~20cm、深さ6~8cmを測る。

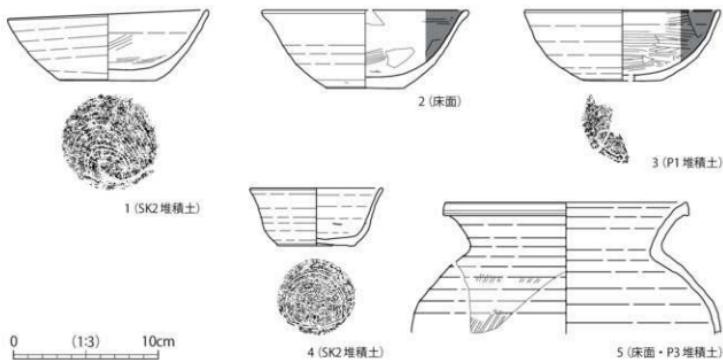
【カマド】 北壁中央部に位置し、奥壁と煙道部の煙出し付近が残存する。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き25cm、幅56cmが残存する。底面は土坑状を呈し、直方体に加工した粘土ブロックによる支脚が1箇所、10cm程度の深さで埋設される。燃焼部の内部には全体に焼面が形成される。奥壁は外傾して6cm以上立ち上がるが、煙道部との接続部分は失われる。煙道部は壁に直交して延び、底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ138cm(復元値)、幅15~23cm、深さ11~22cmを測る。煙出しは長軸33cm、短軸29cm程度のピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を確認した。SK1は南東コーナーに位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸56cm以上、短軸51cm、深さ19cm以上を測る。内部には多量の焼土が入り込み、人為的に埋め戻される。SK2は南東部の東壁際に位置する。平面形状は円形を呈し、長軸82cm以上、短軸77cm、深さ27cmを測る。

【掘り方】 深さ5~20cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器が出土した。このうち、ロクロ土師器3点、須恵器2点を掲載した(第64図)。1~3はロクロ土師器の杯である。1~3はいずれも底部が回転糸切りで、1・3は未調整、2は回転ヘラケグリ調整される。2・3の内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。4・5は須恵器で、4は口径9.0cmの小型の壺である。大半が重複するSK73からの出土であるが、一部が本住居跡から出土した破片と接合したため第64図に示した。5は甕の口縁部・胴部上位の破片である。口縁部には突帶を巡らす。

【時期】 床面から出土したロクロ土師器杯や須恵器甕(第64図-1・5)の特徴や、S112との新旧関係から、B期(9世紀中頃~9世紀後半)と考えられる。



项目号	保养品序号	出土地点	部位	病害类别	病害名称	法线 (cm)			外部调整	内部调整	参考	预算金额
						上径	下径	高差				
1	D-033	SH10 SK2	堆植土	クロクサ	茎腐病	(13.8)	6.4	4.9	右↑调整 底座↓切削	右↑调整 底座↓切削	外圈	25
2	D-034	SH10	床面	クロクサ	茎腐病	(15.0)	5.8	5.4	左↑调整 底座↓切削 底座↓切削	左↑调整 底座↓切削	内面黑色修理。内外圈磨损。	25
3	D-035	SH10 P1	堆植土	クロクサ	茎腐病	(13.4)	(5.4)	4.9	右↑调整 底座↓切削	右↑调整 底座↓切削	内面黑色修理。	25
4	E-040	SH10 SK2	堆植土	茎腐病	霉	(9.0)	5.2	4.0	右↑调整 底座↓切削	右↑调整	内面黑色修理。	25
5	E-039	SH10	P3(球茎)	茎腐病	霉	(16.6)	—	(8.1)	左↑位→中位(平行)	左↑调整	海綿件多錫盒包。	25

第64図 SI10竪穴住居跡出土遺物

SI11 穴住居跡(第65図)

【位置・確認】 調査区南西端部、56区に位置する。掘り方底面まで攪乱を受けており、床面施設のみが残存する。南側及び西側は調査区外へ延びるものと推定される。

【重複】 なし。

【規模・形態】 不明だが、残存する床面施設の位置関係から、規模は長軸315cm、短軸271cmを超えると推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-89°-Eが推定される

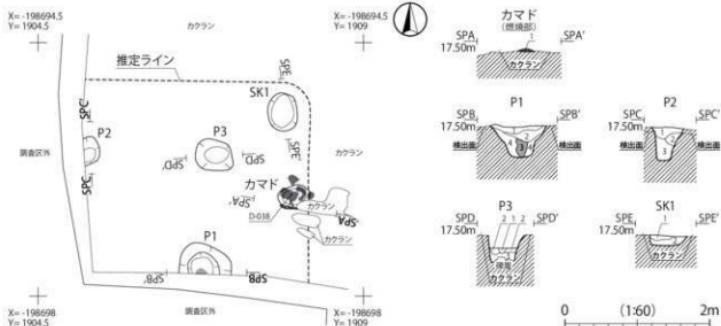
【堆積土】カマド掘り方部分のみ調査された。褐斑角シルトの埋土である。

【柱穴】 3基(P1～3)確認した。規模や位置関係からいずれも主柱穴と考えられる。規模は残存値で長軸36～72cm、短軸28～44cm、深さ26～41cmを測る。P1では約16cm程度の柱穴跡が確認された。

【カマド】 東壁に位置し、燃焼部掘り方の底面付近のみが残存する。燃焼部は壁内に位置すると考えられ、掘り方は平面積円形を呈する。規模は奥行き45cm、幅32cmを測る。掘り方の内外には焼土が分布し、カマド構築材の一部とされるわざ焼鉄礫が1点出土した。

【その他の施設】 1基(SK1)の土坑を確認した。カマドの北側に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。又南北2基は焼却場を以て、相模大野在住で長野 52歳、飯田 40歳、酒井 19歳を測る。

【出土物】検出時やカブド掘れ左内から十師里、須彌羅の破片が少量出土したが、いざれも同化できなかつた。



SII 增量土註記表

基 位	轉 位	土 色	土 性	備 考
かまど裏り方	1	5YR4/2 鹿皮色	シルト	純土ブロック(5 ~ 30mm程度)多量、IV 硫土ブロック(5mm程度)・炭化物和少量含む。全体が薄く被熱。

SII 施設堆積土跡記表

菌種名	解説	性状	参考	
			菌系	菌絲
P1	1. 25%4/葉黒色	シルト	西脇氏疾原に多量、炭化物を産せず。	
	2. 25%4/暗赤褐色	シルト	西脇氏疾原に少量、灰色のルート形成、炭化物を産せず。	
	3. 25%4/灰黒色	シルト	西脇氏疾原、炭化物を産せず。非単枝菌。	
	4. 10%Vf/赤黒褐色	シルト	西脇氏疾原に少量、炭化物を産せず。	
P2	1. 25%4/暗褐色	シルト	西脇氏疾原に多量、菌(5mm程度)、炭化物を産せず。	
	2. 10%Vf/赤褐色	シルト	西脇氏疾原に少量、発生枝、炭化物を産せず。	
	3. 7.5%Vf/暗褐色	シルト	西脇氏疾原に少量、菌(5mm程度)、炭化物を産せず。	
	4. 7.5%Vf/暗褐色	シルト	西脇氏疾原に少量、菌(5mm程度)、炭化物を産せず。	
P3	2. 75%Vf/暗褐色	シルト	西脇氏疾原に少量、炭化物を産せず。	
	3. 75%Vf/深褐色	シルト	西脇氏疾原に少量、菌(5～10mm程度)、炭化物を産せず。	
	4. 75%Vf/深褐色	シルト	西脇氏疾原に多量、灰色のルート形成に量、炭化物を産せず。	
SK1	1. 75%Vf/3胞子	シルト	西脇氏疾原に多量、炭化物を産せず。	
	2. 75%Vf/4胞子	シルト	西脇氏疾原に少量、炭化物を産せず。	

SII 指数观察表

造模名	平面形	規範		備 考
		長軸-短軸	深さ	
P1	(円形)	(72) × (43)	(41)	上柱穴
P2	(円形)	(36) × (28)	(20)	下柱穴

造模名	平面形	規範		備 考
		長軸-短軸	深さ	
P3	(不整円形)	(50) × (44)	(36)	上柱穴
SK1	(橢円形)	(53) × (40)	(18)	下柱穴

第65図 SI11竪穴住居跡

【時期】 図化はできなかったが、ロクロ土師器壺の底部付近の破片が出土しており、その特徴からA2期（9世紀前半）と考えられる。

SI12 積穴住居跡（第66・67図）

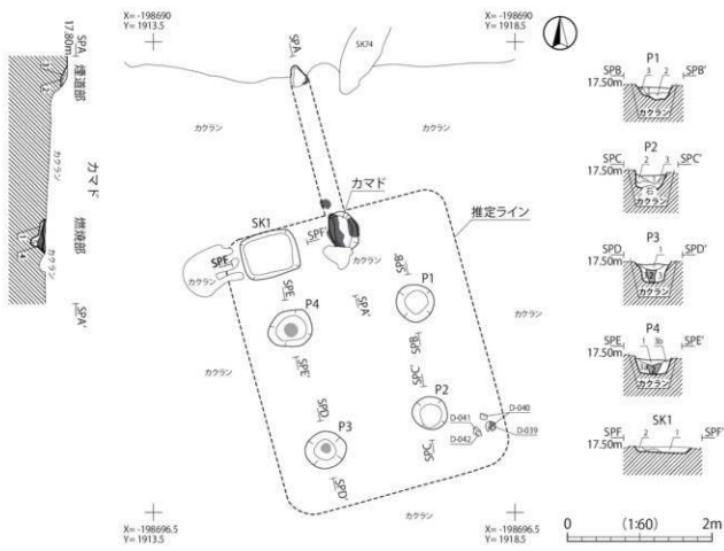
【位置・確認】 調査区南部、52・57区に位置する。掘り方底面まで搅乱を受けており、床面施設のみが残存する。第67図に示した土器はいずれも検出面から2~4cm程度浮いた状態で出土している。

【重複】なし。

【規模・形態】 残存する床面施設の位置関係から、規模は長軸330cm、短軸241cmを超えると推定される。

【方向】カヌドを基準としてN=15°-Wが推定される。

【堆積土】カマド部分のみ観察され、5層に分層した。1～3層はカマド堆積土で、1層は燃焼部、2・3層は煙道部に堆積する。4・5層はカマド周囲の土壤で、堆積部のみ確認された。



第66図 SI12 穴立住居跡



【柱穴】4基(P1～4)確認した。規模や位置関係からいずれも主柱穴と考えられる。規模は残存値で長軸48～62cm、短軸46～53cm、深さ26～41cmを測る。P3・4で径15～20cm程度の柱痕跡を確認した。

【カマド】北壁に位置し、燃焼部の底面付近と煙道部の煙出し付近のみが残存する。燃焼部は壁内に位置すると思われ、底面は浅く掘り込まれる。平面形状は梢円形で、規模は奥行き55cm、幅38cmを測る。底面には不規則な範囲で焼面が形成される。煙道部は推定で長さ210cmを測り、先端部の幅は18cmを測る。

【その他の施設】1基(SK1)の土坑を確認した。カマドの西側に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は長方形を呈り、規模は残存値で長軸78cm、短軸63cm、深さ12cmを測る。

【出土遺物】床面付近の層や、カマド内から土師器が出土した。このうち、ロクロ土師器3点を掲載した(第67図)。いずれも环で、底部は回転糸切りである。1・2の底部は回転糸切り後一部がヘラナデもしくはヘラケツリ調整され、1の体部ほぼ全体と2の体部下端は手持ちもしくは回転ヘラケツリ調整される。1の内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。

【時期】床面付近から出土したロクロ土師器環(第67図-1～3)の特徴や、SI10との新旧関係から、C期(10世紀前半～10世紀前半以降)と考えられる。



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	外面調査		内面調査	備考	写真 回数	
							口径	底径	高さ			
1	D-039	SI12	床面	ロクロ 土師器	环	12.8	4.8	3.5	内面調整 底部・側面糸切り→一部ハサキ 底部・側面糸切り→一部ハサキ	内面 調整	外面保有、内面黒色処理、 内外面摩滅。	25
2	D-040	SI12	床面	ロクロ 土師器	环	11.9	5.0	3.6	内面調整 底部下端・手持ちハサキ 底部・側面糸切り→一部ハサキ	内面 調整		25
3	D-041	SI12	床面	ロクロ 土師器	环	(12.8)	4.5	3.6	内面調整 底部・側面糸切り	内面 調整 底部下端ハサキ	内外面摩滅。	25

第67図 SI12竪穴住居跡出土遺物

SI13竪穴住居跡(第68図)

【位置・確認】調査区南部、47区に位置する。SI10に入れ子状で重複し、このため南北の両壁は失われているが、周溝の残存から概ねの南北範囲が確認された。

【重複】SI10、SK73・74より古い。

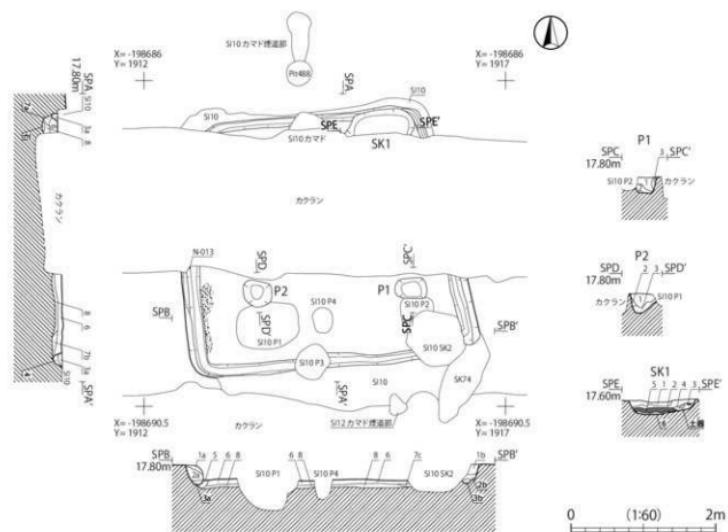
【規模・形態】検出した規模は長軸393cm、短軸352cmを測り、平面形状は若干東西に長い方形を呈する。

【方向】東壁を基準としてN-15°-Wを測る。

【堆積土】大別で8層に分層した。1・2層は暗灰黄色シルトを主体とする住居堆積土で、東西両壁付近のみに残存する。3・4層は周溝堆積土で、5～8層は住居掘り方理土である。

【壁面】直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で22cmを測る。

【床面】概ね平坦で、基本層IV層土を多量に混入したぶい黄褐色・灰黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。



SII3 地精土註記表

部 位	被覆	土 色	土 性	備 考
任耕層被植物	1a	2.5YR4/2暗赤褐色	シルト	IV層と粘多量、灰色シルト層に、固化物が混在含む。
	1b	2.5YR4/3暗赤褐色	シルト	IV層と、灰色シルト層と細粒、粗粒と、固化物が混在含む。
	2a	10YR4/2暗赤褐色	シルト	IV層とプロカク（5~20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）、固化物と少含む。
	2b	2.5YR4/3暗赤褐色	シルト	IV層と、灰色シルト層と細粒、粗粒と、固化物が混在含む。
埋溝	3a	2.5YR4/4褐色	シルト	IV層と、灰色シルト層と細粒、粗粒と、固化物が混在含む。
	3b	2.5YR4/3C-1褐色	シルト	IV層と、灰色シルト層、固化物が少含む。
	4	2.5YR4/2暗赤褐色	シルト	IV層と灰少量、固化物が微量含む。
	5	10YR4/2暗赤褐色	シルト	IV層と、固化物が少含む。
	6	10YR4/3-1暗赤褐色	シルト	IV層と、表面に多量の灰色シルト層剥離に、固化物が混在含む。
任耕側の方	7a	2.5YR4/3-2暗赤褐色	シルト	IV層と多量の灰色シルト層剥離に、固化物が混在含む。
	7b	10YR4/4暗赤褐色	シルト	IV層と多量の灰色シルト層剥離に、固化物が混在含む。
	7c	2.5YR4/3暗赤褐色	シルト	IV層と灰少量、灰少シルト層に、根状、固化物が微量含む。
	8	10YR4/3暗赤褐色	シルト	IV層と灰少量、灰少シルト層に、根状、固化物が微量含む。

S113 腸道堆積土計量表

遺伝子名	部位	土色	土性	備考
P1	1	2.5Y4/4 オリーブ暗色	シルト	IV層 土壌中に多量、炭化物や微量含む。
	2	10YR4/3-3.5/3 暗赤褐色	シルト	IV層 土壌中に多量、炭化物や微量含む。
	3	2.5Y5/5 黄褐色	シルト	IV層 土壌中に多量、炭化物や微量含む。
P2	1	2.5Y4/4 オリーブ暗色	シルト	IV層 土壌中に多量、炭化物や微量含む。
	2	10YR5/3-3.5/3 暗赤褐色	シルト	IV層 土壌中に多量、炭化物や微量含む。
	3	10YR4/3-3.5/3 暗赤褐色	シルト	IV層 土壌中に少量、炭化物や微量含む。
SK1	1	2.5Y5/5 黄褐色	シルト	IV層 土壌中に多量、色彩シート測定に少額、炭化物や微量含む。
	2	10YR5/3-3.5/3 暗赤褐色	シルト	IV層 土壌中に多量、色彩シート測定に少額、炭化物や微量含む。
	3	2.5Y5/2 暗赤褐色	シルト	地上プロック(5~10mm程度) 多量、地上プロック(5~10mm程度) 少量含む。
SK2	4	3.5Y5/5 黄褐色	シルト	IV層 土壌中に多量、炭化物や微量含む。
	5	10Y4/1 黄褐色	シルト	IV層 土壌に微量、地上プロック(5~10mm程度) 炭化物や 多量含む。
	6	10YR5/3-3.5/3 暗赤褐色	シルト	IV層 中等量、色彩シート測定(5~10mm程度) 炭化物や少額含む。

SII3 股股觀察表

道構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
P1	(圓丸丘方形)	44	×(28)	23	主斜穴
P2	(圓丸丘形)	39	×(36)	27	主斜穴

造模名	平面形	規格(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	(橢円形)	98×(38)	16	前歯穴

第68図 SI13竪穴住居跡



西壁沿いには炭化物範囲がみられる。

【柱穴】 床面で2基(P1・2)確認した。規模や位置関係からともに主柱穴と考えられ、規模は長軸39~44cm、短軸28~36cm以上、深さ23~27cmを測る。柱痕跡などは確認されなかった。

【周溝】 残存部分の壁面全周に沿って延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅10~20cm、深さ1~15cmを測る。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を確認した。北東コーナーに位置し、規模や位置関係から貯藏穴と考えられる。南側1/2程が搅乱で壊されるが、平面形状は梢円形と推定され、規模は長軸98cm、短軸38cm以上、深さ16cmを測る。内部には多量の焼土が入り込み、人為的に埋め戻されている。

【掘り方】 深さ9~20cmを測り、底面は中央部が高まり四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面から鉄滓が1点出土したが、図化できなかった。

【時期】 本住居跡の詳細な時期は不明だが、SI10との新旧関係から、B期(9世紀中頃~9世紀後半)以前である。

SI14 穫穴住居跡(第69図)

【位置・確認】 調査区中央部、28区に位置する。住居の大部分はSI7との重複により失われ、カマド煙道部のみが残存する。

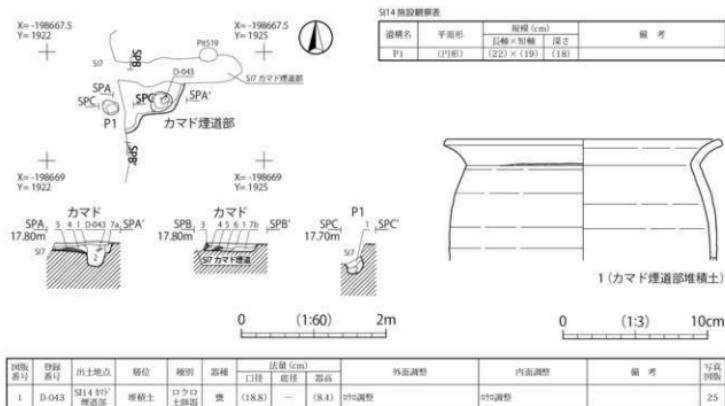
【重複】 SI7より古い。

【規模・形態】 不明。

【方向】 不明。

【堆積土】 全てカマド堆積土で、大別で7層に分層した。灰黄褐色シルトを主体とし、自然堆積である。

【カマド】 東壁に位置すると思われる、既述の通り煙道部のみが残存する。煙道部の底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は残存高で長さ90cm、幅38~73cm、深さ11~31cmを測る。幅は不定で、いびつな平面形状



第69図 SI14 穫穴住居跡・出土遺物



SI14 堆積土跡記表

番号	部位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	古削土ブロック(5mm程度)多量、灰褐色シルト粘・固化物ブロック(5mm程度)少量、地土和微量含む。
	2	10YR4/2 灰褐色	シルト	古削土ブロック(5mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量、地土和微量含む。
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	地土ブロック(5~10mm程度)多量、灰褐色シルトブロック(5mm程度)少量含む。
	4	2.5Y4/2 灰褐色	シルト	古削土ブロック(5mm程度)多量、灰褐色シルト粘・固化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	5	7.5Y4/1 黄褐色	シルト	地・地土ブロック(5mm程度)多量、灰褐色シルト粘・固化物粘少量含む。
	6	2.5Y5/2 灰褐色	シルト	古削土ブロック(5mm程度)多量、地土和微量含む。
	7a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	古削土多量、地化物粘少量、地土粘・灰褐色含む。
	7b	2.5Y6/3 にじみ黄色	シルト	古削土多量、地化物粘・地土粘・灰褐色含む。

SI14 施設堆積土跡記表

遺構名	部位	土色	土性	備考
P1	1	2.5Y4/2 灰褐色	シルト	古削土粘多量、地化物粘少量含む。
	2	2.5Y5/3 にじみ黄色	シルト	古削土粘・粗砂少量、礫(5mm程度)・地化物粘微量含む。

を呈する。煙出しは長軸30cm、短軸27cm程度のピット状を呈する。

【その他の施設】 前方のSI7 挖り方内で1基(P1)のピットを確認した。平面形状は円形を呈し、規模は残存値で長軸22cm、短軸19cm、深さ18cmを測る。位置関係から本住居跡の施設と捉えたが、性格は不明である。

【出土遺物】 堆積土からクロコ土師器が少量出土し、このうち1点を掲載した(第69図-1)。裏の口縁部・胸部上位の破片で、口縁部は「く」字状に外反する。

【時期】 本住居跡の詳細な時期は不明だが、SI7との新旧関係から、A2期(9世紀前半)以前である。

SI15 穴住居跡(第70・71図)

【位置・確認】 調査区中央部、22・23・27・28・32・33区に位置する。SI7との重複で大半が壊され、西壁付近とカマド煙道部のみが残存する。

【重複】 SI7より古い。

【規模・形態】 検出した規模は長軸556cmを測り、短軸は床面施設の位置関係から463cmを超えると推定される。平面形状は方形もしくは長方形と推定される。

【方向】 西壁を基準としてN-6°-Wを測る。

【堆積土】 15層に分層した。1~4層は灰黃褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。5層は周溝堆積土である。6~11層はカマド堆積土、12層はカマド掘り方理土で、煙道部の壁構築材である。13~15層は住居掘り方理土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で43cmを測る。

【床面】 形状は残存部分が少なく不明であるが、基本層IV層土を多量に混入した黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。

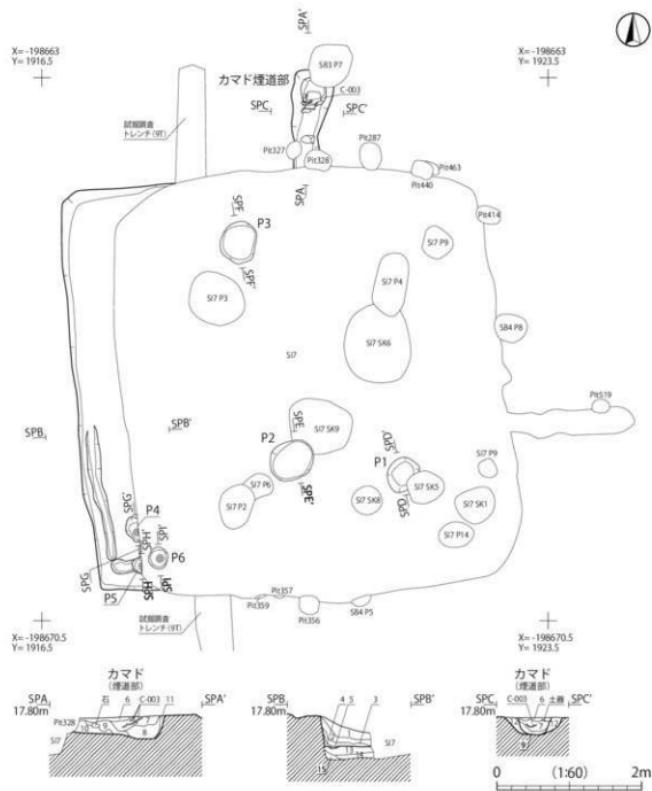
【柱穴】 床面及びSI7の掘り方内で6基(P1~6)確認した。規模や位置関係からP1~3が主柱穴の可能性があるが、全体の配置は不規則である。規模は残存値で長軸49~64cm、短軸35~56cm、深さ18~37cmを測る。柱痕跡などは確認されなかった。P4~6はいずれも南西コーナー付近に位置し、規模も小型で補助柱穴と思われる。3基ともに径12~13cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 南西コーナーから西壁の中央付近にかけて「L」字状に延びる。壁の下端から5~21cm程度内側に掘り込まれる。断面形状は逆台形を呈し、規模は幅11~21cm、深さ2~13cmを測る。

【カマド】 北壁に位置し、既述の通り煙道部のみが残存する。煙道部は主軸方位から12°東に振れて付設される。

底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜し、規模は残存値で長さ135cm、幅34~42cm、深さ22~28cmを測る。

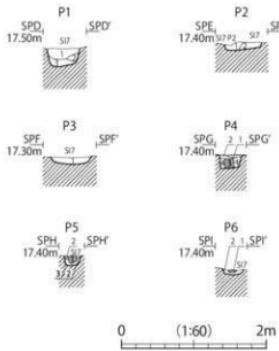
煙出しあは長軸64cm、短軸56cmのピット状を呈し、中層付近から土師器の裏(第71図-1)2/3個体が潰れた状態で出土した。



SII5 増土跡記表

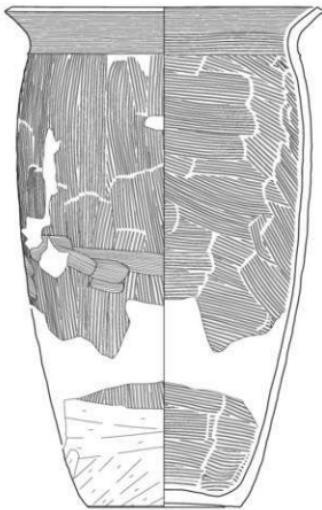
層・位	層位	細分	土色	土性	圖考
住戸堆積土	1	10YRS/2 黄褐色	シルト	腐泥土斑状・灰化土シルト粘土・炭化物粘土微量含む。	
	2	5Y4/2 暗オーラー色	シルト	腐泥土斑状・灰化シルト粘土・炭化物粘土微量含む。	
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	腐泥土斑状に多量炭化物粘土微量含む。	
	4	5Y4/1 棕色	シルト	腐泥土斑状に少量炭化物粘土微量含む。	
周溝	5	2.5Y4/2 灰暗黄色	シルト	腐泥土斑状・炭化物粘土微量含む。	
	6	10YR3/1 黑褐色	シルト	腐泥土粘多量・灰化シルト粘土・炭化物粘土微量含む。	
カマド堆積土	7	7.5YR2/1 黄褐色	シルト	腐泥土ブロック(5mm程度)・灰色シルト粘土・灰土・灰化物粘土微量含む。	
	8	5Y4/1 棕色	シルト	腐泥土斑状・灰化シルト粘土・灰化物粘土微量含む。	
	9	10YR3/2 黑褐色	シルト	腐泥土粘多量・灰化シルト粘土・灰化物粘土(5mm程度)・5mm程度)・微量含む。	
	10	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	腐泥土粘多量・灰化シルト粘土・灰化物粘土(5mm程度)・5mm程度)・微量含む。	
カマド廻り方	11	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	腐泥土ブロック(5~10mm程度)多量・灰化シルト粘土・炭化物粘土微量含む。	
	12	5YR4/1 黄褐色	シルト	腐泥土ブロック(5~20mm程度)多量・炭化物粘土少量・礫(5~10mm程度)微量含む。	
住戸廻り方	13	2.5Y3/3 黄褐色	シルト	腐泥土斑状に多量・礫(5mm程度)少量・粗砂・炭化物粘土微量含む。	
	14	2.5Y5/2 灰暗黄色	シルト	腐泥土斑状・粗砂・礫(10mm程度)・炭化物粘土微量含む。	
	15	2.5Y4/2 灰暗黄色	シルト	腐泥土斑状・礫(10mm程度)・炭化物粘土微量含む。	

第70図 SII5 穴式住跡(1)



SII5 旗股觀察表

通査名	平面形	規格(㎝)		備考
		長幅	幅厚	
P1	(梅円形)	(49) × (35)	(37)	主柱穴か
P2	(円形)	(64) × (56)	(18)	主柱穴か
P3	(円形)	(59) × (48)	(18)	主柱穴か
P4	(梅円形)	(28) × (22)	(19)	補助柱穴
P5	(円形)	(22) × (11)	(18)	補助柱穴
P6	(円形)	(30) × (27)	(11)	補助柱穴



1(カマド煙道部堆積土)

项目组	样地号	出土地点	树种	胸径	蓄积量	径级	外圈调整		内圈调整		备注	
							径级	成材量(厘米)	径级	成材量(厘米)		
1	C-003	SBS15.75% 理化指标	楠木	土剥层	重	(72.12) 10.6 (34.5)	口13厘米 径级：1.5-2.0 成材量：10.6 径级下限：1.5-2.0 径级上限：2.0-2.5 成材量下限：10.6 成材量上限：10.6	口13厘米 径级：1.5-2.0 成材量：10.6 径级下限：1.5-2.0 径级上限：2.0-2.5 成材量下限：10.6 成材量上限：10.6	口13厘米 径级：1.5-2.0 成材量：10.6 径级下限：1.5-2.0 径级上限：2.0-2.5 成材量下限：10.6 成材量上限：10.6	口13厘米 径级：1.5-2.0 成材量：10.6 径级下限：1.5-2.0 径级上限：2.0-2.5 成材量下限：10.6 成材量上限：10.6	外圈底数：木本植物。 内圈底数：木本植物。	25

SII5 聲波堆積土壤剖面

樹種名	樹位	土色	土性	考
P1	1	2.5/4号 オリーブ緑色	シルト	NIV耐久ブロッカ(5~20mm程度)多量、礫(5~30mm程度)少々、粘土物粗粒混在。
	2	10/4号(3.5cm) 黄褐色	シルト	NIV耐久ブロッカ(5~20mm程度)多量、粘土物粗粒混在。
	3	2.5/4号 黄褐色	シルト	NIV耐久・灰褐色、砂(5~10mm程度)少々、粘化物粗粒混在。
P2	1	2.5/4号 船底色	シルト	NIV耐久ブロッカ(5mm程度)多量、粘化物粗粒少々、礫(5mm程度)微量含む。
	2	2.5/4号 オリーブ緑色	シルト	NIV耐久ブロッカ(5~10mm程度)多量、砂(10~20mm程度)少々、粘土物粗粒混在。
P3	1	10/4号(2.5cm) 黄褐色	シルト	砂(5~10mm程度)少々、NIV耐久ブロッカ(5mm程度)、少々粘土、粘化物粗粒混在。
P4	1	2.5/4号 黑褐色	シルト	NIV耐久・黑色、砂(5~10mm程度)少々、NIV耐久・粘化物粗粒混在。
	2	2.5/4号 船底色	シルト	NIV耐久ブロッカ(5mm程度)少量、砂(10~20mm程度)少々、粘化物粗粒混在。
	3	10/4号(2.5cm) 黄褐色	シルト	NIV耐久・灰褐色、NIV耐久・シルト少々、粘化物粗粒混在。柱状結構。
	4	10/4号(3.5cm) 黄褐色	シルト	NIV耐久・少量、灰色・シルト少々、粘化物粗粒混在。
	5	2.5/4号 黄褐色	シルト	NIV耐久・少量、灰色・シルト少々、粘化物粗粒混在。柱状結構。
P5	2	2.5/4号 オリーブ緑色	シルト	NIV耐久・多量、粘化物粗粒混在。
	3	10/4号(2.5cm) 黄褐色	シルト	NIV耐久・灰褐色、黄色化・シルト少々、粘化物粗粒混在。
	4	2.5/4号 黄褐色	シルト	NIV耐久・少量、灰色・シルト少々、粘化物粗粒混在。
P6	1	2.5/4号 黄灰色	シルト	NIV耐久・少量、灰色・シルト少々、粘土物粗粒混在。柱状組織。
	2	2.5/3号 黄褐色	シルト	NIV耐久・現れ目、砂(5~10mm程度)少々、粘化物粗粒混在。

第71図 SI15竪穴住居跡(2)・出土遺物



【掘り方】 残存部では深さ 15 ~ 22cm を測るが、底面形状は残存部分が少なく不明である。

【出土遺物】 堆積土やカマドから土師器・須恵器、土製品が出土した。このうち、土師器 1 点を掲載した（第 71 図 - 1）。甕の個体資料で、口縁部は「く」字状に外反し、胴部は長胴である。外面はハケメ調整後、下位がヘラケズリ調整される。内面はハケメ調整が主体である。底部の外面には、木葉痕が観察される。また図化できなかったが、土製品はカマド下煙道部の前方から出土し、直方体に加工された粘土ブロックである。カマドの構築材と考えられる。

【時期】 カマドから出土した土師器甕（第 71 図 - 1）の特徴や、SI7 との新旧関係から、A1 期（8 世紀後半～8 世紀末頃）と考えられる。

SI16 壁穴住居跡（第 72 ~ 75 図）

【位置・確認】 調査区西部、26・31・36 区に位置する。南側の上部は平安時代～中世の SD6 との重複により失われている。

【重複】 SI19 より新しい。

【規模・形態】 検出された規模は長軸 471cm、短軸 388cm を測る。平面形状は南北に長い長方形を呈する。

【方向】 カマド 1 を基準として N-78°-E を測る。

【堆積土】 大別で 32 層に分層した。1 ~ 8 層は暗灰黄色・にびい黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。9 層は周溝堆積土である。10 ~ 21 層はカマド 1 の堆積土、22・23 層はカマド 1 の袖構築土、24 ~ 28 層はカマド 1 の掘り方埋土、29 ~ 32 層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で 38cm を測る。

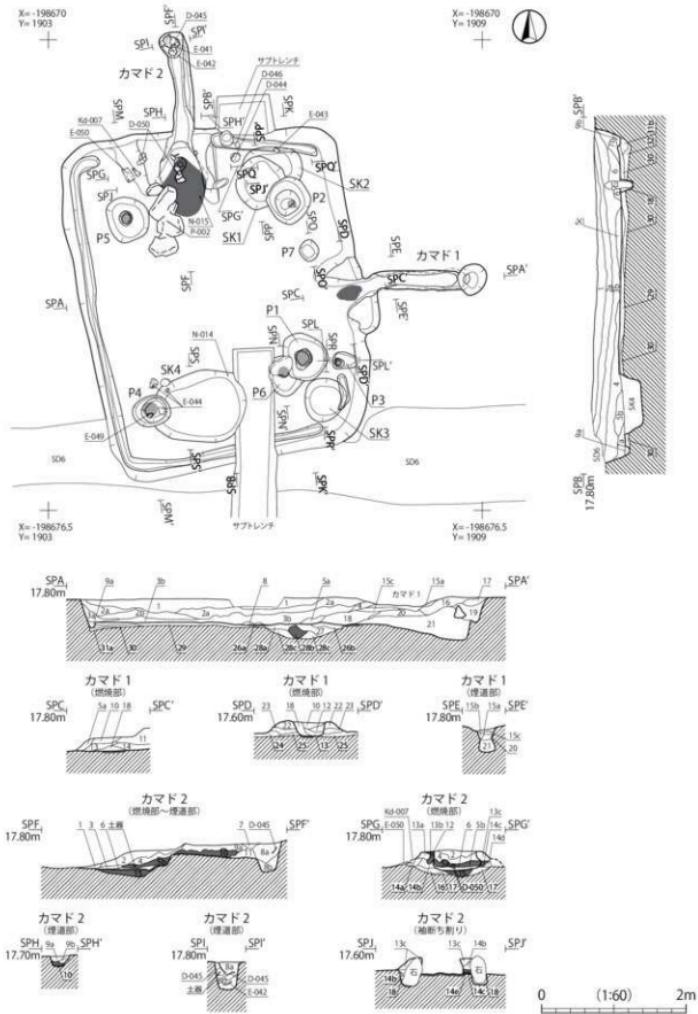
【床面】 概ね平坦で、基本層 IV 層土を多量に混入した灰黄褐色・黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で 7 基（P1 ~ 7）確認した。規模や位置関係から P1・2・4・5 は主柱穴と考えられ、規模は長軸 50 ~ 68cm、短軸 42 ~ 62cm、深さ 26 ~ 44cm を測る。いずれの柱穴からも径 12 ~ 24cm 程度の柱痕跡を確認した。P6 は P1 と重複し、建て替えの関係が考えられる。径 17cm 程度の柱痕跡を確認したほか、上部からは抜き取られた礎盤石とみられる長径 36cm 程度の扁平な自然礎が出土した。P3・7 は壁柱穴及び補助柱穴と思われ、P3 で径 13cm 程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 東壁を除き、壁面に沿って「コ」字状に延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅 9 ~ 18cm、深さ 3 ~ 9 cm を測る。

【カマド】 東壁と北壁の 2箇所で確認した。東壁のカマド 1 は中央部のやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は焚口付近が失われるが、規模は残存値で南袖が長さ 45cm、幅 42cm、北袖が長さ 65cm、幅 36 ~ 46cm を測る。袖は基本層 IV 層に近似したシルトを突き固めて構築される。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き 70cm、幅 34cm を測る。底面は概ね平坦で、長径 36cm 程度の焼面が形成される。奥壁はなく、燃焼部はトンネル状に煙道部へと繋がる。煙道部は壁面から 11° 南に振れて付設され、底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ 167cm、幅 23 ~ 27cm、深さ 38 ~ 61cm を測る。煙出しは長軸 45cm、短軸 39cm 程度のピット状を呈し、煙道部奥壁の上方 27cm 程度の位置に掘り込まれる。

北壁のカマド 2 は中央部のやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は直線的に伸び、規模は東袖が長さ 104cm、幅 24 ~ 33cm、西袖が長さ 85cm、幅 35 ~ 76cm を測る。袖は基本層 IV 層に近似したシルトを突き固めて構築され、先端には自然踝による芯材が 14 ~ 18cm 程度の深さで埋設される。焚口前方からは、天井に架構されたとみられる直方体の粘土焼成ブロックが割れた状態で出土した。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き 88cm、幅 72cm を測る。底面は概ね平坦で、長径 61cm 程度の焼面が形成される。奥壁は外傾して 15cm 程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は壁面から 8° 東に振れて付設され、底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は長



第72図 SI16 窓穴住居跡(1)

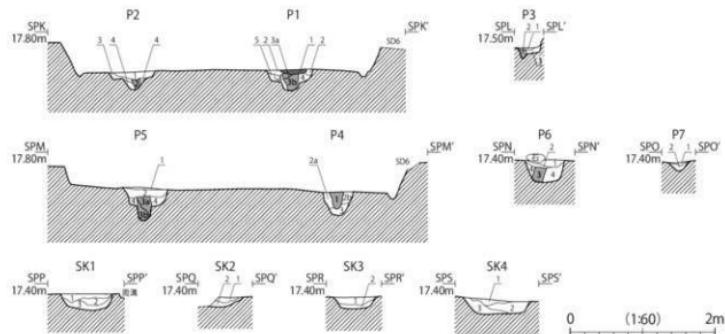


S16 増強土試験表

剖面	位置	土色	土性	細則
住居裏縁土	1	2.5Y4/2 鹿灰黄色	砂質シルト	NF層に多く、灰色シルト粒と、他土粒・炭化物粒微混含む。
	2a	2.5Y4/3 ライアーベージュ	砂質シルト	NF層に灰褐色・灰褐色シルト粒少々、他土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微混含む。
	2b	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	NF層に灰褐色・多量、炭化物粒・微量含む。
	3a	2.5Y4/2 灰褐色	砂質シルト	NF層に灰褐色・少量、炭化物粒・微量含む。
	3b	10YR4/3c ないし 黄褐色	砂質シルト	NF層に灰褐色・少量、炭化物粒・微量含む。
	4	10YR5/3c ないし 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土ブロック(5mm程度)・少量、炭化物粒微混含む。
	5a	10YR4/2 灰褐色	シルト	NF層に灰褐色・他土粒・炭化物粒微混含む。
	5b	10YR4/2 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・他土粒・炭化物粒微混含む。
	6	2.5Y4/2 鹿灰黄色	砂質シルト	NF層に灰褐色・少量、灰色シルト粒・他土粒・炭化物粒微混含む。
	7a	2.5Y4/3c ないし 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、灰色シルト粒・他土粒・炭化物粒微混含む。
	7b	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	炭化物粒・少量、灰色シルト粒・他土粒・炭化物粒微混含む。
	8	10YR3/2 黑褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、他土粒・炭化物粒・微量含む。
周溝	9a	2.5Y4/3 ライアーベージュ	砂質シルト	NF層に灰褐色・多量含む。
	9b	2.5Y6/3c ないし 黄褐色	砂質シルト	NF層に灰褐色・少量、灰色シルト粒・炭化物粒微混含む。
	10	2.5Y4/3 ライアーベージュ	砂質シルト	NF層に灰褐色・多量、灰色シルト粒・炭化物粒ブロック(5mm程度)微混含む。
	11	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	NF層にブロック(5mm程度)多量、他土灰褐色・少量、炭化物粒ブロック(5mm程度)微混含む。
	12	2.5Y4/2 黄褐色	砂質シルト	NF層に灰褐色・多量、炭化物粒・微量含む。
	13	2.5Y4/2 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化物粒微混含む。
	14	2.5Y6/4c ないし 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微混含む。
	15a	2.5Y5/1 黑褐色	砂質シルト	NF層に灰褐色・少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微混含む。
	15b	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	NF層に灰褐色・多量含む。
	16	2.5Y5/2 黑灰黄色	シルト	NF層に灰褐色・多量、灰色シルト・他土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微混含む。
カマド1堆積土	17	2.5Y4/3 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・他土粒・炭化物粒微混含む。
	18	2.5Y5/1 黑褐色	砂質シルト	NF層に灰褐色・多量、灰色シルト・他土粒・炭化物粒・微量含む。
	19	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、他土ブロック(5mm程度)・少量、炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	20	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、他土ブロック(5~10mm程度)・少量、炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	21	10YR5/3c ないし 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、灰色シルト・他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	22	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化物粒・微量含む。
	23	2.5Y4/3 ライアーベージュ	シルト	NF層にブロック(5~10mm程度)多量、他土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微混含む。
	24	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	25	2.5Y5/2 黑灰黄色	シルト	NF層にブロック(5~10mm程度)多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	26	7.5YR2/2 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、炭化シルト・炭化物粒・微量含む。
カマド1耐候性土	27	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、炭化シルト・炭化物粒・微量含む。下面熱。
	28	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	NF層にブロック(5~20mm程度)多量、他土ブロック(5~10mm程度)・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	29	2.5Y5/2 黑灰黄色	シルト	NF層に灰褐色・多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	30	10YR2/2 黄褐色	シルト	NF層にブロック(5~10mm程度)多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	31a	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒・微量含む。
	31b	10YR5/3c ないし 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、灰色シルトブロック(5~40mm程度)少量、炭化物粒微混含む。
	32	10YR5/4c ないし 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、炭化物粒・微量含む。
	33	7.5YR4/2 黄褐色	シルト	NF層にブロック(5~10mm程度)多量、他土ブロック(5~10mm程度)・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	34	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	35	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	NF層にブロック(5~10mm程度)多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
住居裏縁土	36	10YR4/2 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	37	2.5Y5/2 黑灰黄色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	38	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	39	10YR4/1 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	40	2.5Y5/2 黑灰黄色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	41	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	42	10YR5/3c ないし 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	43	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微混含む。
	44	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5mm程度)少量分。
	45	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒少量含む。
カマド2堆積土	46	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒少量含む。
	47	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒少量含む。
	48	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒少量含む。
	49	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)多量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒少量含む。
	50	5.5YR5/4 黄褐色	シルト	他土粒・多量、他土粒・微量含む。全体が灰褐色。
	51	5.5YR5/4 黄褐色	シルト	他土粒・多量、他土粒・微量含む。全体が灰褐色。
	52	5.5YR5/4 黄褐色	シルト	他土粒・多量、他土粒・微量含む。全体が灰褐色。
	53	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	54	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	55	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
カマド2堆積土	56	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	57	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	58	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	59	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	60	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	61	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	62	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	63	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	64	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
	65	7.5YR1/1 黄褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量分。
カマド2耐候性土	66	2.5Y5/3 黑灰黄色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。
	67	10YR5/3c ないし 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。
	68	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。
	69	7.5YR1/1 黑褐色	シルト	灰褐色・他土ブロック(5~10mm程度)少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。
	70	5.5YR4/1 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。
	71	5.5YR4/1 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。
	72	5.5YR4/1 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。
	73	5.5YR4/1 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。
	74	5.5YR4/1 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。
	75	5.5YR4/1 黄褐色	シルト	NF層に灰褐色・少量、他土粒・炭化シルト・炭化物粒微量含む。

さ152cm、幅24～29cm、深さ17～46cmを測る。煙出しは長軸36cm、短軸30cm程度のピット状を呈し、上層～中層からロクロ土師器の発見点（第74図-3）が破片で、下層からは須恵器の环2点（第74図-4・5）がほぼ完形の状態で出土した。

【その他の施設】 床面で4基（SK1～4）の土坑を確認した。SK3は南東コーナー付近に位置し、規模や位置関係か



SI16 施設堆積土記表

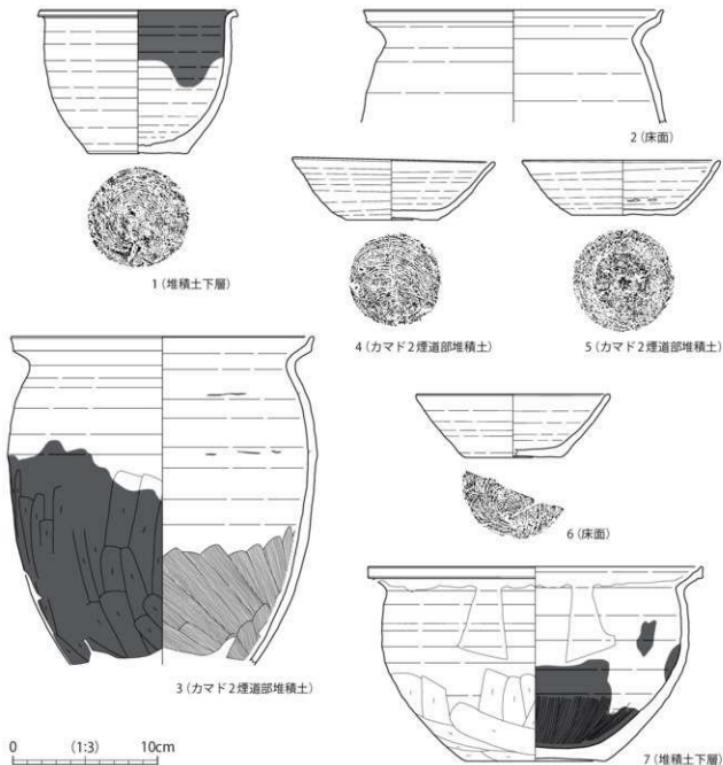
道耕名	層位	土色	土性	備考	
				層厚	地質
P1	1 HTYR5/3 に亘る褐色	砂質シルト	地表土被覆に少種、表面に薄泥状・少量、底面に物質混在含む。		
	2 HTYR4/2 灰褐褐色	砂質シルト	表面土被覆に少種、地表付近に少種含む。※粘板跡		
	3 2SY4/2 黑灰褐色	砂質シルト	表面土被覆に多種、底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	4 2SY4/2 に亘る灰褐色	シルト	表面土被覆に多種、底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
P2	1 HTYR4/3 に亘る褐色	砂質シルト	表面土被覆に少種、表面シルト・底面に少種、底面物質混在含む。		
	2 HTYR4/2 从灰褐色	砂質シルト	表面土被覆に少種、底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
P3	2 SY5/3 黑褐色	シルト	表面シロカク(5mm程度)多量、底色もシロカク、底面物質混在含む。		
	2 SY5/2 黑灰褐色	シルト	表面シロカク(5~10mm程度)多量、底色もシロカク。		
	3 2SY5/2 黑灰褐色	シルト	表面シロカク(5~10mm程度)多量、底色もシロカク。		
P4	1 HTYR5/2 灰黑褐色	砂質シルト	表面土被覆に少種、底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	2 2AY4/2 黑灰褐色	シルト	表面土被覆に多種、地表シルト・底面物質混在含む。※粘板跡		
	3 2SY4/2 黑灰褐色	シルト	表面シロカク(5~20mm程度)多量、表面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
P5	1 HTYR4/1 褐色	砂質シルト	表面土被覆に少種、底面シルト・地表付近に少種含む。		
	2 2SY3/2 黑褐色	砂質シルト	表面土被覆に多種、底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	3 2SY3/2 黑灰褐色	砂質シルト	表面土被覆に多種、底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
P6	1 7SY5/2 灰黑色	シルト	表面シロカク(5~20mm程度)多量、底色シルトブロック(5mm程度)・底面物質少量、地表物質混在含む。		
	2 7SY4/3 に亘る褐色	シルト	表面シロカク(5~20mm程度)多量、底色シルトブロック(5mm程度)・底面物質少量、地表物質混在含む。※粘板跡		
	3 10YR5/2 灰黑褐色	砂質シルト	表面シロカク(5~20mm程度)多量、底色シルトブロック(5~20mm程度)少量、地表シルト・地表物質混在含む。※粘板跡		
P7	1 SYR3/2 灰褐色	砂質シルト	表面シロカク(5~10mm程度)・底色シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	2 2SY3/3 黑褐色	砂質シルト	表面土被覆に多種、底面シルト・地表付近に少種含む。		
	3 SYR4/1 褐灰色	砂質シルト	表面シロカク(5~20mm程度)多量、底色シルトブロック(5~20mm程度)・底面物質少量、地表シルト・地表物質混在含む。		
SK1	1 HTYR5/2 灰黑褐色	砂質シルト	表面土被覆に少種、底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	2 7SY5/2 灰黑褐色	シルト	表面土被覆に少種、底色シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	3 7SY5/2 灰黑色	シルト	表面土被覆に少種、底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
SK2	1 HTYR4/3 に亘る褐色	シルト	表面シロカク(5~10mm程度)多量、底色シロカク(5~20mm程度)・底面シルト・地表付近に少種含む。		
	2 2SY4/2 黑褐色	シルト	表面シロカク(5~10mm程度)多量、底色シロカク(5~20mm程度)・底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	3 10YR5/2 に亘る褐色	シルト	表面土被覆に少種、底色シロカク(5~10mm程度)・底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
SK3	1 HTYR4/2 黑褐色	シルト	表面土被覆に少種、底色シロカク(5~10mm程度)・底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	2 2SY4/2 黑灰褐色	シルト	表面土被覆に少種、底色シロカク(5~10mm程度)・底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	3 2SY3/2 黑灰褐色	シルト	表面土被覆に多種、底面物質混在含む。		
SK4	1 HTYR4/2 从灰褐色	砂質シルト	表面土被覆に少種、底色シルト・地表付近に少種含む。底面物質混在含む。		
	2 2SY4/2 黑灰褐色	シルト	表面土被覆に少種、底色シロカク(5~10mm程度)・底面シルト・地表付近に少種含む。※粘板跡		
	3 2SY3/2 黑灰褐色	シルト	表面土被覆に多種、底面物質混在含む。		

SI16 施設堆積土記表

道耕名	平面形	高幅(cm)		備考
		日輪軸×周輪	深さ	
P1	(円形)	68×62	27	柱穴
P2	椭丸方形	59×57	26	柱穴
P3	(円形)	34×23	16	椭柱穴
P4	円形	50×42	35	柱穴
P5	円形	64×58	44	柱穴
P6	(椭丸方形)	(52)×(44)	29	壁礫石

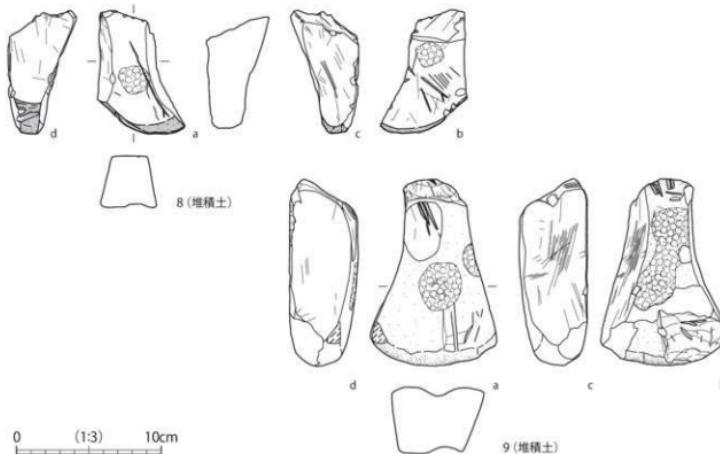
道耕名	平面形	高幅(cm)		備考
		日輪軸×周輪	深さ	
P7	円形	27×26	13	補助柱穴
SK1	(円形)	68×(62)	21	剪破穴
SK2	(椭圆形)	(36)×(40)	14	剪破穴
SK3	(椭圆形)	60×(57)	16	剪破穴
SK4	(椭圆形)	(126)×(100)	22	

第73図 SI16 穴式住居跡(2)



測定 番号	登録 番号	出土地点	鏡位	種別	器種	口径	底径	高さ	法寸(cm)		外面調整	内面調整	備考	写真 回数
									内面	外面				
1	D-044	SII16	堆積土下層	ロク面 土頭部	小型壺	(13.5)	6.8	10.0	内面調整 底下平~側面内凹付 底部~回転舟切り	外面調整	内外面削上保持付、外面に 丸み軽。	26		
2	D-046	SII16	床面	ロク面 土頭部	壺	(20.5)	—	(7.9)	内面調整	外面調整	—	26		
3	D-045	SII16 2° 煙道部	堆積土 土頭部	實	(20.8)	—	(22.7)	内面調整 底下平~内凹付	外面調整 底下平~内凹付	—	26			
4	E-041	SII16 2° 煙道部	堆積土 土頭部	漏斗器	环	13.9	6.3	4.4	内面調整 底部~回転舟切り	外面調整	内外面削上保持付、重ね 焼き軽。底部削切。	26		
5	E-042	SII16 2° 煙道部	堆積土 土頭部	漏斗器	环	13.6	7.1	3.8	内面調整 底部~回転舟切り	外面調整	内外面削上保持付、重ね 焼き軽。	26		
6	E-043	SII16	床面	漏斗器	环	(13.2)	(6.4)	4.4	内面調整 底部~回転舟切り	外面調整	内面削上位に丸み軽。	26		
7	E-044	SII16	堆積土下層	漏斗器	环	(23.0)	(9.8)	13.4	内面調整 底下平~底部~内凹付	外面調整 底下平~内凹付	内面?残着	26		

第74図 SII16 穴竪住跡出土遺物(1)



第75図 SI16 穴式住居跡出土遺物(2)

ら貯蔵穴と考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸57cm以上、深さ16cmを測る。北東コーナーに位置するSK1・2も貯蔵穴の可能性があるが、ともに主柱穴P2により一部失われている。SK1の平面形状は円形を呈し、規模は長軸68cm、短軸62cm以上、深さ21cmを測る。SK2の平面形状は楕円形を呈し、長軸86cm以上、短軸40cm以上、深さ14cmを測る。SK4は南西コーナー付近に位置し、一部が主柱穴P4により失われている。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸126cm以上、短軸100cm、深さ22cmを測る。

【掘り方】 深さ3～19cmを測り、底面は中央部が高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器・石製品、金属製品、土製品が出土した。このうち、ロクロ土師器3点、須恵器4点、石製品2点を掲載した(第74・75図)。また図化はしなかったが、土製品1点を写真のみ掲載した(写真図版27-5)。第74図-1～3はロクロ土師器で、いずれも甕である。1は小型甕で、口縁部は短く外傾する。底部は回転糸切り未調整である。2の甕は口縁部が受口状を呈し、3の胴部外面の下半はヘラケズリ調整される。4～7は須恵器で、4～6は环、7は鉢である。环の底部は4・6が回転糸切り、5が回転ヘラ切りでいずれも未調整である。7の鉢は口縁部が短く外傾し、受口状を呈する。体部外面の下半はヘラケズリ調整される。第75図-8・9は磁石で、ともに一部を欠損する。8はa～dの各面を底面とし、多数の線状痕が観察される。石材は凝灰岩である。写真のみ掲載した土製品は、カマド材である(写真図版27-5)。風化・剥落が顕著で取り上げられたのは一部の破片のみだが、整形時の粘土貼り付けの痕跡や、人為的に穿たれたとみられる小孔が



数箇所観察される。カマド2の焚口前方から、割れた状態で出土した。

【時期】 床面やカマドから出土したロクロ土師器甕や須恵器甕(第74図-2~6)の特徴から、B期(9世紀中頃~9世紀後半)と考えられる。

SI17 積穴住居跡(第76・77図)

【位置・確認】 調査区西端部、26・31・36・61・62区に位置する。南壁の上部は平安時代~中世のSD6、東壁付近はSI16との重複により失われている。

【重複】 SI18・19より古く、SK77・78より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、残存値で長軸413cm、短軸377cmを測る。平面形状は東西に長い長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN-5°-Wを測る。

【堆積土】 大別で28層に分層した。1~8層にはぶい黄褐色・黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。9層は周溝及び間仕切り溝の堆積土である。10~18層はカマド堆積土、19~22層はカマド袖構築土、23・24層はカマド掘り方埋土、25~28層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で29cmを測る。

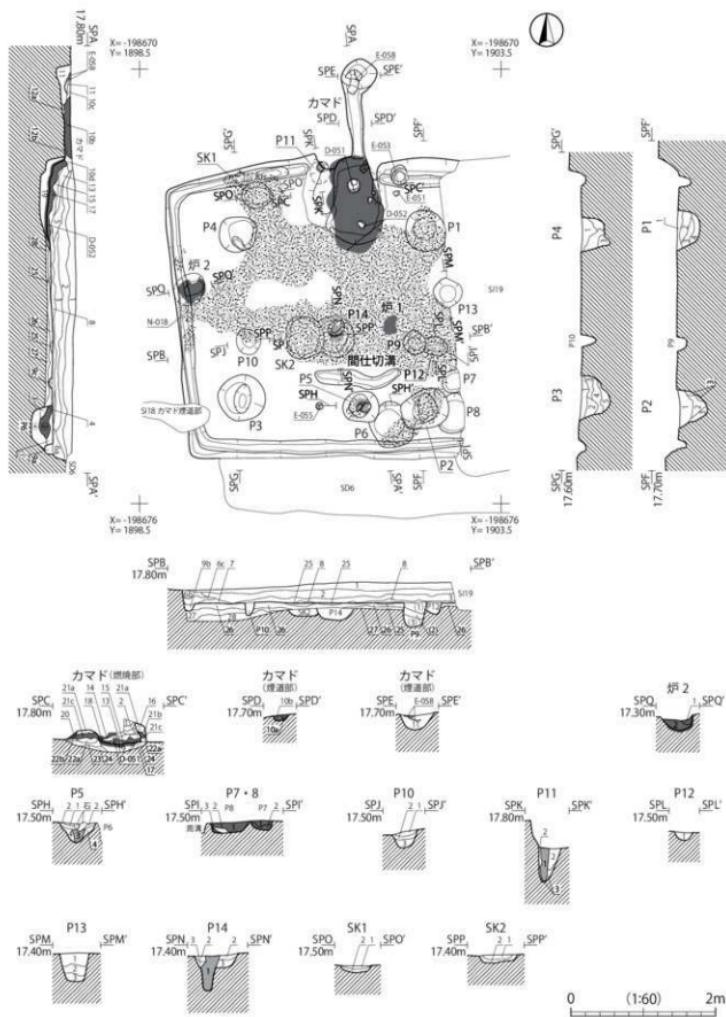
【床面】 横ね平坦で、基本層IV層土を多量に混入した暗灰黄色・黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。北側から中央にかけての広い範囲で炭化物が広がっている。

【柱穴】 床面で12基(P1~10・12・13)、掘り方で2基(P11・14)、総数14基確認した。規模や位置関係からP1~4は主柱穴と考えられ、規模は長軸55~66cm、短軸50~63cm、深さ31~44cmを測る。いずれも柱痕跡などは確認されなかった。P6・8は主柱穴P2と重複するが、建て替えの関係にあるかは不明である。ほかは補助柱穴と考えられるが、P14は中央部付近に位置することから、変則的に配置された主柱穴の可能性がある。規模は長軸60cm、短軸56cm以上、深さ54cmを測り、径21cm程度の柱痕跡を確認した。P11はカマド袖の直下に位置し、径16cm程度の柱痕跡を確認したが、カマドとの位置関係から住居跡に伴わない別遺構の可能性も考えられる。ほかに柱痕跡を確認した柱穴はP14があり、柱痕跡の径は20cm程度を測る。

【周溝】 残存部分では全体の壁面に沿って延びる。断面形状は逆台形を呈し、規模は幅12~20cm、深さ5~16cmを測る。また、南寄りで東西方向に延び、断面形状は逆台形を呈する溝を確認した。間仕切り溝と考えられる。規模は長さ123cm、幅16~22cm、深さ4~8cmを測る。

【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置すると推定され、壁面に直交して付設される。袖は東袖の一部が失われるが、概ね「ハ」字状に延びる。規模は残存値で東袖が長さ66cm、幅15~17cm、西袖が長さ100cm、幅41~46cmを測る。袖は基本層IV層に近似したシルトを突き固めて構築される。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き96cm、幅61cmを測る。底面は浅く掘り込まれ、奥壁寄りにはロクロ土師器の小型甕(第77図-1)を転用した支脚が1箇所あり、逆位に伏せて4cm程度の深さで埋設される。東袖の脇にも自然礫が2点置かれるが、用途は不明である。底面から袖を含む内部全体に焼面が形成される。奥壁は外傾して17cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は底面が埋出しに向かって緩やかに傾斜し、規模は長さ139cm、幅16~22cm、深さ11~21cmを測る。煙出しがカマドの主袖から43°東に振れ、長軸43cm、短軸39cm程度のピット状を呈する。上層から、ロクロ土師器の甕(第77図-2)1/5個体が潰れた状態で出土した。

【炉】 床面から1基(炉1)、掘り方から1基(炉2)、総数2基を確認した。炉1は中央部の南東寄りに位置し、掘り込みを伴わない被熱範囲である。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸27cm、短軸16cmを測る。炉2は西壁に一部が食い込むようにして位置し、掘り込みを伴う。平面形状は円形を呈し、規模は長軸48cm、短軸40cm、深さ





S17 機械十號記



SI17施設堆積土質記表(2)

遺構名	位置	土 質	主性	備考
P11	1	2.5SY3 黄褐色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化物和鐵錆含む。※柱孔跡
	2	2.5SY3 黄褐色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化物和鐵錆含む。
	3	2.5SY3 黄褐色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化物和鐵錆含む。
P12	1	2.5SY3/2 暗灰黄色	シルト	各層ナラコック(5~10mm程度)多量、灰色シルト互層間に少量、炭化物和鐵錆含む。
	2	2.5SY3 黄褐色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化物和鐵錆含む。
	3	2.5SY3 黄褐色	シルト	各層ナラコック(5~10mm程度)多量、灰色シルト互層間に少量、炭化物和鐵錆含む。
P13	1	2.5SY3 黄褐色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化シルトブロック(5~20mm程度)少量、炭化物和鐵錆含む。
	2	2.5SY3 黄褐色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化シルトブロック(5~20mm程度)少量、炭化物和鐵錆含む。
	3	2.5SY3 黄褐色	シルト	各層ナラコック(5~10mm程度)少量、炭化物和鐵錆含む。
P14	1	7.5YR8/2 灰褐色	シルト	灰色シルトブロック(5~30mm程度)多量、各層ナラコック(5~10mm程度)少量含む。※柱板跡
	2	10YR8/3 にごい 黄褐色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化シルトブロック(5mm程度)・炭化物和鐵錆含む。
	3	2.5SY3 黄褐色	砂質シルト	各層ナラコック(5~10mm程度)多量、炭化物和鐵錆含む。
SK1	1	2.5SY3 黄褐色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化物和鐵錆含む。
	2	2.5SY3/2 暗灰黄色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
	3	2.5SY3 黄褐色	砂質シルト	各層上部に少量、炭化シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
SK2	1	2.5SY3 黄褐色	シルト	各層上部に少量、炭化物和鐵錆含む。
	2	2.5SY3/3 黄褐色	シルト	各層上部に少量、炭化物和鐵錆含む。

SI17施設断面表

遺構名	平面形	断面 (cm)	備考
P1 (円形)	58 × 58 (55)	31 村穴六	
P2 (円形)	66 × 54	39 村穴六	
P3 (円形)	63 × 63	44 村穴六	
P4 (円形)	55 × 50	41 村穴六	
P5 (円形)	50 × 42	46 勝助村六	
P6 (圓丸方形)	63 × 52	31	
P7 (円形)	32 × 26	15	
P8 (円形)	56 × (36)	11	
遺構名	平面形	断面 (cm)	備考
P9 (円形)		32 × 29 8.9	勝助村六
P10 (円形)		40 × 37 35	勝助村六
P11 (円形)		34 × 30 47	勝助村の可能性
P12 (椭円形)	[33] × 26	26	勝助村六
P13 (円形)	41 × (40)	44	勝助村六
P14 (円形)	60 × (56)	54	主玉六か
SK1 (円形)	44 × 37	21	折藏六
SK2 (圓丸方形)	60 × 50	17	

21cmを測る。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)、掘り方で1基(SK2)、総数2基の土坑を確認した。SK1はカマドの西側に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸44cm、短軸37cm、深さ21cmを測る。SK2は中央部のやや西寄りに位置し、平面形状は圓丸方形を呈する。規模は長軸60cm、短軸50cm、深さ17cmを測る。

【掘り方】 深さ7~24cmを測り、底面は中央部が高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面設施及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、金属製品が出土した。このうち、ロクロ土師器2点、須恵器3点を掲載した(第77図)。1・2はロクロ土師器で、ともに寰である。1は小型品で、カマドの支脚に転用されていた。口縁部は「く」字状に矧く外反し、胴部外側の下半はヘラケズリ調整される。2は胴部上位の最大径をもち、口縁部は矧く外傾する。胴部外側の上半には平行タタキの痕跡が部分的に残り、下半はヘラケズリ調整される。3~5は須恵器で、3は环、4は塊、5は寰である。3・4の底部はともに回転ヘラ切りで、3は未調整、4は手持ちヘラケズリ調整される。5の寰は口縁部・胴部上端が全周して残存する。口縁部は受口状を呈し、全体の外面には平行タタキの痕跡が残る。カマド東脇の床面上から逆位に伏せた状態で出土しており、器台などに転用された可能性がある。

【時期】 床面やカマドから出土したロクロ土師器壺や須恵器環(第77図-1~3)の特徴から、A2期(9世紀前半)と考えられる。

SI18豎穴住居跡(第78図)

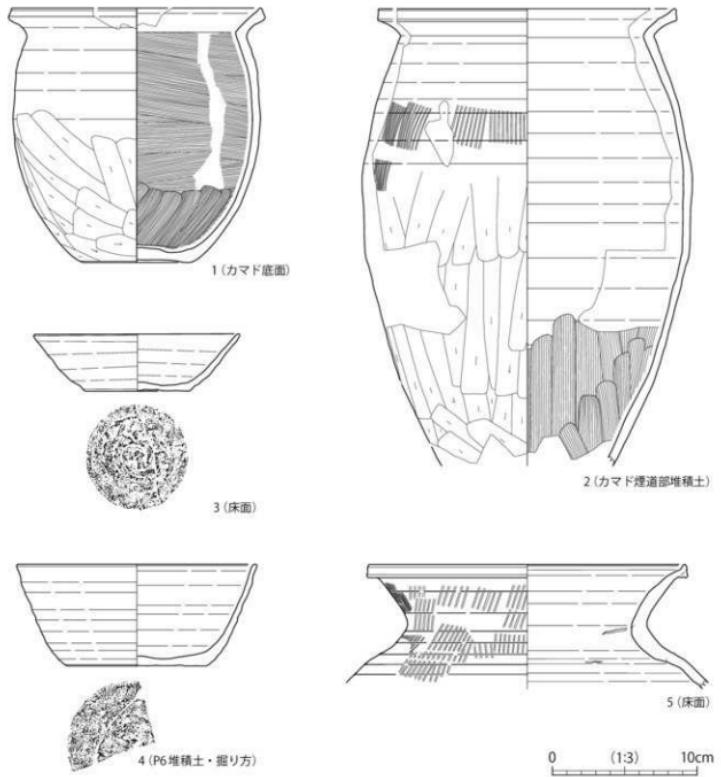
【位置・確認】 調査区西端部、61区に位置する。住居本体は調査区外に位置し、カマド煙道部のみを確認した。煙出しの一部は重複するSI17の先行調査により失われている。

【重複】 SI17より新しい。

【規模・形態】 不明。

【方向】 不明。

【堆積土】 全てカマドの堆積土で、5層に分層した。暗灰黄色シルトを主体とし、自然堆積である。



回数 番号	標記 番号	出土地点	部位	種別	器種	法量 (cm) 口径 径高		外周調整	内周調整	備考	写真 回数
						口径	径高				
1	D-051	SH17 突3'	底面	ロク口 土師器	小型甕	(17.2)	7.6	37.6 調整 底部、内側 底面、内側	37.6 調整 底部、内側	支脚に転用。	26
2	D-052	SH17 突3'	堆積土	ロク口 土師器	甕	(20.4)	—	31.6 調整 側上半、手打33 側下半、内側	37.6 調整 側下半、内側	内外削壁付着。	27
3	E-051	SH17	床面	泥炭層	环	14.1	7.2	4.0 調整 底部、側面、切り	37.6 調整	外周底部削り、内周面に大 削り、内側付少削り。	27
4	E-052	SH17	P6堆積土 掘り方	泥炭層	甕	(16.4)	(9.6)	7.1 調整 底部、側面、切り	37.6 調整		27
5	E-053	SH17	床面	泥炭層	甕	(21.8)	—	8.6 平行33時～37.6調整	37.6 調整		27

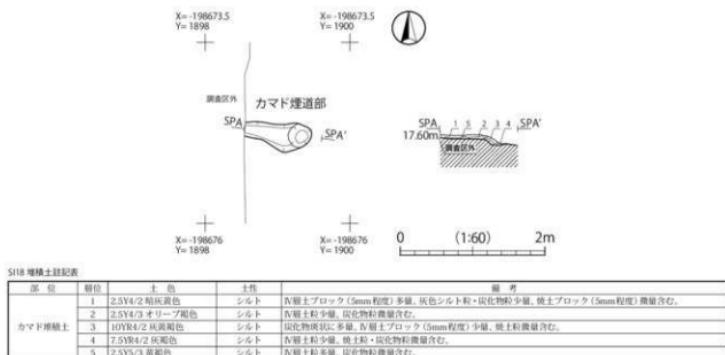
第77図 Si17 突3穴住居跡出土遺物



【カマド】 東壁に位置すると思われ、既述の通り煙道部のみを確認した。煙道部の底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ92cm以上、幅24~39cm、深さ3~17cmを測る。煙出しは長軸33cm、短軸32cm程度のピット状を呈する。

【出土遺物】 堆積土から土器が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 本住居跡の詳細な時期は不明だが、SI17との新旧関係から、A2期（9世紀前半）以降である。



第78図 SI18豊穴住居跡

SI19豊穴住居跡(第79・80図)

【位置・確認】 調査区西部、31・36区に位置する。床面の大半がSI16との重複により失われているが、周溝の存在から概ねの形状・規模が推定される。

【重複】 SI16より古く、SI17より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、残存値で長軸430cm、短軸290cmを測る。平面形状は南北に長い長方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-5°-Wを測る。

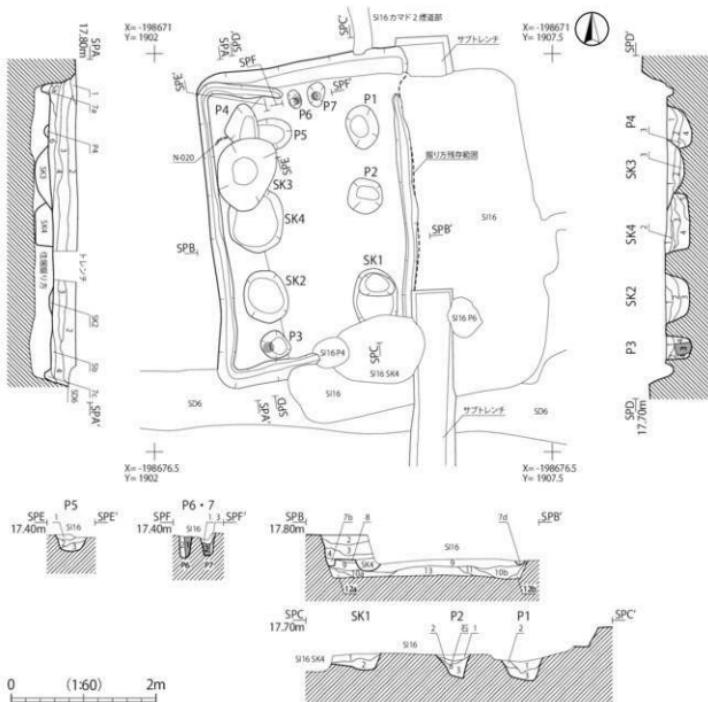
【堆積土】 大別で13層に分層した。1~6層にはぶい黄褐色・暗紅黄色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。7層は周溝堆積土、8~13層は住居掘り方理土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で36cmを測る。

【床面】 形状は残存部分が少なく不明である。基本層IV層土を多量に混入した黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で7基(P1~7)確認した。規模や位置関係からP1~4は主柱穴と考えられるが、配置は変則的である。規模は残存値で長軸40~66cm、短軸35~47cm、深さ30~38cmを測る。P3で径16cm程度の柱痕跡を確認した。P5はP4に重複し、建て替えの関係が考えられる。P6・7は北壁際の中央付近に並列し、規模や配置状況から入口柱穴の可能性がある。ともに径12cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 壁面全周に沿って延びると推定されるが、南壁と北壁の一部は新しい造構によって失われている。北壁では壁の下端からやや内側に方向を変えている可能性がある。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅10~21cm、深さ4~12cmを測る。



S19 增補土語記音

部位	細胞	主色	土性	園芸
但因種植土上	1	10%以上灰黃色	砂質シルト	耐土圧ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物和微量元素含む。
	2	10%以下に亘る褐色	砂質シルト	耐土圧土面上に少量、灰色シルト少量、堆土ブロック(5mm程度)、炭化物和微量元素含む。
	3	2.5%以上褐色	砂質シルト	耐土圧土面上に少量、灰色シルト少量、炭化物和微量元素含む。
	4	7.5%以上褐色	砂質シルト	耐土圧土面上に少量、灰色シルト少量、堆土ブロック(5mm程度)、炭化物和微量元素含む。
	5a	10%以上黒褐色	シルト	耐土圧土面上に少量、炭化物和微量元素含む。
	5b	2.5%以上暗褐色	シルト	耐土圧土面上に多量、炭化物和微量元素含む。
周溝	6	10%以上灰褐色	シルト	耐土圧土面上に多量、灰色シルト少量、堆土ブロック(5mm程度)、炭化物和微量元素含む。
	7a	2.5%以上オリーブ褐色	シルト	耐土圧土面上に多量、炭化物和微量元素含む。
	7b	2.5%以上暗褐色	砂質シルト	耐土圧土面上に少量、灰色シルト少量、炭化物和微量元素含む。
	7c	10%以上黒褐色	砂質シルト	耐土圧土面上に少量、灰色シルト少量、炭化物和微量元素含む。
	7d	2.5%以上暗褐色	砂質シルト	耐土圧土面上に少量、灰色シルト少量、第1主土と炭化物和微量元素含む。
	8	10%以上灰黃色	シルト	耐土圧ブロック(5~10mm程度)、耐土圧土面上少量、堆土シルト少量含む。
但因觸知力方	9	2.5%以上黃褐色	シルト	耐土圧土面上に多量、堆土ブロック(5~10mm程度)、炭化物和微量元素含む。
	10a	2.5%以上暗褐色	シルト	耐土圧土面上に少量、堆土シルト少量、炭化物和微量元素含む。
	10b	10%以上に亘る褐色	シルト	耐土圧土面上に少量、堆土シルト少量、堆土ブロック(5mm程度)、炭化物和微量元素含む。
	11	10%以上灰黃色	シルト	耐土圧土面上に少量、灰色シルト少量、炭化物和微量元素含む。
	12a	10%以上に亘る褐色	シルト	耐土圧土面上に多量、灰色シルト少量、堆土ブロック(5mm程度)、炭化物和微量元素含む。
	12b	7.5%以上暗褐色	シルト	耐土圧土面上に多量、灰色シルト少量、炭化物和微量元素含む。
13	10%以上に亘る褐色	シルト	耐土圧土面上に多量、堆土(5~30mm程度)、堆土ブロック(5mm程度)、炭化物和微量元素含む。	

第79図 SI19竪穴住居跡



SI19 残段堆積土記表

遺構名	層位	土性	備考
P1	1. 2.5Y5/3(下) 黄褐色	砂質シルト	古削土質に多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2. 2.5Y5/3 黄褐色	シルト	古削土質に多量、炭化物微量含む。
P2	1. 10W5/3(下) 黄褐色	シルト	古削土質に少量、炭化物微量含む。
	2. 2.5Y5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、炭化物微量含む。
P3	1. 10W5/3(上) 黄褐色	砂質シルト	古削土質に少量、炭化物微量含む。
	2. 10W5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、炭化物微量含む。
P4	1. 10W5/3(上) 黄褐色	シルト	古削土質に少量、炭化物微量含む。
	2. 10W5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、炭化物微量含む。
P5	1. 2.5Y5/2 黄褐色	砂質シルト	古削土質に少量、炭化物微量含む。
	2. 2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	古削土質に少量、炭化物微量含む。
P6	1. 10W5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、炭化物微量含む。
	2. 10W5/3(下) 黄褐色	シルト	砂質シルトブロック(5～20mm程度)多量、IV級粘土少量、砂土・炭化物微量含む。※柱取跡
P7	1. 10W5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂質シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。
	2. 2.5Y5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂質シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。※柱取跡
SK1	1. 2.5Y5/3 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂質シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。
	2. 10W5/2(下) 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土・炭化物シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。
SK2	1. 2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～20mm程度)・炭土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。
	2. 2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。
SK3	1. 2.5Y5/2 黄褐色	砂質シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～20mm程度)・炭土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。
	2. 10W5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土・炭化物微量含む。
SK4	1. 2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	古削土質に少量、IV級粘土少量、砂土ブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。
	2. 10W5/3(上) 黄褐色	砂質シルト	古削土質に少量、砂土・炭化物微量含む。
SK5	1. 2.5Y5/3 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。
	2. 10W5/3(上) 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土・炭化物微量含む。
SK6	1. 10W5/3(上) 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。
	2. 2.5Y5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。
SK7	1. 10W5/3(上) 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。
	2. 2.5Y5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。
SK8	1. 10W5/3(上) 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。
	2. 2.5Y5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。
SK9	1. 10W5/3(上) 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。
	2. 2.5Y5/2 黄褐色	シルト	古削土質に少量、砂土シルトブロック(5～10mm程度)・砂土、炭化物微量含む。

SI19 残段觀察表

遺構名	断面 (cm)			備考
	上輪・輪軸	中輪	深さ	
P1 (輪穴)	(57) × (43)	(50)	至輪穴	
P2 (円形)	(48) × (47)	(31)		
P3 (円形)	(40) × (35)	38	至輪穴	
P4 (不規則)	(66) × (46)	36	至輪穴	
P5 (輪穴)	(45) × (44)	(24)		
P6 (輪穴)	(26) × (17)	29	入口付穴か 底面変色	
P7 (輪穴)	(34) × (24)	30	入口付穴	
SK1 (輪穴)	(66) × (60)	22		
SK2 (円形)	74 × (60)	32		
SK3 (輪穴)	(104) × (79)	23		
SK4 (輪穴)	(89) × (76)	30		



1 (堆積土・SI6 周溝)

0 (1:3) 10cm

測量名	平面図	断面図 (cm)	備考	測量 (cm)	外側調整	内面調整	備考	参考	参考
SI19 遺構名	当地点	層位	確認	輪郭	上輪 直径	底径	外側調整	内面調整	参考
1 E-059 SI19 周溝	堆積土	土表面	確認	环	(14.1)	(7.4)	3.7	外側調整 底径(10m/s)切り手持モード	参考
								外側調整 底径(10m/s)切り手持モード	参考

第 80 図 SI19 穴居跡出土遺物

【その他の施設】床面で 4 基(SK1～4)の土坑を確認した。SK1 が南東コーナー付近に、SK2～4 が西壁に沿うようにして並ぶ。SK3・4 は重複し、SK3 が新しい。SK1 の平面形状は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸 66cm、短軸 60cm、深さ 22cm を測る。SK2 の平面形状は円形を呈し、規模は残存値で長軸 74cm、短軸 60cm、深さ 32cm を測る。SK3 の平面形状は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸 104cm、短軸 79cm、深さ 23cm を測る。SK4 の平面形状は円形を呈し、規模は残存値で長軸 89cm、短軸 76cm、深さ 30cm を測る。いずれの土坑も性格は不明である。

【掘り方】深さ 25～28cm を測り、底面は概ね平坦だが、各コーナー付近が土坑状に低くなる。

【出土遺物】床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器、金属製品が出土した。このうち須恵器 1 点を掲載した(第 80 図)。环で、1/2 程度が残存する。底部は回転ヘラ切り後、一部が手持ヘラケズリ調整される。



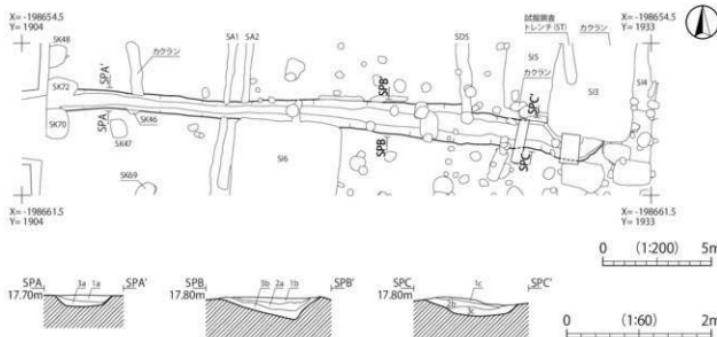
【時期】 据載した須恵器坏(第80図-1)は堆積土及びSI16周溝内からの出土で詳細な時期を確定し難いが、新旧関係ではSI16とSI17との間に位置付けられることから、A2期(9世紀前半)とB期(9世紀中頃～9世紀後半)の中間と考えられる。

(2) 溝跡 (第81図)

SD14溝跡 (第81図)

調査区北部、16～19区に位置する。西端部はSK70・72との重複のため不明であるが、調査区外に延びると考えられる。SI6、SK46・70・72より古く、方向はN-86°-Wで、東西方向へと直線的に延びる。検出した規模は、長さ25.17m、上端幅73～173cm、下端幅27～99cm、深さ7～31cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。底面は概ね平坦で、一定方向への傾斜はみられない。西半部分は幅が狭くなるが、削平の影響と考えられ、本来は一定の幅をもつ溝であったと考えられる。堆積土は大別で3層に分層され、東半部は黄褐色シルト、西半部は褐色砂質シルトを主体とする。中央部はややグライ化する。いずれの層も自然堆積である。

遺物は出土しておらず、本溝跡の詳細な時期は不明だが、SI6との新旧関係から、A1期(8世紀後半～8世紀初頭)以前である。



SD14溝跡観察表

堆積名	区別	方向	幅員(cm)			層位	土色	土性	備考	重複
			全員	上端幅	下端幅					
SD14	16～19	N-86°-W	2517	73～173	27～99	7～31	1a	7.5YR4/3 茶色	砂質シルト	SI6, SK46-70-72より古く。
							1b	5Y5/2オリーブ色	砂質シルト	
							1c	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	
							2a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	
							2b	2.5Y6/4に近い黄色	シルト	
							3a	7.5YR4/2 黑褐色	砂質シルト	
							3b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	
							3c	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	

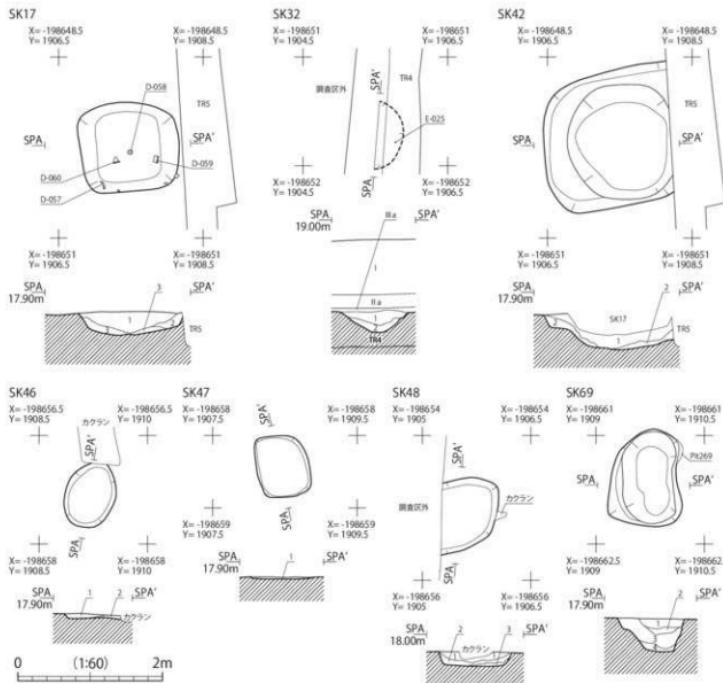
第81図 SD14溝跡



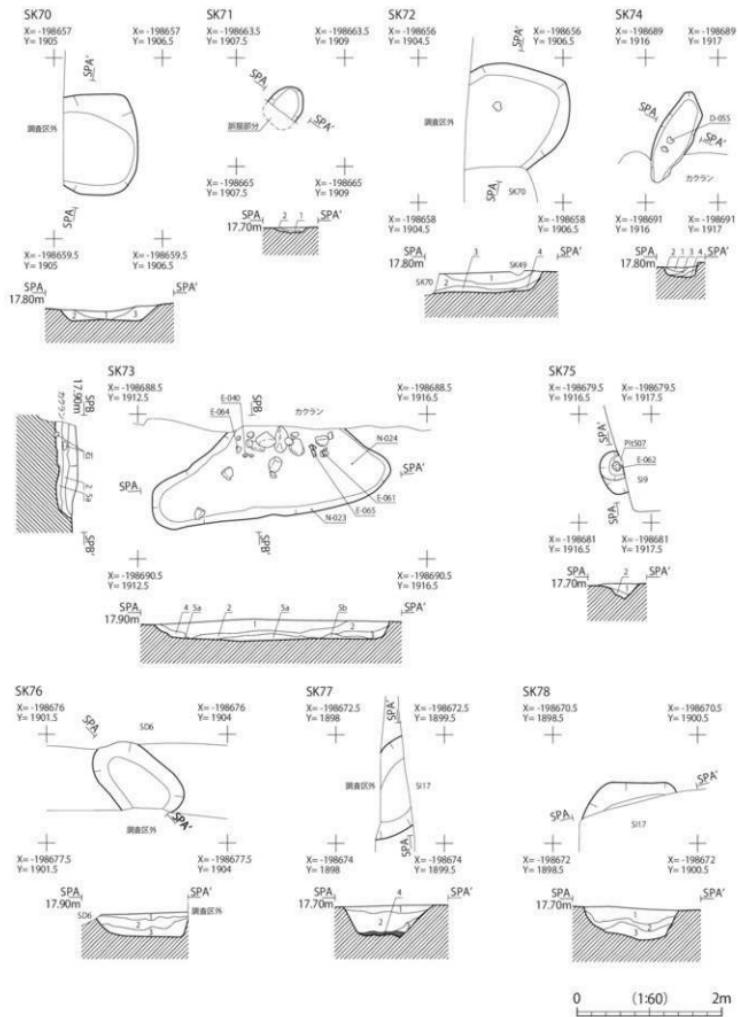
(3) 土坑(第82~84図)

土坑は、16基(SK17・32・42・46～48・69～78)検出された。調査区西部に分布の中心があり、中央部にSK75が、南部にSK73・75が位置する。平面形状は楕円形の土坑が多く、一部SK42・47・70・72など方形基調の土坑が存在する。断面形状は逆台形が大半である。規模はSK73の長軸333cm、短軸122cmが最大で、SK75の長軸47cm、短軸32cmが最小である。全体的に長軸100cm以上の土坑が多く見受けられる。堆積土はシルトまたは砂質シルトが主体で、色調は灰黄褐色～にぶい黄褐色と、灰褐色の二つの系統に分けられる。遺物はSK17・32・46～48・69～75から出土したが、土師器・須恵器の破片が主体である。このうちSK73の須恵器壺1点、SK74のロクロ土師器壺1点、SK75の須恵器壺1点を掲載した(第84図-1～3)。SK73からはこのほかにも鉄釘と考えられる金属製品が2点出土しているが、図化できなかった。

これらの土坑の性格はいずれも不明であるが、SK73については内部から多量の碟とともに土師器・須恵器などが出土していることから、廃棄坑として使用された可能性が考えられる。



第82図 SK17・32・42・46～48・69土坑



第83図 SK70 ~ 78土坑



土坑(奈良一平安時代) 細部表

遺構名	区分	平面形	幅標(cm) 長軸×短軸	深さ	層位	土 色	土性	備 考		重視
								幅標(cm)	長軸×短軸	
SK17	06-11	円形	159 × [144]	33	1	10YR1/3 布褐色	砂質シルト	灰白色シルト塊状に少量、灰白色シルトブロック(5~10mm程度)・灰白色シルトブロック(5~20mm程度)多量含む。		
					2	10YR4/2 布黃褐色	砂質シルト	灰白色シルト塊状に少量、灰白色シルトブロック(10~20mm程度)・灰白色シルトブロック(5~15mm程度)多量含む。		SK42より新しい。
					3	10YR4/3にぶ・布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰白色シルト塊状に少量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK32	11	不明	—	—	1	2.5Y3/3 布オーリーブ褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	2.5Y4/3 オーリーブ褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK42	06-11	方形	186 × [177]	53	1	7.5YR4/2 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	2.5Y4/3 オーリーブ褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		SK17より古い。
					3	7.5YR4/1 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK46	16	楕円形	(88) × 69	8	1	7.5YR4/2 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	7.5YR4/2 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					3	10YR1/1 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK47	16	反方形	86 × 73	5	1	7.5YR4/1 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	7.5YR4/2 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK48	11-16	梅円形	[106] × 97	29	1	7.5YR4/2 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	7.5YR4/1 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					3	2.5Y4/2 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK69	21-22	長椭円形	134 × 102	54	1	2.5Y3/3 布オーリーブ褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	2.5Y4/1 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					3	2.5Y4/2 布灰褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					4	2.5Y5/3 布褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒ブロック(5~20mm程度)多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		PA269より古い。
SK70	16	方形	139 × [103]	28	1	10YR4/2 布褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	2.5Y4/2 布灰褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					3	7.5YR4/2 布褐色	砂質シルト	N層上層位に少量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		SD14, SK72より新しい。
SK71	21	楕円形	(60) × 47	9	1	10YR4/3にぶ・黄褐色	砂質シルト	N層上層位に少量、灰土粒・灰化物粒ブロック(5~10mm程度)多量含む。		
					2	10YR5/2 布黃褐色	砂質シルト	N層上層位に少量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK72	16	方形	[157] × [146]	37	1	7.5YR4/2 布灰褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	10YR5/3にぶ・黃褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		SD14, SK49-70より古い。
					3	10YR5/3にぶ・黄褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK73	47-52	長椭円形	333 × [122]	22	1	2.5Y4/2 布灰褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	2.5Y5/3 布オーリーブ褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK74	47-52	長椭円形	133 × 49	29	3	2.5Y4/3 オーリーブ褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					4	2.5Y5/3 オーリーブ褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					5	10YR4/2 布褐色	シルト	N層上層位に少量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK75	42	円形?	47 × [32]	24	1	10YR4/3にぶ・黄褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		SD9より古い。
					2	7.5YR4/2 布褐色	シルト	N層上層位に少量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					3	10YR5/2 布黃褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK76	36	楕円形?	[127] × 80	38	1	10YR4/2 布黃褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	2.5Y5/3 黃褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					3	10YR5/3にぶ・黄褐色	シルト	N層上層位に少量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK77	61	楕円形?	114 × [84]	47	1	2.5Y5/2 布灰褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	2.5Y5/3 黃褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					3	10YR5/3にぶ・黄褐色	シルト	N層上層位に少量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		SH17より古い。
					4	10YR6/2 黃褐色	シルト	N層上層位に少量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
SK78	31-61	楕円形?	[138] × [32]	39	1	2.5Y5/2 布灰褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					2	2.5Y5/3 黃褐色	砂質シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		
					3	10YR5/3にぶ・黄褐色	シルト	N層上層位に多量、灰土粒・灰化物粒微量含む。		SH17より古い。



回数 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 回数
						口径 底径 高さ				
1	E-061	SK73	堆積土	須恵器	环	(12.9) 7.2 3.7	口輪調整 底部・回転ヘラ切り→手持ち分け付	口輪調整	内面大擦痕。 G.	27
2	D-055	SK74	堆積土	12口径 土師器	环	(14.5) 4.8 5.1	口輪調整 底下平・回転ヘラギ	口輪調整 底部・回転ヘラギ→手持ち分け付	内面黒色処理。	27
3	E-062	SK75	堆積土	須恵器	环	(13.8) (8.6) 3.8	口輪調整 底部・回転ヘラギ→手持ち分け付	口輪調整		27

第84図 SK73～75出土遺物

第84図-1・3は須恵器の杯である。1は3/4程度が残存し、器形は体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。底部は回転ヘラ切り後、手持ちヘラケズリ調整されるが、仕上げはかなり雑である。3は1/3程度が残存し、器形は体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口唇部は僅かに外反する。底部は回転ヘラ切り後、手持ちヘラケズリ調整される。2はロクロ土師器の环で、1/2程度が残存する。器形は体部が内湾気味に外傾し、口縁部はほぼ直立する。底部は回転糸切り後、手持ちヘラケズリ調整される。体部外側の下半は、回転ヘラケズリ調整される。内面は全体がヘラミガキ調整後、黒色処理される。やや薄手で精巧な作りである。

(4) 遺構外出土遺物 (第85図)

表土中や遺構検出面、攪乱内、平安時代～中世の遺構堆積土からは当該期の遺物が多量発見されている。ただし小片がほどんどで、図化できたのはロクロ土師器1点のみであった(第85図-1)。器種は环で、1/3程度が残存する。体部はやや内湾しながら外傾し、外面は体部から底部にかけて回転ヘラケズリ調整される。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。かなり薄手で、精巧な作りである。08区南東部の遺構検出面から出土したが、周辺では当該期の遺構は検出されなかった。



第85図 遺構外出土遺物



第6章 自然科学分析

第1節 京ノ中遺跡第2次発掘調査における放射性炭素年代(AMS測定)

株式会社 加速器分析研究所

1. 測定対象試料

京ノ中遺跡は、宮城県仙台市太白区富田字京ノ中83に所在し、名取川左岸域に形成された自然堤防上に立地する。

測定対象試料は、SI3竪穴遺構の床面から出土した炭化米2点、炉1から出土した木炭1点の合計3点である(表1)。

2. 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

3. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸・アルカリ・酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4. 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行なう。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOX II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5. 算出方法

- (1) δ¹³Cは、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(%)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半滅期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代はδ¹³Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差(±1σ)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値もδ¹³Cによって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示す。



に示した。

(4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma = 68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.3較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。历年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6. 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の¹⁴C年代は、試料No.1(遺物No.O-001)が 850 ± 20 yrBP、試料No.2(遺物No.O-002)が 760 ± 20 yrBP、試料No.3(遺物No.O-003)が 770 ± 20 yrBPである。历年較正年代(1σ)は、試料No.1(遺物No.O-001)が1169～1216cal ADの範囲、試料No.2(遺物No.O-002)が1256～1279cal ADの範囲、試料No.3(遺物No.O-003)が1228～1275cal ADの間に2つの範囲でそれぞれ示され、概ね12世紀から13世紀の中世頃に相当する(佐原2005)。

試料の炭素含有率は試料No.1(遺物No.O-001)が68%、試料No.2(遺物No.O-002)が69%、試料No.3(遺物No.O-003)71%の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C} (\text{‰})$ (AMS)	$\delta^{14}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-190934	No.1(遺物No.O-001)	SD3室穴遺構 床面	炭化米	AaA	-22.44 ± 0.41	850 ± 20	89.94 ± 0.25
IAAA-190935	No.2(遺物No.O-002)	SD3室穴遺構 床面	炭化米	AaA	-23.51 ± 0.44	760 ± 20	91.01 ± 0.25
IAAA-190936	No.3(遺物No.O-003)	SD3室穴遺構 丸	木炭	AAA	-25.89 ± 0.49	770 ± 20	90.87 ± 0.27

[IAAA登録番号:#9824]

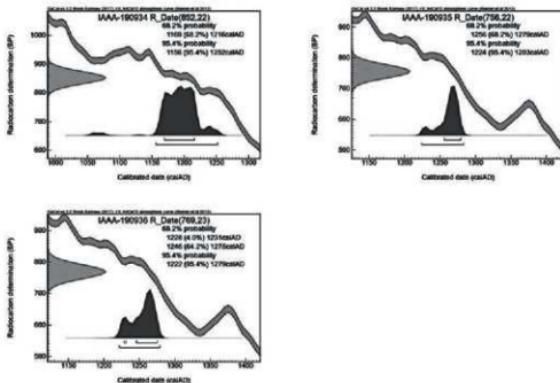
表2 放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、历年較正用¹⁴C年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ 補正なし		历年較正用(yrBP)	1 σ 历年年代範囲	2 σ 历年年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-190934	810 ± 20	90.41 ± 0.24	852 ± 22	1169calAD - 1216calAD (68.2%)	1156calAD - 1252calAD (95.4%)
IAAA-190935	730 ± 20	91.29 ± 0.24	756 ± 22	1256calAD - 1279calAD (68.2%)	1224calAD - 1283calAD (95.4%)
IAAA-190936	780 ± 20	90.7 ± 0.25	769 ± 23	1228calAD - 1231calAD (4.0%) 1246calAD - 1275calAD (64.2%)	1222calAD - 1279calAD (95.4%)

[参考値]

文献

- Bronk Ramsey,C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51 (1) 337-360
Reimer,P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon 55 (4) 1869-1887
佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分、佐原眞・ウェルナー・シュタインハウス監修、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集、ドイツ展記念概観 日本の考古学上巻、学生社、14-19
Stuiver,M. and Polach,H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data. Radiocarbon 19 (3) 355-363



第86図 歴年較正年代グラフ(参考)

第2節 京ノ中遺跡第2次発掘調査出土炭化材樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

宮城県仙台市太白区富田字京ノ中に所在する京ノ中遺跡は、古代から中世にかけての集落跡である。

本分析調査では、第2次調査で確認された平安時代の焼失住居跡から出土した炭化材について樹種同定を実施し、木材利用について検討する。

1. 試料

分析用試料は、SI7竪穴住居床面及びビットP4、土坑SK3から検出された炭化材20点である。試料の詳細は結果とともに表に示す。

2. 分析方法

炭化材は、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作成し、電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

結果を表3に示す。全体の半数以上がコナラ亜属コナラ節である。次いでクリが多い。その他ハンノキ属、クワ属、サクラ属が1点ずつ検出される。以下に検出された試料の解剖学的所見について述べる。



第87図 Si7 炭化材サンプル採取位置

表3 樹種同定結果

試料名	樹種名
S7	No.1 コナラ亜属コナラ節
S7	No.2 コナラ亜属コナラ節
S7	No.3 クリ
S7	No.4 クリ
S7	No.5 コナラ亜属コナラ節
S7	No.6 クリ
S7	No.7 不明
S7	No.8 コナラ亜属コナラ節
S7	No.9 コナラ亜属コナラ節
S7	No.10 コナラ亜属コナラ節
S7	No.11 コナラ亜属コナラ節
S7	No.12 ハンノキ属
S7	No.13 クリ
S7	No.14 コナラ亜属コナラ節
S7	No.15 サクラ属
S7	No.16 クリ
S7	No.17 コナラ亜属コナラ節
S7	No.18 コナラ亜属コナラ節
S7P4	No.19 コナラ亜属コナラ節
S7SK3	No.20 クワ属

・ハンノキ属 (*Alnus*) カバノキ科

散孔材で、道管は単独または2~4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高。おそらく、ヤシャブシ亜属 (*subgen. Alnaster*) と思われる。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prunus*) ブナ科

環孔材で、孔團部は1~3列、孔團外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔、壁孔は交互状に配列。放射組織は同性、単列、1~20細胞高程度のものと複合放射組織がある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔團部は3~4列、孔團外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

・クワ属 (*Morus*) クワ科

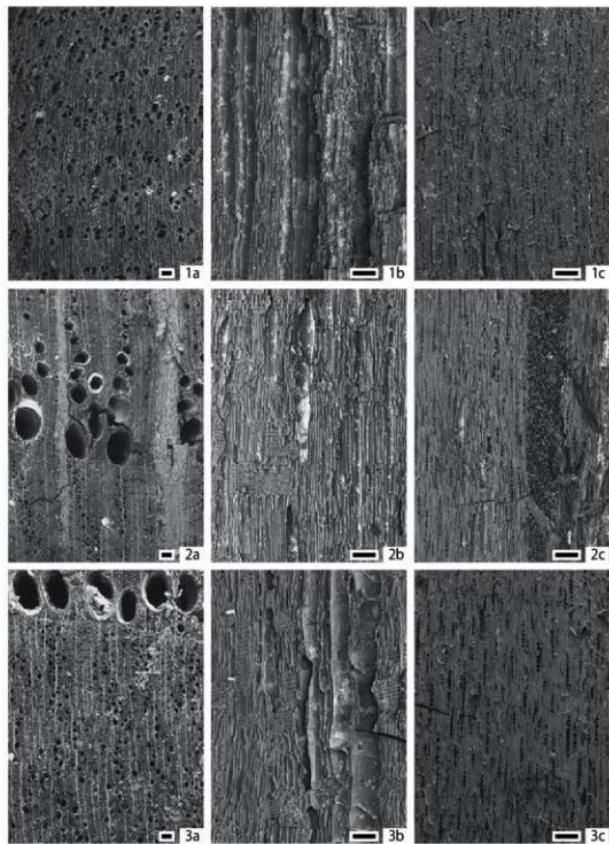
環孔材で、孔團部は3~5列、緩やかに移行し、晚材部は単独または2~4個が複合、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は單穿孔、壁孔は交互状。放射組織は異性、1~6細胞幅、1~50細胞高。

・サクラ属 (*Prunus*) バラ科

散孔材で、年輪のはじめにやや大型の道管が配列し、孔團外でやや管径を減じた後、単独または2~6個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は单穿孔し、壁孔は交互状。放射組織は異性、1~4胞幅、1~60細胞高。

4. 考察

検出された種類は、いずれも明るい林地を好む種類で、林縁や人里などに多い樹木である。特にコナラ節やクリは、成長が早く萌芽による再生が容易であるため、伐採や粗朶の収奪等、人間による植生干渉にも強い。このため、本地域のような冷温帯に属する地域では、コナラ節やクリが人里近くの里山に二次林として生育する。一方、クリやコナラ節は重硬で、加工しやすく、比較的水湿にも強いことから、住居構築材として向く。特に住居跡S17は焼失

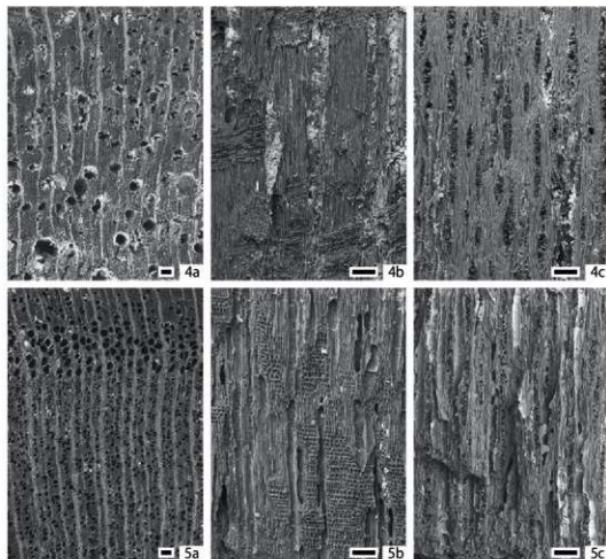


1.ハンノキ属 (SI7 No.12)
2.コナラ属 (SI7 No.1)
3.クリ (SI7 No.3)

a:木口 b:径目 c:板目
スケールは100μm

第88図 炭化材(1)

住居跡とされていることから、これらの木材が住居建築に用いられた可能性が高い。木材データベース(伊東・山田編 2012)によると、県内の古墳時代～平安時代の遺跡から出土した建築部材や柱材は、本分析調査の結果同様にコナラ節やクリが多いことがわかる。のことから、遺跡近くで得やすく、かつ建築用材として適した木材を多用していたことが推測される。



4.クワ属 (SK3 No.2)
5.サクラ属 (S7 No.15)

a木口 b弦目 c板目
スケールは100μm

第89図 炭化材(2)

引用文献

- Bronk RC.,2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360.
- 林昭三,1991.日本産木材顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31.京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32.京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33.京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34.京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35.京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012.木の考古出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- Reimer PJ,Bard E,Bayliss A,Beck JW,Blackwell PG,Bronk RC,Buck CE,Cheng H,Edwards RL,Friedrich M,Crootes PM,Guilderson TP,Hafidsson H,Hajdas I,Hatté C,Heaton TJ,Hoffmann DL,Hogg AG,Hughen KA,Kaiser KF,Kromer B,Manning SW,Niu M,Reimer RW,Richards DA,Scott EM,Southern JR,Staff RA,Turney CSM,van der Plicht J,2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon,55,1869-1887.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006.針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修).海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地謙・伊東隆夫,1982.図説木材組織.地球社,176p.
- Stuiver M. & Polach AH.,1977 Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon,19,355-363.
- Wheeler E.A,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修).海青社,122p. [Wheeler E.A,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



第7章 総括

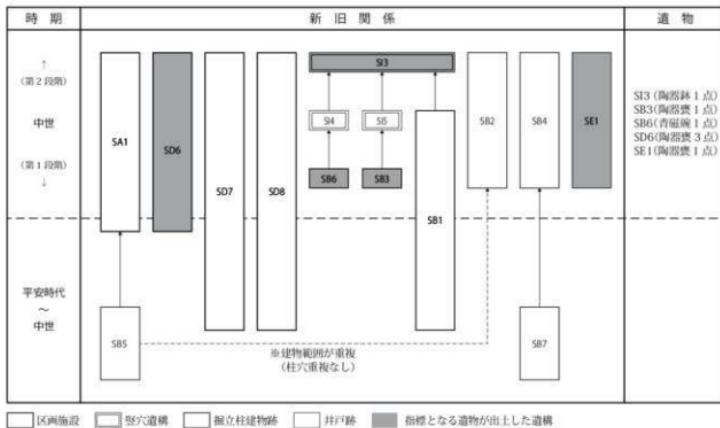
第1節 平安時代～中世の遺構について(第90～93図)

(1) 遺構の変遷(第90・91図)

検出された平安時代～中世の遺構は、竪穴遺構3基、掘立柱建物跡7棟、木樁跡2条、小溝状遺構群2群、溝跡12条、井戸跡1基、土坑59基、ビット461基である。分布としては調査区の中央部とその周辺に集中し、木樁跡SA1・2及び溝跡SD6～8を境界に、その外側では散漫となる。この分布上の違いからSA1・2とSD6～8は区画施設と捉えられ、多くの遺構がこの区画を意識して配置されたと考えられる。実際、区画内には竪穴遺構・掘立柱建物跡・井戸跡が一定の規則性をもって分布し、加えて一部の土坑やビットにもそれに対応する位置関係を示すものがある。

今回の調査で時期を明確にできた遺構は、放射性炭素年代測定により12～13世紀代であることが明らかとなったSI3がある。それ以外の遺構については不明だが、SB3・6の柱穴埋土、そのほかSD6及びSE1などの堆積土からは中世に比定される陶器鉢・甕や青磁碗が破片で少量出土している。また、SB4より古いPit477からも陶器鉢の破片が出土した。陶器には常滑産とみられるものがあり、青磁は龍泉窯産とみられる中国青磁である。これらの遺物やSI3の年代からみると、区画施設とともに竪穴遺構・掘立柱建物跡を含む遺構が中世の早い時期に成立した可能性を示唆している。

以下、平安時代～中世の遺構のうち、区画施設・竪穴遺構・掘立柱建物跡・井戸跡を対象に変遷を追ってみたい。これらには重複による新旧関係や出土遺物などからおよその時期が推定できるものと、詳細不明のものとが存在する。第90図は各遺構の新旧関係を一部推定も含めて示した模式図である。最も遡る時期を「平安時代～中世」とし、それ以降中世の一定期間を「第1段階」「第2段階」と2つの時期に分け、合計3つの時期区分を設定した。



第90図 平安時代～中世主要遺構新旧関係模式図



平安時代～中世



中世(第1段階)



中世(第2段階①)



中世(第2段階②)



■ 遺物・新旧関係有 ■ 詳細不明

0 (1:600) 20m

第91図 平安時代～中世主要遺構変遷図



① 平安時代～中世

時期的に最も遡るとみられる一群で、該当するのはSB5・7である。SB5はSA2より古く、SB7はSB4より古い。また、SI3の付属柱穴1・2より古いSB1も当期に遡る可能性があるが、詳細は不明である。いずれも方位は北に對し8°東に傾く。木柵跡を作り本格的な区画施設はまだ存在していなかったようである。ただしSD6に平行するSD7・8は、堆積土の違いからSD6と時期差をもつと考えられ、当期に遡る可能性もある。

② 中世(第1段階)

該当するのはSB3・4・6、SD6、SE1であるが、SB4、SD6、SE1については次の第2段階で成立した可能性もある。SB4を除き中世の遺物が出土しており、SB3はSI5より古く、SB6はSI3より古い。SB1も当期の成立である可能性がある。また、SB2はSB3と建物の方位や南北範囲が概ね一致することから、それぞれを意識して配置されたと考えられる。ただし建物間が約1mと近すぎるため同時並存とは考えにくいが、両者の時期差はあまりないものとみられる。当期の掘立柱建物跡の方位は、SB4が3°東に傾くほかは7°～11°であり、若干の違いがある。

当期に至るまでの間には木柵跡SA1・2が設置され、区画の整備が行われたことが推定される。SA1・2の方位はSB2・3・6と比較的近く、またSB2とは約2mの距離を保って平行する。これら建物群と木柵跡の成立は密接な関係にあるとみられ、掘立柱建物跡の形態も庇をもち大型の柱穴で構成される中核的な建物が主体となる。井戸跡の存在も加え、全体的に小規模な屋敷としての様相を呈すようになる。

③ 中世(第2段階)

当期には、SI3～5の竪穴遺構が成立する。これらは少なくともSB3・6よりは後出するが、その他第1段階の遺構との新旧関係は不明である。SB2・4など、一部の遺構とは時期的並行性をもつ可能性もある。SB1はSI3よりは古いが、SI4・5との重複はなく当期が下限とされる。

竪穴遺構のうち最も新しいSI3は外周に付属柱穴列を作り、ほかの2基には無い構造となっている。いずれの竪穴遺構も性格は明らかにできなかったが、掘立柱建物跡SB3・6廃絶後における竪穴遺構の成立は、同地点において何らかの機能的な変化が生じたことを窺わせる。

(2) 掘立柱建物跡について(第92図)

今回は掘立柱建物跡が7棟検出されたが、様々な形態があり、概ね下記の通りに分類できる。なお、柱穴規模については一部正確な数値が計測できないものは除外し、小数点以下は四捨五入した。

建物構造 A類：側柱 B類：総柱

柱穴規模 1類：小型(長軸平均40cm以下) 2類：大型(長軸平均50cm以上)

付帯施設 a類：庇なし b類：庇あり

この組み合わせを各掘立柱建物跡に適用し、第92図及び属性表に示した。まず建物構造をみると時期を通して側柱(A類)と総柱(B類)の両者が並存する。柱穴規模は当初は小型(1類)であるが、中世でも第1段階になると大型化(2類)し、庇をもつ建物(b類)が出現する。建物規模については、B類にやや大型化の傾向が見受けられるが、A類については目立った変化はみられない。北に対する建物方位は、規格性をもつ状況から次第に崩れていく様相がある。

出土遺物は僅かであるが、陶器には常滑産とみられるものが混在し、中国青磁も1点のみが出土している。これらを入手し得た相応身分の人物が存在したと考えられる。

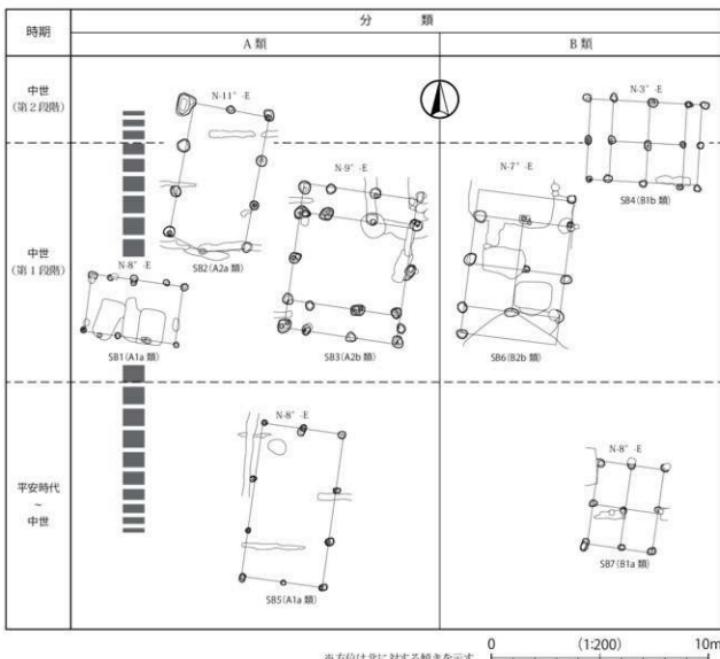


掘立柱建物跡の属性一覧

選択番号	区分	平面形状・規模			主軸方向			柱 六		その他の特徴	時期区分	備考	分類	
		間数 柱間×梁行 (間)	柱間 横幅 構造	平面 形状	方 位	露出 基盤	被出数	平面形状						
SB1	19・20 22・23	4×1	側柱	長方形	423 296	N-82°-W	北側柱 柱間	13	円形基調主体	平安時代～中世(第1段階)	SK20・22より古い。	A1a		
SB2	17・18 22・23	3×2	側柱	長方形	615 351	N-11°-E	東側柱 柱間	10	円形基調主体	中世 (第1・2段階)	SD10・11より古く、SK38より新しい。SB5と範囲が重複(新旧箇部不明)。	A2a		
SB3	18・23	3×2	側柱	長方形	525 409	N-81°-W	北側柱 柱間	身合10 底9	円形基調主体	南北両面に底	SD5・SD6・5、SK26・39より古く、SB64より新しい。	A2b		
SB4	27・28 32・33	2×2	組柱	方形	370 339	N-3°-E	北側柱 柱間	身合9 底6	円形基調主体	東西両面に底	SD7より新しい。	B1b		
SB5	12・17 22	3×2	側柱	長方形	713 375	N-8°-E	東側柱 柱間	10	円形基調主体	平安時代～中世	SA2より古く、SB2と範囲が重複(新旧箇部不明)。	A1a		
SB6	18・19 23・24	2×2	組柱	方形	442 421	N-83°-W	北側柱 柱間	身合9 底(2)	橢円形基調主体	南北両面に底	中世 (第1段階)	SB3より古い。	B2b	
SB7	27・28 32・33	2×2	組柱	長方形	387 302	N-8°-E	東側柱 柱間	9	橢円形基調主体		平安時代～中世	SB4より古い。	B1a	

*表中の各数値について、()は原標を表す。

*柱行・梁行共に最大値を示した。



第92図 掘立柱建物跡集成図



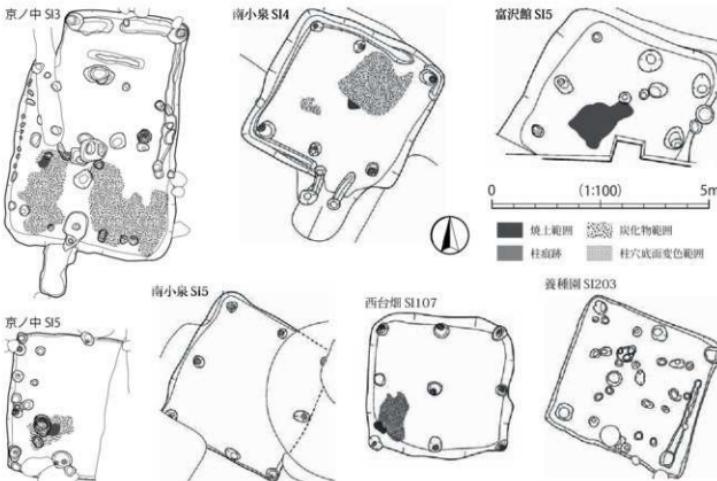
(3) 穫穴遺構について(第93図)

平安時代～中世の遺構のうち、掘立柱建物跡以外の主要施設に竪穴遺構がある。今回検出されたSI3～5はごく狭い範囲に重複し、それぞれが単独で順次構築されたとみられる。SI4は残存が不良で詳細不明だが、SI3は長方形の平面を呈する竪穴部の一辺にテラス状の施設が付き、東西両壁寄りにそれぞれ1基ずつのが作る。主柱穴は壁際に巡らほか、長軸上に2基配置されている。床面上の南半部には炭化物が広がる。SI5は方形とみられる竪穴部をもち、西壁寄りに1基のが作る。主柱穴は壁際に巡る。

SI3のように壁外施設を作り仙台市内での調査例としては、南小泉遺跡第68次調査SI1～4が比較的近い形態をもつ(仙台市2014)。これらは竪穴部の一辺に付設され、底面は竪穴内部に向かって傾斜する。底面の両端には平行する小規模な溝、さらにはピットを作り場合があり、入口施設である可能性が指摘されている。ただし本遺跡SI3の施設は底面が平坦で、竪穴部の床面まで20cm程度の段差をもち、接続部の前方が浅い土坑状に掘り込まれるなど異なる特徴も見受けられることから、現状ではその機能は不明としておきたい。

SI5に類似する竪穴遺構について、至近の例では富沢館跡SI4・5が挙げられる(仙台市2018)。10世紀前半以降に位置付けられ、鍛冶関連施設の可能性が指摘されている。詳細な時期は不明であるが、形態としては本遺跡SI5に非常に良く似ている。位置は富沢館跡縄張りの縁辺で、土壠の内側に位置する。特にSI5の方は堀・土壠の方向性とほぼ一致し、中世階段の遺構である可能性は十分に考えられる。なお、南小泉遺跡第68次調査SI5・6(仙台市2014)、西台畠遺跡第7次調査SI107・108(仙台市2013)、養種園遺跡第2次調査SI203(仙台市2009)なども類似形態の遺構として挙げられる。

これらの竪穴遺構の性格は、土倉・鍛冶関連施設などが推定されているが、本遺跡の場合炉を作りものの、鍛冶関連遺物がほとんど出土していない。今後の検討課題としたい。



第93図 SI3・5及び類似遺構



第2節 奈良～平安時代の出土土器について（第94～96図）

（1）時期設定

奈良～平安時代の遺物は、土師器（非ロクロ・ロクロ）・須恵器、礫石器・石製品、金属製品、土製品などが遺物コンテナで12箱分出土した。大半が竪穴住居跡の遺物であり、土器類が圧倒的に多い。特に土師器はロクロ土師器が主体で、非ロクロ土師器はごく少量である。礫石器には磨石・敲石があり、金属製品は全て鉄製品で刀子・釘のほかは棒状製品など器種不明のものが多い。土製品はほとんどがカマドの構築材とみられる粘土ブロックである。そのほか、炭化米や種などの自然遺物も出土した。これらの遺物のうち、本節では竪穴住居跡出土の土器類を取り上げ、その変遷について検討したい。

京ノ中遺跡では第1次調査の報告時に、周辺の鍛冶屋敷A遺跡・鍛冶屋敷B遺跡・富沢館跡・鍛冶屋敷前遺跡・宮崎遺跡とともに土師器・須恵器についてある程度の時期区分が設定されている（仙台市2018）。それはA期（9世紀前半以前～9世紀前半）、B期（9世紀中頃～9世紀後半）、C期（10世紀前半～10世紀前半以降）の3つの時期である。しかし今回の調査では8世紀にまで遡る資料もあることから、少なくともA期については細分が必要と考え、再検討の結果、A期をA1期（8世紀後半～8世紀末頃）、A2期（9世紀前半）の2つの時期に細分した。以下、この時期区分に従い、各期の特徴について触れてみたい。

（2）各期の様相

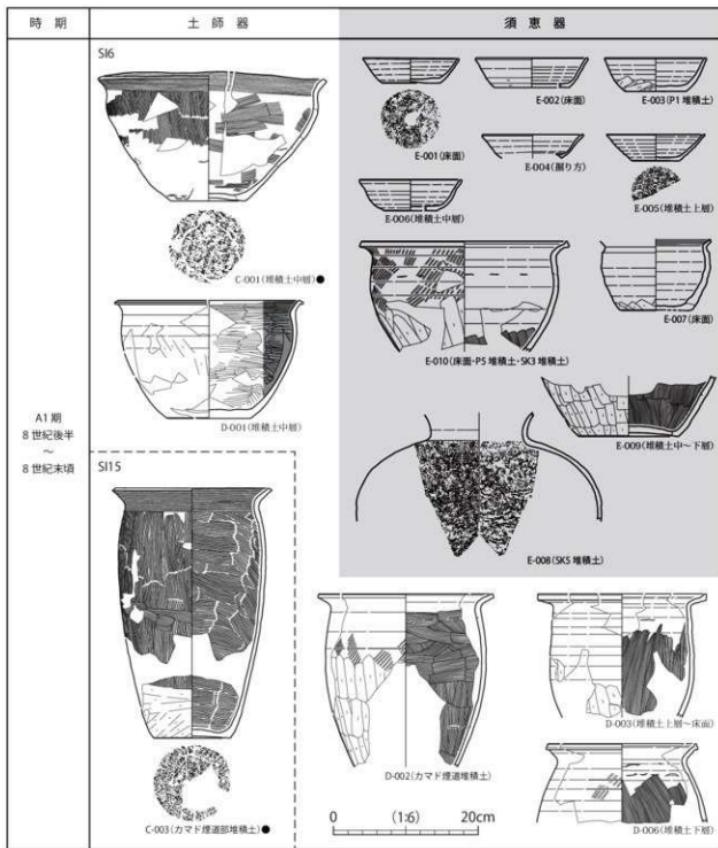
第94～96図に集成した土器は、竪穴住居跡出土の登録遺物118点のうち、掲載遺物63点である。このうち、竪穴住居跡との共伴性が高いとみられる床面及び床面施設出土資料50点を主な対象とし、検討を加える。

① A1期（8世紀後半～8世紀末頃）

S16・15が該当する。S14もその可能性がある。

土師器は、非ロクロ土師器とロクロ土師器が認められるが、掲載外とした遺物を含めても直接共伴するとみられるロクロ土師器はごく少量である。非ロクロ土師器のS15：C-003は實で、長脣を呈し、脣部上位がやや張るが、口縁部に最大径をもつ。口縁部は「く」字形に外反する。脣部外面はハケメ後下半部がヘラケズリ調整され、内面はハケメ調整が主体である。底部外面には木葉痕がみられる。ロクロ土師器は、S16：D-002の甕のみである。器形がC-003に類似し、脣部外面は平行タタキ後ロクロ調整され、さらに中位～下位がヘラケズリ調整される。内面はハケメ調整である。なお、S14：D-043もロクロ土師器の甕であるが、破片資料のため混入遺物の可能性がある。A2期に下るとも考えられ、便宜上第95図に示した。

須恵器は、S16のみ出土している。E-001～003が环、E-007・10が鉢、E-008が甕である。环の体部は直線的に外傾するが、E-003にはやや内湾気味の傾向がある。底径／口径比は0.58～0.68で、平均値は0.62と、底径が大きい。底部はいずれも切り離し後、回転もしくは手持ちヘラケズリ調整され、切り離しの痕跡を丁寧に消しているが、E-001のみ回転ヘラ切りの痕跡が一部に残る。鉢E-007は小型甕に近い形状を呈し、器形は体部上位が張り、口縁部と体部の境に強い棱をもつ。口縁部は短く外傾する。底部付近は手持ちヘラケズリ調整される。E-010は大型鉢で、口縁部は受口状を呈する。脣部外面は平行タタキ後ロクロ調整し、さらに下位がヘラケズリ調整される。内面はロクロ調整後、下位がヘラナデ調整される。頸部付近の内外両面には輪積痕が残る。甕E-008は球状の脣部をもち、頸部の窄まりは強い。脣部外面には平行タタキ、内面には青海波状の当て具痕が残る。



●は井口ロ土師器・ゴシック体は床面又は床面施設出土

第94図 穴住居跡出土土器集成図 (A1期)

② A2期 (9世紀前半)

SI7・8B・9・17が該当する。SI14も当期が下限である。SI19は当期とB期の中間に位置付けられる。

土師器は、当期からロクロ土師器のみとなる。SI7:D-009・010・012、SI8B:D-024・025は壺、SI9:D-032は甌、SI7:D-013、SI8B:D-026、SI17:D-051・052は甕である。甕はいずれも体部から口縁部にかけて内済気味に外傾し、内面における底部と体部との境界が不明瞭である。SI8Bの2点は口縁部が僅かに外反する。SI7の甕



は厚手だが、SI8Bの环は薄手で精巧な作りである。これらの底径／口径比は0.43～0.63で、平均値は0.51である。底部の切り離しは回転糸切りの痕跡を残すD-010・024があるが、ほかは回転もしくは手持ちヘラケズリで調整され、判断がつかない。いずれも内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。D-032の塊は厚手の小塊で、体部から口縁部にかけては内湾気味に外傾し、底部は平底だが僅かに丸みをもつ。体部から底部にかけての外面は手持ちヘラケズリで調整され、底部の切り離し技法は不明である。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。表は小型表(D-026・051)と大型表(D-013・052)とがあり、いずれも胸部中位が張る器形を呈するが、小型表の場合張りが弱く、特にD-026は直線的な胸部を有する。大型表の胸部外面には平行タタキの痕跡が残り、全体の2/3以上が残存するD-051・052では、ロクロ調整後に下位がヘラケズリ調整される。内面はD-051の胸部全体、D-052の胸部下位がヘラナデ調整される。

須恵器は、SI7：E-019～024・066、SI8B：E-032・033、SI9：E-035・036、SI17：E-051が环、SI7：E-025・SI17：E-053が表である。环は体部から口縁部にかけて直線的に外傾するものと、内湾気味に外傾するものがほぼ同数あり、底径／口径比は0.43～0.56で、平均値は0.50である。A1期より底径が小さくなる傾向があり、底径／口径比が0.50未満のものが大半を占める。底部の切り離しは回転ヘラ切り(E-019・021・023・024・035・036・051)と回転糸切り(E-018・020・022・032・033・066)とがほぼ同数あり、E-021が底部周縁を回転ヘラケズリ調整されるほかは全て未調整である。表のうちE-025の胸部はやや長胴で上位が張る。外面には平行タタキの痕跡が残り、その範囲は底部の周縁にまで達している。内面はロクロ調整後、下位がヘラナデ調整される。E-053は口縁部が受口状を呈し、外面は平行タタキ後、内面とともにロクロ調整される。平行タタキの範囲は、口縁部にまで達している。

③B期(9世紀中頃～9世紀後半)

SI8A・10・16が該当する。SI19も、当期が下限である。

土師器は全てロクロ土師器で、SI8A：D-017～019、SI10：D-033～035が环、SI8A：D-020が鉢、SI16：D-045・046が表である。环はいずれも体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、D-034の口縁部は外反する。D-033はやや厚みをもつが、ほかは薄手で精巧な作りである。底径／口径比は0.39～0.46で、平均値は0.45と、底径がA2期よりも小さくなる。底部の切り離し技法は、確認できたものは全て回転糸切りだが、D-017・033は底部周縁が、D-018・019・034は全体が回転もしくは手持ちヘラケズリ調整され、特にD-018・019の切り離し痕は完全に消されている。また、内面はヘラミガキ調整されるが、黒色処理はD-033では認められない。鉢は大型鉢で、体部は大きく開き、口縁部は受口状を呈する。体部はロクロ調整後、下位の外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ調整される。外面のヘラケズリ範囲は、底部にまで達する。表はともに大型表で、胸部上位が張り、D-046の口縁部は受口状を呈する。いずれも胸部外面に平行タタキの痕跡は認められない。D-045の胸部はロクロ調整後、下位の外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ調整される。内面の上位には、部分的に輪積痕が残る。

須恵器は、SI16：E-041～043が环、SI10：E-040が塊、SI10：E-039が表である。环はいずれも体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、E-041の口縁部は僅かに外反する。底径／口径比は0.45～0.52で、平均値は0.50とA2期に比べ数値上の差はないが、最大値が若干減少する。底部の切り離しはE-042が回転ヘラ切り、ほか2点が回転糸切りで、いずれも未調整である。塊は小塊で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁部は外反する。体部はやや腰の張る形状で、底部は回転糸切り未調整である。表は口縁部が「く」字状に屈曲して外反し、受口状を呈する。胸部外面には平行タタキの痕跡が残るが、部分的である。内外面ともにロクロ調整され、内面には一部輪積痕が残る。



時期	土器	須恵器
SI7	 	
A2 期 9世紀前半	 	
SI14 (A2 期以前)		
SI17	 	

ゴシック体は底面又は裏面施設出上

第95図 積穴住居跡出土土器集成図 (A2期)



時期	土師器				須恵器
SI8A					
SI10 B期 9世紀中頃 ～ 9世紀後半					
SI16 C期 10世紀前半 ～ 10世紀前半以降					
SI12 C期 10世紀前半以降					

0 (16) 20cm

ゴシック体は床面又は床面施設設面上

第96図 穫穴住居跡出土土器集成図 (B・C期)

④ C期 (10世紀前半～10世紀前半以降)

SI12のみが該当する。出土したのは土師器のみで、須恵器は出土していない。

土師器は全てロクロ土師器で、器種は壺のみが出土している(D-039～041)。いずれも体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、体部の開きが大きくなる。D-039・041の口縁部は外反し、全体的に薄手で精巧な作りである。底部の切り離し技法は回転糸切りで、切り離し後の調整はD-039・040の一部がヘラナデ、もしくはヘラケズリ調整される程度である。底径/口径比は0.35～0.42で、平均値は0.38と底径はかなり小さくなる。D-039の内面はヘラミガキ調整後、黒色処理されるが、ほか2点は未処理である。

各期を通じてロクロ土師器・須恵器の変遷をみると、壺については両者ともに底径の縮小化・底部調整の簡略化がみられ、ロクロ土師器については黒色処理の減少がある。これらの傾向を踏まえ、各期の編年を行ってみる。なお、器高については一定の変化があまり抽出されなかったため、若干触れる程度に留めたい。



A1期のロクロ土師器はSI6:D-002の壺のみである。掲載した堆積土中の遺物、或いは掲載外とした床面もしくは床面施設の出土遺物中にも壺類は少量しか確認できない。この状況は、当地域のロクロ土師器盛行以前の段階にあることを示している。須恵器の壺類は3点のみだが、いずれも底径が大きく、底径／口径比は0.58～0.68で、平均値は0.62を測る。器高／口径比は底部はいずれも切り離し後に調整され、切り離し技法はE-001の回転ヘラ切りのみが確認された。これらの特徴は多賀城跡のA群土器と共通するものであり、同群には8世紀前半～後半の年代が与えられている。ただしSI6の場合、埋没過程で混入した須恵器環(第47図-10・11)に9世紀以降の特徴が認められることから比較的下る年代が考えられ、A1期については8世紀後半～8世紀末頃の年代を考えておきたい。

A2期では土師器はロクロ土師器のみとなり、壺をみると底径／口径比は0.43～0.63、平均値は0.51を測り、底部の調整は全体に及ぶものと周縁だけのものとが同数となっている。切り離し技法はSI7:D-010とSI8B:D-024で確認され、ともに回転糸切りである。内面は全て黒色処理される。須恵器環は底径／口径比が0.43～0.56、平均値が0.50を測り、この平均値を下回るのが大半を占める。底部の切り離し技法は回転ヘラ切りと回転糸切りとがほぼ同数確認され、調整はSI7:E-021の1点が底部周縁を回転ヘラケズリ調整されるのみである。これらは多賀城跡B・C群土器双方にみられる特徴を含むことから、A2期の年代についてはC群土器に平行する9世紀前半を考えておきたい。

B期のロクロ土師器壺は、底径／口径比が0.39～0.46で、平均値は0.45を測り、A2期と比べ底径は縮小する。底部の調整は全体に及ぶものが3点、周縁のみのものが2点、未調整のものが1点確認され、底部切り離し後の調整を簡略したものと目立つようになる。切り離し技法は4点で確認され、いずれも回転糸切りである。内面はSI10:D-033の1点を除き、ほかは黒色処理される。須恵器環は底径／口径比が0.45～0.52、平均値が0.50を測り、数値上はA2期との差はない。底部の切り離し技法は回転糸切りと回転ヘラ切りが確認され、いずれも未調整である。多賀城跡D群土器との共通性がみられ、第1次調査の所見通りB期の年代については9世紀中頃～9世紀後半と考える。

C期は、ロクロ土師器壺のみである。体部は大きく開き、器高が低くなる。底径／口径比は0.35～0.42で、平均値は0.38を測り、底径は口径の40%未満となる。底部の切り離しはいずれも回転糸切りで、調整は一部に施される程度である。内面は黒色処理されるのが1点、ほか2点は未処理である。多賀城跡E群土器との共通性がみられ、第1次調査の所見通りC期は10世紀前半～10世紀前半以降としたい。

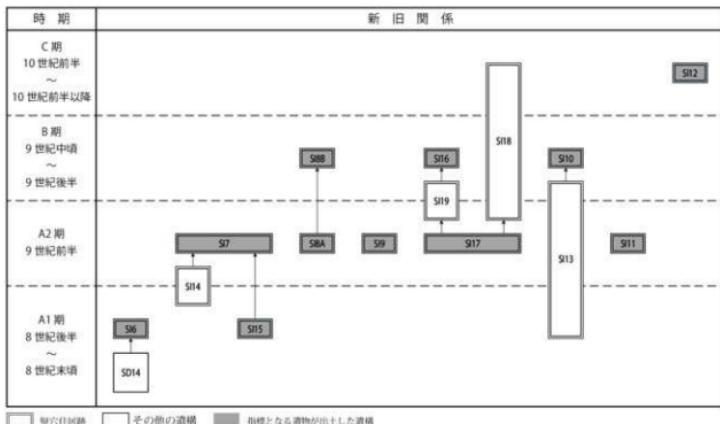
第3節 奈良～平安時代の遺構について(第97～99図)

(1) 遺構の変遷(第97・98図)

奈良～平安時代の遺構は、竪穴住居跡15軒、溝跡1条、土坑16基が検出された。これらの遺構は竪穴住居跡を中心に集落を構成するものであり、集落の存続期間は8世紀後半から10世紀前半(以降)に至るまでの150年前後が考えられる。さらに竪穴住居跡から出土した土器を検討するとA1～C期の4時期に細分でき、この細分に従って遺構の変遷を示したのが第98図である。ただしSI13・14・19については指標となる遺物が出土しておらず、重複にみる新旧関係から概ねの時期を推定するのみとなった。また土坑についても不明な点が多く、ある程度時期が特定できるものを第98図に示したほかは、文章中で簡単に触れる程度に留めた。時期ごとにみる遺構の変遷は、次の通りである。

① A1期(8世紀後半～8世紀末頃)

集落の形成期に相当し、SI6・15の2軒が調査区の中央部からやや北寄りにかけて構築される。SI13・14も当期の構築と考えられなくもないが、詳細は不明である。



第97図 奈良～平安時代主要遺構新旧関係模式図

SI6・15の距離は1m程度と近接するため、同時並存ではなく若干前後して構築されたと考えられる。SI6より古いSI14の存在や、SI6の堆積土中に非クロコ土師器だけでなくクロコ土師器の混入が目立つことと併せ(第46図-2～4・ほか括遺物を実見)、当時はSI15とSI14の組み合わせで集落形成が開始された可能性も考えられる。SI14の北側には奈良～平安時代の遺構がほとんど検出されておらず、集落範囲の北限を設定した区画溝の可能性がある。土坑については、SI9・17(ともにA2期)より古いSK75・77・78が当期に属すると考えられる。SK75からは、SI6と特徴同じにする須恵器環(第84図-3)が出土している。

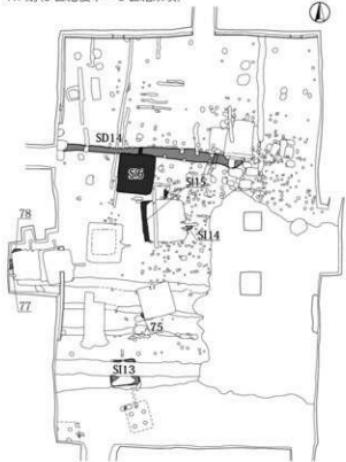
② A2期(9世紀前半)

SI7・8B・9・11・17が当期に比定される。集落範囲は西側及び南側に拡大し、竪穴住跡の数が最も増加する時期である。SI11のカマド底面から出土したロクロ土師器杯は焼成できなかつたが、下半部が残存し、底部から全体にかけて内湾気味に外傾する。底部は径7.6cmを測り、回転糸切り後、周縁が手持ちヘラケズリ調整される。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。これらの特徴から、SI11を当期に比定した。

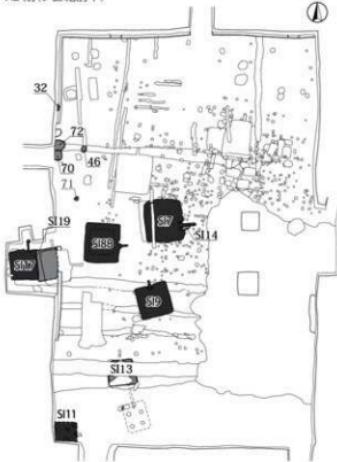
当期の竪穴住跡同士の距離(壁線同士の距離で計測)を測定してみると、SI7とSI8B間が約3.5m、SI7とSI9間が約5.5m、SI9とSI11間が約17m、SI8BとSI17間が約6mとなる。SI9とSI11間が大きく離れるが、そのほぼ中間にSI13が位置する。これを当期の構築と考えれば比較的大型のSI7・8Bを起点とし、その西側と南側に5～7m前後の間隔で竪穴住跡が配置されていたことになるが断定はできない。また、SI14は当期が下限、SI19は当期が上限である。このうちSI14についてはSI7よりは古いものの、カマド煙道部の堆積土からロクロ土師器の壺破片(第69図-1)が出土しており、当期の古い段階に位置付けられる可能性がある。SI19については、当期に比定される須恵器環(第80図-1)が出土しているが、出土層位は堆積土中及び重複するSI16(B期)の周溝堆積土であり、混入遺物として扱うべきものである。土坑については、SI14より新しいSK46・70・72が少なくとも当期以降に位置付けられ、いずれもロクロ土師器が出土している。ロクロ土師器は周辺に位置するSK32・71からも出土しているが、いずれも小破片のため、これらの具体的な時期は明らかにできなかった。



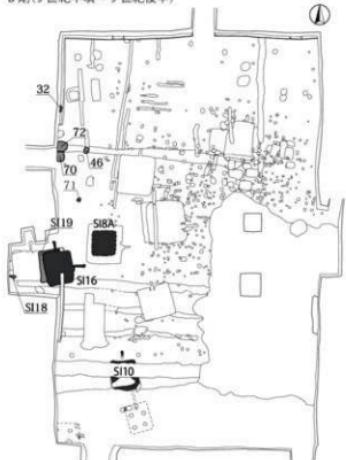
A1期(8世紀後半～8世紀末頃)



A2期(9世紀前半)



B期(9世紀中頃～9世紀後半)



C期(10世紀前半～10世紀前半以降)



■ 指標となる遺物が出出土した遺構

■ 詳細不明

※土坑名は番号のみで表記

0 (1:600) 20m

第98図 奈良～平安時代主要造構変遷図



③ B期（9世紀中頃～9世紀後半）

SI8A・10・18が当期に比定される。SI19も当期が下限である。SI18はSI17より新しいが、詳細は不明である。ただし、位置関係をみるとSI8A・16（もしくはSI19）と一定のまとまりがあることや、これらとカマド方位を同じくすることなどから、当期に比定される可能性が高い。

当期はA2期に比べ竪穴住居跡が減少し、分布は調査区の南西に偏ったものとなる。特に既述の通りSI8Aを東端とする西側の小群と、これと距離を置いて単独で位置する南側のSI10と配置的に二分される。土坑についてはA2期以降のものが一部当期に該当する可能性もあるが、詳細は不明である。

④ C期（10世紀前半～10世紀前半以降）

SI12のみが当期に比定される。調査区の南側に寄って、単独で位置する。

当期は、集落の衰退期とも呼べる様相を呈する。集落自体が別の場所へ移動した可能性もある。土坑については、B期のSI10より新しいSK73・74が当期に属すとみられる。図化した土器（第84図-1・2）はいずれも時期が異なり、混入遺物とみられる。また、SK17からはロクロ土器飾環の下半部が出土している。図化はできなかったが、底部から体部にかけて内湾気味に外傾し、体部の開きは大きい。底部は径4.6cmと小さく、回転糸切り未調整である。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。このことから、SK17も当期以降に比定される。ほかの土坑については詳細は不明である。

（2）竪穴住居跡について（第99図）

15軒検出された竪穴住居跡は、住居跡同士の重複が少なく、比較的全体を把握できたものが多い。基本形態としては方形基調の平面形を呈し、主柱穴は4基で構成される。壁にはカマドが付設され、その他貯蔵穴など、土坑を伴う例も多い。この基本形態は時期を問わず一貫して採用されるが、細部形態では時期ごとに微妙な変化が抽出される。

① 平面形状・規模

平面形状は、SI6～9・13が方形、SI10・16・19が長方形、SI15・17が方形もしくは長方形、SI11・12・14・18が不明である。長軸を南北に向けるものが主体であるが、SI13・17は長軸を東西に向ける。規模は長軸が①5.5～6m前後（SI6・7・8B・15）、②4.5m前後（SI9・10・16・17・19）、③3.5～4m前後（SI8A・13）の3つに括られ、①はA1・A2期のみに確認できる。

② 主軸方向

ここではカマド方向ではなく、あくまで北に対する壁線の傾きを見る。ほぼ四壁が東西南北を向くのがSI7・8A・8Bで、その振れ幅は1～3°に収まる。SI11も床面施設の配置をみるとこれに含まれる可能性がある。東方向に傾くものはSI6のみで、6°振れる。西方向に傾くものはSI9・10・12・13・15・16・19で、振れ幅が5～6°と小さいSI10・15・17・19と、振れ幅が12～16°と大きいSI9・12・13・16とが存在する。時期を通じて特定の傾向はないが、A2期以降に振れ幅の大きいものが出現するようである。

③ 柱穴構造

SI14・18を除く13軒で、主柱穴とみられるビットが確認されている。ほとんどの場合、4基が住居範囲の対角線上を意識して配置されているが、整然と配置されているのはSI7・9・17だけであり、ほかは配置が疎らか位置が若干ずれる。SI15では3基しか検出されず、配置状況が判然としない。柱はSI7:P3、SI16:P4のように柱穴下部を多少埋め戻してから据えられたものがあり、柱の上端を擗えるための工夫とみられる。建築部材は、焼失住居のSI7から出土した試料を樹種同定したところ、大半がコナラ節とクリであるとの結果が得られた。ほかの住居跡



も同様の材を使用していた可能性がある。SI7ではクリのほかにもコナラ・クワ・サクラ等が同定され、様々な樹種の利用が確認された。このうちクワは建築部材に用いられる例がほとんどなく、今回の試料もSK3上層から出土した板材であることから、蓋として使用されたと考えられる。主柱穴内には礎盤石を設置した例があり、SI6(P3)・8B(P1)・SI9(P1~4)・10(P1)で確認できた。このうちSI6・9・10は柱穴底面が基底の礎層まで達しており、柱穴掘削時に掘り出された礎を選択し、使用した可能性も考えられる。

④ カマド・炉

SI13・19を除き、カマドの付設が確認された。SI6・9・10・12・15・17は北壁、SI7・8A・8B・11・14・18は東壁に付設されている。SI13も東壁の可能性があるが、撲滅で失われたとみられる。SI16は北壁と東壁の2箇所に付設され、SI19については付設の痕跡は一切確認できなかった。SI6では燃焼部直下に被熱面を伴う土坑SK7が検出され、カマドの造り替えが行われたと考えられる。造り替えの痕跡はSI7・9でも確認され、SI7の北袖直下やSI9東袖の構築材内側からも被熱面が検出された。

カマドの付設壁について時期ごとの傾向をみると、A1期は北壁で、A2期には東壁のものが出現する。ただしB期にはカマドの付設位置が再度北壁に戻るようであり、それを示すのがSI16の2基のカマドである。SI16のカマドは、廃棄状況から東壁のカマド1より北壁のカマド2が新しく、続くC期のSI12も北壁に付設されている。

これらのカマドは燃焼部が壁内に位置し、奥壁を介して煙道部へと繋がる構造がほとんどである。ただし、SI6の燃焼部は壁線から50cm程度も離れ、このため奥壁から煙道部の手前1/3までが壁内に位置する。また、SI8Bの燃焼部は1/2程度壁外に張り出し、奥壁も3cm程度とかなり低い。さらにSI16のカマド1は燃焼部に奥壁そのものが存在しない。袖はどのカマドも基本層IV層土に近似したシルト材で構築されるが、SI16のカマド2は袖先端に自然礎の芯材を埋設し、天井には大型の煉瓦とも呼べる直方体の粘土焼成ブロックを架構していたとみられる。SI7でも袖先端に自然礎を埋設していた可能性がある。このようにA1・A2期には、燃焼部の設定や構築方法が独特なもののが認められる。煙道部は長さが100cmを超えるものが大半で、最長はSI12の推定210cmである。煙出しがピット状を呈するものが多く、A1~B期を通じて存在する。特異な例としてはSI7が擧げられ、煙出しに長径24cm程度の扁平な自然礎が埋設されている。

8世紀後半から10世紀前半にかけての例で、燃焼部が壁外に1/2程度張り出すカマドは、周辺の遺跡では鍛冶屋敷A遺跡(平成9年度調査分)SI2、鍛冶屋敷前遺跡SI8-カマド新、元袋遺跡SI12・13・17などが知られる。いずれも各々の集落内では稀有な形態であり、カマドの設計に対し、別の系譜が存在していた可能性がある。

A2期に比定されるSI9・17は、カマドとは別に炉を作っている。中央部付近の床面に小規模な被熱範囲として検出され、SI17では西壁際から掘り込みを伴うもう1基の炉が検出された。カマドと炉(被熱範囲)の組み合わせがある堅穴住居跡を周辺遺跡に求めると、鍛冶屋敷A遺跡(平成9年度調査分)SI2、富沢館跡SI2、鍛冶屋敷前遺跡SI8・13・18、京ノ中遺跡(第1次調査)SI2が擧げられる。時期は9世紀代から10世紀前半である。一部の例では鉛滓が出土していることから、鍛冶関連の施設と推定されるものもあるが、性格は不明である。

⑤ その他の施設

貯蔵穴とみられる土坑が、SI6・7・8B~13・16・17で確認された。カマドの左右もしくはカマド設置壁のいずれかのコーナーに配置されている。全ての時期を通じてみられる施設であるが、形状や規模、深さは様々である。SI6・16では2基、SI7では3基が配置されていたとみられ、SI7のSK3では蓋材と考えられる板状の炭化物が出土している。SI7・8B・16では土坑同士の重複もみられ、造り替えが行われた可能性もある。

その他、カマドに隣接するとみられる施設がある。焼土・灰・炭化物などが人为的に埋められている土坑である。SI7のSK5~8、SI9のSK2~4が該当する。また、貯蔵穴としたSI7のSK2・4、SI9のSK1、SI10のSK1、SI13の堆積土中にも多量の焼土が入っている。



時期	指標となる遺物が出土した竪穴住居跡	詳細時期不明
C期 10世紀前半 ～ 10世紀前半以降	SI12	
B期 9世紀中頃 ～ 9世紀後半	SI8A SI10 SI16	SI18(A2期以降) SI19(A2期～B期中間)
A2期 9世紀前半	SI7 SI8B SI9 SI11 SI17	SI13(B期以前) SI14(A2期以前)
A1期 8世紀後半 ～ 8世紀末頃	SI6 SI15	

0 (1:200) 10m

第99図 竪穴住居跡集成図



竪穴住居跡の属性一覧

住居番号	区割	平面形状・面積	袖方位		カマド		壁造部			その他の施設	時間区分	備考		
			長軸 × 短軸 (cm)	方位	背出 基準	付設 位置	燃焼部 位置	燃焼部 ※()は芯材	長さ(cm)	底・面	埋出し			
S86	17・22	方形	534 × 495	N6°-E	カマド	北壁	内	盛土	153	やや 下がる	ピット状	主柱穴4基 補助柱穴2基 窓枠穴2基 カマド周辺土坑1基	A1	西壁上部はSA2との 重複により消失。
S87	22・23 27・28 32・33	隅丸方形	605 × 530	N87°-E	カマド	東壁	内	盛土 ※自然廻りあり	170	やや 下がる	やや凹む	主柱穴4基 壁柱穴4基 補助柱穴2基 窓枠穴4基 カマド周辺土坑4基	A2	焼失住居。底土・炭化物多量出土。床造 耐熱性壁はピットの 重複により部分的に 消失。
S88a	26・27 31・32	方形	345 × 340	N89°-E	カマド	東壁	内	—	—	平坦	—	—	B	削平により壁と床面 消失。
S88b	26・27 31・32	方形	545 × 481	N92°-E	カマド	東壁	1/2外	盛土	85	やや 下がる	平坦	主柱穴4基 補助柱穴1基 窓枠穴1基	A2	削平により腰力の方 のみ残存。
S89	22・23 27・28 32・33	方形	454 × 447	N16°-W	カマド	北壁	内	盛土	38	—	平坦	主柱穴4基 壁柱穴4基 補助柱穴1基 窓枠穴1基 カマド周辺土坑3基	A2	壁の上部はSD6・7 との重複により消失。
S90	47・52	(直方形)	[420] 368	N6°-W	カマド	北壁	内	—	(138)	—	ピット状	主柱穴4基 壁柱穴4基 補助柱穴1基 窓枠穴1基	B	削平により中央部を 消失。
S91	56	不明	—	(N89°-E)	カマド	東壁	内	(焼跡)	—	—	—	主柱穴4基 壁柱穴4基 補助柱穴1基	A2	削平により床面のみ 残存。
S92	52・57	不明	—	N15°-W	カマド	北壁	—	—	(210)	平坦	—	主柱穴4基 壁柱穴4基 補助柱穴1基	C	削平により床面のみ 残存。
S93	47	方形	393 × 352	N15°-W	東壁	—	—	—	—	—	—	主柱穴2基 壁柱穴1基	B1	削平により中央部を 消失。
S94	28	不明	—	不明	—	—	—	—	[90]	やや 下がる	ピット状	主柱穴2基 壁柱穴2基 補助柱穴2基	A2 B2	SD7との重複により 床面のみ残存。
S95	22・23 27・28 32・33 (直方形) or (直方形)	[556] [162]	N6°-W	西壁	北壁	—	—	[135]	やや 下がる	ピット状	主柱穴7・3基 壁柱穴6・3基	A1	重複大手はS17との 重複により消失。	
S96	26・31 38	直方形	471 × 388	N78°-E	カマド	カマド1 カマド2 カマド2 北壁	内	カマド1 カマド2 ※粘土・石灰 の粘土ブロック	カマド1 カマド2 カマド2 152	カマド1 カマド2 カマド2 やや下がる	カマド1 カマド2 カマド2 ピット状	主柱穴4基 壁柱穴4基 補助柱穴4基 窓枠穴4基	B	
S97	26・31 61・62 (直方形)	[413] [377]	N5°-W	カマド	北壁	内	盛土	139	やや 下がる	ピット状	開口切り欠き1箇 主柱穴4基 壁柱穴5基 補助柱穴5基 窓枠穴1基	A2	東壁は同じEの重 複により消失。	
S98	61	不明	—	不明	—	東壁か	—	—	[92]	やや 下がる	ピット状	—	A2 B2	カマド周辺部の先端 のみ被出。ほかは調 査除外。
S99	31・36	直方形	[430] [290]	N5°-W	西壁	—	—	—	—	—	—	主柱穴4基 入口柱穴2基	A2 B1	上部の大手はS16と の重複により消失。

※細部について、「—」は現存様式未だ。

※カマド燃焼部位置は、壁面の内側に構築されるもの(内)、壁面の外側に半分張り出すもの(1/2外)とした。

※壁造部底面の「下がる」の表記は、突出し方向を示す。

⑥ 焼失住居について

S17は床面上から多量の炭化物や焼土が確認されたほか、床面も被熱しており、焼失住居と考えられる。規模も今回検出された15軒のうち最大であり、中核的な存在であったと推定される。ただし、床面から出土した遺物は少なく、カマドに掛けられていたと考えられる土器器甕も破片だけであった。このことは焼失時、多くの遺物が既に持ち出されていた可能性を示唆している。また、カマドの袖先端部や燃焼部の天井は崩落しているが、その後被熱を受けており、さらに燃焼部の最上層には、炭化物を多量に含む層が堆積していた。以上のことから、本住居跡は遺物の持ち出しやカマドの突き崩しなどが行われた後に焼失したものと考えられ、住居廃絶に際し意図的に焼却されたと考えられる。



第4節まとめ

1. 平安時代～中世

竪穴遺構3基、掘立柱建物跡7棟、木柵跡2条、小溝状遺構群2群、溝跡12条、井戸跡1基、土坑59基、ピット461基が確認された。また、少量ではあるが無釉陶器甕・鉢、青磁碗なども破片で出土した。特に常滑産とみられる無釉陶器や、龍泉窯産とみられる中国青磁が注目される。

(1) 区画施設について

調査区ほぼ中央を東西に走る溝跡SD6(N-88°-W)、SD7(N-86°-W)、SD8(N-88°-W)と、溝跡に直交するように北に延びる木柵跡SA1(N-7°-E)、SA2(N-9°-E)により構成される区画内では、小柱穴や土坑等の遺構密度が高くなり、竪穴遺構や掘立柱建物跡、井戸跡の変遷が確認されたことから、区画施設を作り屋敷地の存在を考えた。

並走する溝跡については、屋敷地の区画施設以外に道路跡となる可能性を検討したが、以下の理由から屋敷に関連する区画施設として報告している。

3本の溝跡はほぼ同規模で、芯芯でみると約3.5m間隔で並走しているが、堆積土の違いから時期差をもつ可能性がある。溝跡の上部が削平を受けているとしても、確認された溝跡の断面形状や堆積土の状況から道路遺構に伴う排水施設とは考えにくいことと、溝の間に硬化面や整地に伴う地業等の痕跡が無いことから道路跡となる可能性は低いと判断した。

また、溝跡と木柵列を屋敷に伴う区画施設とした場合、溝跡は掘り込みも浅く小規模であることや、木柵列の掘方も浅く底面の柱跡跡も小規模で間隔が一定でないこと、木柵や溝跡に付随するような土壠等の施設の痕跡も無いことから、本格的な防護施設を意識したものではないといえる。推定される縄張り範囲は小規模ではあるが、遠方からの搬入品である陶器や青磁が出土していることや、これまでの周辺遺跡での調査では、屋敷の存在を窺えるような遺構は確認されていないことなどから、この一帯で相応の身分を有した人物の存在が推定される。京ノ中遺跡の周辺には、西に鎌倉期の城館である名取市熊野堂大館遺跡、東には中世の城館としては仙台平野最大級の規模をもつ富沢館跡があり、さらに東には鎌倉期の大規模な屋敷跡の変遷が明らかになっている王ノ塙遺跡などがあることから、これらとの関連性も考えられる。

(2) 竪穴遺構について

想定される屋敷地の内側から、重複する3基の竪穴遺構が確認された。周辺の掘立柱建物跡とは重複関係にあるが、竪穴遺構のほうが新しい。最も新しいSI3竪穴遺構の外周には柱穴列がともなっている。二重に開む柱穴列には時期差があり、3間×3間のはば正方形から、一回り大きな3間×2間以上の柱穴列に造り替えられている。鍛冶がお造られた土間(竪穴遺構)に上屋がかけられた作業場の存在が窺われる。

SI3竪穴遺構の床面積は約20m²で、床面施設として小規模な炉跡2基と土坑があり、床面には炭化物と灰が広がっていた。年代測定の結果では、12世紀から13世紀代の数値が得られていることから、屋敷地内での場の使われ方に変化が生じ、掘立柱建物に代わって鍛冶生産にかかわる作業場があったことが考えられる。

2. 奈良～平安時代

竪穴住居跡15軒、溝跡1条、土坑16基が確認された。遺物は、土師器・須恵器を中心に砥石・紡錘車などの石製品、鉄製刀子・釘などの金属製品、カマド材などの土製品、種などの自然遺物がコンテナで11箱程度出土した。土師器はロクロ土師器が主体である。



竪穴住居跡の出土遺物から、集落の存続時期は8世紀後半～10世紀前半以降と推定された。竪穴住居跡が増えてくるのは9世紀前半であり、時期が下るにつれてカマドの付設位置や構造・構築技法にも一部変化が生じる様子が窺われる。第1次調査でも9世紀中頃～後半(B期)の竪穴住居跡が2軒確認されていることから、京ノ中遺跡を含めた一帯に集落が営まれていたと考えられる。

(1) 鎌治生産に関わる集落

京ノ中遺跡の周辺に位置する、鎌治屋敷A遺跡、鎌治屋敷B遺跡、鎌治屋敷前遺跡からは、9世紀前半から10世紀前半の竪穴住居跡が合わせて30軒以上見つかっている。さらに、同時期の鎌治関連遺構が10基以上見つかっている。また、調査では古代から中世の水田跡は確認されていないことから、ここに営まれた集落は鎌治生産に関わる集団が暮らすムラであったと考えられる。

鎌治屋敷A遺跡の9世紀代の竪穴住居跡床面から出土した刻書砥石には、古代の上申書である『解文』の様式を踏まえた文やウジ名か地名を示すと思われる「太田部」と「上野」の文字が刻まれている。このことは、砥石を使用したであろう鎌治職人を含む工人集団の間にも解文に関する知識があった可能性と、工人集団が移住してきた集団である可能性を示している。

西方の茂庭丘陵には、平安時代後期から中世にかけて砂鉄を原料として行われた鉄生産に関わる遺跡が点在しており、製鉄炉跡なども確認されている。あるいは茂庭丘陵や周辺丘陵で生産された鉄が運ばれて、この場所で鎌治作業が行われていたことも推測される。

(2) 名取郡のなかで

古代から、この一帯は名取郡に属しており、中世には名取川を境として南北に分けられた「名取郡北方」の中に含まれていた。西方にある高館丘陵のふもとに、熊野本宮社、熊野新宮社(現在の熊野神社)、高館山にある熊野那智神社のいわゆる名取熊野三社があり、中世における東北地方の熊野信仰の大中心地・聖地として信仰の対象となっている。名取熊野三社は平安時代末期には成立していたものと考えられている。熊野三社の近くにある名取市大門山遺跡では250基以上の板碑が確認されており、熊野三社を管理し一帯を支配した一族の墓所と考えられている。また、名取川南岸の柳生・中田地区を中心に約200基の板碑が確認されており、仙台市内でも板碑が集中している所となっている。名取郡東部が、古代の幹線道路である「東山道」、中世の「奥大道」が南北に通る政治的な場であったのに対し、熊野三社のある西部は祈りの場となっていたようである。

名取川流域には興味深い地名が残っており、北岸には遺跡名となっている「京ノ中」以外に「京ノ前」「京ノ北」「京ノ東」、南岸には熊野三社の近くにある「飛鳥」「舞台」「柳生」など旧大和國の地名と一致するものが多いことが指摘されている(仙台市1987)。高館丘陵東麓から熊野神社を経て、京ノ中遺跡の西方で名取川を渡る古代の「東街道」が推定されているが、これらの地名がこの街道沿いにあることは注目される。

9世紀から10世紀にかけて、名取郡に属する仙台市南部では規模の大きな集落が営まれるようになる。富沢地区では、山口遺跡や富沢遺跡、泉崎浦遺跡などで大規模な水田が確認されており、条里型地割の存在も考えられている。稲作に関わる集落がある一方で、京ノ中遺跡のように集落内に鎌治生産に関わる遺構を伴う集落がみられるようになる。京ノ中遺跡の南東にある中田南遺跡でも、古墳時代から中世にかけての集落内から鎌治関連遺構が見つかっている。この時期には、中田南遺跡以外にも、安久東遺跡や中田畠中遺跡、松木遺跡などの集落が名取川沿いに造られており、鎌治生産に関わるような遺構が見つかっている。



引用・参考文献

- 石井俊典
伊東隆夫ほか
伊東隆夫ほか
大戸古跡群研究会
沖縄県立歴史文化財センター
岡田茂弘・桑原进郎
加藤道男
河南町教育委員会
河南町教育委員会
河南町教育委員会
白鳥良一
仙台市
仙台市教育委員会
丹治萬喜
丹治萬喜
東北古代土器研究会
東北中考古学会
中野晴久
東日本埋蔵文化財研究会
宮城県教育委員会
村田晃一
利府町教育委員会
利府町教育委員会
- 2004「多賀城とその周辺におけるクロコ上師器の普及開始年代」『宮城考古学』第6号 宮城県考古学食
1987「日本の道路から出土した木材の樹種とその用途」『KURENAI』京都大学学術情報リポジトリ
1990「日本の道路から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ」『KURENAI』京都大学学術情報リポジトリ
1992「東日本における古代・中世窯業の諸問題」
2009「上でつくられた縁の宝石」小型青磁
1974「多賀城周辺における古代杯形土器の変遷」『研究紀要』1 宮城県多賀城跡調査研究所
1983「宮城県における上師器研究の現状」『考古学論叢』芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会
1993「代官山道路」河南町文化財調査報告書第6集
1993「闇ノ入道路」河南町文化財調査報告書第7集
2004「闇ノ入道路」河南町文化財調査報告書第13集
1980「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要』4 宮城県多賀城跡調査研究所
1995「仙台市史 特別編2 考古資料」
1980「柳江道路発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第14集
1987「六反田道路Ⅱ」仙台市文化財調査報告書第102集
2000「殿治屋敷A遺跡・義治屋敷前道路」仙台市文化財調査報告書第245集
2000「五本松道路ほか」仙台市文化財調査報告書第247集
2000「王ノ塙道路」仙台市文化財調査報告書第249集
2004「元袋道路」仙台市文化財調査報告書第272集
2009「養樹園道路第2次・保津院前道路」仙台市文化財調査報告書第344集
2013「西台煙道路第4・5・7次調査」仙台市文化財調査報告書第411集
2014「南小泉道路第68次調査」仙台市文化財調査報告書第420集
2018「殿治屋敷前道路第3次調査」仙台市文化財調査報告書第465集
2018「殿治屋敷A遺跡・富沢館跡・川前道路ほか」仙台市文化財調査報告書第466集
2009「カマドを有する穴式住居跡の床面に埋め込まれた遺物」福島県文化財センター白河館研究紀要2009
公益財团法人 福島県文化振興財団
2010「カマド燃焼部における遺物出土状況の検討」福島県文化財センター白河館研究紀要2010
公益財团法人 福島県文化振興財団
2008「東北古代土器集成—須恵器・窓跡編」(陸奥) 研究報告3
2003「中世羽羽に火薬・陶磁器」高志書院
2013「中世常滑窯の研究」愛知大学大学院文学研究科
1994「古代官衙の終末をめぐる諸問題」第1分冊
1970「日の出山窓跡」宮城県文化財調査報告書第22号
1982「多賀城跡 政庁跡」本文編
1987「鏡坂・大沢窓跡ほか」宮城県文化財調査報告書第116集
1990「利府町那賀遺跡Ⅱ」宮城県文化財調査報告書第134集
2010「多賀城跡 政庁編」補遺編
2018「山王遺跡Ⅱ」宮城県文化財調査報告書第246集
2000「飛鳥・奈良時代の陸奥風北邊」『宮城考古学』第2号 宮城県考古学食
2004「大宝窓跡群」利府町文化財調査報告書第12集
2011「鏡沢窓跡Ⅱ」利府町文化財調査報告書第13集



写 真 図 版

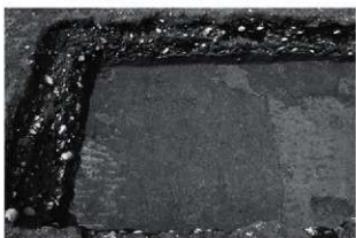




調査地遠景—太白山を望む(南東から)



第4トレンチ 遺構検出状況(東から)



第5トレンチ 遺構検出状況 南半(東から)



第5トレンチ 遺構検出状況 北半(東から)



第9トレンチ 全景(南から)



第9トレンチ SI7・SB4 検出状況(東から)



第9トレンチ SI7 断面(東から)



第13トレンチ 遺構検出状況(西から)

写真図版1 調査地遠景・試掘調査



調査区北壁 基本層序A 中央～西部(南西から)



調査区北壁 基本層序A 西側深掘部分(南から)



調査区北壁 基本層序A 東側深掘部分(南から)



調査区東壁 基本層序B 中央部(西から)



調査区西壁 基本層序C(東から)

写真図版2 基本層序



平安時代～中世面 全景(垂直・上が北)



SI3 全景(北から)



SI3 炭化物検出状況(北東から)

写真図版3 平安時代～中世面全景・竪穴遺構(1)



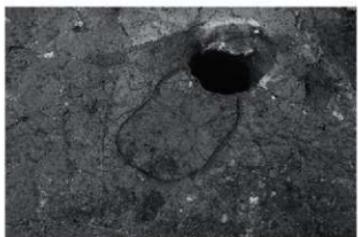
SI3 南側テラス状施設(北から)



SI3 炉1 全景(南から)



SI3 炉1 灰・炭化物堆積状況(南から)



SI3 炉2 検出状況(南から)



SI3付属柱穴列(西から)



SI4 全景(西から)



SI5 全景(東から)



SI5 炉1 全景(南から)

写真図版4 竪穴遺構 (平安時代～中世) (2)



SB1 全景(北から)



SB2 全景(北から)



SB2 P3 断面(東から)



SB2 P6 断面(西から)



SB3 全景(北から)



SB3 P4 断面(東から)



SB4 全景(西から)

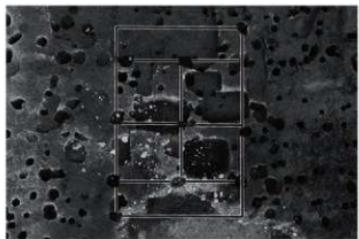


SB4 P2 断面(南から)

写真図版5 据立柱建物跡 (平安時代～中世) (1)



SB5 全景(垂直・右が北)



SB6 全景(垂直・上が北)



SB7 全景(垂直・上が北)



SA1・2 全景(南東から)



SA1・2 全景(北から)



SA1・2 柱痕跡検出状況(南から)



SA1・2 断面C(南から)

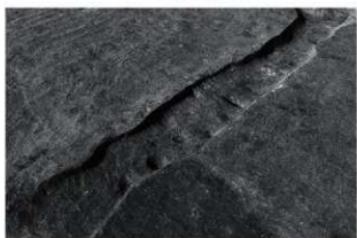
写真図版6 据立柱建物跡(2)・木柵跡(平安時代～中世)



SM1・2 全景(北東から)



SD2 全景(南から)



SD2 底面土木具痕 挖り込み状況(南東から)



SD5 全景(東から)



SD6～8 全景(東から)

写真図版7 小溝状遺構群・溝跡(平安時代～中世)(1)



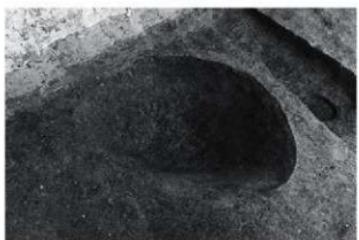
SD9 全景(東から)



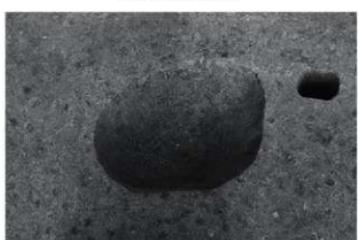
SD10 全景(西から)



SK3 全景(東から)



SK6 全景(南西から)



SK12 全景(南から)



SK20 全景(東から)



SK21 全景(南から)



SK22 全景(東から)

写真図版8 溝跡(2)・土坑(平安時代～中世)(1)



SK31 全景(南から)



SK39 全景(南東から)



SK48 全景(東から)



SK65 全景(北から)



Pit33 断面(東から)



Pit150 断面(西から)



Pit201 断面(南から)



Pit285 断面(南から)

写真図版9 土坑(2)・ピット(平安時代～中世)



奈良～平安時代面 全景(垂直・上が北)

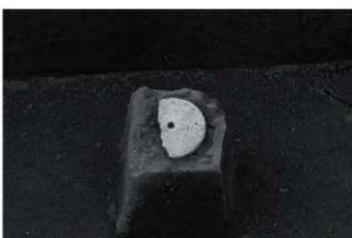
写真図版10 奈良～平安時代面全景



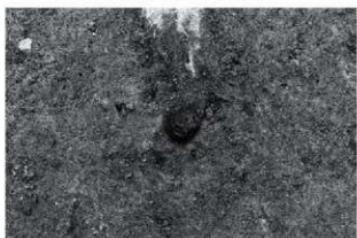
SI6 全景(南から)



SI6 遺物出土状況(南東から)



SI6 遺物(Kd-003) 出土状況(東から)



SI6 遺物(O-001) 出土状況(南から)

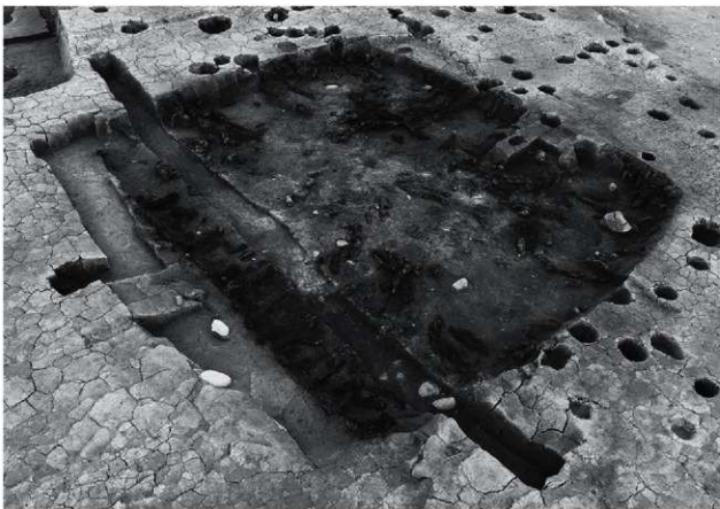


SI6 カマド 全景(南西から)

写真図版11 竪穴住居跡(1)



SI7 全景(西から)



SI7 炭化材出土状況(南西から)

写真図版12 積穴住居跡(2)



SI7 西壁 炭化材出土状況(南東から)



SI7 南東部 炭化材出土状況(南西から)



SI7 北東部 炭化材出土状況(北西から)



SI7 編物材出土状況(東から)



SI7 南壁 炭化材 断面(西から)



SI7 遺物(E-019・025)出土状況(南から)



SI7 カマド 全景(西から)



SI7 カマド 遺物(D-016・E-022)出土状況(西から)

写真図版13 竪穴住居跡(3)



SI7 P1 壁面断面(西から)



SI7 P4 壁面断面(西から)



SI7 P6 遺物(Kd-003)出土状況(西から)



SI7 SK1 遺物出土状況(西から)



SI7 SK4 遺物出土状況(西から)



SI7 SK5 板材出土状況(西から)



SI8A 全景(西から)



SI8A 遺物(D-020)出土状況(西から)

写真図版14 穹穴住居跡 (4)



SI8A カマド 全景(西から)



SI8A SK1 検出状況(西から)



SI8B 全景(西から)



SI8B 遺物(D-024)出土状況(北から)



SI8B 遺物(E-032)出土状況(西から)



SI8B 遺物(Kd-005)出土状況(西から)



SI8B カマド 全景(西から)



SI8B SK1 断面(西から)

写真図版15 竪穴住居跡 (5)



SI9 全景(南から)



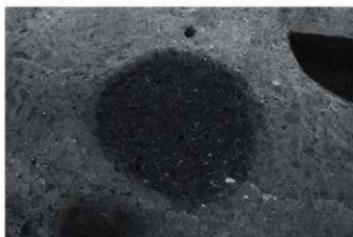
SI9 カマド 全景(北から)



SI9 カマド 遺物(E-035・036)出土状況(南西から)



SI9 炉 検出状況(南から)



SI9 SK3 焼土検出状況(南から)

写真図版16 積穴住居跡(6)



SI10 全景(東から)



SI10 カマド全景(南から)



SI11 残存状況・推定範囲(北から)



SI11 カマド掘り方 残存状況(西から)



SI12 残存状況・推定範囲(南西から)



SI12 遺物(C-039～041)出土状況(北から)



SI12 カマド 残存状況(南から)



SI13 全景(東から)

写真図版17 竪穴住居跡 (7)



SI14 カマド 全景(西から)



SI15 全景(南西から)



SI15 カマド 全景(南から)



SI15 カマド 遺物(C-003)出土状況(東から)



SI16 全景(南から)

写真図版18 積穴住居跡(8)



SI16 カマド1 全景(西から)



SI16 カマド2 全景(南から)



SI16 カマド2 構築材(P-002)出土状況(南西から)



SI16 カマド2 遺物(D-045)出土状況(南から)



SI16 カマド2 遺物(E-041・042)出土状況(西から)



SI16 カマド2 袖断ち割り状況(南から)



SI17 全景(南から)



SI17 壑化物検出状況(南西から)

写真図版19 竪穴住居跡 (9)



SI17 遺物(E-053)出土状況(南から)



SI17 カマド 全景(南から)



SI17 カマド 遺物(E-058)出土状況(東から)



SI17 カマド 転用支脚(D-051)埋設状況(南から)



SI17 炉1 検出状況(南から)



SI17 炉2 燃土・炭化物検出状況(東から)



SI18 カマド 全景(南から)



SI19 全景(南から)

写真図版20 積穴住居跡 (10)



SK42 全景(南から)



SK69 全景(南から)



SK70 全景(東から)



SK72 全景(東から)



SK73 全景(北から)



SK73 遺物(E-061・065)出土状況(東から)

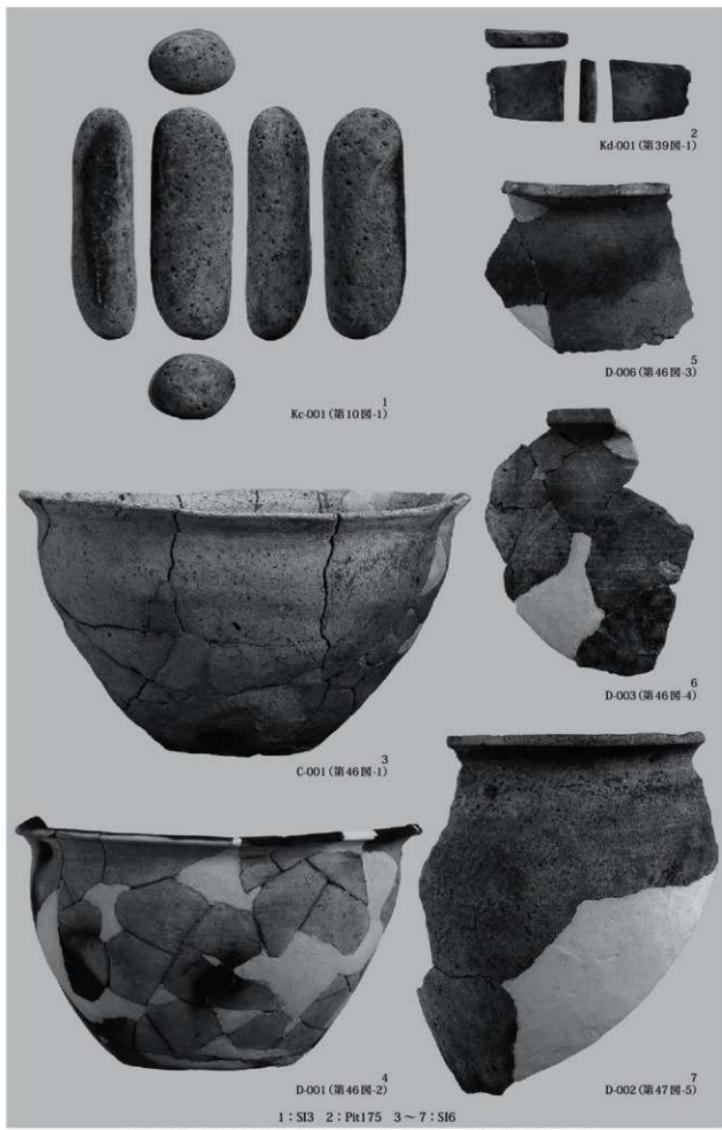


SK76 全景(北東から)



SD14 全景(東から)

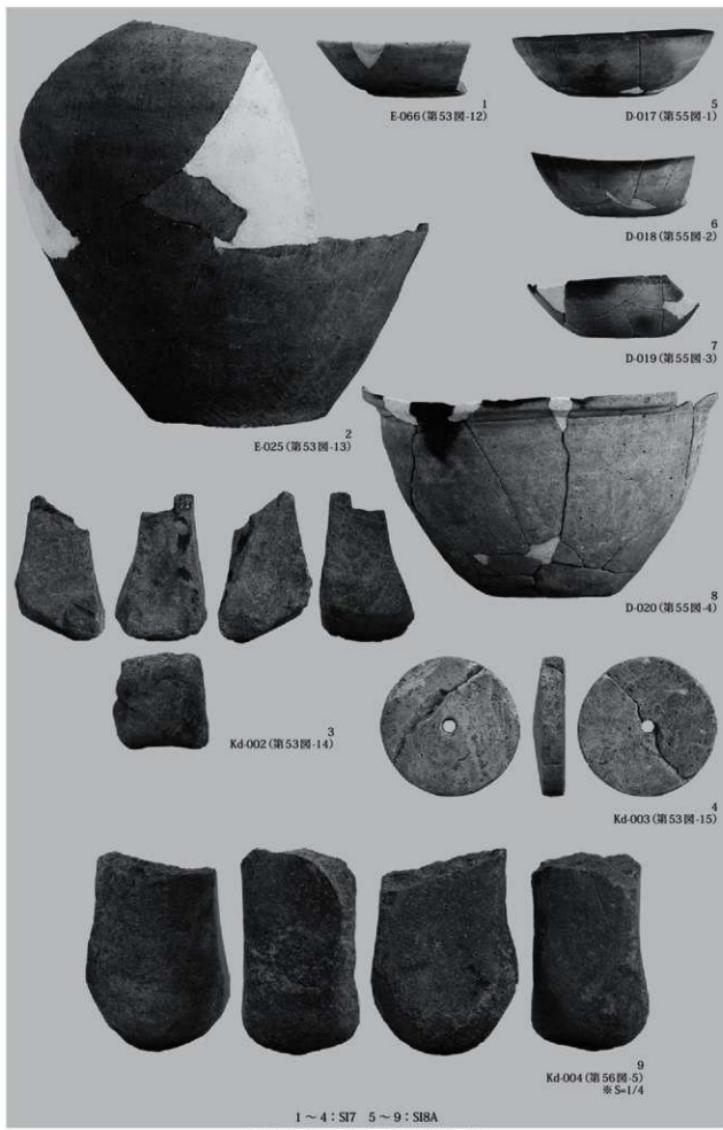
写真図版21 土坑・溝跡(奈良～平安時代)

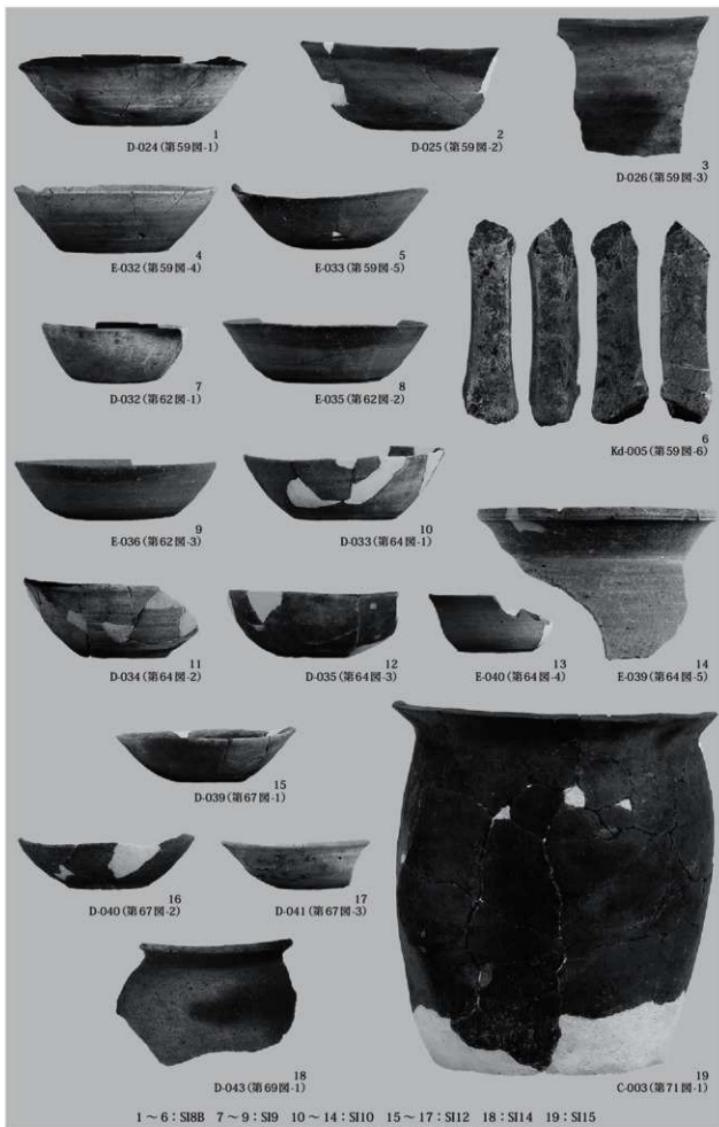


写真図版22 竪穴遺構出土遺物・ピット出土遺物・竪穴住居跡出土遺物(1)



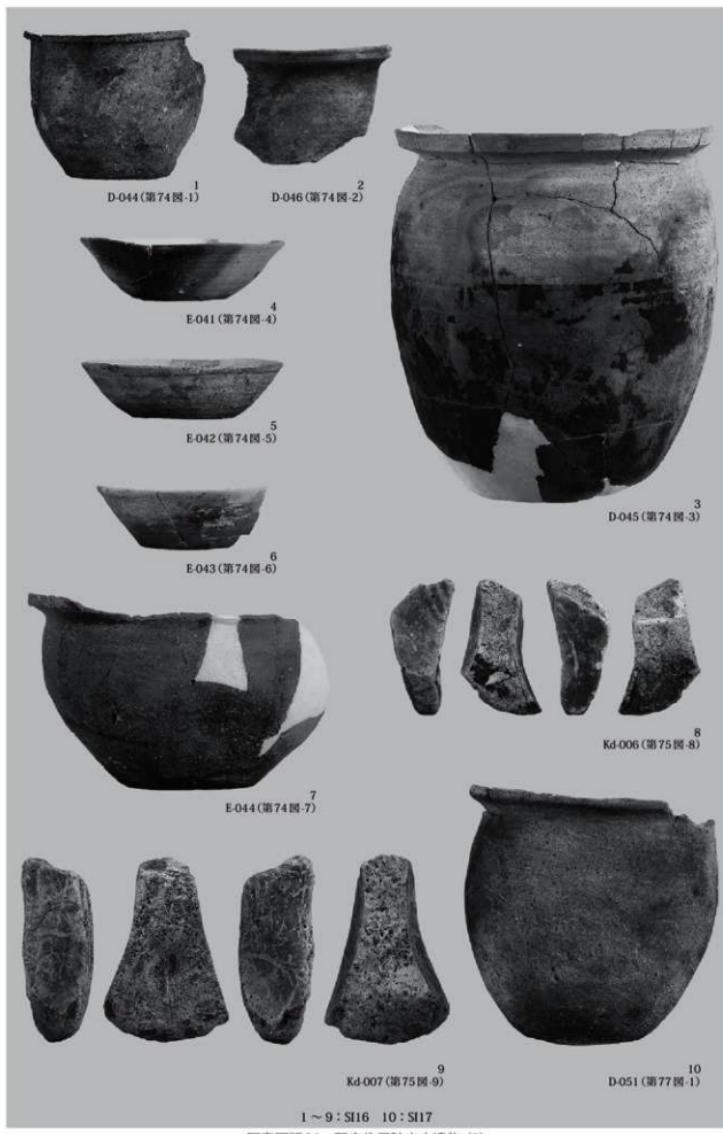
写真図版23 穹穴住居跡出土遺物(2)

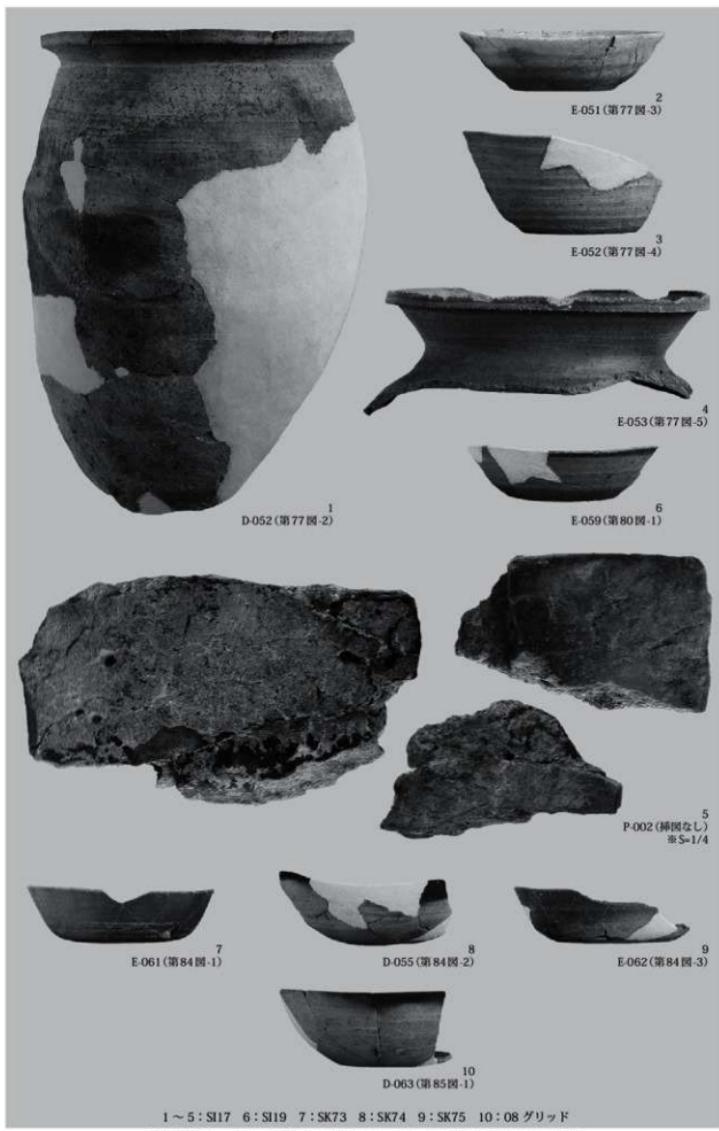




1 ~ 6 : SI8B 7 ~ 9 : SI9 10 ~ 14 : SI10 15 ~ 17 : SI12 18 : SI14 19 : SI15

写真図版25 竪穴住居跡出土遺物 (4)





1～5: SH17 6: SH19 7: SK73 8: SK74 9: SK75 10: 08 グリッド

写真図版27 積穴住居跡出土遺物 (6)・土坑出土遺物・遺構外出土遺物





報 告 書 抄 錄



仙台市文化財調査報告書第481集

京ノ中遺跡第2次調査

—医療施設建設工事に伴う発掘調査報告書—

2020年3月

発行 仙台市教育委員会
〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目
5番12号 上杉分庁舎10階
TEL022-214-8899（文化財課）

印刷 株式会社 仙台紙工印刷
〒983-0036 宮城県仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14
TEL022-231-2245